

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 方言談話資料（5）：岩手・宮城・千葉・静岡

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002274">https://doi.org/10.15084/00002274</a>

# 方言談話資料 (5)

— 岩手・宮城・千葉・静岡 —

国立国語研究所資料集 10-5

国立国語研究所

1981

方 言 談 話 資 料 (5)

——岩手・宮城・千葉・静岡——

国 立 国 語 研 究 所

## 刊 行 の こ と ば

国立国語研究所では、昭和49年度から同51年度にかけて、『各地方言資料の収集および文字化』のための研究」という題目の下に、全国各地で方言による談話を録音し、その文字化（標準語訳・注つき）を行った。この研究は、急速に失われつつある方言を現時点で録音・文字化し、国語研究の基本的資料とすることを目的としており、当研究所地方研究員の協力を得て実施された。

その成果は、機を得て、順次刊行する予定であり、昨年度までに、『方言談話資料(1)―山形・群馬・長野』『方言談話資料(2)―奈良・高知・長崎』『方言談話資料(3)―青森・新潟・愛知』『方言談話資料(4)―福井・京都・島根』を刊行した。本年度は、その第五集を刊行する。

本書に収めた録音・文字化資料は、もっぱら、本堂寛（岩手県担当地方研究員・岩手大学教授）、加藤正信（宮城県担当地方研究員・東北大学助教授）、加藤信昭（千葉県担当地方研究員・千葉大学教授）、日野資純（静岡県担当地方研究員・静岡大学教授）の四氏の尽力によるものである。また、話者もしくは司会者として、菊地政勝、吉田ケサエ、若松林平（以上岩手県）、内海春吉、木村精一、本郷しげ（以上宮城県）、鈴木与一、武田金市郎、広瀬ます（以上千葉県）、後藤百々代、佐藤とし、山本俊男（以上静岡県）の各氏の協力を得たほか、有志の助力があった。記して深く感謝の意を表する。

昭和56年 1 月

国立国語研究所長      林      大

## 方言談話資料作成のための担当者

国立国語研究所言語変化研究部長

飯 豊 毅 一

国立国語研究所言語変化研究部第一研究室

徳 川 宗 賢（現在、大阪大学教授） 佐 藤 亮 一（室長） 真 田 信 治（研究員）

沢 木 幹 栄（研究員） 白 沢 宏 枝（研究員）

国立国語研究所地方研究員（五十音順）

秋 山 正 次	愛宕 八郎康隆	五十嵐 三 郎	井 上 章	井 上 史 雄
今 石 元 久	岩 井 隆 盛	上 野 勇	遠 藤 潤 一	大 島 一 郎
大 橋 勝 男	岡 野 信 子	奥 村 三 雄	笥 大 城	加治工 真 市
加 藤 信 昭	加 藤 正 信	金 沢 直 人	川 本 栄一郎	神 部 宏 泰
剣 持 隼一郎	後 藤 和 彦	小松代 融 一	斎 藤 義七郎	迫 野 虔 徳
佐 藤 茂	佐 藤 虎 男	清 水 茂 夫	杉 山 正 世	田 尻 英 三
種 友 明	玉 井 節 子	近 石 泰 秋	土 居 重 俊	日 高 貢一郎
日 野 資 純	広 戸 惇	廣 濱 文 雄	北 条 忠 雄	本 堂 寛
馬 瀬 良 雄	松 本 宙	三 浦 芳 夫	虫 明 吉治郎	村 内 英 一
室 山 敏 昭	谷 開 石 雄	矢 作 春 樹	山 口 幸 洋	山 本 俊 治
和 田 實				

## 「方言談話資料」(5) 編集担当者

飯 豊 毅 一    佐 藤 亮 一    真 田 信 治    沢 木 幹 栄    白 沢 宏 枝

## 収録・文字化担当者

岩手…本 堂    寛 宮城…加 藤 正 信    千葉…加 藤 信 昭    静岡…日 野 資 純

## 目 次

刊行のことば	3
まえがき	7
凡 例	10
I 岩手県江刺市本町	
解説	13
1. 小学校時代の思い出	17
2. 若い頃の思い出など	84
II 宮城県亶理郡亶理町荒浜	
解説	135
1. 電話交換嬢とのデート	142
2. 自転車で土手から落ちたこと	150
3. 若夫婦の御年始	154
4. ねずみのお汁	159
5. 昔の子供の様子	169
6. 学校の弁当	174
7. お祭	179
8. アイスキャンデーとお婆さん	188
III 千葉県館山市相浜	
解説	195
昔の漁業	200
IV 静岡県静岡市南字中村	
解説	243
1. 静岡の集中豪雨	251
2. 米作状況	275

3. 関東大震災の思い出.....	281
4. 静岡地震の思い出.....	286
5. 復員のころの思い出と戦後の復興.....	292
6. ベトナム僧のお経.....	296
7. 昔の生活と今の生活.....	303
8. 兵隊生活と君が代.....	311
9. 昔の生活の思い出.....	315



## ま え が き

### 研究の経過

この研究は、昭和49年度から同51年度にかけて行った。

昭和49年度は準備期間とし、全国47都道府県で各種の実験的録音・文字化を行い、その結果に基づいて、次年度以降の計画を立案した。

50年度は、全国的視野のもとに重点地域を定め、23の府県から各1地点を選定して、老年層の男性と同女性との対話、もしくは、男女を含む老年層話者3人の会話を録音し、文字化することとした。

録音・文字化を実施した府県は次の通りである。

青森<sup>\*</sup>、岩手、宮城<sup>\*</sup>、山形、群馬、千葉、新潟、石川<sup>\*</sup>、福井、長野、静岡、愛知、京都、奈良、鳥取、島根、広島、愛媛、高知、長崎、宮崎、鹿児島<sup>\*</sup>、沖縄

51年度は収録地点を4地点減らし(\*印の県を割愛した)、19の府県について、原則として50年度と同一の地点で、(a)目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話、(b)老年層の男性と若年層の男性との対話、もしくは、両者を含む3人の話者の会話、(c)場面設定の会話、の3項目についての録音・文字化を行い、なお、このほかに収録可能な地域では、付録として、民話の収録・文字化も実施することとした。(c)については、「品物を借りる」「(旅行などに)誘う」「新築の祝いを述べる」「隣家の主人の所在をたずねる」「けんかをする」「道で知人に会う」「道で目上の知人に会う」「うわさ話をする」の八場面を、全地点共通の場面として設定した。

以上の録音・文字化資料は、すべて国立国語研究所で整理し、保管しているが、当研究所では、このうち、50・51両年度分について逐次刊行していく予定である。本書は、50年度に収録・文字化を行った老年層話者による談話資料のうち、「岩手県江刺市本町」「宮城県亶理郡亶理町荒浜」「千葉県館山市相浜」「静岡県静岡市南字中村」の4地点分についてのものである。

### 話者の条件

話者には次の条件の人を選ぶこととした。

#### 1. 老年層話者による談話(50年度)

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が比較的短い人で、日常生活ではもっぱら方言を用い、また、録音機を前にしても方言色豊かなおしゃべりが可能な人。したがって、よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が得られないときには、近隣地から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言の違いが認められない場合は可とする。話者の年齢は、原則として収録時において60歳以上とし、やむをえないときは、55歳以上も可とする。発音その他の障害がなければ、高齢者で



も差し支えないが、話者相互の年齢が離れすぎるのは好ましくない。また、話者相互の地位・身分関係も、ほぼ対等であることを原則とする。

## 2. 目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話（51年度）

話者の年齢は上記1に準ずる。この項は、改まった表現や種々の敬語形式などを得ることをねらって設定したものであり、対話の具体的な人物像として、たとえば、旧地主階層の人物対旧小作階層の人物、僧侶対その壇家にあたる人物、その土地出身の教員（校長など）対その土地の一般的職業（農業・漁業など）に従事している人物などを候補として示したが、地域の事情もあると思われるので、この点は各地の担当者（地方研究員）に一任した。なお、目上にあたる人物として、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあると考えられるので、在外歴に厳しい条件はつけないことにした。

## 3. 老年層男性と若年層男性との対話（51年度）

老年層については原則として60歳以上、若年層については原則として20～30歳台とする。話者相互の地位・身分関係は、ほぼ対等であることが望ましい。職業は老若ともにその土地における一般的なものであること。在外歴については1に準ずる。

## 4. 場面設定の会話（51年度）

上記1に準ずる条件を備えた老年層の男女に、場面に応じて、種々の演技的対話をしてもらった。

## 5. 民話

特に条件はつけず、その土地で生まれ育った民話の語り手であれば可とした。

### 司会者

主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が同席することとした。司会者はこの研究の主旨を理解し、かつ、司会役としての能力を有する地元方言の話し手が望ましい。司会者の年齢・居住歴等に、特に条件はつかなかった。

### 録音量・文字化量

50年度・51年度ともに各約60分程度の録音量（51年度については、各項目平均20分、合計60分程度）について文字化を行うこととした。また、内容の豊かな文字化資料を得るために、文字化すべき録音量の数倍を録音し、その中から適切な部分（話がとぎれず、しかも発言が特定の話者にかたよっていないこと。話の流れ、話題の展開が自然であること、など）を選択して文字化することとした。

### 文字化原稿の作成・表記

1. 将来のオフセットによる複製印行に備えて、一定の様式の文字化用紙を作成し、担当地方研究員に配布した。
2. 文字化は原則として表音的カタカナ表記によることとした。これは、利用者の便宜、文字化

作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記も可とした。なお、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲・内容については、各担当者が「解説」の中で説明することとした。

3. アクセント，文末イントネーションの記述の有無は，その表記法を含めて担当者の判断にまかせた。
4. 聴き取りが困難な箇所や，言いよどみ，言い重なり，言い直し，笑い声などについては，これらを一定の符号で表わすことにした（凡例参照）。

文字化には，標準語訳，および，場面，文脈，特徴的音声，方言形の意味・用法などについての注をつけることとした。なお，標準語訳はあくまでも内容理解のための手がかりの一つと考え，訳が問題となるような箇所については，できるだけ詳しい注をつけることを担当者に求めた。

#### 収録方言・表記・収録内容についての解説

文字化原稿とは別に，収録方言・表記・収録内容についての解説を担当者に求めた。解説には，原則として次の事項を記すこととした。

##### A. 収録地点とその方言について

1. 地点名
2. 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）
3. 収録した方言の特色
  - ①方言区画上の位置・隣接諸方言との関係
  - ②音声・音韻上の特色
  - ③文法上の特色

##### B. 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲，特殊な表記についての説明など。

##### C. 収録内容の概説

1. タイトル
2. 録音年月日
3. 録音場所
4. 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴など
5. 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

## 凡 例

1. 場面、文脈、特徴的音声、方言形の意味・用法などについての注は各章の末尾にまとめて記し、該当箇所を本文のそれぞれの位置に番号（かっこつき）で示した。
2. 発言や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には~~~~~線をつけた。  
例 スッドネ <18ページ 4段>
3. 最終的に聴き取り不能の箇所には~~~~~線のみを記した。
4. 言いよどみは、その末尾に-----線をつけた。
5. 複数の発言が重複した場合には、重複部分に\_\_\_\_\_線をつけた。  
例 Cクラスシ スシテルガラネ（Bソーナング）（Aイヤヤ）<20ページ 9段>
6. 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に××××××をつけた。  
例 ホノ ホノハ <19ページ 9段>  
×××××
7. 笑い声、咳ばらいなどは、（笑）、（咳）のように示した。
8. 同席者の短い発言や突然の訪問者のことばなどは文字化していない場合がある。その際や、録音テープを編集して談話内容の一部を削除した際には、該当箇所に\*の符号をつけた。

# I . 岩手県<sup>え さし</sup>江刺市<sup>ほんちょう</sup>本町

収録・文字化担当者 本 堂 寛

## A 収録地点とその方言について

### 1. 地点名

岩手県江刺市本町

### 2. 収録地点の概観

水沢市の北東約8キロメートル。バスで約20分。一面田畑で江刺米と言われる米の産地。この地点は、もともと江刺郡の中心町岩谷堂にある。昭和33年11月、江刺郡全町村が合併して市に昇格。昭和33年当時、人口50,567人、戸数8169戸であったものが、昭和50年8月現在人口37,407人、戸数8834戸になっている。一時、人口はかなり減じたが、ここ3年少しずつではあるが増加している。岩谷堂町としては、昭和50年12月現在、人口9334人、戸数2559戸である。

### 3. 収録した方言の特色

#### ①方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

南奥方言地域に属するが、北奥方言地域に隣接している。このため、北奥方言の特徴の影響もかなり受けている。

#### ②音韻上の特色

モーラ体系

wa	a	i	u	e	o	ja	ju	jo	N	R	Q
	ka	ki	ku	ke	ko	kja	kju	kjo			
	ga	gi	gu	ge	go	gja	gju	gjo			
	sa	si	su	se	so	sja	sju	sjo			
	za	zi	zu	ze	zo	zja	zju	zjo			
	ta			te	to						
		ci	cu			cja	cju	cjo			
	da			de	do						
	na	ni	nu	ne	no	nja	nju	njo			
	ha	hi	hu	he	ho	hja	hju	hjo			
	ba	bi	bu	be	bo	bja	bju	bjo			
	pa	pi	pu	pe	po	pja	pju	pjo			
	ma	mi	mu	me	mo	mja	mju	mjo			

## 音声的特徴

- (イ) i は単独の場合、[e] である。したがって、e における [e] の発音に近づいてくる。
- (ロ) ai, oi, ui は、[ɛ:] になることが多い。
- (ハ) ki, gi, si, zi などの i は、[i] となる。
- (ニ) ku, gu, su, zu などの u は、[ü] となる。
- (ホ) hi は [ɥi] になることが多い。
- (ヘ) k, t, c は、語頭以外の位置では、ある条件のもとでほとんど有声音化する。
- (ト) N, R, Q は、明瞭な拍とならないことが多い。
- (チ) se, ze は、それぞれ [je], [ze] と発音される傾向がある。
- (リ) 語頭以外のカ行音、ダ行音、ザ行音、バ行音の直前に、ある条件のもとで鼻音が挿入されることが多い。

## ③ 文法上の特色

- (イ) 可能表現に ～ニイイ を多く用いる。「書くにいい」「起ぎんにいい」となる。しかし、その打消表現は、ラ(エ)ネー となつて、「書がえねえ」「起ぎらえねえ」となる。
- (ロ) 推量、意志表現には、ベー を多く用いる。「行くべえ」「見んべえ」  
い順接仮定表現のうち、助動詞「た」の場合、タレバ となるのが普通である。「書いだれば」「そうしたれば」
- (ニ) 逆接確定表現は、ゲント(モ) を用いる。「雨降るげんとも行く」  
ホ方向、目的を表す助詞にサ を用いる。「学校さ行く」「見さ行く」
- (ハ) 手段を表す助詞にバ を用いる。「お前ば連れて行がね」「水ば飲む」
- (ト) 丁寧語としてガス・ス がある。「そうでがす」「これが楽す」
- (チ) 指小辞コ が頻用される。「米っこ」「草履っこ」

## 4. その他

「収録した方言の特色」の項で述べたように、北奥方言に接した南奥方言の最北地域であることが、この地点を選定した最大の理由である。つまり、旧伊達領に属していながら、旧南部領つまり北奥方言の特徴もかなり入り込んでいるであろうと考えたのである。

## B 表記について

表記の仕方は、「割付用紙への記入」のカタ表記方式に従った。そのほか、次のような表記も用いた。

中古母音 [i] [ü] は、それぞれ  $\hat{\text{イ}}$  ,  $\hat{\text{ウ}}$  と表記する。したがって、[ki] [kü] について、それぞれ  $\hat{\text{キ}}$  ,  $\hat{\text{ク}}$  と表記し、[si] [sü] について、それぞれ  $\hat{\text{シ}}$  ,  $\hat{\text{ス}}$  と表記する。



## C 収録内容の概説

### 1. タイトル

(1) 小学校時代の思い出 (2) 若いころの思い出など

### 2. 録音年月日

昭和50年8月14日

### 3. 録音場所

岩手県江刺市本町3番地5号 若松林平宅

### 4. 話し手の特徴

#### A 若松林平 (男)

大正5年生まれ。木材業。岩谷堂青年団副団長、岩谷堂中学校PTA副会長をし、現在、本町の納税組合長、本町町内会幹事としている。満州に2年間兵役で行った以外、他地で生活したことはない。

#### B 菊地政勝 (男)

明治42年生まれ。左官業。現在、岩谷堂大工組合理事、南町町内会班長をしている。9年間、中国大陆で従軍した。それ以外は現在地。方言はかなり保有している方。三人の話者のうちで年長者なので昔の話をよく知っている。それほど話し上手というほどではないが、話は好きなお方と見受けた。

#### C 吉田ケサエ (女)

明治45年生まれ。主婦。現在、岩谷堂婦人会本町班長。在外居住歴なし。方言を充分保有している。話し好き。

### 5. 録音環境

親しいおの同士の三人なので、話しはなごやかでスムーズ。ことに進行役の(A)若松林平がうまく話題を提供し、話を展開させていったので、途切れることなく話は進んだ。

# (1) 小学校時代の思い出

## 話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	若松林平	男	大正5年生まれ
B	菊地政勝	男	明治42年生まれ
C	吉田ケサ江	女	明治45年生まれ
< D	本堂 寛	男	昭和7年生まれ >

A マー トニカグー コ アノー アメッコ カ アメッコ  
xxxx xxxxxxxx xxx  
 とにかく あのう 館 を 館 を

ヒトズー ナンダ ミッツ ミ オラ ミッツ イッシェンダナー。  
xxxx  
 一つ あれば 三つ 三つ 一 銭だったなあ。

C ヤギメシス ニギメテネ。(A ン) アノー アワドネ (A ン)  
 焼 飯を 握 っ て あの 粟 と

ムギド ソノ コメドス。(A ン) モ ナントガ コノ  
 麦 と 米 とね。 なんとか

バンツァ<sup>(1)</sup> (笑) アノー アワンダノ ムギ イレネデ。  
 お婆さんが 粟 や 麦を 入れないで

(<sup>A</sup> イレネコメ。) シ アワバリデモ イーガラ イレネデー  
 入れない米。) 粟 だけでも いいから 入れないで

ニギ (<sup>A</sup> ニギソメスア。) アノ モッテッテ ミデド オモッテ  
 にぎソめしを。) 持っていて 見たいと 思って

ガッコーサ。ソシス テネ バンチャー アノ インズデモ  
 学 校 に。 そしては、お婆さん いつでも

イッカイ ソノ アノ コノ ヤギメスア アワ イレネデ  
一回 あの この 焼飯に 粟を 入れずに

(<sup>D</sup> アー。) ネ コーイフニヌ ワゲルド ホラ ミッツ  
(ああ。) こうように 分けると ほら 三つ

ミイロダガラ シログ ミンナダ ムギ サット イレデ  
三種類だから 白く みんなは 麦を ちょっと 入れて

クルノニヌ アワ マジエル (<sup>A</sup> シー。) スッドネ。 アノー  
くるのに 粟を 混ぜるのです。 (うん。) そうするとね。

アノナー オメ ソステ ワ アノ アブレコ<sup>(2)</sup> コーユフナ  
あのね お前 そして 焼き網、 こうゆうふうな

アブレコ ソイズサ シヌ バネ タイ キー タグ シバ オッチ  
焼き網、 それに 柴 ね xxxxxx 木を 焚く 柴を 折って

(<sup>B</sup> ソー ソー ソー ン。) (<sup>A</sup> ンダ ンダナー。) ソシステ  
そうだ、 そうだなあ。 そして

コーユフニ ワダシステス ヤギメシヌ ニヌギッテネ (<sup>B</sup> アズ  
こうように 渡して 焼き飯 握っては あれは

アノー コゲー クツカネーニヌ。) (<sup>A</sup> アンマソル クツカネー。)  
あのう 焦げが くっかないのだ。 あんまり くっかないのだ。

ソシステ サット ニヌギ<sup>xxxxxxx</sup> ヤイデガラ (<sup>B</sup> アブリゴ)  
そして あつり 焼いてから 焼き網

コンドアー ミソ ツケデ (<sup>A</sup> ン。) ハアー オ ガッコサ  
今度は 味噌を つけて (うん。) ああああ<sup>xxxx</sup> 学校に

モッテター クーゴドー アノー カンゲアルド ヤッパソル  
持って行って 食べることを 考えると やっぱり

オラモー ムギバリル イレダー ヤギメシヌ モッギデグテ  
私も 麦だけを 入れた 焼き飯を 持っていきたくて

(<sup>B</sup> 笑い) ( <sup>A</sup> ホンダガラ ア ナルホドネー。 ) ソシ<sup>ス</sup>テネ  
それだから 成程だね。 そしてね。

バンチャー アノ アワ イッカイデモ イーガラ イレネデ  
お婆さん、 あの 粟を 一回でも いいから 入れないで  
ニヌギッテ ケロッテ イッタノ。 シ<sup>ス</sup>タレバネ マジズノ  
握って くださいと 言ったの。 そしたら 町の

ヒッタズア アワ イレネデ クルッテ イッタノ ミンナ。  
人達は 粟を 入れないで 来る と 言ったんです。 皆が。

シ<sup>ス</sup>タレバネ マズノ ヒッタズナー サンゴグ<sup>(3)</sup> カワレネガラ  
そしたら 町の 人たちはね、 三穀を 買われないから

ソノ コメノ ママダノネ ムギママ モッテグノデ サンゴグ  
米の まま 麦のままだで持って行くので 三穀を

カエネガラ モッテガネノダッツ ヨーニヌ ( <sup>A</sup> 笑い。 )  
買えないから 持って行かないのだと いうように ( <sup>B</sup> 笑い。 )  
そうだね。

オシエルダモネ。 ソシ<sup>ス</sup>テ アドー ホニヌ シ<sup>ス</sup>ンブンモ  
教えるんですね。 そして あと 本当に 新聞も

トッテネンダガラ ナーニヌガ カ アラ ( <sup>B</sup> ホノ <sup>(4)</sup> ホノハ。 )  
取っていないので 何か あれ ( <sup>B</sup> ホノ <sup>(4)</sup> ホノハ。 )  
朴の葉

ホノハ アーユーノサ ツズンデネ。 ( <sup>B</sup> ホノ ハッパ アリヤー  
朴の葉。 ああやうのに 包んでね。 ) 朴の葉 あれ。

~~~~~。 ) ( <sup>A</sup> ホノ ハ~~~~~ニヌモ ツカッタンダジャナ ネ  
朴の葉 にも 使ったんだよね。

アイズネ。 ) ( <sup>B</sup> ソー ソー ソ。 ) ソシ<sup>ス</sup>テア アノ フルシスギ  
あれは。 ) ( <sup>B</sup> そう そう 。 ) そして あの 風呂敷

ホン ツズムノワ フルスギデ。 ガッコサ イッテ ハグ  
本を 包むのは 風呂敷で。 学校に 行って 履く

フラゾーリル ソイズサ ソノ ベントノ ニヌギリッコード  
藁草履 それに 弁当の おにぎりと

イッショニヌ ~~~~~ サ ショッテ コ ワツコニヌ<sup>(5)</sup>ネ。

いっしょに 背負って 首に結んで背負ったね。

B アノー フルシスギサネ コー ワツコニヌ ショッテ システ  
あの 風呂敷に こう 首で結んで背負って そして

アダバ ベントバ コサ オニギリ コサ コー ギッチリ  
あとは 弁当を こんに おにぎりを こんに しっかーりと

(<sup>C</sup> ユツケデス。) ~~~~~ コロ コロ コロド ~~~~~ (笑い)  
結びつけて。 ころころ ころと

(<sup>A</sup> 笑い) ショシステ ハシェ アルイダ モダオナ。 (<sup>C</sup> ~~~~~  
そして 走り 歩いた ものだね。

オナシスダナー オダケモネ。) アー アー オナジズデガス。  
同じだね。 そうだったね。 同じですよ。

C ソーユフニヌ オシスエデネ サンゴグ マズ<sup>xxxxx</sup> インデネンダモ  
そういうふうに 教えてね。 三 穀。 町。 そうではないのだよ。

マズノ ヒタズワ アノー ソレゴソ イー クラスシ  
町の 人達は それこそ 良い 暮らしを

スシテルガラネ (<sup>B</sup> ソーナンダ。) (<sup>A</sup> イヤヤ。) アワ タベネン  
しているから そうなんだ。 いやいや。 粟を 食べないん

ダオンネ。

だものね。

A ソレ フラズリ ~~~~~ エデ コシェダ フラズリルネ。  
それ 藁草履 自分の家で 作った 藁草履ね。

(<sup>B</sup> フラズリ フラズリ アーアー ソーソーソー。)   
藁草履 藁草履 ああ そうそう。)

C ツギッコ イレデ マンゼデ オッコ タデレバ シート  
 布片 を 入れて 混ぜて 緒と たてると とても  
イーノデネ。 ( <sup>A</sup> ~~~~ アギヤ オッコノ アギヤ オッコノ  
 良くなるのでね。 赤い 緒の 赤い 緒の  
ゾールッッコダ ソレゴソ。 )  
 草履 なんだ。 それこそ。 )

B オラー アバレンボ ダガラ アノー ゾーリルナド  
 俺は 暴れん坊 なので 草履 ぞど  
 ハガネガッタндаオン。  
 履かなかったんだものね。

C ダレ ベダベダ ( <sup>B</sup> シー ) ( <sup>A</sup> ベダベダ ~~~~~ ハガネデ。  
 だって ベタベタと (はだいでね) ベタベタと ならにも履かないで。  
 ~~~~~ ダッタネ。 ) ( <sup>B</sup> シー マズワ ハ。 ) ソレゴソ ションベ  
 だったね。 先ずは。 それこそ 小便と  
 タレルッタッテ ドゴサ イグッタッテ ハ ヒトツズキ  
 する のにも どんに 行く にも 一続き  
 ナンダネー。  
 なんだからね。

B ゾーリルッコナド ハガネンダオンノ。  
 草履 ぞど 履かないからね。

C イマノ ゴダー ホントニヌ アイツ カンゲット ハ ユメ  
 今に なって 本当に あの時のことを考えると 夢の  
 ミデダ。  
 ようだ。

A アー イマノ ベント ナダー ソレゴソー オフルメサ <sup>(6)</sup>  
 ああ 今の 弁当 ぞど それこそ お振舞いに

イッタヨーナ モンナンダオンネ。ネッ。

行ったようば ものなんだよな。

C ソイズサ ウメッコガ ミソズゲ イレダバリ。

それに、梅干か 味噌漬けを入れただけのものだ。

A ナットー オラ ナットー モッテッタ ゴド アルナー。

納豆、俺は 納豆を 持っていった ことが あるが、

ナットー モッテグズドァ クセクテナー ナ オヒルノ

納豆を 持っていくと 臭くてな。 お昼の

ジズカンナンテナ。 (<sup>B</sup> 笑い)

時間 などは。

C オライノ ジーチャンダネ ムスコー ホリヤ ムスコモ

私の家の 爺さんは 息子は それ、息子も

サイゴノ ムスコ ダガラネ ナンダリ イレデ ヤットァ

最後の(昔の) 息子 だからな 色々 入れて やると

カンネデ ノゴシステ クルドゴダ。ソッスドネ ナヌニガ <sup>タ</sup>  
食べないで 残して くるんです。 そうすると、何か <sup>xxxx</sup>

クーモノ イレデ ヤラネバ アノー サッパド クッテ

食べるものを 入れて やらないと 少しも 食べて

コネガラ (<sup>B</sup> アー。) ツアラバ オラナドナー ミソズゲダノ  
味ないから (ああ) そしたら、俺などは 味噌漬けや

ナヌニスカ イレデ ヤンネノニヌ ナヌニー ソンタヌニ

その程度のものしか 入れて もらえなかったのに なにを そんなに

ゼジェタグ サセデッテ ユーンダッケオンヤ。 (<sup>A.B</sup> ンー。  
贅 沢を させて と 言うんです。 うん。)

ンダッテ カンネデ クルモノ ノゴスシテ クルモノ

だって 食べないで 帰ってくるもの、残して 帰ってくるもの



モッテネーッテ ユー。 ( <sup>B</sup> ンー。 ) ソス ッドネ ノゴステクル  
モったいざいと 言ったら。 ( うん。 ) そしたら。 残 してくる。

ア カン ネデ ノゴスシテ クルドア カン ネンダラバ  
食べないで 残 して くるのばら 食べないのばらば

カン ネンデ ソノママデ イーガラ マイニヌズジ カン ネデ  
食べないで そのままで いいから 毎日 食べないで

クッコッテ ネーガラネ ( <sup>B</sup> アー。 ) ソンナニヌ ニヌグダノ  
帰ってくるのでは ないから ( ああ。 ) そんなに 肉 だの

ナンダノ イレデ ヤッコド ネット ジズブン イワレダ  
なんだのと 入れて やるとは ないと 自分自身が 言われた

オガサレダゴドオ ユッテネー ソシステ ムスコダジズ ~~~~~  
育てられた(当時の)ことを 言ってね。 そして 息子たちに

ユッタヨ。 ( <sup>A</sup> オガサレダ~~~~~ ) ホーントニヌ。  
言っていましたよ。 育てられた~~~~~。 ) 本当に。

B ソンナニヌー イマノー ソダデガダドー ヤパリ ワレワレ  
そんなに、 今の 育てかたと やっぱり 我々が

ソダデダドギャー モ ジズダイガ ゼジェンゼジェン チツカウガラ  
育てられた時とは、 もう 時代が 全然 違っていただけ

スー ウーン ( <sup>A</sup> ~~~~~ ) アワメシス カセラレダッテ。  
ね。 粟御飯を 食べさせられたってね。

C ソシステネー アサシスゴドニヌネー ゼッテニネ ナニヌガ  
そしてね、 朝 仕事にね 絶対に 何か  
アサシスゴド シスネバネ ガッコサ ヤラセライネンダオ。  
朝仕事を しなにと 学校に 行かせられないものだったよ。

A ン ダンダ イダメフギドガ ( <sup>C</sup> ナニヌガサ。 )  
そうだ。そうだ。 板ふきとか ( 何かに。 )

ニワハギドガネー ナニ<sup>ニ</sup>ガ カニ<sup>ニ</sup>ガ ソー  
庭掃除とかね、 何か かにか。

C チューセドギァ ソノ クレデ オッキグ ナレバ コンダー  
小さい時は その 程度で 大きく なると、 今度は  
ハダゲサ イッテ <sup>A</sup> <sup>(8)</sup> ワッパガ スシゴド~~~~。 ハダゲサ  
島 に 行って 割り当てられた仕事を。 島 に

イッテ アズギ ショッテ イッカイ ショッテ クンノネ。  
行って 小豆を 背負って 一回 背負って 来るのだね。

イエネ ショッテ クンノッテ ソーシステ ネー ヒャクショー  
稲を 背負って 来いと言って そして 百姓

ダガラー <sup>A</sup> ンダ マンズ ンデネバ マンズ マッチャ  
だから そうだ、 まあ、 それでなければ まあ 町に

イッテ トーフ カッテ コノー ナンダノ カンダノッテネ。  
行って 豆腐を 買って 来いとか なんとか かんとか言ってね。

マジズド ゼーンゴデモ チッガッタンダベナ。  
町と 田舎とでも 違ってたんだろうね。

B ンー マンズー ゼーン ~~xxxxx~~ ゼー ~~xxxx~~ マズノ ヒトアズズノア  
うーん まず 町の 人達というのは

ナンデネガエンガ。 ンー アギンド システルドゴード ヤッパ  
あれではないだろうか。 商店を している家と やっぱ

オヒャクショー ステットゴドノ コドモダズノ ソダデガダ  
お百姓 と している家の 子どもたちの 育てかたと

モジズロン ツガッタンダス。 <sup>A</sup> ンデモー アギネ~~~~。  
もちろん 違ったんだよ。 でも 商店~~~~。

C イズバーン オレ オショスド オモッタノネ ログネンシェ  
一番 私が 恥ずかしいと思ったのはね、 小学六年生

グリーンダ シー ヨネンシェーダガ シー ゴネンシェカ  
ぐらゐの頃 四年生だか 五年生だか

ログネンシェダナー (<sup>B</sup> シー。) アノー マーッスグニヌ  
六年生だったかなあ。 うん。 ああ、 まっすぐに

カドオガガラ マッスグニヌ (<sup>B</sup> シー。) コノ マズサ キテス  
片岡から まっすぐに うん。 この 町に 来て

(<sup>B</sup> シー。) ソジステ アノ マメタマ (<sup>9</sup>) アリヤ (<sup>A</sup> シン マメタマ  
うん。) そして ああ 豆玉、 ああ、 うん 豆玉

マメタマ。) コヤシヌニヌ スル マメタマナ アイス  
豆玉。 肥料に する 豆玉は、 あれを

ショワセラインデガステ ホニヌ ハンゲン (<sup>A</sup> コノアレ アルヨ。  
背負わせらへたんです。 本当に 半間 この位 あるよ。)

ハン コノ (<sup>B</sup> ニヌシャグ ゴジス グレエ アル。) ニヌシャグ  
半、 ンの ニ尺 五寸 ぐらゐ ある。 ニ尺

サンジャグ シスホン グレ アンデネ。ネ。  
三尺 四方 ぐらゐ あるのではないか。

A ソンナニヌ オッキグネーデー (笑い)  
そんなに 大きくはないよ。

B ニヌシャク コスン グレエシャ。  
ニ尺 五寸 ぐらゐだよ。

C ニヌシャグ ゴスン グレ (<sup>B</sup> ソイズ~~~~。) アイス  
ニ尺 五寸 ぐらゐ (それは。) あれは

イジズバーン アノ ジズ ユーニヌ ナンネノ。 ワラダノ ソノ  
いちばん 自由に ならないんだ。 藁 や

マメダノ ソユーナノワ ナンボガ ソノ ユーゴド。  
豆 や そういうものは いくらか 自由になる。

ギバント<sup>(10)</sup> シス タ コンナ アズ<sup>xxxxx</sup> アズノダオネ コノ クレ  
ずっしり とした ンんな 厚いものだからね。これ ぐらい

グレ アズンデネ ( <sup>A</sup> ンー アズ アズ。 ) ソーシス テ  
厚いはずだね。 うーん 厚い 厚い。 そして

コンドァ ソイズガネ カン ラダサ アノー ユーゴド  
今度は それが 体 に 自由に

キカネオネ ギバント<sup>(11)</sup> ナッテノ。 ソイズ ショウノ  
ならないで ずっしりと なっているんだ。 それと 背負うのが  
イジズバーン ヒデガッタヨ オボデスネ。ゼンゼン……。  
いちばん 大変だったよ。おぼえていますよ。

A ア アイズ ショッテ アルッッタノ。  
<sup>xxxx</sup> ああ あれを 背負って 歩いたの？

C ンー。  
うん。

B ンー ンダッタベナ。  
うん。 そうだったろうね。

C ンー アイズ ショッテコッテ イワレダドギ ヤスミナンカニネ  
うん あれを 背負って来いと 言われたとき、 休みなどに  
マージズカラ ショッテコッテ イワレダドギ アイズ ハ  
町 から 背負って来いと 言われたとき、 あれ は  
イジズバーン ヒデガッタ。  
いちばん ひどかった。

B イマ ネーモンナ アー~~~~。  
いまは ないものね。 ああ いうのは。

C ショ イヤスグネンダ アレワネ。 ( <sup>A</sup> イマ イマ<sup>xxxx</sup> マメタマ  
背負い易くないんだ。 あれはね。 いま いま 豆玉は

デテコネ ~~~~~。) ネー ネー。 ( <sup>B</sup> シー。 ) シー。 アノ  
 ないものね。 ないよ。 ないよ。 うん。 うん。  
 タガギスル<sup>(12)</sup> アダリル<sup>(13)</sup> ネット。 ( <sup>B</sup> シー ンダネ。 ) タガギスル  
 田掻きする 頃 に ね。 そうだね。 田掻きする  
 アダリ フルー<sup>xxxxxx</sup> コナシステ フルノナンダオ。  
 頃に くだいて ぶり散くのだね。

A シュリョヤノ ウエサ ミセサ カサナッテダンダオナー  
 肥料屋の 上に、 店に 重ねて置いてあったよね  
 アイズァー。  
 あれは。

C シュッテスペ。  
 知っているでしょう。

A ン？  
 え？

C シュッテルベ。  
 知っているでしょう。

B タガイダノ<sup>(13)</sup> ヤマサンデ<sup>(14)</sup> アリヤミ<sup>(15)</sup> セデァンダオ シー。  
 高栄 ヤ 山三で あれは 店であつたよね。

C アド アリヤ イマ アノー。  
 あとは、 あれは いま あのう……。

A オラ ハジズメ ナニヌダ アイズ ナニヌナンダエド オモッテ  
 俺は 初め、 何なのか あれは なになんだろうと 思って  
 ミデ アルッテランダオナー。  
 見て 歩いたものだったなあ。

B アド アブラッカス ツンデ アノ ワッパ<sup>(15)</sup> ミデナ カッコ  
 それから、 油粕を 重ねて わっぱ みたいな 形に

ナッタノ アッタ ~~~~~ ネ。

なつたのが あつたね。

C センソー トー<sup>ハ</sup>ジズ アノ マメカスダッテ ユッタチャー。  
戦争 当時は、あの 豆粕と 言ったでしょう。

(<sup>B</sup> クッター タベダー) タベダー。 (<sup>B</sup> タベダー アー  
食べた、食べたね。) 食べた。 (食べた、

タベダオ) ソレゴソ クッタ<sup>ハ</sup>ンダヨ アノー。  
食べたね。) それこそ 食べたね。

B ヒリョーニ スンノネ。

肥料 に するのをね。

C ンネー ヒリョーニ<sup>ハ</sup> スンノ。

そうだね、肥料 に するのをね。

B アリヤ アブラ シス<sup>ハ</sup>ボッテ ナニ<sup>ハ</sup>シス タノ<sup>ハ</sup>ダオネ。

あれは 油を 絞って 作ったの<sup>ハ</sup>ものね。

C ソノ カスナ<sup>ハ</sup>ンダオネ マメカスッテ アブラ トッタ。

その 搾 なんだものね。豆粕というのは 油を とった。

B アレ マンシュア<sup>ハ</sup>ダリガラ キタモンデネガネサ。ンダベネ。

あれは 満州 あたりから 来たものでないだろうか。そうだろう。

C ナガサ アナッコ アイデネオ。 アイデネ。

中に 穴 が あいていないね。 あいていないね。

B シー アイデ アイ アデネノ。タダ シス<sup>ハ</sup>コシス コーネ  
xxxxxx xxxxx

うん あいて あいていないよ。ただ、少し こう

マンマルコデナ スコシス<sup>ハ</sup> コー カデッポ ヒグメニ<sup>ハ</sup>

まんまるで 少し こう 片一方が 低めに

ナッテルノ。

なっているんだ。

A ヒコマッテルノ。

低めになっているんだ。

C ソー ソー マンナガネ。

そう そう。おん中がね。

A <sup>(16)</sup>  
~~~~~ベゴースト ヒッコマッテルノ。

へこんでいるんだ。

C ンー アイズ イジズバーン ショーニス ヒデモンダ。イマー  
うん、あれは いちばん ほんとうに ひどかったよ。今

ソナゴドシステ <sup>xxx</sup>ガ ガッコサナド イグ ヒトァー  
そんなことをして 学校などに 行く 人は

ヒトリモ ネオナー。

一人も ないだろうね。

A アー アサニス ホヌー シジー ナニスカ ソゴイラヘンノ

ああ。朝に 本当に いつモ 何か そんなの

ニス ワッコ ハググレナノハ イルベゲント シンブン

庭を 掃くぐらいの子どもは居るだろうが。新聞

ハイツズハ システ アルグ ワラストズ ハ イッケントネ。 <sup>(17)</sup>

配達を して 歩く 子ども は 居るだろうがね。

B ンー マー シンブンハイツズ ダネー。 ンー ンー

うん。まあ。新聞配達 だね。

A ムガシスガラ カンダ <sup>xxxxxxxx</sup> ムガシスガラ カンゲツツド ナニモ

昔から 昔から 考えると なにも

カニモ ネクテ ラグサ。

かにも なくて 楽だよ。

D ショーガッコーノ ドギ アソビッテノワ ドンナ アソビ

小学校の 時の 遊びというのは、どんな 遊びを



シタンデスカ。

したんですか。

A ウー ~~アサ~~ アノネー~~~~。

うん。 あのは。

C ナーンニ<sup>ニ</sup>モ オモチャ ネーガラネ カツ<sup>(18)</sup>ツガッ コダオ  
なんにも おもちゃが ないからな。 追いかけてっか

ガグレガ~~~~。 (<sup>A</sup> カツガッコ。)  
かくれんぼ 追いかけてっ。

B ガグレガッコダノ ジズントリルダノ。 (<sup>C</sup> ジズントリル。) シン  
かくれんぼ とか 陣取り とか。 陣取り。 うん

ジズントリルダノ。 (<sup>A</sup> ジズントリ。)  
陣取り とか 陣取り。

A ソレガラ アンダズアー ンー (<sup>C</sup> オハジズギ。) オハン<sup>(19)</sup>ジズキ  
それから あなたちは おほじき。 おほじき

ダ~~~~ オデダマ (<sup>C</sup> ダマツギ。) <sup>(19)</sup>ダマツギ。 オデダマ  
お手玉。 お手玉。 お手玉

デネー ダマツギダ オハジズギニ<sup>ニ</sup> ダマツギダナー。  
ではなく だまっさだ。 おほじきに だまっさだね。

B ヤッパー オラー ガッコー ヤッパ シスゴネエンセー  
やっほり 俺は 学校。 やっほり 四・五年生

アダリニモ ヤッパリ ヤキューズノワ ヤッタモンダヤー。

あたりにモ やっほり 野球 というのは やったもんだねえ。

アリャ アリャ アノー キレデ コセデ タマッコ コセデス。  
あれ あの 布で 作って 球を 作って

ヤパ<sup>リ</sup>ル。

やっほり。

C アド オヒナッ<sup>(20)</sup>コダオ。 ( オヒナッ<sup>A</sup>コ。 ) カミノネ。 カミオ  
 それから人形遊びだものね。 人形遊び。 紙のね。 紙を

キッテ オヒナッ~~キ~~コ ~~キ~~ソー ~~フグ~~ フグナンツモノー  
 切って 人形遊び そう 服などというものを

タマーニ<sup>ニ</sup> ツグッテ イショーツグリ<sup>リ</sup>ル ナンダオ イッソ。  
 たまに 作って 衣裳作り なんだよ いつも。

ハサミデ アスンデ。

はさみで 遊んで。

B ヤキューナ<sup>ン</sup>テ ハ ヤッタンダナー アノー キレデ コヤダ  
 野球などを やったんだね。 あのう 布で 作った  
タマッ<sup>コ</sup>~~~~。 シー。  
 球 で。…… うん。

A アー ンダ ンダ。 ソゴラヘンノ ボッキレデ タダイデナ。ン。  
 ああ そうだ そうだ そへんにある 棒切れて 打ったね

( シー。 ) ソイズ ハ ~~ヤ~~ マネコド ハジズマッタッタガ  
 うん。 それは (野球の) まねごとが 始まったかも

シェネナ。 マンズ アド<sup>ア</sup> バッタウジズ<sup>(21)</sup>ダオナ。  
 しゃないね。 まあ あとは めんこ遊びだったな。

B シー マー バッタウジズ<sup>ニ</sup> ~~コ~~ コママシス。  
 うん。 まあ めんこ遊びに 独楽廻し。

A バッタウジズ<sup>ダ</sup>。 ナー モー。 メンコズヤズダネ。 バッタウジズ。  
 めんこ遊びだね。 めんこというものだね。 めんこ遊び。

エー。

C イジズ<sup>バン</sup> キオグ<sup>ニ</sup>ニ ノゴルノネ ワラジスノ コロ オレ  
 いちばん 記憶に 残っているのは。 子どもの 頃に 私が

ムツゴロ<sup>xxx</sup> ノドギネ オラヨリ ミツツガ ナンボクレ  
 六オゴロ の 時に 私ヨリ 三オカ いくつぐらい  
 ウエノ ヒタズス アネダノ ナンテネ。オードゴダジズガラ  
 上の 人たち、姉とか などがね。男の子たちとか  
 ミンナ アズメデネ スガリルアラシス ヤンダッテジェ。  
 みんな 集めて 蜂 荒らしを やったんだよ。

A スガリルアラシス？ (C 笑い) ヤヤヤヤヤー ソイズァ ハ  
 蜂 荒らし？ いや いや いや それほ

オダヤガデネナ。  
 大変なことだ。

C コゴイラダラバ イマナダ ホントニヌ ヨゲ ヨゲルオンネ。  
 今の辺ならば、 今ならば 本当に 逃げざるのにね。

ソイズ スガリル イルガラネ。 <sup>ス</sup> アノー ガガサンダノ  
 それなのに 蜂 が 居るからね、 あのう、お母さんや

ツァツァンダノ ンート ヒデガッカラ、アイズ アラシステ  
 お父さんだめが 困っているから、その蜂の巣を 荒らして

スー トルベズーゴド カンゲーダッタンダッケオ。ソシステ  
 取ってしまおうと 考えたんだよ。 そして

ホラー <sup>xxxxx</sup> ヨー イーツズガ ヨーツツダガ イズズノ  
 ほら、 五オカ 四オカ 五オカの

ドギダッタ マダ ワラシスダガラ ソノコロ オラ  
 時だったと思うが まだ 子どもだから その頃は 私は

マジエライネノス。 (B ハー。) ソシステ アネダノ アネダノ  
 (仲間に入れてもらえないのです。 はあ。) そして、 姉や 姉や

トモダジズ オドゴダズ アズマッテ ソーユーノオネ (B ハー。) <sup>B</sup>  
 友だちや 男の子たちが 集まって そういうのをね。 はあ。

ナーニ<sup>ニ</sup>ンダベド オモタ ムシ<sup>ス</sup>ロ ( <sup>A</sup> ン。 ) ( <sup>B</sup> ハー。 ) アノー  
何をするのかと 思ったら 薙 を ( うん。 ) ( ほう。 ) あの

ワラデ ツグッタ ムシ<sup>ス</sup>ロネ ソイズ カブッテス コーユーノ  
藁で 作った 薙 は それを かぶって こんうのを  
カブッテネ ソシ<sup>ス</sup>テ タゲデ ジョギ ジョギ ツズグノ。  
かぶってね。 そして 竹棒で じょき じょきと 突くの。

ソイズ ホラ トブガスベジャ スカリ。ソイズ ワラスダガラネ  
蜂は。 それ 雅ぶでしょう 蜂は。 ヤンが 子どもだからね

コステ オレ チ<sup>ラ</sup>ッ タッテ ミデダンデガステ。 ドーゴガ  
こ<sup>ラ</sup>ッテ 私は 立って 見ていたんですよ。 どこかを

ササレデ ナイダモンダオナ。 ソシ<sup>ス</sup>タレバー ンート <sup>ガ</sup>ー  
刺されて 泣いたんですよ。 そうしたら。 うんと。

ソー オ<sup>ガ</sup> <sup>ガ</sup>サマニ<sup>ニ</sup> オゴラレデ ( <sup>A</sup> アーレー ソレゴソ  
お母さんに。 叱られて ( あれえ。 それこそ

イー カッコダッタンエナー ) ログナゴドモ シ<sup>ス</sup>テネッテネー。  
いい 格好だったろうね。 良いことを しないって。

ステ スカスカ アブネガラ ソッチャ ヒッコンデロドモ  
そして 危ないから そっちの方へ ひっこんでいこうと

ナントモ イワネンダモノ。 ワレダズバリ ムシ<sup>ョ</sup>ロ カブッテ  
なんとも 言えないものだからね。 自分たちばかり 薙を かぶって

タゲデ ツズグンダッケオ。ンデ ソイズ ホラ ワラシ<sup>ス</sup>ダガ  
竹棒で 突くんだものね。 それで ほら、 子どもなものだから

ラ コーシ<sup>ス</sup>テ ミデンデガステ。 オレ ササレデ ンート  
こ<sup>ラ</sup>ッテ 見ていたんですよ。 私は 刺されて。 そして

ソノ ヒタズ アネダズ オゴライダノネ。(笑い) アネノ  
その 人たち 姉たちは 叱られていたね。 姉の

トモダジズダ キテ オドゴダズ スカ<sup>リ</sup>ル アラスンダッケオ。  
友<sup>だ</sup>ちが 来<sup>て</sup> 男<sup>たち</sup>が 蜂<sup>を</sup> 荒<sup>らす</sup>のだからね。

ソーヤッテ トッタノ。 ソレガラ ダンダン ~~~~~ ッテ  
そうして 取<sup>った</sup>んです。 それから だんだん

ヒー ツケデ ソシ<sup>ス</sup>テ アド ヤイダ<sup>(22)</sup>リナンカ スンダッケオネ。  
火<sup>を</sup> つけて、 そして、 あとは、 焼<sup>いた</sup>りなど したんだよ。

オドナダジズ。 ナンニ<sup>ス</sup>モ シャネガラ ソンナゴド  
大人<sup>たちは</sup>。 何<sup>にも</sup> 知<sup>らない</sup>から そんなことを  
スンダデバ オモ<sup>xxxxxx</sup> アノー アソビモノカ<sup>ネー</sup>ガラ。  
したんだよ あのう 遊<sup>ぶ</sup>ものが ないからね。

A トニ<sup>ス</sup>カグー アー ナニ<sup>ス</sup>ガカニ<sup>ス</sup>ガ メッケダンダオネー。  
とにかく 何<sup>か</sup> かにか 見<sup>つけた</sup>んだよね。

イダンズラ スルゴド ハ カダッパジ<sup>ス</sup>ガラ。 ( <sup>B</sup> ~~~~~ )  
いたずらを すると を かたっぱしから。

C デー ナニ<sup>ス</sup>ソレ オヒルマデニ<sup>ス</sup> ナニ<sup>ス</sup>ソレ ステロヨッテ  
それで、 何<sup>々</sup>を 昼<sup>まで</sup>に 何<sup>々</sup>を していきいよと

イーズゲデ デハラインダオネ。 ( <sup>A</sup> ンーダ ダ。 ) スト  
言<sup>い</sup>付けて (親<sup>に</sup>) 出<sup>て</sup>いかれるからね。 そうだ。 そうすると

ナンニ<sup>ス</sup>モ ヨーネーガラネ オドゴノ トモダジズダ アノー  
なんにも 用<sup>が</sup>ないから、 男<sup>の</sup> 友<sup>だ</sup>ちほ

スズメノコトリルナンダッケ。

雀<sup>の子</sup>取<sup>り</sup>と いうことになるからね。

A ン アイズ ハ アガッタモンダ。

うん、 あれほ。 のぼって行って 取<sup>った</sup>もんだね。

C スズメトリル。

雀<sup>取</sup>りね。

A シ スズメトリサ。

うん。雀取りだ。

C システ ヤネノネ アリヤ コーイフニ<sup>ニ</sup> ナッテル ケムリル  
そして、屋根の あれ。こういうふうになっている 煙

ナンドッケ アソゴ。アイズ ナンテ ユーンダ ケムリルダスノ  
なんと行ったっけ あせん。あれを なんと 言うのだろう。煙を出す  
ゴド。

ところを。

B ~~~~ アノ ケムダス ~~アズ~~ ケムダスノ ゴドァ アズァ  
あの 煙を出す 煙を出す ところを あれを

<sup>(23)</sup>  
~~ハ~~ アノ ハーフテ イッタンデネガ。

あの 「破風」と 言ったんではなかったか。

C ハーフ。アソゴサ ヨグ <sup>(24)</sup> クッタモンダオネ スズメガス。

「破風」 あせんに よく 巣を作ったものだね。雀がね巣を。

(<sup>B</sup> ソー クサヤノ アノー コロー~~~~。 ) クサヤ ヤネ  
そう わらぶきの家の あん~~~~。 ) わらぶきの家の屋根。

コー ナッテネ コーユ サンコニ<sup>ニ</sup> ナッテンダ。 ソゴサ  
んのように なって このように 残ガんのように になっているのデ。 そんな

アガッテッテ オドゴダジ<sup>ニ</sup>ー ソノ トルンダッケオ。

昇って行って 男の子たちは 取るのだったよ。

スッドァ チョード オヒルメニ<sup>ニ</sup> ナニ<sup>ニ</sup> ソレ ナニ<sup>ニ</sup> ソレ  
そうすると、ちょうど 昼前に あれと これを

システロヨッテ イーズゲデ デハラインノ。ソイズ シスネデ  
やっておけと(親は)言い付けて 出て行くんだ。それを しないで

ムジューナッテ ソノ スズメノコートリル スツツダァ  
夢中になって その 雀の子取りを していると。

ソノ ドギ チョード ケツテ キテス。ソシ<sup>ハ</sup>ステネ ソノ  
 その 時 ちょうど(親が) 帰<sup>カ</sup>ッテ 来<sup>キ</sup>テね。 そしてね。 その  
 ハーシスゴ トラレンダー。(笑い) スト オズラエネ  
 梯子 を とられてしまった。 そんなで 降りられない  
 ゴッタオナー (笑い) ~~~~~ オズラエネデー。  
 ようだったよ。 降りられないでね。

A オナゴダズァ アリヤー アノー オナゴダズ アノー  
 女の子たちは あれは 女の子たちは あのう  
 ケツケナゲ<sup>(25)</sup> テ ケツケナゲデネ。 ( <sup>C</sup> イシスコハズギネ。 )  
 石 なげ 石なげをしただろう。 石はいきね。  
 イシスコハズギモ シス タンダエ。 ( <sup>C</sup> シスタヨ。 ) イシスコ  
 石はいきも しただろう。 ( したよ。 ) 石はいき。  
 ハズギ。 ( <sup>B</sup> ~~~~~ コ マルッコ アリヤ コー ツケデ。 )  
 田 を こう 書いて。  
 マルッコ カイデ マルッコ カイデ ( <sup>B</sup> シー ) ソシ<sup>ハ</sup>ステ  
 田 を 書いて。 田 を 書いて。 そして  
 イシスコハズギ。  
 石はいき。

B コー ヒトズデ ヒタツ ツ オイデ ヒトズ オイデ ヒタツ ツ  
 一つ おいて ニつ 置いて 一つ 置いて ニつ  
 オイデネ。<sup>(26)</sup>  
 置いてね。

A ソシ<sup>ハ</sup>ステ ヤッタンダナー。 オドゴモ ヤッタゴド ~~~~~。  
 そうして やったんだね。 男の子も やったことがあるよ。  
 ( <sup>B</sup> シー。 )  
 うん。



C アド クニヌツコ クニヌツコトリッテ <sup>(27)</sup> ムガシヌノ ソノ  
 そのほか、 国 国 取りといって、 昔 の

サムライノ マネデネンダベガネ。ン。 ( <sup>A</sup> クニヌツコトリ コレ  
 武士の まねをしたのではないだろうか。 国 取り、これを

ヤッテナ コレ ヤッテ クニヌツコトリ ジャンケンシテ コレ  
 やって こんを やって 国 取り じゃんけんして、 これ

ヤリナガラ。) ソーユーゴドー ワガラネンダベガネ。  
 を やりながら。) そういう 遊び は 分らないだろうね。

センセーダワ。

先生は。

D コレワ ワカルケドモネ。

この遊びは 分かるけれどもね。

C ンダ。コーヤッテネ。 ドンドン コツカラ コー ダンダン  
 そうだ。こうやってね。 どんどん。 ここから このように だんだん  
トツテグンダオネ。テノクレニヌ。

取っていくのだよね。 手のひろがる 大きさで。

A クニヌツコトリルズナネ アノネ ケツケナゲ ケツケナゲッテ。  
 国 取り というのはね、あのね。 石なげ、 石なげって。

B ジャンケン シヌ テサ。  
 じゃんけん して。

A ジャン ジャンケンテテ ~~~~ ジャンケンダ。 ジャンケンタッタガ。  
 じゃんけんして。 じゃんけんた。 じゃんけんと言っただろうか。  
<sup>(28)</sup>

( <sup>B</sup> ーン。  
 うん。 )

C ジャンケンダヨ。  
 じゃんけんだよ。

A ヤッパリル (シー。)  
やっぱリ そうだっけかな？

C コッカラ ハジメメデネ  
ここから 始めるのだよ。

A ソシステ カッタ カッタホーワ。  
そして 勝ったほうが。

C カッタヒトガラ コーユーフニヌ トルワゲ。 ( <sup>B</sup> カッタ カデバ  
勝った 人から、 こういうように 取るのだ。 勝った 勝てば。  
シー。 )

A イッカイバリダッタエガ。 ( <sup>B</sup> イッカイ ~~~~~。 )  
一回 だけだったほうが。 一回 ~~~~~。

C イッカイ。 ( <sup>A</sup> コーイフニヌ。 ) シー。  
一回 ンのように。 うん。

B クニヌッコトリナンテネ。  
困 取りなぞと言ってね。

C ソシステ マダ ケンシステ コンダ コノ シス マッ コガラ <sup>(29)</sup>  
そして また じゃんけんをして、今度は 隅の方 から  
コー トルンダオ。ンデ マダ コッカラ コーシステ。  
こう 取るんだよ。そして また 此処から このようにして。

A ハヤグ イッペ トッタホー。  
早く たくさん 取ったほうが。

C トッテス ソシステ ヒローグ トッタホーガ イイノ。  
取って そして、 広く 取った方が 勝ちだ。

A ソンナー ゴド ヤッテ アー テーグズダガラ。  
そんな ことを して 退屈 だからね。

C ソーユーゴドバリル シス テネ。 ( <sup>A</sup> クニストリルダノ  
 そうゆうンと ばかり) したんだよ。 ( 国 取り や  
 ケツケナゲ ~~~~~ 。 )  
 石ケリ ~~~~~ 。

B ~~~~~ アソビズノワ ソイッタ モンダベナー。  
 遊びというのは そういった ものだらうね。

C ナーンニヌモ オモチャ ネガッタオネ。 アーユドギハ。  
 なんにも おもちゃというものが なかったものね。 あの頃は。

A アノー マッコワ?  
 あのお 竹馬 は?

B マッコ <sup>xxxx</sup> ヤー アー タゲウマッコ アー オドゴワラシスタス  
 竹馬 ああ 竹馬 は 男の子たちが  
 ヤッタノ。 ( <sup>A</sup> オドゴワラシスタス ソイズァ ~~~~~ ) ウーン  
 やったんだね。 ( 男の子たちが その遊びは ) うん

ヤッタモンダネ アノ。アノ コー アリャ <sup>xxx</sup> コ ナニヌ  
 やったものだったね。 なに

ピャッコシス <sup>(30)</sup> テ アノ アルグノネ。 アイズァ ヤッタナー  
 けしして 歩くんだね。 あの遊びは やったね。  
 ン。

A マダ バッタズジズダス ( <sup>B</sup> ~~~~~ バッタブジズナダシス ) ホガニヌ  
 亦。 めんン遊びだし。 ( めんン遊びなんだね。 ) そのほか  
 ジズントリル。 カグレガッコ ( <sup>B</sup> ン ) カッツガッコ  
 陣取り遊び。 かくれんぽ かくれんぽ  
 カグレガッコ <sup>(31)</sup> ワガリマスカ。 ( <sup>B</sup> ウーン <sup>xxxx</sup> カグ <sup>xxxx</sup> カグ マア )  
 かくれんぽ 分かりますか。 ( うん

カグレカッコ。 ) カッツカッコズノ。カッツカッコズノァネ。  
かくれんぼ ) 鬼ジーンと いうの。 鬼ジーンと いうのはね。

トニヌカグ ( <sup>C</sup> 笑い ) カッツゲバイーnda。 ( <sup>C</sup> ウンドーカイ  
とにかく 追いつけば いいんだ。 ) 運動会

ミデナノ ) ウンドーカイ ミデナノ。マー カグレカッコズノ  
のようなもの。 ) 運動会 の ようなもの。 まあ かくれんぼ というのは

ハ カグレデ ガグレダnda ~~~。カッツカッコズナ カッツ  
かくれて かくれたんだ。 鬼ジーンと いうのは

カッツイデ サワレバイノダオン グレグレド<sup>(32)</sup> ドゴダ  
xxxxxxxx  
追いついて (相手と) 触れれば いいのだよ。無理やりし

ドゴデモイガラ ハシェデ。 ( <sup>C</sup> ダレデモイー。 ) ンデネバ  
どこでもいいから 走って。 誰でもいい。 ) そうでなければ

アドー ( <sup>D</sup> オニゴッコミタイナ )  
あとに。 ( 鬼ジーンみたいなもの )

B ウーン マズ イマノ オニゴッコ ~~~。 ( <sup>A</sup> ~~~。 )

うん まず いまの 鬼 ジーン

( <sup>C</sup> ~~~ ネー オニゴッコダッタベネ。 )  
おにジーンだろうね。 )

C オニゴッコズノ チガウデガッチャー。オニ<sup>ニ</sup>ゴッコズノワネ  
鬼ジーンというの は 違うのではないの。 鬼ジーン というの は

コゴー<sup>(33)</sup> ユツケンダヨ フサイデ オシエンダヨ。 ( <sup>A</sup> ン

..... 此処を (いぼって (目を) ふさいで つかまえるんだよ。 うん

アズァ オニゴッコダ。 ) カッツカッコワ タダ ハセデッテネ  
あはは 鬼ジーン ナジ。 ) 「かつがら」は ただ 走って いて

サワレバ コンダ ソノ ヒト オニ<sup>ニ</sup>ナル ワゲ。

触れれば 今度は その 人が 鬼 に なるのだよ。

カツカレネヨニ<sup>ハ</sup> ハセンダオネ。 (<sup>B</sup> シー シー) ア ンダ  
追いつかれないように 走ったんだよね。 うん。 うん。 あ そうだ

オニ<sup>ハ</sup>ゴツコワネ メー シー マナグ ユツケデサ  
鬼 ジャン はね 目 目を しぼって

メーネグスンノ。

見えなく するのだよ。

A ソナー マナグ マナグ ユツケデ ナニ<sup>ハ</sup> ヤルナンツ  
そんなに 目を しぼって やるなんていうんとは

ゴドア シ<sup>ハ</sup>ネガッタナ ジェンジェンネ。

しなかったね。 全然 ね。

C シ<sup>ハ</sup>ツタヨー。 (<sup>A</sup> スネーナ) アンダダズア スネンダガ。  
したよ。 しないね。 あなたちは しなかったの？

オラハ マナグ ユツケデ オシェンノダッタ。

私は 目を しぼって おでえのだったよ。

B ソナー ヤツパー オナゴダズノ ホー アレダベナー ~~~。  
それは やっぱソ 女の子たちの オガ あれをしたんだろうね。

A ンダッタエナー。 オラ マナグ ユツケデ ヤツタゴドア  
そうだったろうね。 俺は 目を しぼって やったんとは

ネーナー。 シー。 ソーデネクタッテサゲー~~~~。

ないね。 うん。 そういふんを しなくても ~~~。

C オシヨカズダッテネ ハネツギズゴドモ ネース。 (<sup>B</sup> ソーソー。) <sup>(34)</sup>  
正月だったね。 羽根つきというんとも しなかったね。 そうそう。

ン。 モジ<sup>ハ</sup>タモレコンコッテ モジ<sup>ハ</sup> モレサ アリル グノダ。

うん。 「餅給れ こんこ」といって 餅を 貰いに 歩いたものだよ。

(笑い)

A <sup>(35)</sup> デアー アンダダジズノ カミム ソーストユード カミム  
ねえ あなただちの 髪は そうすると 髪を

ユッテ アノー ユッタヨナノド ナニヌー アノ  
結って あの 結ったようなの

モモワレツコガ。 <sup>(C)</sup> ンー ヤッパリル。  
「桃割れ」というものか? うん やっぱり。

C イジョ ケシス ダドガネ。  
「銀杏返し」だね。

A ナンダ。イジョ ケシス ッテ ナンジョ ナノダ。  
なんだ。「銀杏返し」というのは どんなものなの?

C アノネ。モモワリツツノワ <sup>(A)</sup> モモワレツコズノワ タダ  
あのね。「桃割れ」というのは 「桃割れ」というのは、<sup>(36)</sup> ただ

コー イマ ナンテ ユンダエ クルント コーシステ

こう 今 何と 言ったらいいか くりと こうして

タゲナカ<sup>(37)</sup>システネ ソシステ ユツケダモンダオネ。キモノ  
「丈長」にしては、そして 結んだものだ。着物を

キテス。イジョ ケスズノワネ タゲナカ シス ネノス。<sup>(B)</sup> アー  
着ては。「銀杏返し」というのは 「丈長」を しない結い方だよ。

タゲナカ<sup>(38)</sup>ッテ コーネ。 <sup>(B)</sup> ウーン マルッコ コーイフニヌ  
「丈長」というのは こうするのだよ。 うん 丸く こういうように

シスタドゴサ マエサ コー <sup>(A)</sup> アー タゲナカスンノ。

したところへ 前に こう ああ 丈長をするのだよ。

イジョ ケスズノワ タゲナカ カワレネガラ ビチット

「銀杏返し」というのは 「丈長」を 買うとが出来ないから ぎっちり

ヒスイデ ヒシス ンダ ユイガダ シスタノ。 <sup>(B)</sup> ン ハー ハー  
押さえて 押さえた 結い方を したんだ。 うん ああ ああ

シー } コーイフニヌ コイズ<sup>(39)</sup> ユツテモレデグテナー  
 二 二 二 二 二 二 二 二  
 二 二 二 二 二 二 二 二  
 こういうふうに これを 結ってもらいたくて

クルント コー ヤツテ ソイズ タゲナカワ アノー アダリデ  
 くらっと こう やって それは、「丈長」は あの 頃で

ニヌ シェンカ サンシェンダッタベヨ。

ニ 銭 か 三 銭 だっただろうよ。

B タゲナカズノァ コレグレノァ ハバッコノンデ シー ナニヌカ  
 「丈長」というのは、これ位の 幅 ので 何か

イロッコ ツカッテ ( <sup>C</sup> ソー ソー モヨーノ アルノ )  
 色 を つけて そう そう 模様の あるのだね

ナニヌガ カイデ ソジステ コー キツテ アノー コーユー  
 何 か 書いて そして こう 切って 二のよう二

キチツット サステ ( <sup>C</sup> コッチッ キツテ コッチッ キツテ )  
 きちっと 刺して こちらと こちらを 切って

シー シー ソジステ サジスンダッケ。

うん そして 刺したんだよ。

C ソジステ コ サジス アシエルノ。 ( <sup>A</sup> ハーシ ) ソイズ  
 そして こう 刺して、合れせるんだよ。 はあ 「丈長」を

カワレネドネ ( <sup>A</sup> シー ) モモワリルノ コーイフニヌ  
 買えやいと 「桃割れ」というものを

ユワネンダモ。ビチョット コーイフニヌ シス テネ  
 結うんとはできやいんだよ。 ぴちっと こういうふうに 結うだけだよ。

A ア ソイズァ イジョゲシズノ。  
 ああ それを 「銀杏返し」というの？

C シ イジョゲス。  
 うん、「銀杏返し」だよ。

B ケッキョグ モー コーイフニ<sup>ニ</sup>シテ コゴサ  
結局、 いろいろにして、 ンニ

タゲナカ コー イレルノダオ。

「丈長」を 入れるのだよ。

C ソー コーイフニ<sup>ニ</sup>ネ。 ( <sup>A</sup> タンダノ オサケズノ<sup>ニ</sup>ア<sup>ニ</sup> )  
そう、いろいろには。 だの おさげというのは

コーイフニ<sup>ニ</sup> ユツテシ<sup>ス</sup>。シ<sup>ス</sup>テ コゴサ タゲナカ ソノ  
いろいろに 結うのだよ。 そして、 ンニ 「丈長」を

タゲナカオ シ<sup>ス</sup>テ モレデガッタンダドモ ソノ タゲナカ  
「丈長」を 入れて 貰いたかったんだけども 「丈長」を

カウ ジェニ<sup>ニ</sup> ネンダオ。ジェニ<sup>ニ</sup> エ<sup>ニ</sup> ア<sup>ニ</sup> モツテネガラネ  
買う お金 が なかったんだよ。 お金 が もったいないから。

サンシェングレ ダッタベヨ。ソイデネ。

三錢ぐらい だっただろうよ。 それでね。

A サンシェンツドギヤー タイキンダモンネ ンー マンズ  
三錢というのは 大金だからね。 ます

イズニ<sup>ニ</sup>ズノ コズゲー。

一日の 小遣いだからね。

C デモ オラ ゴリルンワ ツカワネヨ。 サンシェングレ ソイズ  
でも 私は 五厘は 使わなかったよ。 三錢ぐらいも お金を

モツテネガラ ホレー アノー イジョゲシスニ<sup>ニ</sup> ( <sup>A</sup> ミッカ  
持っていないから 「銀杏返し」に 三日か

ガ ヨッカ タメナクチャナンネナ ) ツブシ<sup>ス</sup>タ ユイガダ  
四日の小遣をためなければ だめだったね。 つぶした 結い方を

スノ。 ソノ タゲナカオ カゲデ キモノノ カスリルノ  
したんだよ。 その 「丈長」を かけて、 着物の 絆の



イショドガネ ゲンロクノ イショー キテ キシェライルバ  
 着物とか 元禄の 着物を着て、着せらねると  
 シート イーノ。イードゴノ ムスメダッタノ。 ゼーンゴダガラ  
 とて喜んだものだ。よ。(そういうものを着るのは) 良家の娘だけだったから。田  
 ナー ホントニヌ。

爺だからね。ほんとに。

B コノ カミム ユフネグナツタズノアー ヤッパ センソーマエハ  
 この 髪を 結わなくなったのは。 やっぱ 戦争前は  
 テアンダベオネ。

(結わなくなった) のだろうね。

C セーンソーメーデ ブーツ メーダヨ。  
 戦争前どころでなく ずっと 前だよ。

A オサゲ テアンダナー。  
 「おさげ」になっていたんだろうね。

B マンシュジズヘン トージズー ウー マンシュージズヘン  
 満州事変 当時、 満州事変

ツゴドァ ショーフ スシー ハジズネンコロダガラサ  
 というんとは 昭和 8年頃 だから。

ヤパシ ソノ メー ハ ジステー ハゴ オハグロ ツケダ。  
 やっぱ それより前 は していたね。 お歯黒も つけていた。

(A テアンダマダ)  
 まだまだ)

C タイショーネ ゴロクネングレー タイショハジズメダベヨ  
 大正 5.6年頃、 大正 初めだろうよ。

モモワリ ナンカニス ソノー ユッタノア。(B ウーウー) ン  
 「桃割れ」などに 結ったのは。 うーん

A ダッテ オラー。 (<sup>C</sup> シス ッテル ) オラ ジズ ユー イジズ ネンニ  
 だって 俺は。 ( 知ってるの? ) 俺は 11 年に  
 イジズ ネン シェーサ ヘッタドギ ナーニヌ アイズラ ナニヌ。<sup>(40)</sup>  
 小学 1 年生に 入学した時、 なあに あの 人たちが なあに。

B システ カミュイサンテ ハヤッテヤモンデッチャ。 オラ  
 そして 髪結いさんという仕事は、 はやっていたもんだよ。 俺が  
 オーギグナル コーサ オラ ~~~。 (<sup>C</sup> オドナワネ。 )  
 大きくなる 頃には、 ( 大人たちはよく行ったね )

(<sup>A</sup> カミュイサンガ ~~~ ) ウン、 ヤッワリル オラ ~~~ サ  
 ( 髪結いさんが。 ) うん、 やっぱり 俺は  
 コー バサット シスタヨーニヌ システ。  
 こう 髪を ぼさっと したように してね。

C デモネ フラシス タズワ ソーデネベ アド オサケニヌ  
 でもね、 子どもたちは そうではないだろう。 あとは 「おさげ」 に  
 ナッタンダオ。 (<sup>B</sup> アー ソーガ ) タゲナカ ユツケ  
 なったんだよ。 ( ああ そうか ) 「丈 髪」 を  
 シス ネデネ モモワリル シス ネデ オサケニヌ シス タンダオ。  
 しないで 「桃割れ」 にもしないで 「おさげ」 に したんだよ。

(<sup>A</sup> ~~~ オサケダ オサケダ モモワレツコズノア ~~~。 )  
 そうだ、 「おさげ」 だ、 「おさげ」 だ、 「桃割れ」 というのは。

(<sup>B</sup> シー ) ドゴマデーモ ナカグ ソイズモ イマノ ヒタズ  
 うん ) どいまでも 長くして、 それも 今の 人たち

ミデニヌ バサーット シス ネデ アンデ ニヌホンニヌ  
 みたいは ぼさっと しないで 編んで ニ本に  
アンダリルネ。  
 編んだリしてね。

- A モモワリッコモ ソッパニヌ システモ イーゲントモ シスラミ  
「桃割れ」に リッパに しても いいんだが 風を  
タゲデ クルヤズ イデナー、ナースト マンズ。 (C ソイズ ハ  
つけて くる子が いたなあ。 なんと まあ。 それほ  
アッタノス) マンズ シスラミム オナゴワラシスデ ハ  
居たねえ) まず、 風、 女の子どもで  
シスラミムノ イネノア ホニヌ カネモジズ (笑い) ネット。  
風の いないのは 本当に 金持 だけ だね。
- C カネモジズダッテ イダベッチャ ~~~~~ ヤンダゴドヤー。(笑い)  
金持 だって 居ただろうよ。 いやだなあ。  
(A ンダベナー アノ) イマ デーデーデー デデガラダデバ  
( そうだろうね。 ) 今は D.P.T が あるから  
イネノ。  
居ないんだよ。
- B ンダエネ シスラミズノ。  
そうだろうね。 風というのは。
- C シー ノーミム ヤラネ (A ノーミ ハー マズ) イダンダー。  
うん 蚤 とかは。 蚤 は まず居たね 居たんだね。
- B ノミ シスラミムズノァ マー ドゴデモ イダガモ シエネヨ。  
蚤や 風 というのは どうにでも 居たかも しれないよ。  
(A シー マズ イダッタベス。 アノ アダリル) シー マー  
( うん、まず 居ただろうよ。 あの頃は ) うん、まあ、  
ユーフグナ ~~~~。  
金持 (の家以外はね。)
- C ヒマナドギ シスラミムトリル シスタンデネーガー オヤダスー。  
ひまな時は 風取り を していたのじゃないか。 親達は？

(笑い)

A デー ナーニヌ ガッコーデデサギャー アンダー アノー  
なあに、 学校でええ

オヒ<sub>xxxx</sub> オヒルヤスミムダノ アソビジズカンニヌ シスラミムトリ  
お昼休みや 遊び時間に 風取りを

(<sup>C</sup>シスタ。) オダゲァーニヌ アンダダジズア シスラミムトリ  
(したね。) 友達同士 あなたちが 風取りを

シスネガッタガ。

しなかったの？

C オーラ ソンナゴド シスネゾー オラハ。(B 笑い)

私は そんなとは しなかったよ。 私は。

A アイデノナ トッテケネガッタ。

相手の風を 取ってやらなかったの？

C ソンナゴド ハ シスネー (A ホー) エーデワ トッテ  
そんなとは しなかったよ。 家に帰ると 取って

モラッタベナー。

貰っただろうね。

A ンダッテ オラ <sub>xxxx</sub> トー オダゲァニヌ トッテケダノ ミデー<sub>xxxxxx</sub>  
だって、俺は お互いに 取ってやっているのを

ミダカ° ミデ オベデダゲントナー。ナンボモナー。

見て おぼえていたんだがなあ、何度もね。

B シスラミムナンテ ホニヌ イマ ナーシステ イネンダガナー。

風 など 本当に 今ほ どうして 居ないのだろうね。

C デーデーテー デギデガラ アーユーモノガ デギデガラ

D. D. T が 出たから ああいう薬が 出たから

イネグナツタノデガス。ウン。

居なくなったのだよ。 うん。

A マーズ シェンゴダナ ホントニヌ シスラミム イネグナツタノ  
まず 戦後だね ほんとうに 風が 居なくなったのは、  
ホントニヌ インデネアー シスラミム ナニヌ タマニヌ  
ほんとうに、 そうでなく 風が なに たまに  
ント ゼンゴガラ クルヒタズノ ニヌ イダッタ ニヌ。  
田舎 から 来る人達の ニヌ いたよ。

B トニヌカゲー エリニヌ コー モソモソ アルイタ ニヌ。  
とにかく 裸に ンう モソモソ 歩いて、いたよ。

C ソシステネー オラネー アノー オライノ ジーチャンノ<sup>(41)</sup>  
そしてね、 私ね、 私の家のお爺さんの  
キョーダイ ホラー イッパダベー システ アド コンドア  
兄弟は ほら たくさん居たでしょう、そして 今度は  
オライノ ナントモ トリダデモ ナンニヌ モ ネーガラネ  
私の家では、 なんとモ (風) を取りきれないので、

オラ フユー アノー ユギノ ドゴサ ブンナゲデ  
私は、 冬に 雪の 上に (衣服) を 投げ捨てて  
オイダンダヨ。(笑い) (B アーン) ソツツドァ ニヌ。  
おいたんだよ。 そうすると ニヌ。

A コノヘンノ サム ウー サムイノデ シスラミム シスヌベガ。  
この辺の 寒さで 風 は 死ぬだろうか。  
(C ユギノ ナガサダモノ) ユギナガサ。 シスヌベガ。  
( 雪の 中に 投げるのだもの) 雪の中に？ 死ぬだろうか？  
アゲグ ハ ナル シスミツツドァ アゲグナダガラ サ。  
赤く は なるよ、 凍ると (風は) 赤くは なるんだからさ。

B シス ヌヨリネ ソーシス テダネ シス ヌンデネデ ケッ キョグ

死ぬのではなくて、そうしてだね。死ぬのではなくて、結局

ンーダネンダヨ アイズァネ ソシス テデネ アド ホーギデ

そうではないんだよ、あれはね。そしてね、あと、幕で

ホログズド ボドボドボド<sup>(42)</sup> ~~~。 ( <sup>C</sup> マッサガー ソンナニヌ。 )  
落とすと ぽとぽとぽとと ~~~。 ( まさか そんなには。 )

ンー ホント ホント、オジズルンダヨ コレ オラ

いや、本当だよ。落ちるんだよ、風は、俺は

ヤッタンダモン。 ( <sup>A</sup> ホント ソイズ オラ マンシュエデ

やってみたのだよ。 本当だよ、それを 俺も 満州で

ヤッテキタンダガラゲントモサ コノ ヘンデモ。 ) ( <sup>C</sup> ホー  
やってきた だからさ、 この 辺でも。 ) ( へえー

ソンナニヌ インノ。 ) ンー ンダシスサ コゴノ ヘンダッテネ  
そんなに 居るの。 ) うん、そうだよ、 この 辺でも

シス ラミムズノ イギデレバ ナニヌ イギ マー シスミダ  
風 が 生きていけば 凍った

ヨーナ カヌー サムイボグ シャレネバ<sup>(44)</sup> イー スシミダヨーナ  
ような 凍ったような

カッコニナッテ シログナルガラ アイズ ( <sup>C</sup> ハー )

形になって 白くなるから、 あれは

ンダラ シス ガッテ イレネグナルガラネ ホロゲバ オジズルン  
(衣服<sup>(c)</sup>) 取りついて いられなくなるから 振ると 落ちるの

ダモノ。 ( <sup>C</sup> ハー ) ンー。 マンシュエアダリデ ~~~。

だよ。 満州 あたりで ~~~。

A シス ンダノデ ネガベデァー。

死んだのでは ないだろうね。

B シスナネノ。シスグ アイズァ ホドマレバ マダ イギガエッテ。  
死なないのだよ。すぐ あれば 暖かくなると、また 生き返って。

C (笑い) キモジヅワリル。(笑い)  
気持 が悪いなあ。

A ンデアー ソノー ホロツタドゴー ヒーツケデ タグー~~~~。  
それでは。その 振り落としたところを 火をつけて 焼いてしまう。

B アー アイズァ ナガナガ シスナネモンダヨ アイズァ。  
ああ 風は なかなか 死なないものだよね。あれば。

C (笑い) ソンナゴドモ シスネンダオネ アー ソンデモス。<sup>(45)</sup>  
そんなとは しないんだよね。ああ、それでもね。

A アイズァ シスナネ、シスナネ シスラミワー ホニヌ  
風は 死なないよ、死なないよ。風は 本当に  
シスナネモンダデバ。 ン ンダガラ。<sup>(46)</sup>  
死なないものだよ。 だから。

B オラ ソーンナニヌ イデデ ンート シスラミ ソレゴソー  
俺は そんなに 風が 居て 風が それんぞ  
ホニヌ ネ イッコブンダイデ オラ コレクレノサ ヨル ハ  
本当には 一ヶ分隊で 俺は こんぐらいで、夜になると  
マズー ヒー テアーデ シスラミトリル ナンダヨネ。(A 笑い)  
まず 火を たいて。 風 取り なんだよ。  
イッペニヌ トツテネ。 ソシステ アドア ガバット<sup>(48)</sup>  
たくさん 取って そして それから たくさん  
マゲッツド バジズバジズバジズド (C バジズバジズバジズ  
火に投げ入れると パチパチパチと パチ パチパチ と  
《笑い》) ナー コレ ムッツソルナンダガラ。 ソレゴソ  
んのように 一杯なんだからね。 それんぞ

ムギツブグレニヌ ナッテンダオ。マー ハ。 ホーニヌ  
麦粒ぐらいに 大きくなっているからね。 本当に。

ンデモネ シヌラミ イネズド サムクテ ヒデガッタ。サッパド  
でもね、 風が(体<sub>に</sub>)居ないと 寒くて ひどかったよ。 全部  
トルド。(D 笑い)  
(風を) 取ってしまうと。

C ナンデー。(A アンダダズアー ウーン)  
どうして? (あなた<sub>は</sub>は……)。

A ソー アンカネ シヌラミニヌ カレデネ カイバネ トニヌカグ  
あれはね、 風<sub>に</sub> 食われて かゆいと とにかく  
コレ カグツツドネ ホー シヌラミ ネーズバ ヤパ サム  
かくとね、 風が 居ないと やっぱリ

サムイツツノ。  
寒いんだよ。

C (笑い) ダーレ ソンナゴド ハ ネンダ。  
まさか そんなと は ないでしょう。

B ホント ホントダ ホントダヨ ウン。 ウン。  
本当、 本当 本当だよ。 うん

A ソイズア ホントダ ソイズア ヘーテサ イッタヤズデネバ  
それは 本当だよ。 それは 兵隊に 行った人でなければ  
ソイズダゲ ハ ワガネナ ソイズア ヘーテノ ハナシヌ  
それだけでは 分からないね。 それは 兵隊の 話し  
ダゲントモサ。ホニヌ (B シヌラミ……)  
たけれどもね。 本当に。

C ソンデ アレガナ テー アノ コー ケヌ アノ ケズエギカ  
それで あれだろうか。 血液が



アレナルノガナ。 ( <sup>B</sup> ソーソー カユーガラナー )  
あれになるのかな。 そうそう かゆいからね

カグタメニヌ。

搔くために。

B コレ カグ~~~~。チッノメグリ イーノダオ。 ( <sup>A</sup> チッノ  
これは 搔く~~~~。 血の 巡りが 良いのだからね。 血の  
メグリ イグナルガ。 )  
巡りが 良くなるのだからね。

C ンダ チッノメグリ イグナンノダネ。 ( <sup>B</sup> ンー )  
そうだ 血の 巡り が 良くなるのだからね。

A ソイズ イーケント マズ ソノ~~~~ ハナスシ ハ  
それは 良いけれども まず その 話しは  
イェントモサ。アノー アンダダズサ イッテ アメ  
それで良いけれども。 あの あなた方は 一体 雨が  
フッタドギァ カラガサ サズシテタンダベ。  
降った時に、 唐傘を さして行ったんだろう。

C (笑い) サツサネンデネーガナー オソラグ。  
ささなかったんだろう。 多分。

A カラガサ ネーヒタズ アッタンデネーガ。  
からかさがない人達は 居たんじゃないかな。

B ミノツコズノ アッタンダ。 ( <sup>A</sup> ナーニヌ ) ミノズノ アラ。  
蓑というのが あったんだよ。 ( なに ? ) 蓑というのが あれば。  
( <sup>A</sup> ミノ キ…… ) コーコー サンカグノ キテ。  
蓑を 着て 三角になったのを きて。

A アーアー サンカグノ。  
ああ、 三角のものね。

B シー アズネー オラー イツカイ キタゴド アル。 シード  
うん、あれはね。 俺は 一度 着たことがあるよ。 ええと、  
ミシエヤデ アイズ ウッタモンダベカネ オラ ミノッコ  
店 で あれを 売っていたものだろう。 俺は 蓑 を  
キシエライセイライダゴドアルヨ。  
着せられ た ンとが あるよ。

A カラガサダノ ホニヌ オラ チャックデギャ ヨーヤット  
唐 傘などは、本当に 俺が 子どもの頃に ようやく  
デハッテキタ ヨーナモンダッタガ。 ジェータグナ  
出てきた ようなものだったよ。 ぜいたくな  
モンダッタモナ。  
ものだったね。

B ミノッコ。  
蓑 が。

C ソノメー ナニヌ キタベ。  
それ以前は 何を 着たんだろうか。

A オレモ ワガネデバ。  
俺も れからがないな。

B アイズァネー ナンドネ オラー。  
あれはねえ。 あれはね。

A アブラッコガ。 アブラガミ ハ カブッテ アルッタオナ。  
油紙かな？ 油紙 は かぶって 歩いたね。

アブラガミデ ナニヌガ デギダノ アッタベ。 (<sup>B</sup> ウーン〜)  
油紙 で 何か 作ったのが あっただろう。 うん

B オラ ゴザデ コヘダ アノ 〜 キテキタ ゴド アルナー。  
俺は ゴザで 作った あの 〜 を 着てきた ンとは あるね。

- C ~~~~ オラダジズ ティーセドギ カラガサ アメ  
 私たちが 子どもの頃は、 雨が  
 フンネデネーガ。(笑い) (A 笑い) ワーシェダヤ。(A ナーニ~~~~)  
 降らなかったのではない？ 忘れたね。
- B ナンデカデ コーモリル ハ ヤッパ アッタゾ コーモリルハ。  
 とにかく、 こうもり傘は やっぱり あったよ。 こうもり傘は。
- A ア アシスタ ハ ハイデ アリルッタネ。  
 足駄 は 履いて 歩いたね。
- C カラガサド コーモリルデ コーモリルガ サギニ デダノダベガ。  
 唐傘と こうもり傘で、 こうもり傘が 先に ぶたのじょうか？
- B サギデダノ。(A コーモリルノ ホア サギダベ。)  
 先に出たんたよ。( こうもり傘の方が 先だろう。)
- C ンデ コーモリルダガモシエネナ。  
 それでは、 こうもり傘の方が 先かもしれないね。
- B ン コーモリル コーモリルダッタベヨ オラ ナニヌア ミナ  
 うん、 こうもり傘、 こうもり傘だっただろうよ。俺は 先に、 みんな  
 ホネア シャ アレ オレダノネ ン ンデモ キレデ~~~~。(49)  
 骨が 折れたのね。 それで 切れて~~~~。
- C ダーレ アダリルメノ マンゾグナノダノ シスネンダモノ  
 ます、 あたり前の 満足な傘は ずさなかったんだもの  
 ホントニヌネ マニヌアワセバリ。  
 本当に 間に合わせばかりだよ。
- B フラジス タズノー モ サシスタリ~~~~ イッタングゲントモ  
 子どもたちの傘も さしたりして (学校に) 行ったんだけれど  
 アド ガッコーナンカデ コヘデ ヤッパ アノ トーズモ  
 あと 学校 でも 修繕して あの 頃は

ヤッタリ アリヤ カシスタナンカ シスタモンダツケ ヤッパ  
修繕してやったり 貸したりなど したものだわ

オダギ<sup>(50)</sup> アダリルデモ。ンデモ ヤッパリ ナガツズギ

髪 髪 あたりでも。それでも ヤッパリ 長続き

シスネンダツケオナ ワラシス カシステモーネ ボッコシステ  
しなかったものは。 子どもに 貸しても 壊して

クルシス ス ン。

くるしね。

C ン ミジズメダナー ムガシスノ ワラシスタジズ ハ  
うん、かわいいそうだな。 昔の 子どもたち は。

ホントニス イマ カンケデミット。オラー (<sup>A</sup> ~~~~)

本当に 今 考えてみると、 私は、

センソートーシズ オカスドギモ ソーイッタンダ イッペダガラ  
戦争当時、(子どもたちを) 育てるときも、 そうだったんだよ。 子どもがたくさ

サギノ チューセ ワラシスタズ サギニス ダシス ヤットギャ  
んだから、いちばん小さい 子どもたちを 最初に 出して やるときには

カサ ミンナ アズゲンノ。 アド オッキノ ネグナットネ  
針を みんな 持たせてやるんだ。 それから、 大きな 子どもになるとね。

カサ サスノ ネグナンダオネ コド<sup>xxxx</sup> ワラシスタジズ

針を さすのが なくなるからね。 子どもたちが

イッペダガラ。ドーロイデ アラ アノヒトサ イレライデゲ  
たくさんだからね。 道路に出て、「あれ、あの人に 入れてもらいなさい」

ナンテ (笑い) (<sup>A</sup> 笑い) ゲンナ オセグイグ ヒタズ

などと

非常に おそく出かける 人達に

(笑い) ソーシステ タゴズイデ。<sup>(51)</sup> ダーレ ホラ キョーデダジズ

そうして 入れてもらって。 ほら 兄弟たち

ガラ ( <sup>B</sup> ソイズ ハ アッタナ ) ナニ<sup>ス</sup> シ<sup>ス</sup> ロ  
から ( そういふことはあったらうね ) なにせ

ワラジ<sup>ス</sup> タズダガラ イレライデゲッテ ソー イワレダモンダオ  
子どもたちだから (他人に) 入れてもらって行きなさいって、言われたものだ  
ナッテ イマ ユワレルヨ。~~~~。

よと、 今、(子どもに) 言われるよ。

B ジ<sup>ス</sup> コジ<sup>ス</sup> グレノ アメ ガッコサ イグドギダッテ ナンダッテ  
少しぐらいの 雨なら、学校に 行くときだって なんだって  
ササネデハー オラモー ナンダヨ アノ ハギモノナド  
でかいで、 私も 履物など

ハガネデ マズ アメノ フットギナド スッパシヨ ソルジ<sup>ス</sup> テ  
履かずにです 雨が 降るときは 裾を からげて

( <sup>A</sup> スッパシヨ ソルジ<sup>ス</sup> テガー ) ハダジ<sup>ス</sup> テ ハシェダモンダ  
裾を からげて はだしで 走ったものだよ。

オラ。 ( <sup>A</sup> 《笑い》 スッパシヨ ソルジ<sup>ス</sup> テナー。 ) アノ コーワツコ  
俺は。 裾からげてね。 このように背中から

ワシャリ コサ コー アノ フルシギ サゲデネー ソジ<sup>ス</sup> テ  
肩掛けにしてんに 風呂敷を、 ぎげて そいて

フットンデツタノ ハー。ガッコサ ヘッタモンダジャー ン。  
ふっとんでいったんだよ。 学校に 行ったものだよ。

A ンダガラ ロクサマニ<sup>ス</sup> アジ<sup>ス</sup> モ アラワネデ ドゴドゴド  
Tジから うくに 足も 洗わないで、べたべたと

ヘッタナー ガッコノ ナガサナー。  
入ったものだよ。 学校の中に。

B ンー マーズ イマナレバ ホンニ<sup>ス</sup>。  
うん まず 今だったら、 本当に

- A アンダ アノー オダツキノ ショーガッコー ニゲダデニヌ  
 あなたは 愛宕の 小学校 が ニ階建に  
 デギダ ドギダッタ。  
 なった 時だったの？
- B アー デギデスタサー。  
 ああ、出来てましたよ。
- A デギダッタ。フルインダオネ アイズネー ンー。  
 出来たの？ 古いのだね。 あの建物ほ。
- B フルインダオ イワヤドー イナセー オダキ フルンダオ ン。  
 古いのだね、 岩谷堂、 箱瀬、 愛宕と 古いのだね。
- C オラ マスクニヌ アソゴノ イマノ ホラ マルツノ ドゴ。  
 私は 最初から、 あそこの 今の そう「丸通」の所にあった。(1学校)
- B ンー アー アズーワ ダレ メージズー ナンネンダッケゾー。  
 うん、 あれは、 明治 何年だったよ。  
 ハエンダッケオン。  
 早かったんだよ。
- A ハエンダ アー アノ ガッコー ホニヌ モグゾーコーシャデハ。  
 早いんだよ。 あの 学校は 本当に 木造校舎としては。
- B ンー ンダガラ ハエンダ。 ジステ アノ ガッコー ウエサ  
 うん、 だから 早いんだよ、 そして 学校の 上に、  
 アゲダノ ホラ ショーフ ンド ジューニヌ ネンナダオ。  
 ニ階建にしたのは、 昭和 ええと 十二年だよ。
- C ハー ソレゴソ (B ~~~) イマミデニヌ コズゲーモ  
 それこそ 今みたいに 小遣いも  
 モラネデナー コズゲーナンツモノ ゼンゼン ネクテ マジズサ  
 もらわないでね、 小遣などというものも 全然 なくて、 まず

ヨッタスニヌ イッタドギシヌカ アノー イズジリンタマネ  
用事を言いつかった時に、行った時だけ 一厘玉を

ヒトツツズズナダオ ( <sup>A</sup> ヨッタシヌニヌ イッテ キタラ  
一つずつもらったものだね。 用足しに 行って きたら  
ナンボ ケッカラ ナンボソレ ナンボ ンー イッシェン )  
いくら やるから、 いくら いくら 一銭

ヒトリルサ。 ソイズモ マイニヌズデネンダモ。 オヤガー  
一人に。 それも 毎日ではなかったものね。 親が  
ヨータシヌニヌ マッチャ イッテ ケアーリルニヌ ソイズ  
用足しに 街に 行って 帰りに お金を

ヒトズ モラウノ ハ タノシスミデネ。 ソナノ  
一枚 もらうの は 楽しみだね。 そういふと

ヨロゴビニヌ シヌテイダンダベ。

楽しみにして いたんだろうね。

B ンダガラー ソノ イマダレバ ゼニヌツコ モラッテ  
丁から 今だったら、 お金を 貰って

パン カウノー アイス カウノッテ ユンダゲントモ ソノ  
パンを買うとか アイスcreamを 買うとか 言うんだけどモ その

トージズ マー ジェニヌモ モラワネース。 ソーユー  
頃は、 まず お金も 貰えなかったんだよ。 そんな

ウルモノモ マー イマノ ヨーニヌ ネーガラネ。  
売るものも 今の ようには なかったから。

( <sup>A</sup> ミシェモノモ ~~~~~ トツケモノダオナ、アツタツテ )  
見せ物もなかったし、 <sup>(52)</sup> くらいぐらいたものはあったとしても

トニヌカグー ~~~~~ノドギーワ ソノー クダモノノネ  
とにかく ~~~~~の時は、 果物の

(53)  
 ジズンベダノ モモナンツモノ イマ デデネス。 ( <sup>A</sup> アー  
 椿桃 や 桃 などというものは 今 は 出ていないよ。 ああ  
 クダモノノ ) コレグレナノネ ソイズ ドゴデモ アルンダオナ。  
 果物の これくらいの大きさのものは それは どこにでも あるのだよね。  
 ( <sup>A</sup> モモナンツナ ン ) アッタノス ハナタレモモッテ。  
 桃 などはね あったんだよ。 鼻たれ桃と言って。

C ハーナタレモモズノア ワルグオカッタノダー ( <sup>B</sup> 笑い )  
 鼻たれ 桃 というのは 出来が悪く 成育したのだよ。  
 ソッパナノモ アッタノサネ。  
 ソっぱな 桃 も 売っていたのだよ。

A ソイズサ モッテキテ アノ <sup>(54)</sup> チャゴミダ ナンテモ  
 それに 加えて ぐみ などというもの  
 ウッテダ<sup>ン</sup>ダス ( <sup>B</sup> ン ソーソー ) ( <sup>C</sup> チャゴミノ アド<sup>ア</sup>ネ )  
 売っていたよね。 そうだ、そうだ。 ぐみに あとは。  
アド マスコダノ オワンコデ ハガッテ。  
 枳 や お碗 で 計ってね。

B アド <sup>(55)</sup> ジュグリ アリヤ。  
 そのほか すぐり、 あれは。

A スグリ ( <sup>B</sup> ン ) チャゴミモダオナ。  
 すぐりに ぐみ もだものね。

C ソーデネグネ アリヤ ( <sup>A</sup> ~~~~ ) クワノギサ アガッテ  
 そうではないね。 桑の木に のぼって  
クワゴ トッテ ( <sup>B</sup> ン カゴナ ン ) ス スー ソジステ。  
 桑の実を とって うん、桑の実ね そして

A クワゴ クワゴ ハ クッタ クッタ アイズ ハ。  
 桑の実、桑の実 は 食べた 食べた あれはね。



C イショノ ソレゴソ ゲンログ アノ コノ ゲンログサ  
 着物の それこそ 元禄 この 元禄に  
マワシタドゴサ イレットネ ( <sup>B</sup> マズ アーユーモノー  
 まわしたところに 入れていると まず、あのようなものを  
オモニヌ クッテアンダナ ) ソレカ ミンナ クワコッテ アノ  
 主として 食べていたんだね) それが 全部 桑の実で あの  
 ( <sup>B</sup> シー ) クワノギサ デル ナンテ ミーナンダネ。 アレデ  
 桑の木に なる なんていう 実だろうかね。  
 ス アノ ムラサギニヌ フッテネ。  
 紫色に なってね。

A アイズ タモドサ イレデ アルッタノガ。  
 あれを 袂に 入れて 歩いたの？

C オゴラレデ シー オラ ソシステ クイナガラ アルッタンダ。  
 (親に) 叱られてね。 私は。 そして 食べながら 歩いたんだ。  
 (笑い) ( <sup>A</sup> ナーシステ タモドサ イレデァー クッテ スメバ  
 どうして 袂などに 入っていたの？ 食べてしまえば  
イーゴド。 ) クワレネクレ ヤッパ タグワエ キレネガッタベガ。  
 よかったのに。 食べ残すほどに やっぱり もち きれなかったんだらう。  
 ( <sup>A</sup> 笑い )

B マズー ホニヌ ゼニヌッコ モラッタッテ ツケグジズ  
 まず、 本当に お金を 貰っても、 使いようが  
ネァーヨナモンダッタノサ。 ( <sup>A</sup> 〜〜 ) ネー ナーニヌ 〜〜  
 ないようなものだったんだよ。 なんにも。  
ン ダガラ ホガノ エサ イッテ マー トモダジズノ アルー  
 だから、 ほかの 家に 行って まあ 友達の 家で

ソイナモノノ オカッテダドゴサ イッテ アスンデデ ソジステ  
そのようなものが 生えていたところに 行って 送<sup>送</sup>んで、 そして  
モイデ クーノ<sup>〜</sup> ( <sup>C</sup>キサ アカッテネ ソイズァ<sup>〜</sup> ) キ<sup>xxx</sup> シー  
木からもぎとって食べるんだ。 木に のぼって それを<sup>〜</sup>。 うん

アドァ エサ キテ ハ ハラヘレバ カマヒックリゲシステ  
それから 家に 帰ってきて 腹がへると、 釜を ひっくりかえして、  
オママ <sup>xxx</sup> ナニ<sup>ニ</sup>モ アシェネデナ。 シー。  
御飯を なにも おかすにしないでね。

C オズゲ <sup>xxx</sup> アセ カゲデ クークレ。  
味噌汁を (ごはん<sup>に</sup>) かけて 食べるぐらい。

B オズゲァーオ カゲデ。  
味噌汁を かけて。

A コケッコーサ コケッコー アノ ヒックリゲスシテ オズゲ  
御飯のおんげ、おんげを ひっくりかえして 味噌汁を  
カゲデ<sup>〜</sup>。  
かけて<sup>〜</sup>。

B オズゲ カゲデ ハ <sup>(56)</sup>ザオザオド クッター。シー。  
味噌汁を かけて ごおぞおと 食べてね。

A シーデー ネゴナミム ダッターナー。(笑い)  
それでは 猫<sup>み</sup>み<sup>み</sup>だったね。

B オズゲズノァ オジスル カゲデネ。( <sup>C</sup>ソーダヨ シー )  
「おつけ」というのは 味噌汁で、それをかけて食べるのだよ。 そうだよ。

C ソイズカ イジズバン イーノデ。( <sup>A</sup> <sup>〜</sup> ) ハラ ヘッターラ  
それが いちばん よかったんだ。 腹が へったら

マンマケデ ( <sup>B</sup> ソーソー ) バンツァ ハラ ヘッターッテ  
御飯を 食べろと言われて。 「お婆さん 腹が すいた。」 と

ユード ハラ ヘッタラ マンマ ケーッテ ユワレレバ ハ  
言うと、「腹が すいたら 御飯を 食べなさい」と言われると  
ソンデ オワリダカラ。

それで 終わりだからね。

A ~~~~ ソゴイラヘンニ<sup>ヌ</sup> アル オゴゴダオナー アドアー  
そのへんに 置いてある 漬物だね。 あと

ナニ<sup>ヌ</sup>ー。

何を おかすにしたかな？

B アー マーズ アバレデ アリルッテ オドゴワラシ<sup>ヌ</sup>ナド ハ  
まず 遊んできて 男の子などは

カマー ヒックリゲシ<sup>ヌ</sup>テー ~~ク~~<sup>xxx</sup> メシ<sup>ヌ</sup> クーノワ  
釜を ひっくりかえして 御飯を 食べるのが

セーイッペダッタベナー ンー。

なによりの食物だっただろうね。

A ホニ<sup>ヌ</sup> ナニ<sup>ヌ</sup> クッタガ ワシエタナー ハラヘッタドギナー。  
本当に、何を 食べたか 忘れたね。 腹が すいたときは。

C ソーユーフーニ<sup>(57)</sup>。

そのように。

B マズ ソレマデ ゴハンニ サンゴグメシ<sup>ヌ</sup>デモ イッペ  
まず それほどこ 御飯に 三穀飯でも たくさん

タイデ オガネバ ネアガッタオ ワラシ<sup>ヌ</sup> イッペ アルド。  
炊いて おかないと ならなかったね。 子どもが たくさん 居ると。

C タイデダ<sup>ン</sup>ダ<sup>ン</sup>オネ。 (B ンー) (A ~~~) ソノドギノ ホレ  
炊いていたんだよね。 その時の、 ほら

シ<sup>ヌ</sup>ラミ<sup>ム</sup>デネ<sup>ヌ</sup>アグ ヘアッコノ イルゴド。

虱ではなく 蠅が 居ると居ると。

A シー ヘッコ〜〜。

うん、蠅がね。

C コーユー ゴハン ミナ スツツドァネ。 ( <sup>B</sup> シー ンダオ。 )  
こういう 御飯を みんな こうしておくとは、 ( うん そうだね。 )

クログ ソイズ コーシステ ホロ<sub>xxxx</sub> フイダリルシステ  
(蠅が) 黒く、それを こうして 吹いたりして

ウズジワモ ネーヨーナ モンダオ。 ( <sup>B</sup> ンダラ シスナサ  
うちれも ないようだったからね。 ) ( そういえば 中国に

イッテ シスゴガッタオ。 ) ビョーギモ シスネデナー。 ( <sup>B</sup> ンダラ )  
行って ずじかったよ。 ) 病気も しなかったね。 ( それなら、  
( <sup>A</sup> 〜 )

B ンダラ シスナジズンガ アノ ヘアッコ タガネナァー カ  
それなら、 中国人が 蠅も つかないような。

ヘアッコ タガネクレナモノ ヒトモ カシネンダッテ  
蠅も つかないようなものは 人間も 食べられないって

イッタナ ナンテ イッタナダ ( <sup>A</sup> ゴツツオデネアガ (「笑い」)  
言っていたね、などと 言っていたよ。 ) ( ごちそうではないのかな？

ヘアッコモ タガラネノ ゴツツオデネガ ) アマリル オラ  
蠅も つかないようなものは 御馳走ではないのかな。 ) 俺が

チャッケ アダリルモ ヤッパ ヘアッコ ハ タガッタノ  
小さい 喰も やっぱり 蠅が ついたものは

ナントモ オモワネガッタナダオナ。 シー ソノクシェ タイシタ  
なんとも 思わなかったんだよ。 うん、それなのに、 たいした

ビョーギズモノモ、ヤハリル アノ ミジズ ワリタメニ  
病気というものも (しなかった。) やはり 水が 悪いので

コノ イワヤドーズドゴアー ハヤグ スイドーガ  
 ンの 岩谷堂というところには 早く 水道が  
 ハイッタモンダガネ。ダレ ショーワ コゴア ニ<sup>ニ</sup>サンネンニ<sup>ス</sup>  
 入ったものだよ。 なにせ。昭和 ニ、三年に  
 シスイドー ハイッタドゴダガラネ コゴワ。 テューゴドワ。  
 水道が 入ったところだからね。 ンには。 ということは。

A オラカ ショーガッコ ログネンシェーノドギダガ ゴネンシェーノ  
俺が 小学校 六年生の 時か 五年生の  
ドギダゾー スイドー ヘッタノ。  
時だよ。水道が 入ったのほ。

B ショーワ /  $\sim$   $\hat{\sim}$  ショー (A タイショー - タイショ)  
うん、昭和の 大正 大正

ショーワデネグ<sup>A</sup> (ショーワ ショーワノ ハジズメダナ) シー  
昭和ではなく 昭和、 昭和の 初めてだね  
(58)

ソ <sup>A</sup> タイショ ジューゴネン)      ンー キンショ <sup>(58)</sup> ショ <sub>xxxx</sub> ショ <sub>xxxx</sub>  
 そう 大正 十五年

ショーワ ガンネンニ<sup>ニ</sup> ナンベオ。 <sup>A</sup> アレ タイショー  
昭和 元年に なるだろう。 あれ 大正

ジューゴネンツノワ ショーワガンネンダベ。      デー  
 十五年というのは      昭和元年デジろう。      そんで

ニヌネンニヌワ　ラクシェーシヌギ　ヤッタンダオ。　ンダガウ  
二年には　落成式　を　したんだよ。　チから

ソノ トージズワ デンセンビョー ハ セギリビョーズノア  
 その 当時は、伝染病 は 赤痢病というのか  
 イッペ アッタダス ソー セギリネ ン ヤッパ ミズ  
 あちこちに あったんだよ。うん 赤痢は ヤッぱり 水が

ワリルガラ。

思いから。

C ア イガッタネ イッピギノ ヘアツコ キニヌ  
あ、<sup>(59)</sup> 良かったね。 一匹の 蠅 が 気に  
カガッテアッタ。  
なつて うるさかった。

A コノー ウラノ カワー コノ ウラノ カワー アノ  
この 裏の 川、 この 裏の 川で  
ナズナツツドァ イマドギナツツドァネ ミンズアビダノ  
夏に なると、 今頃、 夏になるとは、 水浴びなどというものを  
ナンテネ フラシヌタズァ ソッチッノ ホーデ ミズアビ  
子どもたちは、 そちらの 家で 水浴びを  
ヤッタンダモ。 ウーン ナズナツツドァ ミズアビ イジズバン  
やったね。 うん、 夏になると、 水浴びが いちばんよかった  
ナンダ。 ナンニヌ モネー キャンプダノ ソンナ ソノ 〜〜ズノ  
んだよ。 なにもなかった、 キャンプとか そんなものは、

インダオハ。  $\left( \begin{array}{l} \text{B} \text{ シー マンズネ コゴァ ホントニヌ} \\ \text{よかったんだよ。} \end{array} \right. \left. \begin{array}{l} \text{うん、} \text{ まず} \text{ 此处は} \text{ 本当に} \\ \text{イマゴロ ガボガボッテ} \end{array} \right) \left( \begin{array}{l} \text{ナーニヌ マン アガフンドシヌ} \\ \text{今頃は がぼがぼと水で遊んで} \end{array} \right) \left( \begin{array}{l} \text{なに、} \\ \text{赤禪} \end{array} \right)$

シヌメデ。 (B シー) シヌテ。  
しめてね。 そして

C ナーニヌ ジェンゴタロデー ホニヌー オラグレノ ドギ  
なに、 田舎者で 本当に 私ぐらいの年の頃は  
フンドシヌモ ナニヌモ シヌネンダー。  
禪 も なにも しなかったよ。

A ~~~~ ショーガッコノ ドギァ シスメダゴド ネアーヨ。  
小学校の 時は、 しめタンとは なかったよ。

ショーガッコノ ドギ~~~~。

小学校の 時は。

B ログネンシェーアダリルダッテ オナゴダッテ ナニス ベズニス  
六年生 ぐらい だって、女の子だって なんにも 特別に

ナニモ シスネー。 ( <sup>A</sup> ンダー ンダー )  
なんにも (腰に) なかったよ。 そうだ そうだ )

C オドゴダッテ オナゴダッテ スシネンダオー ンー。  
男の子でも、 女の子でも なかったよ。

B ソノコロ ヒゲッコ ネーゴッテ ネガッタネガ。 ( <sup>A</sup> 笑い )  
その耳頃には「ひげ」も なかったのではないの。

C ダレ ソンナ エレグネンダオ。 ( <sup>B</sup> 笑い )  
だって、そんなに 偉くないからね。

A ~~~~~。

C アダリメナ キ システナー ソンデ。  
普通のつもりでいたんだよ。 そして。

B ンー ヤッパ ミンナ ソーユー セズダガラネ ナントモ  
うん やっぱ 皆、 そのような 時代だからね、 なんとも  
オモワネガッタんだネー。 ( <sup>C</sup> アダリルメノ キ システ )  
思わなかったんだね。 あたり前の 気でいたんだよ。 )

A アドァ キノゴ ンダ アギニナツツドァ イマコロ ナズヤスミ  
それから 茸だね、 そうだ、 秋になると、 今頃 夏休みにも  
ニモ スズムストリサ イッタネ。  
鈴虫取りに 行ったね。

B ンー イッタ。

うん、行ったよ。

A ナズヤスミム アダリ スズム スズムシス トリルダ ミズアビニ  
夏休み 頃 に 鈴虫 取りとか 水浴びに

スズムシス トリ ナンダオヤ。スズムシス トリルサ イッ  
鈴虫 取り だったね。 鈴虫 取りだよ。

アノアダリル アノー カンブドムシス<sup>(60)</sup> テンツノ ミムギモ  
あの頃は、 かぶと虫 などというものは、問題に

シス ネガッタオネ。 ( イッペ イダんだオナー。 ) イッペ  
しなかったよ。 たくさん 居たからね。 たくさん

イダんだ。ヘッピーリ ヘッピーリムシスッテ イッテ オラ  
居たんだよ。屁っぴり。 屁っぴり虫 といって 俺たちは

ミムギモ シス ネガッタんだオ。 ( イッペ イタンダー。 )  
みむぎも しなかったのだよ。 たくさん 居たからね。

オニ<sup>(61)</sup>ムシスノ アノー イッカ イッカズノー (B ンー) ネット  
鬼 虫 の あの ジュッつい虫

アノー アイズスカー アイズダノー アイズラ モッテッテ  
あれを あれとか あれを もって行って

ガッコデ ケンカ サセダノダオヤ。

学校で けんか させたものだね。

B スズムシスズノ アリヤ ハゴロツコヤマニ<sup>(62)</sup> イッペ  
鈴虫 というのは あれは 羽黒山 に たくさん

イダモンダオネ。

居たものだね。

A ンー ンー タンモズガニ<sup>(63)</sup>ネ。  
うん 丹後塚 だね。



- B シー タンモズガニ<sup>ニ</sup> インデ コイナ コップ<sup>°</sup> モッテッテ ホラ  
うん 母後塚に。 このような コップを もって行って  
アナ コーヤッテ コッチガラ フーット フグド パーント  
穴に こうやって こっちから ふっと 吹くと ぽんと  
ヤルガラ スグ コーヤッテ。 ( <sup>A</sup> ~~~ スズムジ<sup>ニ</sup> トッテ ~~~ )  
なるから、 すぐ こうやって。 鈴虫をとって
- C フェビモ イネグナッタジャ ナ。  
蛇も 居なくなったね。
- A シー ヘンビモ スグネネ。 ( <sup>B</sup> ウーン~~ )  
うん 蛇も 少ないね
- C ヘビモ イダンダジャー アノ アダリ<sup>ル</sup>。  
蛇も 居たんだよ。 あの あたりには。
- A ムジ<sup>ニ</sup> トリ<sup>ル</sup> アダ<sup>ア</sup>ー アギ<sup>ニ</sup> ナット キノゴトリダオ。  
虫取りに、 それから 秋に になると 茸取りだからね。  
アノ アダリ<sup>ル</sup> ナ<sup>ニ</sup> ソゴラヘンサ イグズド<sup>ア</sup> キノゴ  
あの 頃、 その辺に 行くと 茸を  
トッテキタンダオネ。 ( <sup>B</sup> ンダオネー。 ) シー。 ナ<sup>ニ</sup> ハグダ<sup>ゲ</sup>。  
取って来たんだよ。 そうだね。 なに、 掃くぐらいでさ  
エー マー ドゴサ ハシェラレット。  
まあ、 どこにも 行けたんだよ。
- C コーシ<sup>ニ</sup> テ キーデミットーネー コゴノ ヘント モリ<sup>ル</sup> オガ  
こうして 聞いてみるとね。 この あたりと 盛岡  
アダリ<sup>ル</sup>モ ズイブン チッカウモネ ナ<sup>ニ</sup>ー ムガシ<sup>ニ</sup> ノ  
あたりと 随分 違うものね、 なに。 昔の  
ヒタジ<sup>ニ</sup> ッテ アリヤ インサズヤノ ヨスサンダズド ハナス<sup>ニ</sup> シ  
人達と、 あの 印刷屋の「よしさん」たちと 話しを

システミットネ マルッキリ コゴイラド チッカウケッヨ。  
してみると すっかり この辺と 違うようだよ。

(<sup>A</sup> アソビガダガ ) ン。( <sup>B</sup> ンー ) ヤッパ トゴロニヌ  
遊び方か? うん。 やっぱり 土地に

ヨッテ アノヘンワ ムガシヌ バショダッタベドモ コツツァ  
よって、あの辺は、昔は良い土地だっただろうが この辺は  
ホントニヌ ゼーソゴナンダオンネー。

本当に 田舎だったんだよ。

A トニヌカグ ジズドーシャズモノ ネーガラ フユ<sup>(64)</sup> ナズデモ ハ  
とにかく、自動車というものが ないから 冬 夏でも

ナズ スズメデア ダシヌ テ ミスズミムデアサ  
夏に 涼み台を 出して 見涼み台に

ヒックリルゲッテ ウズワッコデ アオグニヌ イガッタンダオネ。  
ひっくりかえって うちわで あおぐ ことができたんだよ

(<sup>C</sup> ソーソーソー ) ( <sup>B</sup> ダレ オボンテ イエバ ミナ~~~~ )  
そう、そう だって、お盆と 言うと みんな

バシャヤノ バシャヤサンダズ ヨゲデイッタンダモノ (笑い)  
馬車屋の 馬車屋さん達が、(涼み台を)よけて通って行ったんだよ。

オハヨスーナンテ。ヨッテガッシャイナンテ <sup>バ</sup> ウマッコ  
「お早う」などと言って。「寄っていらっしやい」などという 馬を

ツナイダママ ソシヌ テ ナニヌカ ハナシス カダリルシヌ テル。  
つないだまま、そして、 なにか 話しをしていく。

フユア フユデ ソノトリル バソリルダオ。~~~~。  
冬は 冬で、同じように馬やりだね。

- C ソダガラ コノヘンノ ヒタズガ トーキョーダノ ナンダノサ  
 だから、この辺の 人たちが 東京や どこかに  
 イッテデ ヨゲ ボヤート シス テンダベヨ。(A 笑い)  
 行って おけい ぽやと ぬけているのだろうよ。  
 ドーゴガ ヌゲダミデナ カンジズダ。オーショシス クテ オラー  
 どんか ぬけたような 感じだ。 恥ずかしくて、 私は  
 アノ ウエノ アノ トーキョーエギ オー ~~~ トーキョーエギサ  
 あの、上野の、あの、東京駅で、 東京駅に  
イッテ ホラ (B イーマデ オンナズダベヨ ン) オンナス  
 行って、ほら ( 今なら 同じだろうよ、 ) 同じ  
 ドッカラ イッショニヌ イッテ ハナシス ステットダネ  
 所から いっしょに 行って 話 を していると、  
 カズコ<sup>(65)</sup>ダ カーチャン タゲグ カダンナ ミロ アリヤ ミンナ  
 和子が、「お母さん、高い声で 話すな、見なさい、あのようい 皆  
 ミデツツォ カーチャンダズドゴ ミデッカラ ターゲグ  
 見ているよ、お母さんたちを 見ているから、高い声で  
 カダンナッテ。  
 話をするな」と言うだ。  
 A ソイズワ ソダ。 ソイズワ ソダ。  
 それは そうだ。 それは そうだ。  
 B ンダゲント モゴモ ワガネガラナ ナーニヌ カダッテンダベド  
 しかし、向こうの人も 分からないから 何を 話しているのだろうと  
 オモッテ オント。  
 思っているのだよ。  
 C ンダガラ オレネ ナーニヌ インデネノ オラモ アリヤ アノ  
 だから、私はね、「なに、いいだろうよ、私も あの

ガイコグノ ヒタズナンテ カダンノ コーシステ  
外国の 人たちが 語っているのを こうして

キーデッケントモ ソノヨーナ キーシステ キーデンダベツテ  
聞いているのだけれども そのような 気持ちで 聞いているだろう」と  
ユード ハイエンダツツオネ コゴノコドバ。  
言うよ。 早いんだってね。 この辺のことばは。

A ハイエノデネクテネ ネ ハイエノデネノ。  
早いのではなくて。 早いのではないのだよ。

C ワゲ ワガネノ。  
わけが。 分からないのか？

A はいえ、ワゲ ハヤイト ユーゴドオ ハイエット カダルゴドダオ。  
早い。 「早い」と 言うことを 「はいえ」と 語るんだよ。  
コリヤ ハヤイ デショ。 ハイエデ フタツツダオ。 ソノクシェ  
これは 「はいえ」 でしょう。 「はいえ」 で ニつたものね。 そのくせ  
ツメデ カダツテ (ハー) シュムノダ。  
つめて 語るのだよ。 それで 滴むのだからね。

C イソカシ ガラナ。(笑い)  
いそがしいからね。

B ハイエガ ハヤイダオナ。  
「はいえ」 が 「はいえ」 だからね。

A ン ツメデ。 オレネ ホーニスネ。 (他人 ゴメン クダサイ。<sup>(66)</sup>)  
うん。 つめてね。 俺ね。 本当にね。 (ごめんください。)

(<sup>B</sup>ハイ) イズノ リョカンサ トマッタドギネ ワゲ  
伊豆の 旅館に とまった時には。 意味が

ワガネツテ イワダッタケント カンゲデミット ハイ ハア  
分からないと 言われたけれど 考えてみると 「はい。 はい。

カーチャンカ<sup>(67)</sup> ( チョコット<sup>(68)</sup> ) バーチャン テョコット タド  
 母さんか? ( ちよと 婆さん ちよと たって。  
 ヤ。へしヤ。<sup>(69)</sup> ( ナンダ<sup>(70)</sup> ナニ<sup>(70)</sup> ) ( A モシス コシス ネ<sup>(71)</sup> 笑い )  
 入りなさい。 ( なんだ。なに ) ( もう少しね )

A トニヌカグ フルー アス~~~~。  
 とにかく 古い ~~~~~。

B ~~~ンダガラ コゴノ コドバズノワ ホニヌ マー ヤグシス<sup>(72)</sup> テン  
 丁から 今の ことばというのほ 本当に まあ 約している  
 ノダモナ。  
 の丁からね。

A リヤグシステ カダツカラネ。カダツカラデスペ。カダリマス  
 略して 話すの丁からね。「カダツカラ」でオカラね。「カダリマス」  
 ダオネ。ホーンダガラ ハヤグ キケンノダオ。イーゾノ  
 丁からね。 丁から 早く 聞こえるの丁よね。伊豆の  
 リョカンサ トマッタ ドギネ。オギャクサンダジッ ナンテ  
 旅館に 泊った 時にね、「お客さんたちは なんて  
 イッテルンデスカッテ<sup>(73)</sup> ユッテルンデスカッテ。 シ テョット<sup>(74)</sup>  
 言っているんですか。」と「言っているんですか。」と言うん丁。 「ちよと  
 ソノ ハヤイガラ ユックリ カダッテ クダサイッタ<sup>(75)</sup> ノ。  
 その 早いから もっと ゆっくり 話して 下さい」と言うん丁。  
 ユックリ カダッタッケア マダ ワガネーツンダオ。  
 ゆっくり 話したら、 まだ 分からない と言うん丁よ。  
 カンケデ ミダッケア ホントニヌ シ ウマイデスズノ  
 考えてみると 本当に 「うまいです」というのほ  
 ウンメアデガスペ。 ネー。 ハイエグ モッテコズノ  
 「うめえ」でしょう。 ねえ、「はいえぐ もってこ」というのほ

ハ~~イ~~エ~~グ~~ ハイエグ モッテコジャ モッテ キテ クダサイダノ  
「はいえぐ モッテコじゃ」「もってきてください」とか

ナンダノズノ ネーノダガラ ワガネンダッケオ。 オラ キュー  
なんとか言うのは ないのだから わからないんだね。 俺が 九  
シューベン ワガネド オンナジズナンダッケオ。 (<sup>B</sup>ンダベネ)  
州 弁 が 分からないと 同じになるとだね。 (そうだろう)

キューシューベンモ ワガンネヨー。 ワガンネドワ カダラネ  
九 州 弁 も 分からないよね。「わがんね」とは 言わないうで  
ワガリマシェンダオネ。 ワガンネデネクテ マ ソノクシェ。  
「わがりましえん」だからね。「わがんね」ではなくて、そのくせ。

B ヤッパリ ンダガラ コゴデァ シート マ ヤズジス テツツーン  
やっぱり だから。 ここでは まあ 約している

モノダオナ。

からね。

A ンー マズネー (<sup>B</sup>ンー) ホニヌ カエルデネクテ ビッキッテ  
うん まずね。 ほんとうに、「かえる」ではなくて「びっき」と

カダッテ ジス マッタヨーナノド オナジズデ ミンツケグ  
言って しまったようなのと 同じで 短く

ナッテ ジス マウガラネ。 ワガネァノ。 (<sup>B</sup>ビッキ)  
なって しょうからね。 わからないのだよ。「びっき」

C ハー マワリルケデグ ソノ トーリル カダンネノ コノヘンデ  
はあ、まわりくどく。 その 通り 言わないんだよ。このへんで

アダリルメナ キ ジス テ カダッテルオナ。(笑い)

あたり前の 気 で 話しているのだからね。

A ナーニヌ アダリルメニヌ カダッツド アノ (笑い) コイナノ  
まあ、あたりまえに 話すと こういう言い方を

コーイフニヌ カダッテルンダガラ ハヤグナル ワケダ シー。  
こういうように 話しているのだから、 早くなる わけだよ。うん。

C ナーnde コゴデバリルダベ。 ムゴーノ ホーサ イグドー。  
どうして この辺でだけ 早いのだろう。 あちらの 遠い方に行くと。

A ソーデネーデバ ナーニヌ ~~~~~。  
そうではないのだよ。 ずあに。

B ヤッパリ モーリオガサ イゲバ モリオガデ シー ミナ  
やっぱり 盛岡に 行くと 盛岡で みんな  
ソゴノ <sup>(76)</sup>ジズ ゴーリベンガ アンノサ。  
その土地の 土地争が あるのだよ。

A ア アノネー ソノ トジズド トジズノ ヒター アズバズダー<sup>(77)</sup>  
あのね その 土地と 土地の 人が 集まると  
ソーイフニヌ ナッテ シヌムノデ ホガノ ヒトド  
そのように (方言に) なってしまうので。 他の土地の人と  
ブツツカツツダ ヤンベクセニヌ コー マノビシヌテ  
接すると、 丁度良いぐらいに 間のびして  
カダルヨーニヌ ナンノス。  
話すように なるのだよ。

C シー ソンデモ アレダオナー。 アノー ソツツノ ヒタズド  
うん。 それでも、 あれだからね。 あちらの土地の人達と

~~カダ~~ ジヌ ラネドゴノ トズジノ ヒトド カダンノダラ  
知らない土地の 人達と 話すのなら

イーゲントモ コーイフニヌ シヌテ ムガイアッテデ トモダジズ  
いいけれども こういうようにして むかい合っテ 友だち  
フレノ トモダジズ ニダヨーナ ヒタズド ハナシヌ  
自分の 友だち、 似たような 人達と 話し

シヌ テデガラニヌ ソノ アイデカ デモネー ワダシヌー  
ていて その 相手が 「わだし

アノニ<sup>(78)</sup> (A リルッパナ コドバ ツカッテガ) シー ワダシヌワ  
あのお」 リッパな コトバを 使ったか? うん. 「わだし は

コーダヨ<sup>(79)</sup> ナンテ イワレツド コツグテグナルオナー  
こうだよ」 などと 言われると くすぐったくなるよね。

コッソー。<sup>(80)</sup> (笑い)

くすぐったく。

A (笑い) ナーニヌ カダッテル クソード<sup>(81)</sup> オモウナー。  
なにを 話している、この野郎と思うなあ。

C ン ナーニヌ ドッカラ オベダベド オモウ。(笑い)(A 笑い)  
うん、なあに、 どこで おぼえたのだろうと思うよ。

ソー オモウッケヨ。 ドーッカラ オベダベ ナーニヌ  
そう思うことがあるよ。 どこで おぼえただろう、なに

ニヌ ダヨーニヌ ネ シー ニヌ ダヨーニヌ<sup>(82)</sup> (A ナーニヌ  
似たような所で、 似たような所で) なに

バーガナゴド カダッテル ギャーグニヌ バガナゴド  
馬鹿なことを 話している、 反対に、 馬鹿なことを

カダッテルド オモウンダオナ。 オカッタンダモノ  
話していると 思うんだよね。 育ったんだから

ヤンベニヌ カダッテ アダリルメニヌ カダッテモ イーノニヌ  
ほどほどに 話をして、 ふつうに 話しても いいのに

コノヒト ドゴデ オベデキタンダネ ドー コレガラ  
この人は どこで このコトバを 覚えたのだろうと、 これから

ソーユーフーニヌ ユンダベガド オモウズド コンダ  
そういうように (気取って) 言うのだろうかと思うと、 今度は



ソ<sup>C.A</sup>デネオネ。(笑い) ニ<sup>ニ</sup>カイメ イギ<sup>ニ</sup>アット コンダ  
そうではないものね。 二度目に 行き/会うと 今度は

ソーデネンダツケモノ。 ンダガラ オラハ コノ コドバデ  
やではないからね。 だから 私は この 方言で

ソレゴソ ヒョー<sup>ニ</sup>ジュンゴ ツカエッテ イワレダッテ  
それこそ 標準語 を 使えと 言われても

ツカレネгентモ コゴノ コドバデ ヒョー<sup>ニ</sup>ジ<sup>ニ</sup>ュンゴミデナ  
使えないけれども、この ことばに 標準語 のような

フジ<sup>ニ</sup>ス ツケダモ オガ<sup>ニ</sup>ジス<sup>ニ</sup>ジス トー<sup>ニ</sup>キョーノ アダリルノ  
節を つけても おかしい。 東京の あたりの

ヒョー<sup>ニ</sup>ジ<sup>ニ</sup>ュンゴノ コ<sup>xxx</sup> コドバデ フジ<sup>ニ</sup>スデ コゴノ ネ  
標準語の ことばの 節で この方言の

ハナ<sup>ニ</sup>ジス<sup>ニ</sup>ジス タモ オガ<sup>ニ</sup>ジス ガスペ。 ンダガラ ヤッパ<sup>ニ</sup>リル  
話し方をしても おかしいでしょう。 だから、やっぱり

ソノママ ナッテ<sup>ニ</sup>ジス マウモンネー。 カンケデミレバ <sup>xxxxxx</sup>ジ<sup>ニ</sup>ヤ<sup>ニ</sup>ン  
そのまゝのことばに なってしまうものね。 考えてみると

ホントニ<sup>ニ</sup>ス ゼンゴダナド オモワレンダベドモネ。

ほんとうに 田舎者なのだなあと 思われるのだろうがね。

B シー ヤッパ<sup>ニ</sup>リル コノー コゴノ ベンチ<sup>(83)</sup>ッノ ~~~~~  
うん、やっぱり この この -----

ヤアリル ナンボ<sup>ニ</sup>ニス コノー ナンデネガエンガナー。

やはり いくら、 この、 为什么呢。

ショー<sup>ニ</sup>ジ<sup>ニ</sup>ュンゴズンダガ ヒョー<sup>ニ</sup>ズ<sup>ニ</sup>ジ<sup>ニ</sup>ュンゴズンダガ トショ<sup>ニ</sup>リルモ  
標準語 だか 標準語 だかしらないが、 老人も

ハー ア マズ<sup>(84)</sup> ソーデスナナンツノハ アンマリル

まず 「そうですね」 などというのは、あまり

シャベネグナツタオネ。 マーダ アンダダズ ダッテ マズ  
言わなくなったね。 それに あなた方も まあ

ホニヌ ヒョー ジズンゴサ チツケ。 ( <sup>A</sup> ン ンダ ソンデスナ  
本当に 標準語に 近いよね。 そうだ、 「そうですね」  
ナンテネ。 )  
などと言ってね。 )

C ネー ナンテ カダンネンダオナ。 アノナッテ コーユーオネ。  
「ねえ」 などと 言わないものね。 「あのな」と こうゆうようにね。

アノナー ドゴソレノ ダレアー コーダドヤート ユーテ  
「あのなあ、 どんソンの 誰が こうだそうだよ。」 と言って

ジヌマウ。 ( <sup>B</sup> アー ンー ソーダ。 ) ナンダデ オメヨ  
「もうものね。」 ああ。 そうだ。 「どうして、 お前は

アーナーッテ イワネンダデーッテ コンダ オヤニヌ イワレデ  
『ああん』と 言わないようにしなさい』と 今度は、 親に 言われて  
ソンデモ ワガネンダツケオナー。  
それでも 直らないものだからね。

A アンダダジズ シューカグソヨコー ドゴダ。 モソル オカサ  
あなたは、 修学旅行は どんに行っただの？ 盛岡に  
イッタ シロエンデー。  
行っただの？ それとも 仙台？

B オラ モソル オカサ チュッ イッタダゲデ イッタゴドネオ  
俺は、 盛岡に 行っただけで、 あとは行っただとはないよ。  
ンー ( <sup>A</sup> アノ アダソルサ ) ンダオ オラ ログネンシェーネ  
あの頃はね。 そうだよ。 俺は 六年生にね。  
ンー ンデハ。 ~~~~~  
うん それで。

A ゼジエニヌカー ネクテ イガネノ オショシヌ クテ  
 お金 が なくて、行かれないのが 恥ずかしくて  
 カグレダリルナンカ シヌ タゴド アッタモンダオナー。  
 かくれたりなど しにヒガ あったからねえ。

C オラ ヨネンシエエーノ ドギ モリル オガダッタオナー。  
 私は、四年生 の 時、 盛岡 だったからね。  
 シヌ テー ヒトバンドマリルダッタモンダガラ。  
 そして、 一晩どまりだったからね。

A ヨネンシエーデ モリル オガダッタ。( <sup>C</sup> シ。 ) ( <sup>B</sup> オー  
 四年生で 盛岡までも行ったの? うん。 ) ( あれ  
 ンダツタベガナー ) ゴネンシエーダナ ゴネンシエエーダ  
 そうだったかな? ) 私は 五年生の時だよ、五年生だ  
ンー ゴネンシエエダ。  
 五年生だ。

C ゴーログ ゴログネンセ ゴネンシエエダ。シヌ テネ ヨネンセー  
 五、六年生じろだ、五年生だった。 そしてね 四年生  
 ダガデワネ ヒライズミダッタノ。( <sup>A</sup> ヒライズミダオ。 )  
 じろではね、 平泉 だったよ。( 平泉だね。 )  
 ソシヌ テ アノコロ ヨンジズーゴセン ヨン ジズーゴセン  
 そして、 あの頃は 四十五銭、 ( 四十五銭 だった  
 カナ。( <sup>A</sup> チャント ネダン オベデアナ 《笑い》 ) ( <sup>B</sup> ヨン  
 かな? 正確に 値段まで 知っているのだね )  
ジズーゴセン ) ヨンジズーゴセンダガ ヨン ヨンジューゴセン  
 四十五銭? ) 四十五銭 だったかな? 確かに ( 四十五銭  
 ダナ。( <sup>B</sup> ジュー ヨンジズーゴセン アー ) ( <sup>A</sup> ンダガ  
 だよ。( 四十五銭か、 ああ、 ) ( そうかも

シェネネー ン。) ソジ<sup>ス</sup>テネ ソゴサ タダヤライネノ。  
知らないね。 ) そしてね。 耳泉に、無条件でやてもうえなかった。

ウッショノ ヤマサ イッテ アノー マツプクリル ヒロッテ  
後の 山に 行って あの、 松かさを 拾って  
コ<sup>(85)</sup>チャエン<sup>ッ</sup>ッテ カマスサ ヒトズ ゴーセンデ カウガラッテ  
求なさいと言って、「かます」に 一つ 五銭で 買うからと言われて。

(<sup>B</sup> ン)(<sup>A</sup> ハー。) シ<sup>ス</sup>テネ ソノ マツプクリ ヒロッテネ  
そして、 その 松かさを 拾ってね

ソノー ヨンジュゴセンアデ<sup>(86)</sup> ヒロウノァ イーズズ ヒロワネバ  
その 四十五銭に相当する位 拾うので、 五かます 拾わなければ

ネー。 ソジ<sup>ス</sup>テ ヤライダオ ゼッテ タダ ヤ<sup>xxxx</sup>ライ  
ならない。 そして 修学旅行に やられたものだ。 絶対に、ただで、

ガッコサモ ヤライネガッタヨ ンー。

学校にも やられなかったよ。

A ナニ<sup>ス</sup> シュカグリョコーノ ドギ ゲダッコ ハイデッタ。  
なに 修学旅行の時 下駄を 歩いて行ったの？

B ンー ( <sup>A</sup> ナニ<sup>ス</sup> ハイデッタ ) <sup>ズック</sup> <sup>ズック</sup> ナンツモノ  
うん。 ( なにを履いていったの？ ) <sup>ズック靴</sup> などというものは

ネーノダガラナ ンー。 ( <sup>(87)</sup> <sup>A</sup> ダルマクス アリャ アノ。 )  
ないのだからね。 うん。 ( <sup>だるま靴</sup>、 あれは あの。 )

ダルマ オドゴ フラジ<sup>ス</sup> タズァ ダルマクスッコ

だるま靴、 男の 子どもたちは、 だるま靴を

アッタ<sup>ン</sup>ダジャ。 ネ <sup>A</sup> アノー ゴムノス ( <sup>A</sup> ホー ナニ<sup>ス</sup> )  
履いていたね。 あの、 ゴムで作った ( ああ、 何を

<sup>ハイデッタ</sup> <sup>ン</sup> <sup>ダ</sup> <sup>ベ</sup> <sup>ナ</sup> ) ( <sup>C</sup> ハー ) アズハ アッタナー。  
履いて修学旅行に行っただろうね。 あの靴は あったよね。

C ゲダダベヨ。 (A ゲタッコダネー。  
下駄だろうね。 下駄だよな。)

B ンー アッタンダカー オラノ ドギァ ゲダダガモ シェネナー。  
うん。靴はあったらどうか？ 俺の 時は、下駄かも知れないよ。

C フラジズド ゲダシス カ ネガッタンダガラ トニヌ カグ  
「わうじ」と「下駄」しか なかったんだから。

(88)  
ユズギド ハギモノニヌ スレバ。

葉靴と 履物で 言えば。

A ヨダヨ<sup>(89)</sup>ンダハー フラジズ ハ モリル フラジズ イッソグ  
依田栄<sup>(89)</sup>くんは わうじ 一足を

モッテ イッソグ ハイデ イッタモンダズ モリルオガサ。 (B  
持ち 一足を 履いて 行ったものだそうだ。 盛岡に。

ンー。) (C ダレス) ミンツァマデ アリルッタンダモス。 (C  
うん。 誰？ 水沢まで 歩いて行ったそうだよ。

ダレ) ヨダヨ ヨダヨー アノ ヨダヨーノ ダンナドノ  
誰 依田栄、あの 依田栄の 母那で。

イマノ、トヨサガノ オラホノ ホンケノ アニヌ キダ。 トニヌ  
今の。 豊坂の。 俺の家の 本家の 兄貴だ。 とに

カグ ハイダホガニヌ イッソグ モッテ (B ンー) ミンツァマデ  
かく 履いたほかに。 一足 持って 水沢まで

アリルッテ キシャサ ノッテ ソジステ モリルオガノ  
歩いて、 汽車に 乗って、 そして 盛岡の

マジズ アリルッテ ミデ アルッテ キタンダズ (B ハー  
街を 歩いて 見て、 歩いて 来たそうだ。 ああ。

ンデァサ。) ツギノ ヒ イッソグ タゲデルド。  
(90)

そうだろう。 次の日は、もう一足を おろして履いたそうだ。

B ~~~~~。

A シ ソダツケ。 シ アンダダズ ヤッパリ シデ ゲダツコ。  
そうだ、そうだよ。 あなた方は、やっぱりそれで下駄なの？

C ~~ゲー~~ ゲダダベヨ。 クズナンツモノ ネガッタンダモノ。  
下駄だろうよ。 靴などというものは なかったのだから。

B ンダッタベネ。 シー ダルマクス ナンツノ ハ。  
そうだろうね。 だるま靴 などというのほ。

C アッ ゴーリルハ アッタヨ ゴーリル。  
ああ、草履は あったよ、草履は。

A ダルマクスー ダルマクスカ アドー。  
だるま靴、 だるま靴か そのほか。

B ダルマクスズノ ヤッパ ズットー ショーフノ ウー  
だるま靴というのほ、 やっぱり ずっと 昭和の  
ナニダベンオ ンー。  
頃だろうよ。

C ゲダダネ。  
下駄だね。

B ショギダオ ウン。 ( <sup>A</sup> ホンダッタタター。 )  
初期だよ、うん。 それでもね。

C ゲダダ フロシギ ショウクレーダオ ゲダナンダ。  
下駄だよ。風呂敷を 背負うくらいだから 下駄なのだよ。

B ゲダツコ シン ゲダツコナンダ。 ゲダツコナ。  
下駄だ、 下駄なのだよ。 下駄だね。

A フロシギッテ アリヤ アミムッコ ショッタンダエッチャ。  
風呂敷というよりは、あれは 網を 背負っただろうよ。

~~~~~。

B シー ンダネー。 ~~~~~ ノホ アッタベンドモ マ  
そうではないよ。 あっただろうが

フロシス ギダオ。 (<sup>A</sup>ハー。) シー。  
風呂敷 たよ。

A アリヤ アノ アミムッコデ アノー ( <sup>C</sup> ガビン ホシスクテ  
あれ、あの 網で あの。 かばんが ほしくて。

ホシスクテ カッテモライネデ。 ) ニヌ モツ イレルヨニヌ  
ほしくて 買ってもらえないでね。 荷物を 入れるように

デギダノ アッタンダナー。  
出来たのが あったのたよ。

B アー アーユーモノモ アッタダゲントモネ マー フロシス ギ  
ああゆうものも あったけれどもね、 まあ 風呂敷  
ダネ。

たね。

A イマデモ ネ アイズモ アイズ ショッタリルナンカ  
今でも ああゆう(網)ものを 指負ったりなど

シスタヒトモ アッタッタネ。  
した人も 居たね。

B シー ソユー ヒタズジモ アッタッタベカナー マーズ。  
うん、そういう 人たちも 居ただろうが まず。

## (2) 若い頃の思い出など

話し手

| (略号) | (氏名)  | (性) | (生年)      |
|------|-------|-----|-----------|
| A    | 若松林平  | 男   | 大正5年生まれ   |
| B    | 菊地政勝  | 男   | 明治42年生まれ  |
| C    | 吉田ケサ江 | 女   | 明治45年生まれ  |
| < D  | 本堂 寛  | 男   | 昭和7年生まれ > |

- C オナゴワラジス アネ ガッコ ソレゴソ ショーカッコジスカ  
 女の子どもたちはね、学校、それこそ、小学校しか  
 アルガネガラ ナーダテ オショジス モンダド オモテアッタ。  
 行かないから、なんと言っても、恥ずかしいんとか あったのだよ。  
 ショーカッコ アルッテ コンドア サイホ ナ サ  
 小学校を 終って、今度は 裁縫を  
 ナラセラエンダオネ。ゼーンゴダガラ ソノ サイホーサ  
 習わせられるのだよ。田舎だから、裁縫に  
 イグニヌ モネ フユ ジズューイジズカズド ジズューニヌ  
 行くにも 冬の 十一月 と 十二。  
 ショーカジズ ニヌカズ サンカズニヌナレバ ハ  
 正月、二月、三月になると、もう  
 ムギザギキリルナンダオナ。(B ンー。) ソノネー イズズギノ  
 麦踏みの時期になるのだよ。その、五ヶ月間  
 ウジズニヌ サイホーサ ソノ ヤラインノニヌネ (B ンー)  
 の間に 裁縫を習いに やられるのに



メーニヌ コヤシヌ アゲ<sup>(91)</sup> シヌ ロツ テ ソワレデヨ (A ン  
その前に「ンやし上げ」を (うと) 言われてね。 うん

アー アー ~~~~~ コヤシヌ アゲ アー アー ) コヤシヌ アゲ  
ああ。 肥やし上げね。 肥やし上げを

オナゴワラシヌ サネ コヤシヌ アゲ サシセエダモンダオ。  
女の子どもにね。 肥やし上げを させたものだからね。

(B アー) デ オショ シヌ クテ ダレガ ムゴーガラ  
それで 恥ずかしいくて 誰が 向うから。

ソンドギ ユギノ アルアダリルナンダヨ フユダガラ。(A ンー)  
その時。 雪の ある頃 なのだよ。 冬だから。

シヌ テネ ムゴーガラ ダレガ クルド オショ シヌ ガラ  
そして、 向うから 誰か 来ると 恥ずかしいから

ハヤグ イグンダオネ。 ソシヌ テ ムゴーガラ ダレガ クルド  
早く 歩いて行くのだよ。 そして 向うから 誰か 来ると

ハ オショ シヌ ガラ コサ アノー オロシヌ テサ (B ンー)  
恥ずかしいから 此処に 下ろしてね。

ソシヌ テ テンビン コーユフニヌ シヌ テ ソサ コシヌ カゲデ  
そして 天びんを ふうふうように して、 そくに 腰かけて

スランカオシヌ テ ナンボダベヤ ジューサンカ

知らないふりして、 いくつだっただろうか。 ナニオカ。

ナンボベヨー。(B アン アン) イッペニヌ イラレネガラネ  
いくつだろうね。 桶に肥やしをたくさん 入れられないから

シヌ ズベ<sub>xxx</sub> メグレニヌ シヌ テ コシヌ テ カズイデネ  
七分目ぐらいに して、 ふうして かついで

ジエゴ<sub>xxxx</sub> マズジガラ ジューゴマデシヌ。(A ~~~~~ )  
町から 田舎までね。

ソーヤッテ ソイズ コンダー ハダゲサ モッテッテ フッテ  
 そうやって、それを 今度は 畠に 持って行って、撒いて  
 ソーシ<sup>ス</sup>テ ガ<sup>ッ</sup>ソシ<sup>ス</sup>テ ガラ サイホーサ ヤライダ。  
 そうして、 そうして から 裁縫に やらねたのだよ。

(<sup>B</sup>アー) ( <sup>A</sup>アノアダリ サイホー -----  
 その頃、裁縫 ----- )

B シ マジズ ガラ ア アゲデグノ。

うん 田から 肥やしを 桶に入れて行くの？

C アリヤ イマノ ミキサン<sup>(92)</sup>ッテ カミイーサン アルエン (<sup>B</sup>シー)  
 あの 今の「みきさん」という 髪結いさんが あるでしょう。

アソゴガラ アゲンダ<sup>(93)</sup>ッチャ。カドガ<sup>(94)</sup> ドーレンジズ<sup>(94)</sup> アダリマデ。  
 あそこから、「肥やし」をあげたんだよ。片岡、百蓮寺 あたりまでね。

A トニ<sup>ス</sup>カゲー オナゴワラシ<sup>ス</sup>タジズ ハー サイホーサ  
 とにかく 女の子どもたちは 裁縫に

アリルッタンダオネ。ガッコー オワルド ショーガッコーナンカ  
 行ったものだよね。 学校を 卒業すると、小学校などを  
オワツツドネ。

卒業するとね。

C オッソラグ オラエクレナモンダベ ソーイゴド サセダノ。

多分 私の家ぐらいなものでしょう、そういうことをさせたのは。

オレノ オヤクレナモンダベ。ゼッテ タダワ オガネンダ。

私の 親ぐらいなものだろう。決して、只では 置かなかった  
ン。

のだから。

A アリヤ ドゴノ シ<sup>セ</sup>エンシエ<sup>ダ</sup>ッタエ サイホノ シ<sup>セ</sup>エンシエ。

あれは、どの 先生 だったろう。裁縫の 先生は？

C サイホノ シ<sup>セ</sup>エンシエワ モジズ<sup>(95)</sup> ダダッタオ。  
裁縫の 先生は 餅田の人だったよ。

A ホー モジズ<sup>セ</sup> ダサ イッタノ。  
へえ。餅田まで 行ったの？

C インデネノ モジズ<sup>セ</sup> ダガラ キテル センシ<sup>セ</sup>エー。 (A ハー  
そうではないよ。餅田から 来た 先生だよ。 はあ。  
モジズ<sup>セ</sup> ダ。  
餅田ね。)

B インデア アリア マルシ<sup>セ</sup>ョーノ ッテ マルシ<sup>セ</sup>ョ デネ キ<sup>セ</sup> キ<sup>セ</sup>  
それでは あれは 「マルシ<sup>セ</sup>ョー」の って 「マルシ<sup>セ</sup>ョー」ではなく

C インデネモ ソレノ メーダ<sup>セ</sup>モ。  
そうではないよ。その もっと 以前だよ。

B キクシ<sup>セ</sup>ョーノ アノ シ<sup>セ</sup>ョンツァン アネダ<sup>セ</sup>ネグ。  
「菊正」の 「正さん」の 姉さんではなく。

C ン ソレヨリ マエ。  
それより 前

B ホー ホー ンー。  
そうなの。

C アノ コヤシ<sup>セ</sup> アゲサ。  
ああ。あの「肥やし上げ」ね。

A アンダ ヨメゴサ ナンボデ キタノダ。  
あなたは 嫁に 何で 来たの？

C イマノ トシ<sup>セ</sup>ス ダド ジューシ<sup>セ</sup>ス ズジ<sup>セ</sup>。  
今の 年で言えば 十七才だよ。

A ン ジューシ<sup>セ</sup>ス ズジ<sup>セ</sup>。 (C ジューシ<sup>セ</sup>ス ズジ<sup>セ</sup> ンー。)  
え。十七才？ 十七才だよ。

A ジューシズデ ヨメゴサ キタノダガ (C ソー) ムガスア。  
ナセオで 嫁に 来たの？ 昔は？

C アンマソル イータメニヌ ハエグモラエダノ。(笑い)  
あまりに キリょう良しのために 早くもらわれたのよ。

A ゼーブン ハヤグ キタンダナヤ。(C ジューシズズ。)  
ずいぶん 早く キタンだね ナセオだよ。

オドロイダ エー タマケダ。  
驚いたなあ。びっくりしたなあ。

C イマノ トシダッタラ ジューハジズダベドモ ジューシズズ  
今の 年だったら ナセオだろうが。 ナセオ  
ダベヨ。  
だろうよ。

A オラ ハダジズガ ナンボデ キタベナド オモッテダ  
俺は、ナセオか そのあたりで 来ただろうと、思っていたが  
ジューシズズデ キタノナー ホー。  
ナセオで 来たのだね。

B ンダサ。 ソノ コロワ ンー。  
そうだよ。 その 頃は。

A ソナンニヌ ハエガッタガナー。  
そんなに 早かったのかね。

D ダンナサントワ スデニ コー カオ アワセテタリ チャント  
旦那様とは、すでに 顔を 合わせていたし よく  
シテタノ。  
知り合っていたの？

C ソーデネノ トゴロカ。(D 笑い) (A ンー。) アノー ホー  
そうじゃないのだよ。 ところが。 あの、ほう

オラエノ トーチャン ( <sup>A</sup> ナニニ ) ニニ イッペ ジズーチャン  
うちの 主人 ( なに? ) に、たくさん、主人に

ニニ キョーダイ アルエー オドゴダジズ。( <sup>A</sup> ムガジズ。 )  
兄弟が あったでしょう。男の兄弟が。 昔はね。

ソレゴソ ミンナ ジューニニシ ~~~~。( <sup>A</sup> ~~~~ )  
それこそ、みんな。 十人兄弟が ~~~~。

( <sup>B</sup> ンー ナルホドナー。 ) ジューニニシキョーダイ。( <sup>A</sup> ~~~~  
うん、なるほどね。 ) 十人兄弟がね。( <sup>A</sup> ~~~~

キョーデダナー ) キテネ オレカ キテ ンデモ ホラ ミナ  
兄弟だね。 ) 嫁に来てね。私が嫁に来て、それでもほら、みんな

ホゴサ デハッテダガラ ダッタ ドーノ ヒトカ ジズブンノ  
奉公に 出て行ってたから、 どの 人が 自分の  
ダンナダカ ワガネンダヨ。

旦那だか わからないのだよ。

A ドー ドーノヒド ジズブンノ ダンナドノダカ ワガンネ。(笑い)  
どの人が 自分の 旦那だか 分からないとは!

C ホーントニニ ワーガンネノヨ ホーントニニ。  
本当に わからないのだよ。 本当に。

B ニニバンメ ニニバンメニニワ フジズオサン。  
二番目兄弟は 藤雄さんだね。

A フジズオサンダ。( <sup>B</sup> ンー。 )  
藤雄さんだよ。

C シニシテネ ムシメダガラ アサニニネ クサガリル  
そしてね。 娘 だから。 朝に 草刈りを  
シニテロツテ イッツモ ヤマサ クサガリル ウマッコ  
しろ、と言われて、いつも、山に 草刈りに、馬を

ヒッパッテ クサガリニ<sup>ス</sup> ヤンノ キョア ナンデ コノ エノ  
 ひっぱって 草刈りに 行くのに 今日は、どうして この、家の  
 メーノ クサ カレッテ ソワレンダベナード オモッテ  
 前の 草を 刈れと 言われるのだろうなど 思つて  
 ナンニ<sup>ス</sup>モ ヘントー<sup>(98)</sup> シ<sup>ス</sup>ライネンダモ ヒトツツモ ヤンタモ  
 なんにも 口答えなど 出来ないから、 ちょっとでも、いやとか  
 ナンダモ イワレネノ。 オヤノ ユートーリルニ<sup>ス</sup> シ<sup>ス</sup>ネバ  
 なんとか 言われないの。 親の 言う通りに (しないといけ  
 ネ。 ソシ<sup>ス</sup>テ エノ メーノ クサガリル シ<sup>ス</sup>テダレバ  
 ないのだよ。 そして、家の 前の 草刈りを していたところが  
 アリヤ アノ マズノサンナ シ<sup>ス</sup>ツパショリル シ<sup>ス</sup>テサ。  
 あの「まつのさん」が、裾からげ してね  
 ( <sup>A</sup> ン ン バンツァ マズノサ~~~~。 ) ンー オッシュード  
 うん あの婆さん、まつのさん~~~~。 夫の  
 オドツツァン<sup>(99)</sup> シ<sup>ス</sup>ツパショリル シ<sup>ス</sup>テネ ソシ<sup>ス</sup>テ  
 親 が 裾からげ してね。 そして  
 ナゴード イツツモ クル ソノ オナゴドノ オガサント  
 仲人、 いつも 来る その お仲人の 奥さんと  
 クル コー トーリル スギダノ ミムダガラネ ヘンダナード  
 来て 前を 通り過ぎたのが 見えたので、 変だなあと  
 オモッタモンダガ オモワネモンダガ トニ<sup>ス</sup>カグ ソノヒダゲ  
 思ったのか 思わなかったのか、 とにかく、 その日だけ  
 アサニ<sup>ス</sup> クサガリルダッタ。 エノ メーノ クサガリル。  
 朝に 草刈リだった。 家の 前の 草刈リ。  
 ( <sup>A</sup> ハー ハー ハー。 ) ソシ<sup>ス</sup>テ モライダ<sup>ス</sup>ンダガラ  
 そうして、 貰われたのだから

(<sup>B</sup> アー ハー ハー ハー。) ドーゾ ヨロシグ。 (笑い)  
どうぞ よろしく。

A ミムデ マズノサンカ ミムデ アノ ムスメダラ イードモッテ  
見て、「まつのさん」があなたを見て、あの娘だったら良いと思って  
ハー モライダノ。  
貰われたのだね。

C トゴロカネ キテミダッケ コゴレァノ ホラ バンツァダジズネ  
とろろがね。来て見たら、この辺の おかみさんたち。  
オガサンダズジカ マズノサンツー ヒトァ ドゴガラ アノー  
お母さんたちが、「まつのさん」という 人は どこから  
ナゴード キテモネ ミサ アルイ ダマーッテネ ミサ  
お仲人さんが 来ても 黙って 見て  
アルイタヒトナンダド。  
歩いた人だそうだよ。

B シー ドゴノ マズノサン。  
うん。何処の「まつのさん」？

C オラエノ オシュード オドツツァンス カズオサンノ <sup>(100)</sup>  
私の家の 姑さんだよ。 「和雄さん」の  
オガサンス。 (<sup>B</sup> アー アー オガサン ~~~。)  
お母さんだよ。 ああ お母さんね。

A ナーニヌモ コツツノ オガサンダオ。 オラ ネ。 (笑い)  
なに、この人の お母さんだよ。 俺はね。

C ミデ アルッタナンダド。ンデモ アノアダリル ソノアダリル  
見て 歩いたそうだよ。 でも、あの頃は。 その頃は  
ミデモ アルガネガッタダオ オヤカ。  
見ても 歩かなかったそうだよ、親も。

B ナ ナゴードモ シスタヒト。

仲人も した人なの？

C ナゴード オガサント ミデ アルイダノ。 | <sup>B</sup> アー アー

仲人の 奥さんといっしょに見て歩いたのだよ。 | ああ

ソーガ。)

そうか。)

A ナゴド ドゴソレノ ムスメド ナツツドヤ オドツ アソゴノ

ジンソンの 娘だと いふことになるよ。 あそこの

オドツツァン オガーサンガ コダガラ ンデ モレヤドガ。

父親や 母親が こうだから、それでは貰おうよと言う。

(<sup>C</sup> オヤ イバ モラッタンデネガナ オソラグ。) (<sup>B</sup> ~~~~~ )  
親が 良いとそれで貰ったのではないかな、多分。

ナーニヌ オヤジズド オフグロド システ キメデ

なあに。 父親と 母親が 相談して 決めて

シス マッタンダオナー。 オラモ オラノ カガア ミネデ

(買ったのだなあ。 俺も 俺の 妻を 見ないで

モラッテシス マッタンダ。 (<sup>B</sup> 笑い) シ アリヤー ナンテ

貰ってしまったんだよ。 あああれと 思っているうちに

モラッタツケァ ナーニヌ ホニヌ ソノ トーリルダッタオノ。

貰ってしまったのだよ。 そしたら 本当に その 通りだったよ。

C イマノ ゴド ハ タマケレナ。

最近の やり方には 驚くことばかりだね。

A ヨメ モラウドギ ハジズメデ ハ オレノ カカガナド

嫁を 貰うとき、 初めて 俺の 嫁かななどと

オモッテ ツラミデナ マッタグ ショチッネーナ。

思っ て 顔を見て、 全く どうにもしょうが なかったな。



C    ンー    イマノ    ゴド    カンゲット    ハ    タンマケレ    ンダガラ  
       うん、最近のやり方を考えると。        驚くことばかりだから  
 ダマッテアホ    イジズバン    イーオナ。 (B 笑い) (C 笑い)  
       黙っていた方が    一番    いいからな。

(<sup>A</sup> ンダベネ 《笑い》)    (<sup>B</sup> オラモ    イワネ。)    (<sup>A</sup> ダマッテ  
       そうだろうな。        俺も・黙っている。        黙って  
 キタッタ。《笑い》)  
       味ちの？

C    ワゲワガネウジズ ニヌ    ケラレデ    ワゲワガネドゴサ  
       わけが 分からないうちに 嫁に やられて。 わけが 分からないところに  
 ケラインノデガス    タッタ。 (<sup>A</sup> ンダー    イマ    ナニヌ。)    ンー。  
       嫁に やられるのですよ。        そうだ。 今ほ なに

B    マー    ジューシヌズジダオナ    ンー。  
       まあ、 十セオ だからな。

A    ソレゴノ    ダマッテ    ケルドゴ    ケデヨゴスドゴモネス。  
       それこそ、 黙って 嫁にくれるところ、 くれてよんすところもないですよ。

B    ジュー スッテイエバ    マダ    チューガッコ    コーナンネンダ。  
       十セオ というと、 まだ    中学校 なのだね。

C    ジュー    ムガシヌノ    トシヌダデバ    ジューシヌデ    ショーガッコ  
       昔の                      年で 言えば、                      十四で                      小学校  
       ジューヌ (<sup>A</sup> ショーガッコ    オワッタバリクレナ    モンダ。)  
       十四                      小学校を 終わったばかりぐらいのものだよ。

A    チューガッコ    オワッタバリナンダ    イマデ。 (<sup>C</sup> ジューシヌ  
       中学校                      終わったばかりなんだ / 今で。                      十四  
ン    ジューシヌ。)    ジューシヌズジドヤー。  
       十四                      十セオ というと。

B ショーガッコ ジズンジョーコートーショーガッコ。 ( <sup>A</sup> ンー  
小学校、 尋常高等小学校。 うん  
ンー。 )

C イマノ チューガッコ。  
今の 中学校。

B ンダガラ イズー コー~~xxxxxx~~チュー アノー ムガシ  
うん、 だから いつ、 あの 昔  
ジズンジョーコートー~~ショーガッコ~~ダベジャ。  
尋常高等 小学校 だろうよ。

A コートーカ オワッテ イジズネンカ ニヌネン。  
高等科を 終わって 一年か 二年たった時だね。

C コートーカワ ニヌネン~~xxxxxx~~ンダモ ログ ジューログナンダ  
高等科は 二年だから 十六才なんてね  
コートーカ オワレバ。  
高等科を 終われば

B ンダガラ ログネンシェーデ オワリル。 ( <sup>A</sup> ンー コートワ  
だから、 六年生で 終わり。 うん、 高等は  
ニヌネン。 ) アド コートーニヌネンシェーマデダ。 ソノドギ  
二年。 ) あと、 高等二年生までだね。 その時  
ジズーシズガ ニヌネン オワット ン。  
十七才か、 二年生を 終わると。

A ニヌネン オワット ンー カゾエダラバナ ( <sup>B</sup> ンー ンー。 )  
二年生を 終わると、 数え年ならだね。  
カゾエダラバナ カゾエデ キタノナンダナ アンダワナ。  
数え年ならね。 数え年で 十八で きたのなのだね。 あげたは。

C カゾエデ ジューハジズ。~~~~。  
数え年で 十八才。

B ンデ チュ<sup>xx</sup>マ<sup>xx</sup>イマデ<sup>xx</sup>バ チューカッコ ソズギョーシステ  
それでは、 今ならば 中学校 卒業して  
スグ ヨメゴダオナ。  
すぐに 嫁に なったんだね。

C ダレネ オレノ アネ アッタンダゲント ソノプレー ハエグ  
あのね、 私の 姉が あったのだけれども、 そのくらい 早く  
ケダタメニヌ カシエグヒト ネガラッテネ (A ~~~~)  
嫁にやめたために、 働く人が いないからと言って  
ガッコーサ イレラレネガッタンダモ。ソジステ<sup>(101)</sup> シャデ<sup>(101)</sup>  
学校に 入れられなかったんだよ。そして 弟が  
マダ ソイズガラ ミッツ スグネー シャデー アッテダヨネ。  
姉から 三才 下の 弟が 居たんだよ。  
ソイズー ンート ヘリデクテ ノーカッコーノ シスケン  
その弟が ええと、(学校)に入りたくて 農学校の 試験を  
ウゲデ ホガノ ヒトサ シスブンサ アガッタッテ  
受けて、よその 人から 新聞に 名前がのったと  
サワカレデデモネ オヤジズ ゼッテ カシエカセネバ ネット  
されがれても、 父親は 絶対に 働かさなければ ならないと  
イレネガッタ。 シスタツケ ミツカ コダッサ ネット  
いて、入れなかった。 そしたら、三日間、こたつに 寝て  
イルノス。 ソーユーフーナノダッタヨ。  
いたんだよ。 そういうような 状態だったんだよ。

A ンダサー アノ アダシル ヘリデクテ ホニヌ ダマッテ  
そうだよ、 あの 頃は、学校に入りたくて、本当に ニッソリと

ウゲダリルシスタ ワラシスタズ<sup>ジ</sup> テンボモ アッタッタ。  
受験した 子どもが いくらも いたんだよ。

(<sup>B</sup> ンー ンダベネ。)  
うん。そうだろうね。

C ンー ヒャクショーネー サシ<sup>ヒ</sup>エネバ クラサレネガッタ<sup>ン</sup>ダベ  
うん。百姓を させなければ 暮らされなかったんだろう

ジャ イッペ カセデッカラ。

よ。たくさん 働いていたから。

B ンー マズ ムガシスノ (<sup>C</sup> ンー) ヒャクショズノ ホラ  
うん。まず 昔の 百姓というのは、ほら

イマダレバ ミナ アノ ナンダオナ フザイジズヌシスデ  
今で言えば みんな 不在地主で

タノ<sup>ノ</sup> タノ<sup>ノ</sup> マ ゴログダン モッテルンダ ムガシスノ  
田の 五・六反 持っているのだ、昔の

ヨニス ミナ コサグナンダオナ オソラグ。

ように みんな 小作なのだよな。 多分。

C ソレゴソネ オレソノ ジューズジズノ ドギ (<sup>A</sup> ンダオネ。)  
それこそ、私が、その 十七才の 時、 (そうなのだよな)

(<sup>B</sup> コサグナンダオ。) (<sup>A</sup> コサグナンダオネ。) ヨメゴサ  
小作なのだよな。 小作なのだよな。 嫁に

クットギネ タンスー。 ジューニヌエン (<sup>B</sup> ジズッピョー)  
来る時 算筒 十二匁 (<sup>B</sup> (米と) 十俵

トレバ ゴヒョー トラインダオ。) (<sup>A</sup> タンス ジューニヌエン)  
取れば 五俵は取り上げられるものね。 算筒 十二匁

ス ンー) ン ソジステネ イッタンノ タネ アイズー  
アジッタの? うん。そしてね。 一反の 田が あれが

サンビャグゴジューエンヨ タイッタン。ソシス テネ スコーシス  
 三百五十円だったよ。田が一反。そしてね、少し  
 ミジスカゲノ ワルリータ ヒゲドゴダノ タゲドゴ アノー  
 氷のたまり具合の 悪い田、 低い田や、 高い田、 あの  
 ウマッコノ アシス ササルドゴ ヨーナドゴワネ サンビャグエ  
 馬の 足が ささって抜けないうようなところば、 三百円だッ  
 ン (B ウーン) イッタンデ。 ソイズガ ナンジューネンメ  
 たよ。 一反で。 それが 何十年前  
 ダベ。 ヨンジュー (B ンー) ナンボダ チョット ワガネナ  
 だろうよ。 四十 何年ぐらゐ前、 ちょっと  
 ジュー。  
 分らないな。

A ショーフゴジュネンダガラ アンダノ トシス アンダ  
 (今年ば) 昭和五十年だから、 あなたの 年、 あなたが  
 チャットシスダガラナ ナニ タイショー ジューネンアダリル  
 若い頃だから 大正 十年 あたりには、  
 ニス ンー タイショー ジューネンデネンダナ アンダ  
 大正 十年ではないな、 あなたが  
 ヨメゴサ キタコロダガラ (C ジューシスズジダガラサ)  
 嫁に 来た頃だから 十七才の時だからね  
 ヤッパリ ショーフガンネンアダリルダナ。(笑い)  
 やっぱり 昭和元年頃だね。

C ショーフサンネン。  
 昭和三年。

A アンダ ヨメゴサ キタノ ショーフサンネンカ。  
 あなたが 嫁に 来たのは 昭和三年なの？

C ソーダネ。

そうだね。

A ソンナニハエグ キタノダガ。

そんなに早く来たの？

C ンダッテ サンネンメニヌ マツコ ウマレダ<sup>ン</sup>ダガラ (A ソン  
ダッテ、三年目に「松子」が生まれたのだから) そうだ  
ダ ホニヌ)。ソ<sup>ン</sup>ダ ショーワサンネンダオ。  
は、本当に) そうだ 昭和三年だよ。

B ショーワサンネン。 (C アノ アダリル。) アンダ<sup>ン</sup> ナンネン  
昭和三年。 あの頃。 あなたは 何年

ウマレ。

生まれなの？

C オレワ ヨンジューゴネンノ ゴカズダゲド タイショーガンネン。  
私は、四十五年の五月だけれども、大正元年。

(B ホーシー。) ログカズ ナンカズダッタ。 (A ソー) アノー  
ほう。 六月、何月だったの？ あの

タイショーニヌナッタノ ログ。

大正に なったのは。

B タイショーニヌ ナッタノワ ジュー<sup>ニヌ</sup> ジューニヌカズダ。  
大正に なったのは 十二月だよ。

ジューニヌカズ。

十二月。

A ジューニヌカズ タイショーニヌ ナッタノ ジューニヌカズ。  
十二月だよ、大正に なったのは 十二月。

B タタ アノ タイショーテンノーズノ ジューニヌカズ  
大正天皇というのは 十二月

ニ<sup>ハ</sup> ジューゴニ<sup>ハ</sup> ズジニ<sup>ハ</sup> シンダオダガラ。

二十五日に、 死んだ<sup>ハ</sup>からね。

C ハー ジューニ<sup>ハ</sup> カズジ ハー。 (B ウン。)

ああ、 十二月 ね。

A ン ショーワガンネンツナネ イッシュカンクレジスカ ネンダ。

うん、 昭和元年というのはね、 一週間ぐらいしか ないのだよ。

(C ハー。)

B タイショーテンノーカ<sup>ハ</sup> ホラ ニジューゴニ<sup>ハ</sup> ズジニ<sup>ハ</sup>

大正天皇が ほら、 二十五日に

ジ<sup>ハ</sup> シンダノダガラ ン。 (C ンー) ンダガラ。

死んだ<sup>ハ</sup>のだから うん。 だ<sup>ハ</sup>から。

C トニ<sup>ハ</sup> カグ サンビャグー ゴジューエンデ ソッパナタ

とにかく 三百 五十円で ソッパナタ

イッタン カウニ イガッタジャ。 (B ンー ンダナ) ンー  
一反 買うことができたのだよ。 (うん、 そうだね) うん。

タンジスワ ジ<sup>ハ</sup> シャグタンス ジューニ<sup>ハ</sup> エンネ (B ジューニ  
算笥は 四尺算笥が 十二月だったよ。 十二

エンナ。)  
月ね。

A ソレゴソ ホントノ イワヤド<sup>(102)</sup>ータンス ナンボ モッテ

それこそ 本当の 岩谷堂算笥 いくら 持って

アルッテモ ビクトモ シネノ (笑い)

歩いてモ びくとモ しないのだね。

C ソダッタヨー。

そうだったよ。

B    ンダナー    ソイズァー    イマ    ンダガラ    モットモナ  
      そうだな    それは、    今ほ    ナジから    もっともね。

イジズ マンエンサズ    フル<sup>レ</sup> マシ<sup>ス</sup> テ    アルッテ。

      一 万 円 札 を        ぶ り ま わ し て    歩 い て。

A    タンスー    ヒトズー    モッテキタダゲデモ    ハー    イガッタオナー  
      簞 笥 を    一 つ        持 っ て き た だ け で も        良 っ た の だ よ。

      イガッタ<sup>ン</sup>ダオナー    ヨメコサ    クルノニ<sup>ス</sup>    イマデガラ

      良 っ た ん だ よ ね。    嫁 に    来 る の に        今 だ っ た ら

ナニ<sup>ス</sup>    モッテコネクテネ    カニ<sup>ス</sup>    モッテコネクテネ

      な に を    持 た な く て は い け な い。    か に を    持 た な く て は い け な い と

      ジ<sup>ス</sup>ズ<sup>ジ</sup>ヤガマシ<sup>ス</sup>    ネーゴド<sup>(103)</sup>    カダッ<sup>ケ</sup>ントモ<sup>(B)</sup>    フ    フーン)

      い ろ い ろ う る さい と を                      言 う け れ ど も

      ホニ<sup>ス</sup>ー    〜〜。

      本 当 に。

C    タンス    タンス    ヒトズド    キョーデァー    モーネ    オラハ    アズゲ  
      簞 笥、簞 笥    一 つ と        鏡 台 も                      私 は    持 っ て

      ラエダゲント    ホント    ヨグヨグノゴドデネバ    キョーデァー

      ら っ た け れ ど も    本 当 に    よ く よ く の こ と で な け れ ば    鏡 台 は

      アズゲネガッタオス。<sup>(A)</sup>    〜〜。    ソンデ    イガッタ<sup>ン</sup>ダ。<sup>(B)</sup>    マズ

      持 っ て せ ら れ な っ た よ。                      そ れ で。    よ っ た ん だ よ。

      カゴッ    マズ    カゴッ    コヨメゴ<sup>(104)</sup>    オーガッタベモ。    カシェクサ

~~xxxxxxxx~~    ま あ    器 量 の 良 さ で 嫁 に も ら れ た 人 が 多 っ た だ ろ う    働 け れ ば

ゲ    スレバイーノダオ    オソラグ。

      そ れ で    よ っ た の だ ろ う。    多 分。

A    ンー    (<sup>B</sup>    アーン)    カシ<sup>セ</sup>ク    カシ<sup>セ</sup>    カネワ    マズ    ジ<sup>ス</sup>    ……。

      う ん。                      働 く        働 か な い ほ        ま ず    問 題 外 で。



(B シー) モラウノ コーダノ アーダノッテ。

貰うのに こうだの ああだのと言って。

C ソジス テネ モライデキタ ダンナデネグ オシュードサンサ

そして 貰われてきたが、夫ではなく おしゅうとさんに

ツトメロズヨーニヌ シュードサ ツトメロズヨーニヌ

よくつとめなさいと言うように、おしゅうとに よくつとめなさいと 言うように

キョーイグ サレダモノ。 (<sup>A</sup> ンダネ。) ンダガラ ケツキョグ  
教育 されたものだよ。 そうだね。 だから。 結局

ドノヒトサ モライデキタモ ミムンナ オドゴダジズキョーダイ  
どの人のところに 貰われてきたか分らないようだった。男兄弟は みんな

オラヨリル ヨゲナンドモ フジズオサン。シー

私よりも 年上なのだから、藤雄さん。

A ジズブンノ ダンナドノ ワゲワガネガッタ (笑い)

自分の 夫が わからなかったとは。

B シー ア フジズオサン ヨゲダ オレ オレヨリ ヒトズ ヨゲダ。

ああ、藤雄さんは 年上だ、俺よりも 一才 年上だよ。

C ヨゲナンドモ ミッツモ ヨゲダモノ。

年上なんだよ、三才も 年上なんだよ。

B ンダオナ。オラ コッチッノホー イッテ イエバ イガッタオ。

そうだよ。私は こちらの人の方が良いて言えば よかったのに。

(<sup>A</sup> 笑い。)

C イーマサナレバ オラ イーデ アンデ。(笑い) (<sup>B</sup> アー  
今になってみると 私は 良いよ、あいで。

ソーダッタガ。) オラ アンデ イーノダ。 (<sup>A</sup> ナカモジズ  
そうだったか) 私は あいで いいのだよ (<sup>B</sup> 長持ち

スルホーガ。) ンダガラ オレ ヘンネガラ フラジスバリルモ  
 する方がね。) だから、私は(学校に)入らないから、子どもだけでも  
 イレデミム デモンダナード モッテ ガッコーサ ホントニヌ  
 入れてみたいもんだと 思って 学校に、 本当に  
ソイズバリル イッシンデ ハ。  
 それだけの ー心で。

A ナーニヌ ンダ アンダ~~~~。 タイシスタ ガンバリヤダ。  
 なあに、 そうだ、 あなたは、 大した 頑張り屋だ。

B イマダレバ~~~~。  
 今だったら~~~~。

C オラ オショシスガラ。  
 私は 恥ずかしいからね。

B ホニヌ アンダダ~~~~。  
 本当に あなたは~~~~。

C ホントニヌ ナーニヌモ イジズバーン コマルノネ。  
 本当に なにも 一番 困るのね。

(<sup>A</sup> ホントダ ヨダ キョーイグシスタ ホントダ~~~~。  
 本当だ。 よく 教育した。 本当だ~~~~。)

アノー イジズバン ガッコーサ ヘンネデ (<sup>A</sup> ~~~~  
 あのう、 一番、 学校に 入らないで ~~~~

マサカツァンサンモ ソーダス。) ホニヌ キョーイグッテ  
 正勝さんも そうだし。 本当に 教育って

ソレゴソ ムキョーイグ ムガグツノデ イジズバン コマンノ  
 それこそ 無教育、 無学 っていうので 一番 困るのは  
 ヨーソサ マズ シスラネデ ムジューニヌ テッテ コノ  
 ほかの人に、 まず、 何も考えずに 夢中になっ

コドモダジズ オカシス テンノ。(B ンー) フラシス ノコロ  
子どもたちを 大きくしたんだよ。 子どものころ

ワレガ アノ フジズ ユーシス ッカラ ムジューニヌナッテ  
自分が あの 不自由していたから、夢中になって

オカシス テンケントモ イザ コノ コイフニヌ オッキグナッテ  
大きくさせたけれども、いざ ンうのように 大きくなって

ホガノ ヒトァネ セゲンサ ダサネバネグナッタドギニヌ

外の 人の前に、世間に 出さなければならなくなったときに

オレノ オモッテデモ ソノ ジズモネ モンクワ ドーヤラ  
私が バデ 思っても、 字もね、文句は どうやら

ツチズジリカタ ムガシス オレ スギダッタガラ モンクワ  
綴リ方 は 昔 私は 好きだったから 文句は

ドーヤラ ツグンニヌ イーゲントモ ジズ シラネンダモネー。  
どうやら 作るに いいのだけれども 字を 知らないからね。

ンダガラ ソイズデ オレ イジズバン クローシスタ。 アド  
だから それで 私は 一番 苦労した。それから

ダンダン コンダ ケデシス メバ。

だんだん、こんどは 娘を嫁に やってしまうと。

A ハヤグ ハヤグ テープコーダーデギルバ イガッタナー。

早く テープコーダーが出来てれば よかったね。

C ケデシス メバネー コンド タニヌント ツギエァ シス ネバネオ  
娘を嫁に やってしまうと、今度は 他人との つきあいをしなければなら

ナー ソイズ イジズバーン フジユーダヨ。 ナ ハイッテル  
ないので、それが 一番 不自由だね。学校に 入った

ヒタズ ナニヌー ソンナゴドッテ ユーゲントモネ

人たちは「なあに そんなことほ」と 言うけれどもね

ウーソダデバ ハイッタヒタズワ ナンニモ フジズユー  
うん。そうだよ。学校に入った人たちは なんにも 不自由  
ジス ネンダドモ ヘンネモンガラ カンゲットァ イジズバン  
しないけれども、入らないものだから、考えてみると、一番  
ソイズカネ フジズユーナンダツケ。  
それが 不自由なのだよ。

B アノ イワサキサンサ イッテンノワ イジズバン オッキーノ。  
あの、岩崎さんに 嫁に行っているのは 長女なの？

C ソー。(A アー ンダー。)  
そうだ。ああ、そうだよ。

B ソノツギァ ナンダツタ アノー ベンリヤシスタノ。(105)。(C ンー。)  
その次の娘は、なんだっけね、あの 便利屋をした家の。  
ホーン。

A バントジスタ ジスタドゴサ イッテ。  
リッパな 家に 嫁に行って。

C ンデネー ミンナー ホニヌ (A ン ン ミンナ~~~~ン。)  
そうではないよ。みんな 本当に。

(B ン ンダネ。) アー ン<sup>(106)</sup> テ ハ オショジスヨナ オヤ  
ああ そうだね。ああ うん といって 恥ずかしいような 親が  
オカジスタノダガラ モライトネード ワガネドモッテ。(笑い)  
育てたのだから、もらってくれる人がいないと 困ると思って。

ヤーヤ、

いやほや。

A アンダホダ オドゴワラジス マダ ガッツリル ジステルスナ。  
あなたの家では、男の子どもが、亦 しっカリ しているね。

C ンダネデ (<sup>A</sup> ~~~~。) ニ<sup>ニ</sup>ダヨ<sup>ニ</sup>ーダ。

そうではないよ。 似たようなものだよ。

B オドゴワラシ ヒトリ<sup>ル</sup>ダ<sup>ッ</sup>タエガ。

男の子どもは 一人だけだったろうか。

C ンダモ。 (<sup>A</sup> ンダオ。) オラエ オド<sup>ッ</sup>ツァンノ キョー<sup>ニ</sup>ダエ  
そうだよ。 (そうだよ。) 私の家では 夫の 兄弟は

オナゴダジ イッ<sup>ペ</sup>デガ<sup>ス</sup>ペ。 (<sup>A</sup> ~~~~~。) イッ<sup>ペ</sup>デ  
女の子どもが 多いでしょう。 たくさんで、

オナゴ サイ<sup>ゴ</sup>サ オナゴダオ ジュー<sup>ニ</sup>メ<sup>ニ</sup>サ

女の子どもの 最後に 女の子どもだもの。 十二人。

オド<sup>ッ</sup>ツァン トー<sup>ニ</sup>チャンノ キョー<sup>ニ</sup>ダイ ジュー<sup>ニ</sup>メ<sup>ニ</sup>サ  
夫の 兄弟 十二人の最後に

オナゴ。 (<sup>107</sup>) ソジ テ コンドァ オレノナ ゴ<sup>ニ</sup>モ オドゴ (<sup>108</sup>)  
女の子が生まれ、そして 今度は 私のオでも 五人も 女を

ツズゲダガラ ログ<sup>ニ</sup>ン オナゴ<sup>ニ</sup> ナッ<sup>テ</sup>シ<sup>ス</sup>マ<sup>ッ</sup>タ。

続けたから 六人 女の子に なってしまった。

シ<sup>ニ</sup>テ サイ<sup>ゴ</sup>サ オドゴ ヒトリ<sup>ル</sup>ネー (<sup>B</sup> ンー) ホ<sup>ニ</sup>  
そして 最後に 男の子が 一人生まれた。 本当に

イガッタヤー。

よかったよ。

A カンズ (<sup>109</sup>) ホ<sup>ニ</sup> チャッ<sup>ケ</sup>ド<sup>ギ</sup>ー アン<sup>マ</sup>リ<sup>ル</sup> ジョー<sup>ブ</sup>ナ  
「和」は 本当に 小さい時は あまり 丈夫な

ヨー<sup>ニ</sup> メネガッタ アンカイ (<sup>C</sup> イーマ ンー ジョー<sup>ブ</sup>ナ  
ように 見えなかったが、意外。 今 丈夫な

ンダガ ンダガ) ツカ カツツ ズシタノ ジョー<sup>ブ</sup>ニ<sup>ニ</sup>ナ  
のたか どうだか) かつちり して 丈夫になっ

一。(<sup>C</sup> ナー シダガー。)   
 たね。 どうだか。

C オナゴワラシスノ ドゴデバリル オカシス タガラネ シダガラ   
 女の子の 中でだけ 育ったので だから   
 コレ ハ フニャフニャズー ワラシス ニヌ ナルナードモッテ   
 女の子は、 腑抜けの 子に なるなあ と思って   
 バリル イダッタ ナーニヌ ゴンケ ケッコー ゴンケハギダナ   
 テナ いたら、 なに、 気まま、 げんう 気ままな性格だね。   
 エサ クットユド。( <sup>A</sup> ゴンケカダリル。) シー。   
 家に 帰ってくると。 気まま野郎。 うん

D ゴンケハギッテ ナンデスカ。   
 「ゴンケハキ」というのは 何ですか。

C エッ。   
 え？

A ゴンケカダリルダド。 ゴンケカダリル ゴンケハギノダノ。   
 「ゴンケカタリ」だって。「ゴンケカタリ」「ゴンケハキ」とか。

C シダネー ゴンケ (笑い) ゴンケ。   
 そうだね、「ゴンケ」 「ゴンケ」

B 〜 ゴンケハグ 〜 ゴンケ マ ズジョッパリルドモ   
 〜 「ゴンケハグ」 〜 「ゴンケ」 まあ「強情張り」とも   
 ツカウガ。   
 違ふのかな？

C ゴンケカ ゴンケッテ キママツツー イミダネガナー。 ( <sup>B</sup> シー   
 「ゴンケ」か、「ゴンケ」というのは、「気まま」という意味ではないの？ ) うん   
 キママダナー。 ) シー イーデゴド ユッテルズー ( <sup>A</sup> 〜 《笑い》   
 うん。 言いたいのを 言うというんだ。 )

ゴンケカダリル。) ソンデモ ミンナー ヨス マズ フツー  
気まま野郎。 それでも、みんな まず、普通

セゲンノ ヒタズ ミルド ソレガ オドゴダラ ホントダツケオ  
世間の 人たちから見ると、それが、男の子だから 本当の姿だと  
ネ。 ソイズカ〜〜。

いうのだよ。 それが〜〜。

A ンダ ゴンケカダリル クレアクレアデネバ イズ<sup>ヰ</sup>ジネノダ。(笑い)  
やうだ「気ままに ぶるまう」くらいでないと 意地がないのだよ。

C ダガラ オナゴバリルノ ドゴデ ヘント ヒトズモ ケサレダゴ  
だから、女姉妹の 中で ロ答え 一つも されたことも  
ドネー オナゴバリル オカシ<sup>ヰ</sup>テダガラ コレ ソノヨーニス  
ない 女の子どもばかり 育てたから この子どもも そのように  
イジズモ ナニスモ ネーネ フニヤフニヤズ ワラシス  
意地も 何も ない ぶにゃぶにゃした 子どもに  
オドゴニス ナンデネーガドオモツタツケヤ ケー ソーデネ。  
男の子に なるのではないかと 思っていたら そうではなかった。

A ナーニス ナガナガ タイシ<sup>ヰ</sup>タモンダ シ カラッ ペロット  
なに、 なかなか 大したものだ。 うん。 ほっそりと  
システ アイズ システルヨンダゲントモ ナガナガ キショッポ  
していて、 あやほ、 しているようだが、 なかなか、 しんのし<sup>カ</sup>  
ネ アルオ。〜〜 (笑い)  
りしたところがあるよ。〜〜

C ンダガラネ アノー ワラシス アノー ダイカクサ イツテ  
だからね、 あのう、 子どもが 大学に 行ってた  
ドギ アノー ナンボニス<sup>ヰ</sup>ズガ タツテガラ ホラ アネダジズ  
時、 あの 何日か 経ってから ほら、 姉たちは

アノー ツチーセーノデ オドゴワラシス ダガラ ンート  
(この子が) 小さい時から 男の子だから とて

メンケガッテアンダベジャ。 ( <sup>B</sup> ンー ) ( <sup>A</sup> ンダンダ ) イーッテ  
可愛いがっていたでしょう。 ( うん ) ( そうだ そうだ ) 行って

ミダレバネ チャーント カミム オカシス テ ヘッタノカ  
見たら ソっぽに 髪を伸ばして 大学に入ったのに  
スポント マルボーズニヌ ナッテアッタド。 ( <sup>A・B</sup> ンー )  
すぽんと 丸坊主に なっていたそうだ。

ナニヌ シス タノダッテ ユッタレバネ ソシス テ ボーシスコ  
何故なのかと 聞いてみたところ、そして、帽子を  
カブッテ キタッタ デハッテ キタンダド。 ( <sup>A</sup> ンー ) ナーニヌ  
かぶって そのまま 出て来たそうだ。 どうした

シス タンダベド オモッテ ソノ ボーシス トラジエデ  
のだろうと 思って その 帽子を 取らせて  
ミダレバ マルボーズニヌ ナッテアッタド。 シス タツケネ  
みると 丸坊主に なっていたそうだ。 そしたら、

カラテサ ヘッテ。 | <sup>B</sup> アダマ クサエッテ。 <sup>(III)</sup> | ( <sup>A</sup> 笑い ) ア ア  
「空手」に入って、 | 頭が臭いと言って。 | ああ、

カラテサ ヘッテ | カラテシス テアンダ シス テ ミーンナニヌ  
空手部に入って | 空手をしていたんだよ、そして、 みんなに  
ネ アノ ワラシス カズヤン カラテズーゴド ネガベッテ。

あの 子どもが 和やんが 空手などというのはないだろうと、言  
カラテシス テネ チャーント コノアイダモ ミーダゲントモ  
わけた。空手をしては、ちゃんと この間も 見たけれども  
ブツダン カタズゲットギ ミダツケァネー アノー ホラ  
仏壇を 片付けていると 見たら ほら



ガッコーノ キョーイン <sup>グ</sup> アノー キョーインノ  
学校の 教員 あの 教員の

メンキョシヨージスカ アレド カラテノ ショージョーダノネ  
免許證だけか あれと 空手の 賞状 だけの

ソナノ ヘッテ。(笑い) ンー アレネ チューカッコー  
そんなのが 入っていたんだよ。 うん、あの子どもが 中学校

ミズサー ミズ<sup>(112)</sup>コーサ イッテアドギネ アノー  
水沢 水高に 行っていた時、 あの

ジスミトモギンコーサ ヤリデダクテ センセーカ。(Aンン)  
住友銀行に やりたくて 先生が。

ジステ マッタッケ ソノトーリル ビンボーデ ソダデダノダガ  
そして やったら、 その通り 貧乏で 育ったのだから

ラ ダイイチキボーワ オヤンツァンモ アノトーリル

第一希望は、 父親も あの通り

チュータイ<sup>(113)</sup>チョーニヌ ナッテジス マッタガラ ダイイチ<sup>ツ</sup>キボー  
中風に なってしまったから、 第一希望を

シューショグニヌ ジスタッタノ。ジステネ ダイニヌ キボーワ  
就職に したの。 そして、 第二希望は

ソノー シンカグッテ ユッタッテ ジスンカグナド ムロン  
進学と 言っても、 進学など もちろん

サシセルキ ネガッタノス。ジステ ネーヤンダジズモ コゴサ  
させる気は なかったの。 そして 姉たちも この学校に

アルイテダガラ オメモ コゴノガッコーダッテ ユッテアッタノ。  
通っていたのだから、お前も 此処の学校だよと 言っていた。

ジスタッケ ダイカグサ イカレネガラ ミンナド イッショニヌ  
そしたら、 大学に 行かぬないから みんなと いっしょに

マダ ケッコー イードゴノ ダンナサンダジズノ

亦、 とても いい家の 旦那さんたちの

ムスコダジズド トモダジズダッタガラネー イーズガ

息子たちと 友達 だったからね。 そのうちいつか

コノ ワラシャド コノ ワラジス ミンナド ワガレネバ

この 子どもたち、この 子どもは みんなと 別れなければ

ネンダベナード オモッテダッタノ。 ガッコーサモ イレラエネ  
ならないだろうなと 思っていたの。 学校にも 入やうくない

ガラ。 ジスタッケネ ソノ ジェンジェーモ ソノキニス  
から。 そしたらね。 先生も その気に

ナッテ スミトモギンコーサ ヤリタデクテ サンニヌン サギ  
なって 住友銀行に ヤリたくて。 三人、 最初

ナニニヌン キボーシャ アッタンダド。(Bシー) ジステ  
七人 希望者が あったそうさ。 そして

ソレ ヤメ<sup>xxxx</sup> アノー ワガネクテ イッカイ オドサレデ アド  
それが 成績がたがいで 一回 落とされて、 後に

サンニヌンニヌン ナッタノ。 ジスタッケ ソノー サンニヌンノ  
三人に なった。 そしたら その 三人の

ウジズノ ソノ アド イッカイ フタゾルデ ムゴサ<sup>(114)</sup>  
うちの あと 一回(落とされて) 二人で むこうで

サンカイ アノー メンセズカ アッテネ ソード サンカイメニヌ  
三回 あの 面接が あってね。 三回目に

イガネバ ネガッタノス。(Bシー) ソノ ミツ フズガ<sup>xxxx</sup>  
(東京に) 行かなければならなかったのです。 その 二日か

ハンニヌズダベガナー ゼーンブ オヤガラネ オラ オレノ  
半日 だろうかなあ。 全部、 親から。 私 私



ソータッタオネ。 ソンデモ トード イッタ。 イッタトダンニ  
言ったそうだと。 それでも とうとう 行った。 本社についてヒムニ  
ガダガダガダガダガダッテ ソノ ギンコーサ ヘッタトダンニ  
カタカタと ぶるえて、 銀行に 入ったとたん  
フルエダッタド ドカドカドガッテ。<sup>A</sup> 笑い) ソーシステ  
ぶるえたそうだと トカトカトカ と。 そして

ヘッタツケネ ミーンア シス ホーガラ キタンデガスベジャ。  
中に 入ってみたら、 みんな 全国四方から 来たらしいのです。

シスタツケ ソノ シス ミトモギンコーデネ ヤキュースンノ  
それたら その 住友銀行でね。 野球でできる人が

ホシスガッタンタド。 システ<sup>A</sup> 笑い) ナンネンカ マエニ  
欲しかったそうだと。 そして 何年か 前に

ネ タワラガラ イッテンノカ ヒトリル ソノ シス ミトモギン  
田原から 行っているのが 一人 住友銀行に<sup>(116)</sup>

コーサネ ヤキューノ ヒト トレデアッタノ ンデ ソゴサ  
野球選手が 採れていたの。 それで面接の場に

ヤラレダレバ ホガガラ キタヒトガ ミーンア カダルノサ  
やられたら、 よそから 来た人は みんな 話しをする。

シスズモンスンダツケド。 オラ ドッカドッカッテ ナンニモ  
質問をするそうだと。 俺は トカトカとぶるえて なんにも

チシギネ。 トーチャンガ ヨワグナッタガラ シスンブンモ  
知識がない。 父親が 弱くなってから 新聞も

テレビも ネガッタノス。 ナンニモ アダソルノ アノ  
テレビも なかったんだよ。 なんにも。 いろいろの

キョーイグツツーゴド ゼーンゼン オヤジデバ ソレゴソ  
教育ということ。 まったく 父親というと、それこそ

バシャヒギダガラ アルッテルッタッテ ナーニモ  
 馬車ひきたから、歩いていると言っても ぜんにも  
 キョーイグカンケイ シャカイノ ゴド ワガネンダ ナンタラ  
 教育関係 社会の ことは わからない、どうして  
 オライノ トーチャンバシル コンナニモ ワゲワガネンダベナー  
 うちの 父ばかり なんか 知識がないだろうな  
 ド オラ オモウゲントモ カンゲデミレバ マッコ クジズノ  
 と 私は 思うけれども 考えてみると、馬 口の  
 タダネモノド アゲグレ イッショ ダモノネ ワーガネハズダモノ  
 じゃない馬と 一日中 一緒だから わからないはずだよな。  
 ネ。 ソイズニモ ネ ホカノ オヤダジズ スッカリシステ  
 それに、 うちの 父親は しっかりしてい  
 イードゴサ ミンナ コドモダジズ シューショグサセル  
 いいところし みんな 子どもたちを 就職させる  
 オラエノ トーチャンバシルー ショーカッコー オワット  
 うちの 父親ばかり 小学校を 終わると  
 ジュクニモ カサレデ ジューネン ホーゴー オメ エサ  
 すぐに 他人にあずけられて 十年、奉公、「あなただ 家に  
 キタドギニモ エサ クルノ シャネガラ ジューネンモ  
 帰ってきた時に 家に 来ることを 知らないから 十年も (他人の家に)  
 イダベジャ ナンテ セズッテ オレニモ イワレデス オ  
 居ただろうよ」などと 馬鹿にして、私に 言われて  
 ソジステ イダッタ。 サァ コドモダジズ ミンナ オカッテ  
 をして いっしょに居た。まあ 子どもたちが みんな 大きくなって  
 シューショグド ナッタツケネ。 ナーニモ ドゴサモ アノー  
 就職と なったら ぜんにも どににも

ツッテカネーガラ ワガンネーガッタノ。 カンゲデミレバ  
つてがないので、 だめだったの。 考えてみると

オヤンジズバリル イジズメダッテ ワガネナー コドバノ  
父親ばかりを いじめても だめなのだなあ、 言葉の

デネモノド イッショ ニヌ アルグノダモ オベルヒマ  
言えない馬と 一緒に 歩くのだから 知識をおぼえる時間が

ネーベジャド オモッタゲントモス。 ソーシヌ テ イダッタ。  
ないだろうなあと思ったけれどもね。 そして いっしょに居たの

テレビモ シヌ ンブンモ ネーガラ ナー ニヌ モ イエネガッタド。  
テレビも 新聞も ないから、 なんにも 言えなかったそうだし

スモトモ シヌ ミトモサ イッテ ソンデ ソゴ オジャンニヌ  
住友に 行って それで そんが だめに

アッタ。 フタソルトモ ドレモ トレネデ。 ン  
なった。 受験した二人とも 採れなかった。

A テレビド シヌ ンブント イエバ ムガシヌ シヌ ンブンナンツノ  
テレビと 新聞と 言えば 昔は 新聞などというもの

トッテットゴ ホントニヌ スグネガッタベネ。  
は 取っているところは 本当に 少なかつたろうね。

B ネーガッタダベオ。  
なかっただろうよ。

A ンー ラジズ オワ アンダダジズ ナ イツコロガラ。  
うん、 ラジオは あなた方は いつころからなの？

C ソシヌ テネ。  
そしてね。

B オラネ シューセンゴデガスト ラジズ オ ウーン。  
俺はね、 終戦後ですよ ラジオは。

C シューセンマエ アノ マツコカネー ソノ タイ ショーワログ  
 終戦前に 松子が その 昭和六  
 ネンウマレノ ワラジスガ ライネン モスカモ ジョカッコーサ  
 年生まれの 子どもが 来年 しかも 女学校に  
 イレデナード オモッタキオグアッカラ ワレ ヘンネガラネ  
 入れたいなあと思った記憶があるので、自分が 入らないので  
 イモートド ムスメ ジョカッコーサ イレダキオグ アッカラ  
 妹と 娘を 女学校に 入れた記憶があるので  
 ゴシヘンズズ タメデダノデ ラジズオ カッタタオネ。 ソノ  
 五 銭 ずつ ためてたので ラジオを買ったのだよ。 その  
 シューセンノ ドギネ ワガマツツァント オラエダゲダッタモ。  
 終戦の 時に 若松さんと 私の家だけだったもの。

A ラジズオ ホー。  
 ラジオが？ ほう。

C シンソーシスタツケ ホラ ワガマツツァンテ マズ  
 うん。 そうしたら ほう、 若松さんという家は。 まあ  
 コーユードゴダガラ ムガシスカラノ ダーレモ オショシスガラ  
 ンという立派な家だから 昔からの 誰も 恥ずかしくて  
 イガネンデガステ。 オラエサ ミーンア アズバツテサ アノ  
 行かなかったんですよ。 私の家に。 みんな 集まって あの  
 シューセンノ アイズ キーダンダヨ。  
 終戦の あれを聞いたのだよ。

A アイズ キーダノ ラジズオデ。  
 あれを聞いたの？ ラジオで。

C ゴーセシズズ タメデダノデ ラジズオ カッタノネ  
 五 銭 ずつ ためてたので ラジオを買ったんだよ。

ワラストズサ キカセシデクテ。 シ<sup>ス</sup> タツケ オヤズ<sup>ジニ</sup>  
子どもたちに 聞かせたくて。 そしたら、 父親(夫)に  
モッテネー ソナモノカッテ。(A 笑い) (笑い)  
勿体ない そんなものを 買って。

A ホンニ<sup>ス</sup>ネー。 (C ウーン)  
ほんとにねえ。

B ラジ<sup>ズ</sup>オズノワ シュ ホニ<sup>ス</sup> シューセンマデワ ホドントネ  
ラジオ というのは、 本当に 終戦までは ほとんど  
イードゴデネバ ホニ<sup>ス</sup> ネガッタベ アンダ アノ テレビノ  
いい家でないよ 本当に なかっただろうね。 あなた方、あの、テレビの  
ラキュー ハエンダナー。  
普及は 早かったよね。

C ンダオネー。 ソシ<sup>ス</sup> テ ヒルマワネ アノー ウダ<sup>ン</sup> ミンヨーナン  
そうだね。 そして、 昼は あの 歌、民謡などを  
カ キカセデサ。 シ<sup>ス</sup> テ タダミヤデ カセーデル ヒタズサマデ  
聞かせて、 そして、 畳屋で 働いている人たちにまで  
キケルヨーナ アリヤ ナンダ<sup>(17)</sup>ガ ツケデ ヨルワ ソノ  
聞こえるように あれ あんたかを つけて 夜は  
オナゴワラシ<sup>ス</sup> タジ<sup>ズ</sup> イモートド ソノ ワラシ<sup>ス</sup> タジ<sup>ズ</sup>  
女の子もたち、 妹と その 子どもたちか  
ゴニ<sup>ス</sup>ンモ ログニ<sup>ス</sup>ンモ アッカラ ソイズラサ ベンキョー  
五人も 六人も、 居たから、その人たちに 勉強  
サセンノネ。 ヨルダゲダッタモ オラエデ(A ンー) ワラシ<sup>ス</sup> タ  
でせるのだよ。 夜だけだったものは、 私の家で。 子どもたちは  
ジ<sup>ズ</sup> ミン<sup>ナ</sup> バシャノ テズダイニ<sup>ス</sup> アルグノダオ アサダノ  
みんな 馬車の 手伝いに 歩くのだよ、 朝や



ヨル オレモ サセライダガラ ケッキョグ フラジス タズモ  
校、 私モ サセられたから 結局 子どもたちモ  
ソー サセダンダネ ヨルダゲ ベンキョー。  
そう(守伝いを) サセたのだね。 夜だけ 勉強だった。

A ~~~~~ ショーフニジズーネンアダリマデワ ラジズオモ  
~~~~~ 昭和二十年頃までは、 ラジオモ  
メズラジスガッタナ。  
珍らしかったのだよ。

B シンホンデ ~~~ マズ メズラジスガッタベネ。 オラモ  
うん、 それで ~~~ マズ 珍らしかったろうね。 俺モ  
シューセンゴナンダオ ラジズオナンテ イレダノ。  
終戦後だね。 ラジオなどというものを 置いたのは。

C ハー シューセンメーニヌ カッテネ ログネンウマレカ  
はあ、 終戦前に 買ってね。 六年生まれが  
ショウカッ ジョカッコーサ ヘットギ ヘルメーニヌ カッテ  
xxxxxxxxx 女学校に 入るときに 入る前に 買って  
アレジスタッター ホーントーニヌ ビンボーグラジス  
あれをしたね。 ほんとうに 貧乏暮らし  
セーイッペー。 イヤー  
精一杯ね。

B マ ジスカダネンダナー。  
まあ、仕方ないねえ。

A ~~~~~。  
~~~~~。

C シンダガラネー ホーニヌ オラー フラジスカラ オカルドギノ  
だからね。 本当に 私は 子どもの時から 大きくなる時の

ゴド ミンナ ヨメゴサ キテノ ズーットノゴド ホニエ  
 こと、みんな 嫁に 来月から ずっとのこと 本当に  
 ナンニエガ コー カイデ ミデモンダナド モッタッテ  
 何か 書いて 見たいものだ と 思っても  
 ソノトーリル ヒマモネージュサ カセシガネバネスス。  
 今の通り ひまもないし 働かなければならなかったしね。

A カグ カグツモリルデ コー カダラエンヤ (笑い) カグミダネ  
 書くつもりで 話しをしないよ。  
 (118)  
ーガラ。

C ヒマネージュネ。 ホントニエ ホニエ イマ カンゲレバ  
 ひまがないしね。 ほんとに。 本当に。 今 考えてみると  
 ヒデガッタナーツツゴド ハ ソロソロ ワシエルヨーダネ。  
 大変だったなあ というんとは、そろそろ 忘れるようだね。

B モー ワシエスタベジャ ハ。 ~~~~ ワラズシタズ オーキグ  
 もう 忘れたでしょう。 ~~~~ 子どもたちは 大きく  
ナッタオナー。  
 なったしね。

A ワーシェラエネゴド アルサ ウーン。  
 忘れることができないこともあるよね、うん。

C ワシエダネー イズー イズー イショ コシエデ コノ  
 忘れたね。 いつ、 いつ、 着物を 作って  
 ワラシヤドサ キシエダッタベド オモイヤスカ。 ダーレ  
 子どもたちに 着せたのだろうか と 思いますよ。 なにせ  
 キョーダエ イッペダ イエバダドモ キョーデー イッペナンダ  
 兄弟が たくさんだった。 言ってみれば 兄弟が たくさんなんだ

オナ ホントニヌ。

よ、 本当に。

A マサカツァン ナンボデ ヨメゴ モラッタ ヨメゴッテ

正 勝さんは 何で 嫁を 貰ったの？ 嫁って

ヨメゴ モラッタノガ ムゴサ キタンダガ ドッチ。

嫁を もらったのか 聲に 耳たのだから、どっちか。

B オレワ ニ ニジュー オレ ニジューシス。

俺は ニ十 俺は ニ十四才。

A ハー ソノドギ。 ( <sup>B</sup> ン ン ジェ コドモワ ニジューシスズ。 )  
ああ、その時。 うん、 子どもは ニ十七才の時

ン マダ ヘッカ ヘッテガラ ケッテキタド チカウガ。

うん まだ 兵隊から 帰ってきた時と 違うか。

B ア ケッテキタ。 ( <sup>A</sup> ア ) ウン。 ( <sup>C</sup> ンー ンー )

ああ 帰ってきたよ。 うん。

A カラマズジニヌ<sup>(119)</sup> イタドギガ。

川原町に 居た時なの？

B ンダオ シス テー ヒサオワ <sup>(120)</sup> ニジューシスズッノ コガ。

そうだよ、そして、 久男は ニ十七才の時の 子どもかな？

A ンダベネ。 ( <sup>B</sup> ン ン )

そうだろうね。

D ソノコロ ケッコンシキト イマノ ケッコンシキトワ ズイブン

その頃の 結婚式と 今の 結婚式とは ずいぶん

チカッテルンデスカ。

違っているのですか。

B ンー ヤッパリ。

うん やっぱり。

C アンマ<sup>リル</sup> チ<sup>ッ</sup>カ<sup>フ</sup>ネンデネガスカ。  
あんまり 違わないのじゃないですか。

A ヨースルニ<sup>ヌ</sup>ッシャ イマー ホラ ソー<sup>ソル</sup>ヤナンテデ  
つまり、 今、 ほう 料理屋などで

ヤッケントモ ソノ アダ<sup>リル</sup> エデ ヤッタ<sup>ン</sup>ダオ。 ( <sup>C</sup> エデ  
やるけども その 頃は、 家で やったんだよ。 家で  
ジ<sup>ス</sup> タダゲデネ。 ) モジ<sup>ズ</sup> ツイデ カナラジ<sup>ズ</sup> モジ<sup>ズ</sup> ツイダオネ  
しただけでね。 ) 餅をついて 必ず 餅をついたものね  
ゴ<sup>シ</sup> ユキ<sup>ノ</sup> ドギ ハ。  
御祝儀の 時はね。

C エデ ジ<sup>ス</sup> タダゲデ ツ<sup>チ</sup>カ<sup>フ</sup>ネーネ。 ( <sup>B</sup> ンー ンー マズネ。 )  
家で しただけで そのほかは 違わないね。 うん、 うん、 まずね。 )

A マーズ ソンデモ。  
まず それでも。

D コノアタ<sup>リ</sup> シキタソッテ ドンナ シキタ<sup>リ</sup>ノ ケッコンシキ  
このあたりの しきたりというのは、どんな しきたりの 結婚式を  
ヤッタ<sup>ン</sup>デスカ。  
やったんですか。

A ヨメカー ハー。  
嫁が はあ

C マーズ ミアイナンツゴド ネース。  
まず 見合いなどということは ないしね。

A ミアイナンツゴドモ オヤ キメデ ジ<sup>ス</sup> マウンダガ<sup>ラ</sup>ネ。  
見合いなどということも、親がきめて しまうのだからね。  
( <sup>B</sup> ムガ<sup>ジ</sup> アネ。 ) アド サッキ イッタト<sup>ー</sup>リ<sup>ル</sup>ネ。  
昔はね。 ) その他は、 方才 言った通りにね。

- C ソジステ チョット アレナドゴデァ ソノー カドイレッテ<sup>(121)</sup>。  
 そして ちょっと ソっぱな家では その「門入れ」と言て。
- A ア カドイレズゴド ジスタノ。  
 ああ、「門入れ」というとをしたの？
- C ゴシュギ ジス ネウズニヌネ イッカイ ~~ハッハ~~ タ キタンダオネ。  
 御祝儀を しないうちに 一回 婚家先に入ってきたんだよね。
- A カドイレタド。  
 「門入れ」だて。
- C オラー ソンナゴド ツカゲ<sup>(122)</sup> テエデコライダゲントモ。  
 私は そんなと いさなり 連れて来られたけれどもね。
- A ~~ブッ~~ ツ ブッ ツゲホンバンダッタ。(笑い)  
 ぶつつけ本番だったね。
- C ソーユー ブッ ツゲホンバンダガ。  
 そういふ ぶつつけ本番だね。
- B コンダ アノ フグミサ<sup>(123)</sup> タワラガラ ヤッパ モ モラウゴドニヌ  
 今度 あの「福三」に 田原から やっぱり 嫁をもらうんとい  
 ジスタノデサ ジステ ナー ヒサオナー マズ タノマレナゴ  
 したのだね。 そして、 は、 久男は まず 頼まれ仲人  
 ドニヌ オレ ヤルノダゲントモ マズ ヒサオ オメア クジズ  
 に 俺が やるのだけれども、「まず 久男 お前が ロを  
 カゲタノダカラッテ ンデア ナンダツケ ンードネ ンー  
 かけたのだから」と言て それで なんだって ええとね うー  
 ナンダツケ アイズワー テウジズ<sup>(124)</sup> ザゲガ アレ タデデネ  
 なんだって あれは 「手打酒」か あれを しつ  
 ンデ オレ サギニヌ ホントアー アノー オラ デイソドガ  
 それで 俺が 先に 本当に あの 俺 「出入」とか

ナンツノ イマ カタル アレ <sup>(125)</sup>  $\left( \overset{A}{\text{デイリソメダ}} \right)$  ン。  
なんというの、今 言っている、あれは、「出入り初め」だ。」 うん。

デイリソメネ アレ ヤラネウジズニヌ オレ マダ アノー  
「出入り初め」ね、あれを やらないうちに、俺は まだ、あの  
ナンスダー アリヤ アノー ナンダ アイズ ナンツモンダツケ  
なんと言っただろうか、あれは、 あれは なんというものだ。

アノー ンード ナニヌガ タデルノ。

あの、 ええと なにか 用意するもの。

C カドイレ。

「門入れ」？

B ~~カ~~ カドイレダネグ アリヤ。  $\left( \overset{C}{\text{サゲタデ}} \right)$   $\left( \overset{A}{\text{サ}} \right)$   $\left( \overset{A}{\text{コザケ}} \right)$   
~~カ~~ 「門入れ」ではなく、あれは、  $\left( \text{「酒たて」？} \right)$   $\left( \text{「小酒」} \right)$

$\left( \overset{(126)}{\text{コザケ}} \right)$   $\left( \overset{(126)}{\text{コザゲ}} \right)$   $\left( \overset{(126)}{\text{コザケツコ}} \right)$   $\left( \overset{(126)}{\text{コザゲタデダガラ}} \right)$  ソノアド  
「小酒」「小酒」「小酒」？) 小酒立てたから そのあと

デイリソメシス ネデル ウジズニヌ アリヤ アノ ホラ アノ  
「出入り初め」を しないでいるうちに あの ほら

アリヤ ナンダッタ アリヤ アノ ナンダガ アレ ヤッタリル  
なんと言っただ、 あの なにか やったリ

トッタリルスルモノヨ。  $\left( \overset{C}{\text{ユイノー}} \right)$  ユイノー。  
取ったリするものよ。  $\left( \text{「結納」？} \right)$  「結納」。

A ユイノー ハ ムガシスカラ ユイノーダ。

「結納」は 昔から 「結納」だ。

B ユイ ユイノー ユイノー サギ ヤツテカラ デリソメダト

「結納」、「結納」を 先に やってから 「出入り初め」だと

オモッタレバ デリソメヤツテデガラ アド ソノママ イーバ  
思っていたら、「出入り初め」をやってから、そのあと、そのまま良ければ

モラウノデ ディソソメワ サギ サシエデデ イッテ  
 貰うので 「出入り初め」は 先に させていて、 行って  
 トマッタリル キタリル スンノナンダモナ。(C ホー。) デ  
 泊ったリ 来たり するのだものね。(ほう。) それで  
 イマ ヤッテルンダ デイソソメ。 ヤッテネー ヨメコダ  
 今 やっているのだよ。「出入り初め」を。 やっているのだ。 嫁御は。  
 イッテ トマリサ イッテ トマッタリル アド。  
 行って 泊りに 行って 泊ったリ、 それから。

C ムガシス フーダネ。 イマワ。(B ンー) ンー ヤッパリルネ。  
 昔 風 だね。 今は やっぱりね。

B ソジステ アルドッカラ イワレダンダヨ。 ジャー フグミクン  
 そうしたら ある所から 言われたのだよ。 やあ 福三君

ソイナ ディソルソメサシエダノ サシエデ ナジョナゴドニヌ  
 そのような「出入り初め」を させて どんざんとして

ジステアンス ダガラ オレ ンダー コレナダッケ  
 するつもりですか。 だから 俺は、 なに、 これなのだよと

ツタノサ。 アノー マズー マルヤサー バンサ キテ  
 言ったのです。 まず 「おるや」に おばあさんが 来て

ソジステ ナニヌノ ヒ<sub>xxx</sub> ジステ ディソルソメ ナニヌ  
 そして 「出入り初め」を

ジスタンダスケ。 ソシテネ イッテ トマッタリル ジスタリル  
 したんだそうだ。 そしてね、 行って 泊ったリ (たり

ジステサ ジスタバ アルヒトガラ ムガシスー ソノ  
 して、 そうしたら、 ある人から 昔は

デイソルソメズノ サギ ヤッテネー ソジステ ナンボクレ  
 「出入り初め」というのは、 先に やつて そして どれくらい

ツトメル ヨメゴダガ ナンダガ ソイズミム デ。

しっかりやる 嫁だか どうだかを 見て。

A ン ン オドツツァン オガサンナ。

うん。 父親と 母親がね。

B スツツダネ オガサンミデ ソジス テ アド ア ~~オガ~~ オドツツァン

すると、 母親が見て そして そのあと 父親

オガサン ~~モ~~ モゴ ハ モジズ ロン イガベドモ ソジス テ  
母親 聲 は もちろん いいだろうが。 そして

オイデデモ オンツァマダノ オバサマ キテ ナーニヌ

(聲の家に) 置いていと。 おじさんや、 おばさんが来て、 なに

アンタナノ モラッタラ アド クロースンダツテ

あんな嫁を もらったら 後々 苦労するだろうと

ソイグナルンダド。 ンダネバ デイソルソメ サセルンダラバ

そういうことになるのだ。と言われた。 だから「出入り初め」をさせるのならば

ハヤグ ハ アノー ~~カ~~ アレオ アリャ アノ (A ユイノーガ)  
早く あの 結納か?

ノー チャント ハ ケツコントドゲジス テ (A ン ユイノー  
確実に 結婚届けをして うん、結納

ジス テ) ギツツケソルジス テ ジス マネバ アト ハンザズニヌ  
して しっかりして ほめないと あとで面倒なことに

ナンダゾナンテ ユウ ~~~~~ ユー ヒト アツタンダツケガネ。

なるのだよなどと 言う 人が あったんだよ。

A ナーニヌ ソンデモ イマー ムガジス ダレバシャ オドツツァン  
なあに それでも 今、 昔ならば 父親

ダノ オガサンダノ ソノー ジスンセギノ ホー サギニヌ

とか 母親とか 親類のほうを 先に



キメンダ。 イーマ ホンニ<sup>ニ</sup>ソンドーシ<sup>ニ</sup>ダオネ ( <sup>B</sup> ン ン デ モ )  
きめたものだ。 今ほ 本人 同士 だからね。 うん ても

アノト<sup>ニ</sup>ゾル フグミダガラネ。 ) ホンニ<sup>ニ</sup>ソンドーシ<sup>ニ</sup>ノホア  
あの通り 福三 だからね。 本人 同士 の ほうが

ユーシェンシ<sup>ニ</sup>テ キメラシェライツカラ。

優 先 し て きめるンと になっているからね。

B ン デ ヤ ッ パ ム ガ シ ニ ド ー シ ル ナ ン デ ネ ン デ イ ソ ソ メ シ タ リ。  
ても やっぱり 昔 通り なのだよ。 「出入り初め」を したり。

A ン ダ ホ レ キ メ ル ヒ ト ガ ホ ン ニ ン。 ム ガ シ ニ ミ デ ニ ン  
そうだと。 それ、 きめる 人が 本人 なのだと。 昔 のように

オヤズ オホ ア ノ ー。

父親や 母親、 あのお。

B デ イ ソ ソ メ モ カ ド イ レ モ オ ン ナ ジ ズ カ。

「出入り初め」も 「門入れ」も 同じなのか？

C ソ ン ダ ネ ソ ダ ベ ネ。

そうだとね、 そうでしょう。

A カ ド イ レ モ デ イ ソ ソ モ ( <sup>B</sup> ン ン オ ナ ジ ズ ) オ ン ナ ジ ズ ダ。  
「門入れ」も 「出入り初め」も ン、 同じだとね 同じだと。

カドイレズノア カドイレ デイソソメ ドツツチ

「門入れ」というのは、 「門入れ」「出入り初め」 どちらを

カダツテダ<sup>ニ</sup>ンダ ムガシ<sup>ニ</sup> ソーポー カダツテラガ<sup>ニ</sup>ナー。

言っていたのだろう。 昔、 両方 言っていたのかなあ。

ンダガモシエネ<sup>ニ</sup>ー。 ( <sup>B</sup> ン ダ ベ ナ ー ) ( <sup>C</sup> オ ナ シ ニ ゴ ド ダ )  
そうかもしれないよ。 ( そうだろうね。 ) ( 同じンとだよ。 )

ト ニ ニ カ グ オ ド ム ガ シ ニ ア ー オ リ ョ オ ヤ ズ ダ ノ  
とに かく 昔 は 父親や

オフグロカ オモナノデ イマワ ホンニ<sup>ニ</sup>ソンドーシ<sup>ニ</sup>カ  
母親が 主だったのが 今は 本人 同士が

オモナノデ タダ ソゴカ チックダゲダネー。 ( <sup>B</sup> ンー  
主なので、 只 ヤンガ 違うだけだね。 うん。

ンダベネー ) アド<sup>ア</sup> ゴシュギノー ンー ゴドナンツノモー  
そうだろうね ) そのほか 御祝儀の ンとなどというのは

ハー ムガシ<sup>ス</sup> ゴシュギノ バン モゴモー ヨー

昔は 御祝儀の 夜は 聲は 用が

ネガッタンダオネ。 ( <sup>B</sup> ンー ナニ<sup>ニ</sup>ー。 ) オメナド ソッチ  
なかったんだよ。 うん、なにしろ。 ) お前など そっちに

イッテロデ ハ。

行、ていなさい。というンとで。

## 注記

- (1) 話者の祖母。
- (2) 魚・握り飯などを焼く時に使う金網。
- (3) 三種類の穀物。どれどれを指すかははっきりしない。
- (4) 朴の木の子葉。広く大きな葉。握り飯を包むのに使った。
- (5) 背中に背負った風呂敷包を、胸のところで結ぶこと。
- (6) 「お振舞い」結婚披露宴など祝い事。
- (7) 「食べせられ」
- (8) 割り当てられた仕事の量。
- (9) 田圃にまく肥料の一種。大正時代から昭和10年頃にかけて、満州から輸入したもので、大豆のしぼりかすを固めて乾燥させたもの。60センチ、80センチぐらいの長方形で、かなり重い。
- (10) 擬態語。標準語で適当に訳す語がない。体にかなりこたえるような重さを持ち、しかも密度のある容量のものについていう。
- (11) 同上。
- (12) 春に田圃を掘り返すこと。田面をかきならして平らにすること。
- (13) 肥料店の店名。
- (14) 同上。
- (15) まるい玉にして重ねたもの。
- (16) 擬態語。へんんでいる状態。
- (17) 「居るけれどもね」
- (18) 「鬼ジッコン」の遊びに似た遊び。
- (19) 「お手玉」の方言。
- (20) 人形遊び。厚紙などで作った人形に、色紙の着物を着せたり、ぬがせたりして遊ぶ。
- (21) めんこ遊び。
- (22) 蜂の巣を焼いたこと。
- (23) 家の両側面にある切妻屋根の端の山形としたところ。煙出し。
- (24) 巣を作ることを「巣をくう」と言う。
- (25) 「ケツケナゲ」と「イシコハジキ」とは、別だという人と同じだとい

う人があった。

- (26) 遊びの説明。
- (27) 遊びの一種。
- (28) 「じゃんけん」の別の言い方を思い出そうとしている。
- (29) 隅
- (30) 前後の意味があまり通じない。
- (31) 担当研究員に対する問いかけ。
- (32) 擬態語。無理やりに。
- (33) 目を指す。
- (34) 「餅を下さいこんこ」という意味のとなえ文句。
- (35) 相手に対する呼びかけのことば。
- (36) 手で示している。
- (37) 髪の結い方の一つ。
- (38) 手で形を示す。
- (39) 「桃割れ」を指す。
- (40) 女の子たちの髪の結い方に、注目していたことを言おうとした。
- (41) 「夫」を指す。
- (42) たくさん落ちる状態をあらわす擬態語。
- (43) 「から」「けれども」の二つの接続助詞がつづいた表現。
- (44) 「しうれな いば」の約形。「出来ない」の意味。ただ、その直前から意味がはっきりにしない。
- (45) ことばを続けようとして、そこで途切れる。
- (46) 同上。
- (47) 軍隊で、自分の所属していた分隊。
- (48) 量の非常に多いことの擬態語。
- (49) 「切れて」か「布で」かはっきりしない。前後の意味から「切れて」としておく。
- (50) 地名。
- (51) 「タゴズグ」の連用形。「つかまってい」の意味。
- (52) くじ引き。

(53) 「つばいもも」。桃の一品種。古くから東北・北陸などで栽培。果実は桃よりやや小さく、外面に毛なく、紅熟して光沢を有する。

(『広辞苑』)

(54) 「ぐみ」。木になる小さい赤い実の植物。

(55) 木の実の一種。

(56) 御飯を流し込む状態を示す擬態語。

(57) 「そのようにして子ども時代を過ぎたんだよ」という意味のことを言いかけて、途切れる。

(58) 意味が理解できない。

(59) この部分、目の前を飛んでいた蠅を言っている。

(60) 甲虫とは別種の虫。

(61) これが甲虫。

(62) 山の名。ただ、当てる漢字があまりはっきりしないらしい。「ジロジロ山」とも言う。

(63) 「丹後塚」。会話ではタンモズカと言っている。間違っ覚えていたらしい。

(64) 間違っ言い方。

(65) 娘の名前。

(66) 来客の声。

(67) 来客に対することば。

(68) 来客のことば。

(69) 来客に対することば。

(70) 来客に対することば。

(71) 来客に対することば。

(72) 「リャグシテ」(略して)とも聞かされる。

(73) 旅館の人のことば。

(74) 同上。

(75) 同上。

(76) 「地郷弁」。

(77) 「集まる」の意。

- (78) 気取った東京弁。
- (79) 同上。
- (80) 話が途切れている。
- (81) 「糞」の意味。
- (82) くり返し。
- (83) 意味不明。
- (84) 方言的な表現のつもりだが、実際は方言にはなっていない。
- (85) 「むしろ」や「わら」で方形に作った袋。
- (86) 「値」
- (87) 靴全体がゴム製の短靴。靴先が丸いので、この名称があるのかも  
しれない。
- (88) 「ゆずけ」と言う。雪の上を歩く時に穿くわら靴。
- (89) 町の実力者「依田栄二郎さん」の経営している店の屋号。
- (90) 「たける」。身につけること。
- (91) 「肥やし上げ」というのは、便所から人糞を桶に入れ、田畑に撒き  
散らすこと。
- (92) 人名。
- (93) (94) いずれも地名。
- (95) 地名。
- (96) 「菊正」というところを「マルショー」と言い間違えている。
- (97) 店の屋号。
- (98) 「返答」。相手の言うことに文句をつけたり口答えをすること。
- (99) 「舅お父さん」。ここでは「姑親」つまり夫の親を指す。「しうとめ」  
のこと。
- (100) 話手の夫の名前。
- (101) 「舎弟」。「弟」のことだが、話者の弟である。
- (102) 古くからの特産品。
- (103) 「セやかましくないこと」。「いろいろうるさいこと」。
- (104) 録音を何度きき返しても「カコッコヨメコ」と聞こえたが、あとで  
話者に確かめたら、「カオッコヨメコ」のよし、つまり、「顔の美しい

ことでもうわれた嫁」の意味。

(105) 運送業。

(106) 話があったところに、そのままやっってしまうこと。

(107) Cの話のこの部分は、話されたことばだけでは正確に意味をつかみとれない。内容は次のようなこと。夫の兄弟に女(の子ども)が多い。十二人の兄弟の最後が女だった。

(108) 「オトコ」と言っているが、「オンナ」の言い間違い。夫の兄弟の最後に女が生まれ、それにつづけて話者の子どもが五人とも女だった。そこで、この家では六人つづけて女の子どもと言うことになった。そして最後にようやく男の子が生まれた。

(109) 「カズ」とか「カズヤン」とか呼んでいる。話題の息子の呼名。ただし正式の名前は不明。

(110) 「気性腎」

(111) Bは「空手」の意味がわからなかったらしい。

(112) 水沢高等学校。

(113) 「中隊長」。「中風」のこと。

(114) 東京の本社で。

(115) 「小さいのにして」。いつまでも小さい子どもとして。

(116) 「そこに」の意味。

(117) 「なんだか」、拡声器の何とか。

(118) 意味不明。

(119) 川原町。岩谷堂の町名の一つ。

(120) Bの息子。

(121) 「門入れ」。結婚式を後ですることにして、実質上の結婚をするのと。

(122) だしぬけに、いきなり。

(123) 「福三」、名前。

(124) 「手打酒」。嫁、智双方の家の親たちがそろって、酒をくみかわすこと。また、その酒。

(125) 「出入り初め」。あとで説明があるように、「門入れ」と同じ。

(126) 「小洒立て」。結納の取り交わしをし、正式に婚約すること。



## II. 宮城県 わた り亶理郡 わた り ちょう あらはま亶理町荒浜

収録・文字化担当者 加 藤 正 信

## A 収録地点とその方言について

### 1 地点名 宮城県亶理郡亶理町荒浜

### 2 収録地点の概観

位置——宮城県東南部

交通——仙台から東北本線・常磐線で約40分、亶理駅下車、バスで東へ約3km、10分の終点。

地勢——阿武隈川の河口の南側に位置し、東は太平洋、北は阿武隈川をへだてて岩沼市・仙台圏に対し、西は亶理町中心部とその西の標高100～200mの阿武隈丘陵の最北端が横たわり、南は沼・潟および海岸小平野が福島県境へと続いている。県下一温暖な地域。

行政区画——この地方は古代陸奥の国から石城国に分割され、中世は亶理氏の支配、近世は伊達氏の支配下となる。亶理に伊達の分城が置かれ、荒浜はその亶理伊達氏の知行地であった。

明治22年に、北隣の高須加部落とともに荒浜村となり、昭和18年に荒浜町となる。昭和30年に荒浜町(人口5454人)、亶理町(人口2014人)、逢隈村(人口5143人)吉田村(人口4014人)とが合併して、亶理町となる。

戸数・人口——昭和54年9月1日で、戸数6262戸、人口27864人。年々増加の傾向にある。

主な産業——近世、阿武隈川の河口港として、内陸の福島方面、海を通じて遠国との廻船で栄えた。現在は半漁、半農、南にある潟、鳥ノ海におけるカキ、ノリの養殖がなされている。

### 3 収録した方言の特色

#### ① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

宮城県の方言は、東北方言の中でも、山形県内陸部や福島県と同じく南奥羽方言に属するとされており、全県下、旧伊達藩

領のため、県内の方言差はあまりないとされている。しかし、県北のアクセントのある方言と、仙台および県南のアクセントのない方言とに大きく分けることができる。さらに、県南でも、福島県境方面には単語などある程度、福島方言が侵入している。収録地方の方言は、その県南方言のうち、県境ほど著しくはないが、若干、福島的な現象もある。しかし、大きくは県南の代表的な方言であり、仙台方言などと似た性格を持っている。

## ②音韻上の特色

- ① 「イ」と「エ」を区別せず、「息」と「駅」、「鯉」と「声」を同じに発音する。実現される音声は、東京語の「イ」と「エ」の中間的なものより、やや「エ」に近い[e][ɛ]であるが、これはこの方言のエ段音一般と同じであるので、この方言は「イ」を欠くことになる。
- ② 子音と結びついたイ段音とエ段音とは各行にわたって区別があるものの、イ段音は中古の[i]、エ段音は上述のようにせまい[e][ɛ]で音声的には近い。
- ③ 「シ」と「ス」、「ジ」と「ズ」、「チ」と「ツ」の区別をせず、「梨」と「茄子」、「知事」と「地図」、「乳」と「土」などを同じに発音する。実現される音声は、東京の「シ」と「ス」の間より「ス」に近い中古母音を持つ[sü][dzü][tsü]などである。これらは、体系上「ス」「ズ」「ツ」ということになる。
- ④ 上記以外の行のイ段音とウ段音はそれぞれ中古の[i]、中古の[ü]で音声的にはかなり近いが、一応区別はされている。
- ⑤ 「シュ」「ジュ」「チュ」にあたるものが長音、短音とも、ほとんど「ス」「ズ」「ツ」に発音される。「手術」[sü~dzüdzü]など。
- ⑥ ア段音に母音単独音節のエが連なる連母音「アエ」（東京語の「アイ」「アエ」にあたる）は規則的に広い「エー」[ɛ:]になっており、本来の「エー」[e:]と区別される。たとえば、蠅[hɛ:]（塀[hɛ:]と区別される）。これは各行にわたって見られる。この方言には[a, i, u, e, o]のほかにもこのような[ɛ]もあるので、6

個の母音を持つことになる。

- (17) 「ユ」の音が摩擦で発音され[ɸ]となる。たとえば、「言う」[ɸü:], 「お湯」[oɸü]。この音は、「図」など本来の「ズ」の音[dzü]と区別される。「ヨ」「エ」についても、まれに、あるいはかすかにこの摩擦の聞かされることがある。
- (18) 語頭以外のカ行音・タ行音は、原則として、有声化し、「竹」は[taɟe], 「的」は[mado]となる。これは若い世代でも盛んである。ただし、無声母音に接する場合、促音、撥音の直後では有声化しないのが普通である。
- (19) 語頭以外のガ行音は鼻音である。したがって、上記のカ行の有声化音とは区別される。
- (10) 語頭以外のダ行音・ザ行音・バ行音は、直前に軽い鼻音を伴って、たとえば、「窓」[ma~do], 「ひざ」[ɕi~dza], 「壁」[ka~be]のようになることがしばしばある。これによって、ダ行音は上記(8)のタ行音の有声化したものと区別される。ただし、この軽い鼻音を伴う現象は老人のみ、しかもまったく規則的というわけではなく、この録音においても時々しか現われていない。
- (11) 逆に、語によっては「あずける」を「アツケル」, 「首」を「クソピタ」というように鼻音プラス無声音となる傾向へもある。
- (12) 「セ」「ゼ」は口蓋化して[ɕe][ɕe], [dɕe]と発音される。
- (13) 「キ」「ギ」は口蓋化して「チ」「ジ」に近い[ci][cɕi], [ji]のように発音されるが、本来の「チ」は「ツ」, 「ジ」は「ズ」と発音されるので、混乱は生じない。
- (14) 「シ」にラ行音を接する場合、促音的に[ʃʃ]が現われる。たとえば「白い」[ʃʃoe], 「知らない」[ʃʃame]など。
- (15) アクセント  
「箸」と「橋」などを区別することのない、無アクセント方言である。その時の感情や言いまわしで、語にその場かぎりの高低のつく場合もあるが、一般には平らかやや尻上がりのイントネーションである。

### ③ 文法上の特色

- (1) 動詞の活用に関係するものとして、ラ行五段や一段動詞に「カラ」「ケンドモ」「ベー」「トキ」などが接続すると、「降ッカラ」「降ッケンドモ」「降ッペ」「隣ットキ」のように促音便となる。ほか個別的には「歩く」が「歩ッタ」,「行く」が「エンカラ」などとなる。
- (2) 推量,意志ともに「ベー」を使う。「ベー」が音便で「ペ」となる場合は前述の通りである。
- (3) 過去,完了だけでなく,現在の強調,存在の確認などに「タ」を使う。たとえば「居タカ」(居ますか)。
- (4) 過去の回想,大過去に「タッタ」を用いる。
- (5) 目的格を示す格助詞「を」にあたるものは使わず無助詞である。この位置に「本バ読む」のような「バ」が現われることもあるが,これは格助詞というより,むしろ強調の係助詞と思われる。
- (6) 主格を示す場合も比較的無助詞が多い。内省による文法調査では「カ」「ワ」「ア」などが得られるが,録音を勧察すると,主格の無助詞傾向も大変強いことに気づかれる。
- (7) 方向を示す助詞に「サ」があり,共通語の「へ」のほか「に」の一部(「東京に」など帰着点,「机の上に」など存在場所,「遊びに」など目的)に使われている。
- (8) 敬語はあまり発達していず,特に文中の主語になっている第三者への尊敬表現はほとんど使われていない。
- (9) 命令や勧誘をていねいに表現する「読マイン」「読マッセ」は比較的多く使われる。ただし,後者は福島方面からの影響か。
- (10) ていねい表現は「行ギス」「読ミス」のように連用形プラス「ス」が用いられている。
- (11) 間投助詞には「ナ」「ナレ」「サ」「シャ」「ネレ」などがあって,この順にていねいの度合いが強くなって行くようである。「シャ」の発音は「シャ」と「ヒャ」の中間音[ɸa]である。

- (12) 終助詞のうち「ッチャ」が目立つ。これは「よ」「めはずだ」「じゃないか」などのニュアンスを持つ。これに推量・当然の「ベー」のついた「ベッチャ」も使われている。

#### 4 地点選定の理由

- ① 仙台市は都会で方言の残存度が少いので、その郊外の当地を選んだ。仙台の北はアクセント、イントネーションが仙台と異なるので、南側の郊外を選んだ。
- ② この町は、担当者が昔居住し、また非常勤として高校に勤務したこともあり、仙台市以外では最も土地の様子を知っていた。
- ③ 50年、51年に仙台市の西側で加藤が収録した会話は、録音・話題ともよいものではなかったもので、のち、ここに変更した。ここは、熱心で綿密な現地の世話係（教育委員会の木村氏）が得られて成功した。

#### 5 作業分担

ここに収録したものは、協力者佐藤和之が録音作業を行い、文字化・注は担当者の加藤正信が行った。なお、文字化したものの原稿を、後日、加藤が録音を再生しながら全部話者に点検、確認を乞い修正した。また、佐藤も録音と文字化原稿を照合し意見を述べた。

#### B 表記について

音韻記号としてではなく、発音式のカタカナを用いている。特殊なものについては、次に箇条書きで示す。( )内は、A3②「音韻上の特色」にしるした事象の項目である。

- ① 「イ」と「エ」、「シ」と「ス」、「ジ」と「ズ」、「チ」と「ツ」などの音声は中間的であるが、一応、「エ」「ス」「ズ」「ツ」などに統一した。ただし、特にはっきりした、きれいな「イ」「シ」「ジ」「チ」が聞かれる場合はそのまま表記した。(1)(3)
- ② 広い[ɛ:]は「ヶァー」「テァー」とし、「ヶー」「テー」などと区別して

示した。(6)

- ③ 「ユ」などの摩擦の強いものは「ズ」と表記した。そして「注」でその旨音声記号などで示した場合もあるが、多くは下の共通語記の単語との対比で見当をつけることになる。(7)
- ④ 語頭以外の無声子音の有声化は、録音で聞きとれればカナに濁点を施したが、程度の判定に問題も残る。中ば有声化した程度のものは原則として濁点をつけていず、また、特別な記 も用いていない。(8)
- ⑤ ガ行の鼻音は「カ」「キ」「ク」のように表記した。
- ⑥ 本来の濁音の直前に現われる軽い鼻音は「ヒンザ」のように「ン」を小書きにして示した。ただし、判定に迷う軽微なものが多く、また頻度も少ない。(10)(11)
- ⑦ 「セ」「ゼ」の口蓋化音は「シェ」「ジェ」と表記した。ただし、特に、「ヒェ」のように聞こえた場合のみそのように表記した。(12)
- ⑧ 「キ」「ギ」の口蓋化は多少目立っても「キ」「ギ」で表記した。ただし、特に「チ」「ジ」に大変近い場合のみ、そのように表記した。(13)
- ⑨ 語頭の〔SS〕は「ツシ」と表記した。(14)
- ⑩ 母音の無声化はときどき聞かれるが、特に印をつけていない。
- ⑪ アクセント、イントネーションの記号はつけていない。(15)

## C 収録内容の概説

- 1 タイトル      1.「電話交換嬢とのデート」～ 8.「アイスクンデーとお婆さん」
- 2 録音年月日      昭和54年12月20日
- 3 録音場所      宮城県亘理郡亘理町亘理 中央公民館
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・居住歴・言語的特徴など  
内海春吉（男）大正8年3月28日生まれ

荒汝生まれ、荒汝育ち。荒汝尋常高等小学校卒業後、半漁・半農のかたわら農協その他にも勤務していたこともあった。戦時中2年ほど関東方面へ徴用に行っていた

ほかは荒次だけに居住。方言を多く保有し，しかも話がはつきりしており，話題も面白い。

本郷しげ（女）大正7年9月20日生まれ

荒次生まれ，荒次育ち。荒次尋常高等小学校卒業後，電話交換手をつとめ，荒次町間に嫁す。他に居住したことはない。夫は郵便局勤務。声に張りがあり話し方が生き生きしている。方言は普通程度持っている。

木村精一（男）大正7年10月6日生まれ

荒次生まれ。荒次尋常高等小学校を卒業後，宮城師範（仙台）を経，主として亶理郡内の小学校に教員として勤務。仙台圏に数年勤務していたときを含めて大部分荒次の自宅から通勤。現在教育委員会に勤務。方言保存は，他の2人よりやや少ないし，話しぶりはやや沈んだ調子。話し手としてより，むしろ紹介者，世話役として協力してもらった。

## 5 録音環境

### ① 同席者

各話題とも，常時上記3名の話者と，収録者佐藤和之。話者のうち木村氏は最後の2つの話題以外は録音中ほとんど発言せずと同席。

② 話者3名は小学校時代の同級生で，気のおけない同士なので，大変スムーズに自然に話がはずんだ。特別な話題や話の流れを決めず，ある程度自然に話せた。同級生が寄り集まったせいかな，話題は昔の思い出話が多くなった。

③ 外部とへだてられた新築の公民館の和室で録音し，各自マイクを使用したステレオ録音。録音状況は良好。

④ 録音時間は連続1時間。



# 1 電話交換嬢とのデート

話し手

| (略号) | (氏名)  | (性) | (生年)    |
|------|-------|-----|---------|
| A    | 内海 春吉 | 男   | 大正8年生まれ |
| B    | 本郷 しげ | 女   | 大正7年生まれ |

A アー オラー エロケ デガゲダ コロダオンナー  
おれが 色気 出なかった頃のことだよな。

B アエズ ハズガズガラ ハズマッタ<sup>(1)</sup>ンダオンナ (A ソー) オラ  
あれは 八月から 始まったもんだもんな。 わたしは

(A ン) スズガズニ コーシュージョサ ヤラッテサ (A ソー)  
七月に 講習所へ やられてさ。

エッカゲズガンツノー コーシュエ ヤラシェラッテ (A ソーソー)  
一か月間というもの 講習を (受け)させられて

ソーシテ ホンニ スポラッタモンダッタ エッカゲズガンツノ  
そして ほんとに しぼられたもんだった 一か月間というもの。

A ンダゲットモ スポラッタカモ スンネァゲットモヤー アラマサ<sup>(2)</sup>  
だけど しぼられたかも 知らないけれどもね 荒俣に

デンワ ハズメデナンダオン (B フン) ホンドギ アノー  
電話 初めてなんだもの。 その時

オメァーラ アレー ハガマ ハエデ アルグドギ オラ ホンニ  
お前たち(が) 袴(を) はいて 歩く時 おれは ほんとに

ウッショガラ ミデ ホンニ ホレタ モンダッタナー  
後から 見て ほんとに 惚れた ものだったな。

B (笑) マダ コレー ホンニ  
また これ ほんとに。

A ホステ マダ ホンニ デンワ カゲツツード ホンニ アノ  
そして また 電話 かけるというに ほんとに  
コエ ナンツーガ ワヒェランニエ<sup>(3)</sup>ガッタ モンダドヤ ソー  
声(が) 何というか 忘れられなかった ものだったよ。

B エマ スワクチャババニ ナッテ ワカンネァ ワナ  
今 しわくちゃ 婆に なって だめだね。

A オダゲァ ニ コレナ (B ソー) ホンデモ  
お互いに これね それでも。

B デモ ハルサン<sup>(4)</sup> カワンネァ ノー  
でも 春さん 変わらないね。

A オメァ ラ ホンデモー ナンダ (B ス) コエ エーガラ ハリ  
お前たち それでも なんだ 声(が) いいから (声に)張り(が)

アッカラ エーケンドモヤ (B ソーソー) アノー トース マダ  
あるから いいけれどもね。 当時 まだ

デンワバンゴー ナー アノー オラ ソー セリバ  
電話 番号 (についてはね) おれは 魚市場に

エタンダエットモ<sup>(5)</sup> ヨンバンダナンテ アンツケラッテナー  
いたんだけれども 四番だなんて(縁起の悪い番号を) あずけられてね。

(B ソー) ステ アドー アレー ヨンズークバンツノ アノ クス  
そして 四十九番というの 薬

リヤデ トッタンダエナ デンワバンゴーネ (B ソー) ソエズ  
屋で 取ったんだよな 電話 番号 それ

ホガデ ヨン<sup>xxxxx</sup> ヨンズークバンツノ スンジュー クロー スル  
ほかで 四十九番というの 始終 苦勞 する

スンジュー クロー スルッテ ダレモ トンネァガッタ モン  
始 終 苦 労 するといつて 誰 も 取らなかつた もん

ダエ (B ソー) ホースタツケ アレ クスリヤノ オヤンズ  
だよ。 そうしたら 薬屋の 親父が

オレ トルッツテ ナンダッ ツッタランバ<sup>(6)</sup> ヨク ナオルッテ  
おれが 取るといつて(いた) どうしてだと質問したら よく 治るって

エツバン エーンドガラツッテ (B 笑) アノ ホノ バンゴー トッ  
ー 番 いいんだからって その 番号を取っ

タモンダッタドヤ (B ソー) オラ アエズー キーデデ ナルホンドト  
たもんだったよ おれ それを 聞いていて なるほどと

(笑)オモッタッタ<sup>(7)</sup> ゴド アッタッタナー (B ソー) ソー  
思った こと あったっけな。

B ヨーグ コノ ハルサンモ ヨ<sup>(8)</sup> ヨルサエ ナツツート デンワ  
よく 春さんも 夜に なるという 電話を

カゲデ ヨゴスタモンダッタ トマリデナー  
かけて よこしたものだ 泊りでね。

A ンダー オラ マエニズ トマッテダガラ (B ホソニ) ソー  
そうだ おれは 毎日 泊まってたから

マエバン トマッテダガラ (B アノー) ホエデモ デンワ  
毎 晩 泊まってたから それも 電話を

カゲデァ クテ トマッテタンダモン  
かけたくて 泊まっていたものだもの。

B アー ンダノ (A ソー) ダレノガノ タカハスノ コエ  
ああ そうなの。 誰の(声)…。高橋の 声(を)

キグデァ グデダッ チャ (A ソー) ミヨコノ  
聞きたくてだよ。 みよ子の。

A アー ホンダ ミヨちゃんラモ エダンダナ オンナ

ああ そうだ みよちゃんたちも いたんだな。

B ミヨコちゃんノ コエ キクテァ クテ カケテ ヨコスンダベッチャー

みよ子ちゃんの 声(が) 聞きたくて かけア よこしたんでしょよ。

A アンドギー ホデネァ ンダ アノ アレ<sup>(9)</sup> ワダリガラモ キッタン  
あの時 そうでないんだ あれ? 亘理<sup>(10)</sup>からも(交換手が)来っていた

ダッタナー ワダリガラ (B アー ウン) ンー (B ウン)

んだったな 亘理から

ワダリガラモ キテデ<sup>(11)</sup> ~~~~~

亘理からも 来ている-----。

B ミサちゃん

みさちゃんですよ。

A オラー ナメァーモ ツシャネァ<sup>(12)</sup> カオモ シャネァンダ マズ  
おれは 名前も 知らない 顔も 知らないのだ。 だい

モッテ

いち。

B ン ミサちゃん

そう みさちゃんだ。

A ネレ ホシテ アノ フタンデ デートスル ヤクソグステ (B 笑)  
ね そして ニ人で デートする 約束をして

ホシテ アラヤガラダナー<sup>(13)</sup> ハラコメス<sup>(14)</sup> フタツツ コシエァデ  
そして 荒屋からだね はらこ飯を ニ人分 作って

(B ン-) ステ デンワデ ホノ ショーコーカイノネー アノ ポストン  
それから 電話で 「商工会の あの ポストの

ドゴデ タツテ マッテッカラ ツー ハナス アッタ モンダガラ  
所で 立って 待っているから」という 話が あった もんだから

(B ン-) オレ ズーズコロ ハラコメス モッテ エッタオンナー  
あれは 十時頃 はらこ飯を 持って 行ったんだよ。

(B ン-) スデンシャデ<sup>(15)</sup> ホゴー トーッテ アルッタゲントモ  
自転車で そこを 通って 行ったけれども

ン- カノジョノ ヨーナモン タッテネアド オモッテ エッショ  
彼女の ような者は 立っていないと 思って 一生

ケンメー アルッタツケ ナンダベー ハルサーンテ コエ カゲ  
懸命に 自転車を動かしていたら 「なんだ 春さん」って 声を かけ  
ラッテ ミタラバ オラヨリ トス トッテ エタンダッタオンナー  
られて、 見たら あれより 年を 取って いた(女)だったもんな。

ソノ トーズナー ンダガラ (B ン) バンサンニ ミエダオンナー  
その 当時はね、 だから 婆さんに 見えたもんな。

(B ン-) オラ アノ アダリ ズーク グレァ ダガラ ンダ  
あれは あの 頃 十九歳 ぐらい だったから。 そうだ。

マダ<sup>(16)</sup> ワゲァモンダド アノ ワゲァー スカダ スッタド  
xxxxxxxxxxxxxxxx  
(相手も)まだ 若い 姿を していると

オモッテ<sup>~~~~~</sup>ダラ ホデネァガッタモンダナー (B ン-) オレー アラハマ  
思っていたら そうでなかったものだ。 あれは 荒汰

サ キッタトキ<sup>xxxxx</sup> カオモ コエワ キーダゴド アッケントモ カオ  
に 来た時 (彼女の)声は 聞いたことがあるけれども 顔

ダゲ ジェンジェン ワガンネァガッタガラ マズガッテ エッタッタ  
だけは 全然 分からなかったから まちがって 行った

モンナヤー (B ン-) ンナヨーナ コトマデ デンワーニ ツエデワ  
ものだよ。 そのような ことまで 電話に ついては

ホントニ セースンツーモノー オー タノスグ ホンニ  
本当に 青春というものを 楽しく 本当に

オモシエグ スゴサシエデ モラッタナ アノ アダリ カンゲァーテ  
面白く 過ごさせて もらったな あの 頃を 考えて

ミットナヤー

見るとなあ。

B ステ ホノ ハラコメス ナジョー ナッタノワ ホラ  
そして その はらこ飯は どう なったの？

A ホステ オエテ キタベッ<sup>(17)</sup>チャワ タダ  
そして 置いて きたよ、 ただ。

B シタツケ (A ンー) ホノ  
そうしたら？

A ンー アノ (B アノ) カノジョワ ホレ ウゲトッタダケデ  
うん。 彼女は 受けとっただけで

(B ンー) アド  
あとは(べつに何も)。

B カオ ミネァデ キタノワ  
顔も(ろくに)見ないで(帰って)来たの？

A ンー  
うん。

B アノ ミサチャン ヒト ミサチャンツー ヒト <sup>(18)</sup>ネレ (A ン)  
あ の ~~xxxxxxxxxx~~ ~~xxxxxx~~ みさちゃんという人 ね

アンドキ ニジューサンダッ タガ スタラ  
あの時 二十三 だったか そうすると。

A ニズーサン ケァー  
二十三 かい。

B ンー  
うん。

A ホスット オラヨリー  
そうすると あれより。

B <sup>(19)</sup> ヨッツモ <sup>(20)</sup> ヨゲーナンダエッチャ  
四つも 余計なんだったじゃないの。

A ヨッツガ エズズ ヨゲーダッタンダ オンナー (B ンー) ンー (B ンー)  
四つか 五つ 余計だったものな。

オラ マタ

あれはまた(もっと若いと思っていたが)。

B ホイズ コエバリ キーデ  
それを 声ばかり 聞いて。

A ホンダ ホンダ ホーndaッチャ ウンブダガラ ホレ  
そうだ、そうだ、 そうだよ。(自分は)「うぶ」だったから。

B ドゴニ ハラコメス フタツツ モッテ ホステ モーション  
はらこ飯 ニつ 持って そして モーションを  
カゲル キニ ナッタッタッテ ワガンメッチャ コノ ハルサンモ  
かける 気になっても だめでしょう。 春さんも。

A ホイズー アッツア ウエダオンナ (B ンー) オラミデァ アンニ  
それ、 あっちは 年上なものな。 おれみたいな 若造に

オメァー <sup>(21)</sup> チョコ チョコ サシエデ オガンネァサ ンダゲットモ  
ちょこ ちょこ させて あかれないよね。 だけど

オメァ エロケノー デハズメツノ (B 笑) ホンニ (B 笑)  
色気の 出始めというのは 本当に

ナニ スッカ ワゲ ワガンネァガンナ (B 笑) (A 笑)  
何を するか わけが 分からないからね。

## 注記

- (1) [う]。「もの」にあたる。「モン」のようにも聞こえる。
- (2) 「アラハマ」(荒浜)の「ハ」の子音が聞きとれない。[h]か。
- (3) [waɕelɔnmjɛ]。
- (4) 話者A,「春吉」の略称, 愛称。
- (5) 「セリバ」は魚のせりをする所, 河岸(かし), 魚市場。自分はその魚市場に勤めていたんだが, その魚市場の電話番号が-----。
- (6) 「ナンダツツタランバ」の部分は菓屋の親父ではない他の人が主語。
- (7) 「タッタ」は過去の継続, 完了, 確認, 回想などに用いる。
- (8) 「ヨル」の頭音は摩擦の[ɹ]。
- (9) 昔のことを思い出そうとしている口調。
- (10) 現, 亘理町の中心地, 収録地荒浜の西約4キロ。当時, 荒浜町と亘理町は合併前で別の町であった。
- (11) 大変目立つ尻上りイントネーション。このあとが聞きとれない。
- (12) [ɕɕɔmɛ]。
- (13) 料理屋の屋号。
- (14) 鮭の卵をまぶした弁当。
- (15) 乗り物などで, 出かけたり, あちこち行くこと。共通語の「走る」「走りまわる」にあたる。
- (16) 「スッタ」は「していた」の縮約形。2行下の「キッタ」も「来ていた」の縮約形。ともに, 過去の継続, 確認の意。
- (17) 「べー」(推量)と「チャ」(強意の終助詞)の複合したもので,「当然のことながら ～ だよ」のニュアンスの強意の終助詞。
- (18) 「ネレ」は「ナ」よりややていねいな間投助詞。「ね」「ですね」にあたる。
- (19) 頭音は摩擦音の[ɹ]。
- (20) 「～エッチャ」は,「～ッチャ」(強意)よりやや柔かい終助詞。女性などが多く使う。
- (21) 対称代名詞「あまえ」に由来する間投詞。



## 2 自転車で土手から落ちたこと

話し手

| (略号) | (氏 名) | (性) | (生 年)   |
|------|-------|-----|---------|
| A    | 内海 春吉 | 男   | 大正8年生まれ |
| B    | 本郷 しげ | 女   | 大正7年生まれ |

A アド アズクラ<sup>(1)</sup> ホラ アノー フーリン<sup>(2)</sup> ナンカ ナラシエ<sup>(3)</sup>  
 そして あせこら辺を ほら 鐘 なんかに 鳴らして  
 アルグ ドギ ドテコ アルツタモンダヤ アノ ハルサーンッテ  
 (自転車)行く時は 土手を 行ったものだったよ。 (そうすると)「春さん」って  
 アズクラ オメ<sup>~~~~~</sup>ラ バガニ スナガラ ハンカズ フツタンダ  
 あそこから お前たちが (おれを) からかいながら ハンカチを 振った  
 ベケンド (B 笑) ハンカズ フラレツツート アダマサ  
 ようだったけど (若い女性に) ハンカチを 振られるというと 頭が  
 キタモンダオンナー クルクル (B 笑) メサギ マックラニ  
 カーッと なって (目が)くるくるとして 目の前が まっ暗に  
 ナルモンダオン ホレ ホーストゥー ズデンシャデ<sup>~~~~~</sup> フーリン ナラステ  
 なるものな。 そうすると 自転車で 鐘を 鳴らして  
 アルグツード オラ カラタ チツェアエ ホーダガラ アス  
 走っていくと おれは 体が 小さい 方だから 足が  
 トドガネ<sup>~~~~~</sup>ガラ ホノ コス ヒンマゲデ スッテ アルグズド  
 とどかないから 腰を ひん曲げて 乗って 行くと  
 (B フン) カノジョニ ナンダヤ ハルサン コス マゲデ  
 彼女に「何だよ 春さん 腰を 曲げて

ヌッテ アルグガラ <sup>(4)</sup>ズワッタンデ エメーズ ダウンダモン  
乗って 走るのね」と 言われたんで イメージ ダウンだもん。

ンダガラ コツツノ ホーガラ アノー バリギ カゲデ  
だから こっちの 方から 馬力を つけて

ダリョ グオ ツゲデ ソゴノ メアーダゲ サート スセーオ  
情力を つけて その 前だけ さーっと 姿勢を

トドノエデ ホノ(B 笑) ノッテアルッタモンダゲットモ メアーニ  
整えて 乗って行ったもんだったけど 前に

ショーガエブズ エダノ ホデナスデ <sup>(5)</sup>ウッチャ (笑) ブツゲデ  
障害物が あったのを 気がつかないで それに ぶつけて

ドデガラ タダギオッタゴド アッタッタガラヤ  
土手から たたき落ちたこと あったからな。

B アー (A ンー) ホイナ コドモ アッタ<sup>ンズー</sup>  
そんな ことも あったのね?

A アッタッタネー (B ンー) モド アレー ドデサ エロンナ  
あったもんだね。 昔は 土手に いろいろな

モノ アゲッタモンダエッチャ  
ものが 上げてあったもんだよね。

B ンーダネー (A ンー) エロエロネー  
そうだね いろいろ(なものが)ね。

A ホイツァ オメアー メアーノ ホー ミネアーデ コツツノ ホーバガリ  
それを 前の 方を見ないで こっちの 方ばかり

キー ツゲテンダモン ハールサン ナンテ ハンカズ フラレン  
気を つけてるんだもの 「春さん」などといって ハンカチを 振られ

ノデ (B 笑) アダマ コツツノ ホーサ キテンノ メーノ <sup>ク</sup>  
て 頭が こっちの 方に 来ているの 目の(前が)

マ マックラニナンダガラ ホーテ アノ ホエッ<sup>(6)</sup>チャ ノリアゲ<sup>(7)</sup>デナ  
xxx まっ 暗になるんだから そうして それに 乗り上げてな

ホーテ タダギオッタゴド アッタッタガラヤー (B ンー) ホシテ  
そうして たたき落ちたことが あったよな。 そして

ズデンシャノ リーム ヒンマガッタノ ギリギリ<sup>(8)</sup> ヒッパッテ  
自転車の リームが ひん曲がったのを 無理に ひっぱって

(B笑) ホエオ<sup>~~~~~</sup> ハヤグ ソコントコロ シカエガラ トーザカン  
それを 早く その所を 視界から 遠ざから

ネァケア ナンネンダオン カノジョノ シカエガラ ンー  
なければ ならないのだもの。 彼女の 視界から。

ヒドエモンダッタ アン<sup>xxxxxx</sup> (笑) (B ンー) アエー ズダエモ  
ひどいもんだった。 ああいう 時代も

アッタндаオンナー  
あったんだもんなあ。

## 注記

- (1) 「アズク」は「あそこ」の意。
- (2) 「フーリン」は風鈴状の鐘。魚市場の開始を告げるもので、話者Aは魚市場に勤めていて、それを鳴らして町中に触れ回る役などもしていた。
- (3) 「ナラシテ」の「テ」の子音が弱くほとんど聞き取れない。
- (4) 「と言う」は[tsü:]、「言う」は[zy:]のはずであるが、これがいっしょになって[dzy:]となったか。
- (5) 「ホデナス」は「放題なし」からきたもの。「思慮分別がなく」「無中で」「おかまいなしに」「気がつかず」などの意。
- (6) 「ソイツサ」(そいつに)の縮約形。
- (7) 土手の上に置いてあった障害物に自転車を乗り上げて。
- (8) 方言の語形としては「ギリギリ」であるが、この地点の音声では[jiɾiɟiɾi]と聞こえる。「無理矢理に」「力づくで」の意。

### 3 若夫婦の御年始

話し手

| (略号) | (氏 名) | (性) | (生 年)   |
|------|-------|-----|---------|
| A    | 内海 春吉 | 男   | 大正8年生まれ |
| B    | 本郷 しげ | 女   | 大正7年生まれ |

- B ワカエドギナー アノ ケッコン スタ トーンジサ ウズノ ズッ  
若い時はな、 結 婚 し た 当時<sup>(1)</sup>にね うちの 実  
カサ オフグロノ ズッカサ (A ン) アノ ゴネンスニ エッタ  
家へ 母 親 の 実 家 へ 御 年 始 に 行 っ た  
ノサ (A ン) ムガスノ ゴドダガラサ (A ン) アノ フタンデ  
のさ。 昔 の ことだからさ、 二人で  
ソロッテ アルグッ ツゴド アノー エマノ ヒトダラゴッタラ<sup>(1)</sup>  
そろって 歩くということは 今の 人 たち だ っ た ら  
フタンデ テー クンデネ (A ン) アルグノー (A ナントモ  
二人で 手を 組んでね 歩くの  
シネケンドモナ)<sup>(2)</sup> ヘー ナントモ スネデ ヘー キナモンダゲッ  
何とも (気に)しないで 平気なもんだけど  
トモ ムカシ ソロッテ アルクツツノー (A ン) ハズガス  
昔 は そろって 歩くというのは 耳 心 ず か し  
エモンダッタモンネー  
いものだったよね。
- A ケッツァ クツツエテ アルガッタモンダナ<sup>(3)</sup>  
(昔は)後ろに ついて 歩 いた も ん だ っ た な。

B ホステ エワヌマエキデ オリデサ ミナミハシエ<sup>(4)</sup>ダガラ (A ソー)  
そして 岩沼駅で 降りてさ (実家が) 南長谷 だったから

ホッカラ ホノ アルグンダオンネ (A ソー) ズーット マズ  
そこから 歩くんだものね。 ずっと まあ

エズリ ツカゲモ アルグンダオンネ (A ソー) エワノ<sup>(5)</sup> センガン  
一里 近くも 歩くんだもんね。 千貫

ムラ<sup>(6)</sup>ダカラ ホレ センガンノ ミナミハシエダガラ (A ソー)  
村だから ほら 千貫村の 南長谷 だから

ホースト アノ ドーロコーズ ヤッテル オトコヒトラ ホノー  
そうすると 道路工事を やっている 男の人達が

ソー リョーガワニ エデ アノ ドーロ コシエデルワケサ  
両側に いて 道路を こしらえているわけさ、

(A ソー) ソースット アーエヤ アノー スンコンサン キタ  
そうすると(彼等が) あれよ、 新婚さんが 来た、

スンコン ツーノカエ アエツラ ナンテ (A ヒヤガスガ<sup>カ</sup>)  
新婚 というのかい あいつらなんて (冷やかしか?)

ツヒヤガス<sup>(7)</sup>アッテサ (A ソー) ハズガスグ ナッテワ コンド  
冷やか して さ、 (私達は) 恥ずかしく なってね、 こんど

リョーホーサ ミギド ヒタリサド ワガレデ ソステ (笑)  
(夫婦は) 両方へ 右と 左とに 別れて そして

アルッテ ソステ アノー ゴネンスマワリ スタモンダッタ  
歩いて そして 御年始まわりを したもんだった、

ホントニ ネー  
ほんとに ね。

A ホントニ エッショニ アルガネァ ガッタモンダナー  
ほんとに (夫婦は) いっしょに 歩かなかったもんだな。

B エッショニ アルグズード (A ソー) ホンニ  
いっしょに 歩くというと。 ほんとに。

A ハナレデナ (B ハナレデ) アルッタモン  
離れてな ( 離れて ) 歩いたもんだ。

B ハルサンラ ナジョスタモンデガスタ<sup>(8)</sup>  
春(吉)さんたちは どうしたもんでした？

A オラー ハナレル ケューヨリ オラー アノー リヤカーダッタワ  
おれは 離れる というより リヤカーだったよ。

ノンデ アルッテワ  
(酒を)飲んで 歩いてね。

B リヤ (笑) リヤカーサ ノヒェラッテ  
xxxxxx リヤカーに 乗せられて。

A リヤカーデ ムゲァニ キタッテワ (B ソー) コンニズワー  
リヤカーで 迎えに 来たよ。 今日

ナッテ アノ エグズドー ホッツ オンツァン エタオン  
なんて 行くというと そっちに おじさんが いたもん

ネ オラエノ ガガノ<sup>(9)</sup> オンツァン ダガラ オレモ オンツァント  
ね。 うちの 女房の おじさん だから おれにとっても おじさんと

オナズダベ コンド オズ オエダガラ ドオエ<sup>~~~~~</sup> ゴネンスニ  
同じだろう。 こんどは おじ あいだから、 御年始に

キスタド<sup>(10)</sup> ナンテ アガッテナ ゲダ ヌゲネ<sup>~~~~~</sup>ゲクテ<sup>~~~~~</sup> コンド ツカラ  
来ましたよというて 上がってね 下駄が 脱げなくて、 こんど 力を

エレット ボーンテ エンナガサ ゲダ フットンデ イ (B 笑)  
入れると ポーンと 家の中に 下駄が すっこんで(行く)

トンデモネァ ムゴ キタモンダ ナンテ ホステ (笑) (B ソー)  
とんでもない 婿が 来たもんだ なんて せして

ゴシャガッ<sup>(11)</sup>タ モンダッタナ (B ソー) ホーシテ ホゴデ<sup>テ</sup> コンド  
叱られた ものだったな。 そして こんど

オメァー モデル モノヤ (B ソー) アー オメァー  
ね, (おれは、親戚に)もてるものね。

B ノマセラッテ ヒッ  
(酒を)飲ませられて

A ヨメゴノ オメァー モゴダ モン モデルン ホレ アー オメァー  
嫁御の ね, 婿だもの もてるんだ。

ツビツビ (B ソー) サー メンドーダガラ オッ<sup>(12)</sup>ケァナサ ケセァー  
(酒を)ちびちび やってさ, 面倒だから 大きなのに 下さい  
ナンテ ホステ ホンド ゴーダラ<sup>(13)</sup> ヒットラッテ (B ソー) ホンド  
なんていって そして こんど ひっそらえて こんどは

ヨメゴ オメァ リ (笑) リヤカーデ ヒッパッテ アルグ  
嫁御 ね, <sup>xxxx</sup> リヤカーで 引っ張って 歩く,  
アルエデダッタナ (B ソー) ダガラ ホンニ オラ ミデァーナノ  
歩いたっけな。 だから ほんとに おれ みたいなものは……。

B ヨメゴ ヨメゴサンガ リヤカー ヒッパンノ  
<sup>xxxxxxxx</sup> 嫁御さんが リヤカーを 引っ張るの?

A ソー ヒッパッテ エゲサー  
うん 引っ張って 行けよー」といって。

B サー ヨー ヨー (A 笑) (笑)  
それは まあ まあ。

A ソーユーコト スッタンダ ソー (B ソー) トナル トンデモネァ  
そういうことを していたんだ とんでもない  
モゴサ (B ソー) ソー  
婿さ。



# 注記

- (1) 「ダラ」は「なら」,「ゴッタラ」は「ことだったら」「のだったら」。
- (2) よく聞きとれないが,「何とも気にしないけれども」の意らしい。
- (3) 「尻にくっついて」と表現しているが,「二人で並んで歩かず, 妻が夫の後をある程度間隔をおいて歩いた」の意味。「アルガッタ」は「歩く」の自然・自発形, 過去。
- (4) 地名。南長谷部落。収録地点の亘理町と阿武隈川をへだてた北隣の岩沼市にある。東北本線岩沼駅の西南約四キロメートル。
- (5) 「岩沼」と言いかけて止めたものらしい。
- (6) 現岩沼市の西南部。明治22年に千貫村は岩沼町に合併した。
- (7) [qɔʔaɔsɯa:tɕe]。「冷やかし合う」「あちらこちらから冷やかす」。
- (8) 「デガス」は「です」にあたるていねい語。「デガスタ」はその過去。
- (9) 「ガガ」は「鼻」にあたることば。「母」「妻」の意。また, 面と向かって呼びかける場合にも用いる。他人の母親や妻についても使う。
- (10) 「動詞の連用形+ス」はていねい表現。ここはその過去。
- (11) 「ゴシャグ」は「叱る」の意。「後世を焼く」あるいは「業を焼く」(「業が煮える」の意)に由来するか。ここはその受身・過去。
- (12) 小さい盃でちびちび飲んでいるのは面倒だから, 大きなもの(茶碗かなにか)でお酒を下さい。
- (13) 意味不詳。

## 4 ねずみのお汁

話し手

| (略号) | (氏 名) | (性) | (生 年)   |
|------|-------|-----|---------|
| A    | 内海 春吉 | 男   | 大正8年生まれ |
| B    | 本郷 しげ | 女   | 大正7年生まれ |

B ホラ アノ (A           ) カンポー シャゲキ<sup>4)</sup> アノ アラハマサ  
 ほら あの 艦砲射撃が 荒汝に

クル<sub>xxxx</sub> クルナンテ エワッテサ (A ン) ホンドギ ソー ヨナガ  
 来るなんて 言われてさ その時 夜中

ツツーゴド<sup>5)</sup> アルンダ<sup>6)</sup> ムガス リヤカーナンテ ネァーガラサ  
 ということもあるんだ 昔は リヤカーなんて なかったからさ、

ニグルマサ アー アノ ニモツ ツンデ オ<sup>xxx</sup> ヒトリムスメバ<sup>(2)</sup>  
 荷車に 荷物を積んで 一人娘を

オンブッテダオン デンキヤノ ウラニ エダガラ (A ン)  
 おぶってたもの 電気屋の 裏に いたから

ハガデンキヤノ ウラニ エダガラ (A ン- ン-) デンキヤデ  
 芳賀電気屋の 裏に いたから 電気屋で

コンドモ スュー ニニンダオン (A ア-) ホエッチャ ジュ-ニン  
 子供 十二人 だもの それに 十二人

ノ コドモノ アルガンネァノバガリ ニグルマサ ノシェデ  
 の 子供の 歩けないのばかり 荷車に 乗せて

アド オブーヤズ オブッテ コンド デンキヤノ アノー  
 あと おんぶする子は おぶって コンビ 電気屋の

ハゲアダマ アー ナワデ アノ ニグルマ アノ ヒッパッテ  
 禿頭(の親父が) 縄で 荷車を 引っぱって  
 (A ンー) アド オラエノ オドーサンワ アノー カンズボー  
 そして 私の家の 主人は (車)の梶棒を  
 トッテ アドー オナゴヒトラ ウッショー オスガダ ステ  
 取って それから 女の人たちは 後ろ 押し方 して  
 ニモツ ヤマニ ショグリョーヒンカラ ナニカラ ツケデ アノ  
 荷物を 山に 食糧品 から 何から つけて  
 ズングーズ<sup>(3)</sup>ノ ヤマサ ニゲダデバ (A ンー) ホーステ アノ  
 神宮寺の 山へ 逃げたってば。 そうして  
 ボークーゴー アノ ヤマダガラ リッパニ ホッテデネ (A ンー)  
 防空壕を 山だから 立派に 掘ってね  
 タダミ シエデデ ソステ (A ンー) ホーステ ホゴノ ヤマサ  
 畳を 敷いて そして そうして この 山に  
 オラエノ オトクエノ ヤマサ ニゲッセ<sup>(4)</sup> ナンテ デンキヤニ  
 私の家の お得意さんの家の山に 逃げなさい なんて 電気屋に  
 エワッテサ (A ン) ホゴサ ニゲデ (A ン) ホーステ コンド  
 言われてさ、 そこへ 逃げて そうして こんど  
 アサーン ナッテワサ ニゲテ シタクタッテ エルウズ アサン  
 朝に なってさ 逃げていて ずったもんだして いるうち 朝に  
 ナッテワ ホーシテ コンドワ アサゴハン ソコデ アンドギ  
 なってね。 そうして こんどは 朝御飯を そこで あの時  
 アノ カエゴ オエッタンダモンナー (A ンー) ホゴノ ウズデ  
 蚕を おいて(飼って)いたんだもんな そこの 家で  
 (A ンー) ホステ コンダ アサー ゴハンダッテ ジュージッコロ  
 そして こんどは 朝 御飯だって 十時頃

ジュー ジッ コロナンダナ サケ ソコノ オバンチャン エー  
 十時 頃 なんだな、 そしたら そこの おばあちゃんが 良い  
 オバンチャンデサ アノー オスル ニデアゲッカラ ナンテ  
 おばあちゃんです お汁を 煮てあげるから なん?言ッて  
 ステ ゴハン ワダシラ アノー ベンドー モッテ キタンデガス  
 そして 御飯 くら 弁当を 持って きたんです  
 ナンツ ッタッケ ンデ オスル アー ニデ アゲッカラ ナンツ  
 なんて言ッたッけ、 それでは お汁を <sup>xxxxxx</sup> 煮て あげるから なんて  
 ッタッケ アノ ザイゴ アダリデサ コエナ オッキナ オケサ  
 言ッたッけ。 田舎 あたりです、 こんなに 大きな 桶に  
 モロミ (Aン) アン アノ ニデ オグンダオンネ (Aン) ミッツ  
 (醤油)のもろみを <sup>xxxx</sup> 煮て おくんだもんね。 三つ  
 グレァ (Aン) ナラベデ トローット ホエズ フタ トンネ  
 ぐらい 並べて、 とろっとしたもの、 それを <sup>xxxxxx</sup> <sup>xxxxxxxxxx</sup>  
 フタ アゲデオエデサ ホテ シェッカク <sup>(5)</sup> カンマガサナクテ  
 蓋を 開けてあいてさ そして しょっちゅう かきまわさなければ  
 ナンネンダオンネ (Aン) ホステ アノー エモダ ナ <sup>xxx</sup> ダエゴンダ  
 ならないんだもんね。 そして 芋だ 大根だ  
 ナンダ カンダッテ ナスダッテ エレテ オスル ニデデ ホノ  
 何だ かんだって 茄子だって 入れて お汁を 煮ていて その  
 モロミバ <sup>(6)</sup> エレデ ゴッツォ スルンダオン (Aン) <sup>ッタッケ</sup>  
 もろみを 入れて 御馳走 するんだもん。 そうしたら  
 ヨメサン ホノ モロミ カキマワスッタッケ オラ コヤッテ  
 (その家の)嫁さんが その もろみ かきまわしていたッけ。 私は こうやって  
 メズラスエガラ コヤッテ ミッタノサ ホスタッケ モコーツッケ  
 珍しいから こうやって 見ていたのさ。 そうしたら むっくりした

ケー ハエタ タワス ミデァ ナノ コー デテ キタンダナ  
毛の 生えた たわし みたいなものが こう 出て きたんだな。

(A ソー) ナンダガドモツタツケ ネンズミ (A アー オー ソー)  
何だヒ 思ったら ねずみ!

ネンズミ モカーツケ オッキナ ネズミ ウルケデワ (A ソー)  
ねずみ, 屯っくりした 大きな ねずみが水ぶくれになってね

デテ キタノ ホーシテ コンド コイツ コノ ヨメゴサンガ  
出て きたの。 そして こんど それを この お嫁さんが  
ホテ コノ ミッタガ ナンダガナドモテ 今ラツキ ミッタンダ<sup>(7)</sup>  
見ていたが どうかと 思って ちらちら 見ていたんだ

コエ ミネァ フリ ステ ホッ ナノ ホー ミッタツチャワ (A ソー)  
(私は)これを見ないふりして そっちの 方を 見ていたよ。

ツァケ ホイツバ アノ ナットリ モッテ キテ エレデ  
そうしたら(嫁が)それ(ねずみ)を ちりとりを 持って きて 入れて

ササーット キエデ エッタンダ コンド ホレ カメサ ホノ  
ささーっと 消えて 行ったんだ。 こんど 瓶に

ドソブロクバ コー エレデ (A ソー) ソスデ モッテッ タノサ  
どぶろくを こう 入れて そうして 持って行ったのさ

(A ソー) ホーステ コンド モッテッテ コンド ホノー ホノー  
そして こんど 持って行って こんど その

モロミバ コンド オツユサ エレルンダエッチャ (A ソー) ホーステ  
もろみを こんど お汁に 入れるんだよ。 そうして

コンドァ エロエロ ンマソー ナンダツケナー ニンズンヤラ  
こんど いろいろ うまそうなんだっけなあ 人参やら

アー エモヤラ ササギヤラ ナスヤラ エレデサ (A ソー) ホステ  
芋やら ささげやら 茄子やら 入れてさ, そして

オバンチャン ホエ ツシャネェガラ (A ン) サーサー アラハマノ  
 あばあちゃんは それ 知らないから さあさあ 荒 汝 の  
 オバチャンダズ オスル (A ン ン) デダガラ タベサエ<sup>(8)</sup> タベサエッテ  
 あばちゃんたち お汁が できたから 食べなさい 食べなさいって。  
 ナンダ ホノ オスル (A ン) タベランネェンダナー  
 なんだ その お汁は 食べられないんだね。

コノー ネズミノ  
 ねずみの ----

A ンー (笑) ンー ミネェンダラナー エーゲンドナー ンー ンー  
 見なかったのならな 良い(のに) な。

B アシ ツショグ ナッテ モヤントナッテ ケー ワートナッテ  
 (ねずみの)足が 白く なって もやーっとなって 毛が わーとなって  
 エンノー (A ンー ンー) ミデ スマッタガラ (A ン) ホエズ デンキ  
 いるのを 見て しまったから。 (ヒコガ)電 気  
 ヤノ カーチャン ホエズ ツシャネェノサ (A ~~~~~) ミネアー  
 屋の かあちゃんは それを 知らないのさ (ねずみを)見ない  
 ガラ (A ン) ホシタッケー タベサイーン タベサエンテ  
 から。 だから 食べなさい 食べなさいって  
 ズーノサ (A ン) ナンボ<sup>~~~~~</sup>デモ ハラ ヘッテンノヨ (A ン) ン  
 言うのさ。 (私は)いくらでも 腹が へっているのよ。  
 アー クルマ オス ステテ キテワ (A ン ン) ハラ ヘッテス  
 車 押しを して 来てね、 腹はへっているし、  
 オッパイ ノマ<sup>~~~~~</sup>レッペス (A ン ン ン) ダガラサ ハラ  
 (赤ん坊には)あっぱいを飲まれてしまったようだし だから 腹は  
 ヘッテンダゲットモ コノ ネズミ (A ン) ミダガラワ  
 へっているんだけどね ねずみを 見たから

ナンボ ~~~~~ サ ヘァンネァンダワネ (A ン- ン-) ホーステワ  
いくら (腹に)入らないんだね。 そうして

コンドワ ナンツッテ ウソ コエダラ エーガナトモッテ コンド  
こんどは 何と言って うそを ついたら いいかなと思って、 こんど

ナンダガ ハラ キリキリッ エデァクテァ アノ ショグ  
何だが 腹が きりきりと 痛くて あの 食が

ススマネァンダデバ ナンダガ フズンベナガラ ハラ オガスクテ  
進まないんだよ。 何だが 昨夜から 腹が おかしくて

ナンテ エダサワ (A ン) ダッケ アラ ナンダベ コンナニ  
なんて 言ったさ そしたら あら なんてしょう こんなに

オイシー~~~~~ダッケ コンナニ オエシエノ タンベネァ ナンテ アノ  
おいしい----- こんなに おいしいの 食べない なんて。

タベサエーンタベサエン ナッテ ホノ オバンチャン ンメァーガラ  
食べなさい 食べなさい なんて その おばあちゃんは うまいから

タベサエーン アノ (A 笑) ハラ (笑) アー オッパイ  
食べなさい 腹(へって) あっぱいも(赤ん坊に)

ノマレッペス アンダ ホンナニ シテ エンリョステッコダー  
飲まれてしまったでしょうし、あなた そんなに して 遠慮 してることは

ネァンダガラ オラエデ ダレモ キ ツカウ ヒト ネァンダガラ  
ないんだから、私の家では 誰も 気を使う 人は ないんだがら

タベサイン タベサイン ハラナント エテァノ ~~~~~ナンテ スグニ  
食べなさい 食べなさい 腹 なんて 痛いのも なんて すぐに

ナオッカラテ (A ン- ン-) ハラ ヘッテ アノ ハラ エテァ  
治るからって 腹が へって (かえって)腹の痛い

ドギモ アルガラ タベサインテ ズワレルンダエッチャ (A ン-)  
時も あるから 食べなさいって 言われるんだよ。

カーンネンダナ アノ ネズミノ アノ モクット スタノ アノ  
(でも私は)食べれないんだもんね。 ねずみの むくむくとしたの

(A ソー) ケノ ナン ダラダラト ナッタツケ アノ (A ソー)  
もの だらだらと なっていたっけ。

コー ケー ミタツケワ (A ソー ソー) トートー カネーワ コンド  
もを見たっけね。 とうとう 食べなからたよ。それから

テ コノ ボークーゴース ハエッテ コンド タダミ スカッテン  
防空壕に 入って コンビ 量が 敷かれていたん

ダガラ ボークーゴーン (A ソー) ナカデサ シテ コンド  
だよ。 防空壕の 中でさ、そして コンビ

ゴドモ ネシェナガラ アノヒトア ナーンシテ アンダ ゴハン  
子供を 寝かせながら あの(電気屋のかあちゃん)が どうして あなたは 御飯を

アノ タベネアーノ ツーガラ ズズワ ネレー デンキヤノ  
食べないの というから、実は ね、 電気屋の

カーチャンバ カーチャン カーチャン テユーガラ<sup>(9)</sup> (A ソー)  
かあちゃんを(いつも) かあちゃん かあちゃん と言っていたから、

ハテ アノ カーチャン ネレー アノ ズズワ アノ モロミノ  
はて、 かあちゃん よ、 実は あの もろみの

ナガサ コエナ オッキナ ネズミ ヒトツ ヘッテデ オラ  
中に こんな 大きな ねずみが 一つ 入っていて 私は

アエズ ミダツケァ ナーボニモ アノ ハラ ヘッテルンダゲットモ  
あれを 見たら、 どんなにでも 腹は へっているんだけど

カンネァ ガッタネー ツタレバ (A ソー) アヤヤ オラ ホエナンダラ  
食べれなかったね。 と言ったら (電気屋のかあちゃん)は あれれ! 私 そんなんだったら

カネァ ガッタノ マズ オラー (A 笑) アンダ オシェデ ケレー (笑)  
食べなかったの ああ ね、どうしょう。 あなた 教えて下さいよ



ツーンダッチャ (A ンー) ダッテ オシエルダッテ アンダ アノ  
と言うんだよ。 だって 教えるといったって あなた

オバンチャンノ ソバニ ベッタリド クツツガッテ アンダ  
おばあちゃんの そばに ぴったりと くっついて あなたは

エロエロナ オハナス ステンノニ アンダ ホエッチャ モロミサ  
いろいろな お話を しているのに それを もろみに

ネズミ エタガラ カーチャン タベサンナト オレ ユフレッケッ  
ねずみが いたから(電気屋の)おあちゃん 食べてはいけませんよと私 言われますわって

ツッタノ (A ンー) ホースタッケワ キモツ ワリードッテ  
言ったの。 そうしたら 気持ちが 悪いと言って

オウエーッ<sup>(10)</sup>テ ハァーテ (笑) エ<sub>xxx</sub> エルンダッエチャ エヤー エヤー  
ウエーッて 吐いて いるんだよ。 いや いや

アエナ コトモ (A ンー) アッタシネー (A ンー) エズデモ オモエ  
あんな こども あったしね。 いつも 思い

ダステ (A ンー) コドモダツサ キカセツユード (A ンー) ナンダエ  
出して 子供たちに 聞かせるというの 何だい

ナンテ エマ<sub>xxxxx</sub> エマダガラ ホダ ゴワッテル ホーデモ  
なんて いまだから そんなこと言われているが それでも

ゼータグナ ゴド アッダダエッチャ ナンテ ム<sub>xxx</sub> ムガス  
ぜいたくなことであった(時代も)あったたよ。 なんて 昔

エクサチューニ ヒトノ ニクサエ クッタ ナニ ホダ ネズミノ  
戦争中に 人間の 肉さえ 食ったよ。何よ, そんなねずみの

ツユ ナンデモ アンメアッチャ ナンテ コドモダツニ エマ  
お汁(ぐらい)何でも ないはずだよ, なんて 子供たちに いま

バカニ サレテ エッケンド  
馬鹿に されて いるけど。

A    ダゲット    ナ    (B    ソー )    オラ    カンネー  
          だけど    なあ。                      おれは    食われないな。

## 注記

- (1) 太平洋戦争の終戦まぎわの話。
- (2) 「バ」は「を」にあたるが格助詞というより、そこを強める係助詞的なもの。
- (3) 地名。荒浜の西北方（海の反対側）約四キロメートル。
- (4) 「動詞連用形＋セァ(サエ)」はていねいな命令。
- (5) 「せっかく」。方言では「始終」「しょっちゅう」の意。
- (6) 目的格はふつう無助詞であるが、特に強調する時には係助詞的に「バ」を用いる。
- (7) 我々がその現場を見て知っているかどうか気になって、嫁さんがこちらの様子をチラチラうかがっていた。
- (8) [tambesaẽ], 主として女性が使うていねいな命令。語尾の微妙な鼻母音の響かせ方が特徴的である。以下、何回か出現する。
- (9) 「デンキヤノ----」からここまでは挿入句。次の「カーチャンネレ」の「カーチャン」という呼びかけの説明のため。
- (10) [æwæ:ʔ], 吐く擬音。

## 5 昔の子供の様子

話し手

|   | (略号) | (氏 名) | (性) | (生 年)   |
|---|------|-------|-----|---------|
| A |      | 内海 春吉 | 男   | 大正8年生まれ |
| B |      | 本郷 しげ | 女   | 大正7年生まれ |

B    ンダゲット    ハルサン    メンコエガッタガラ    ミンナニ    モテーラッ  
       しかし    春(吉)さんは 可 愛 かったから    皆 に    も て た  
       <sup>(1)</sup>  
       タッチャ  
       さ ね。

A    ナランデ<sup>(2)</sup>    ホシテ    エツバン    サエバットーダベ    ダガラ  
       (私は)並ぶと    一 番    ぶりの方でしょう。    だから  
       オドゴヒダズガラ<sup>(3)</sup>    オメァ    ナラブ    ヒト    ネクテワ    オンナノコニサ<sup>(4)</sup>  
       男の子の中では    並ぶ    者が    なくてね。    女の子に  
       マジェラッテ    エダモンダッタ  
       混ぜられて    いたものだった。

B    ムガス    マエカケ    ステネ  
       昔    前 かけ    してね。

A    ンー  
       うん。

B    キモノ    キテ    マエカケ    ステ  
       着 物    着 て    前 かけ    して。

A    キモノ    キテ    アルツタンダンダガラ    (B ンー)    コゴラ    ソンデグズ  
       着 物 を    着 て    歩 いたんだったよ。    ころら,    袖 口 を

ピカピカニ <sup>(5)</sup> ステ  
ひかひかに して。

B (笑) ハナ カンデ ソデデ ハナ カンデ ピカピカニ ステ (笑)  
鼻を かんて、 袖で 鼻を かんて ひかひかに して

A ピカピカダ ウーエー <sup>(6)</sup> ウルス ヌッタ エジョーニ コータグ  
ひかひかだ 漆を 塗った 以上に 光沢が  
アッタнда (笑) (B 笑) モド ンダガラ アノー オラ ガッコーサ  
あったんだ もとは。だから おれが 学校へ  
アルグ ズデァーツーノー カサッコ デタモンダェネ  
行く 時代というのは おできが できたもんだよね。

B ナーステ アエズ カサッコ デダндаズ (A ナーンナダベ  
どうして あれ、 おできが できたのかねえ。 (A ナーンナダベ  
どうしてかな。))  
デダндаズー  
できたんでしょね。

A カタ <sup>xxxxxx</sup> カサッコト ホレガラ  
おできと それから

B メッ <sup>(7)</sup> チャ  
目くされ。

A ソー トラホーム (B ソー) ヤッパリ アノ セーカズテギニ  
(それに)トラホーム(にもなった) やっぱり 生活的に  
(B ソー) アレ ヌガ <sup>(8)</sup> タエタリ ホレガラ スカガラ <sup>(9)</sup> ヒロッタ  
糺を 焚いたり それから 砂浜から 拾った  
チグツ <sup>(10)</sup> タグカラ ゴミ タズンダモンナ (B ウンダッチャネー <sup>(11)</sup> ウン)  
木屑を 焚くから、 ごみが 立つんだもんな (B ウンダッチャネー <sup>(12)</sup> ウン)  
エーズキノ <sup>(11)</sup> ツグリダタッテ エマ ミテグニ エーセー <sup>(12)</sup> テキニ  
今 みたいに 衛生的に

デテネァガラ<sup>(13)</sup> (B ンー) アー ムガス アノー カジェ アタンネァ  
できていないから 昔は 風が 当たらない

ヨーニ ステ アメ アタンネァヨーニ ステ クラークバリ ホレ  
ように して、雨が 当たらないように して 暗くばかり

ヤネノ コーバエオ コー ツヨグ ステ ヤッテダモンダガラ  
屋根の 勾配を こう 強く して いたもんだから、

カジェ アダンネァヨーニネ

風が 当たらないようにね。

B ダッテ オフロワ タデゲァー<sup>(14)</sup> シダベシネ  
だって お風呂は たてかえしだったろうしね。

A ンー オフロ コンド タテケァース ツーノ クスリナンダ  
お風呂は たてかえし というのが 薬 なんだ

ナンテネ (B ンー) ドロドロ スルサ エレラッテ ホンニ  
なんてね。 だろだろ するのに 入れられて

エマ カンゲァット ホンニ キモズ ワリー ホドダエット  
今 考えると 本当に 気持ち 悪い ほどだけど。

(B ホンニ ネー) ヌラヌラ ツーノ (B ソエナ) コエズ  
ぬるぬるしているのが これを

クスリナンダ ナンテ クスリナンダ ナンテ タテゲァース  
薬 なんだ なんて言って。薬 なんだ なんて たてかえし湯を。

B ホエナ ソエナ オユサ エレラッテ カオ アラウガラワ メー  
そんな お湯に 入れられて 顔を 洗うので 目が

(A ンー) ワルグ ナルンダッチャネー ンダッチャ  
悪く なるんだよね。 そうさ。

A アエナノ バガリ フェーセーテギナ ゴドバカリ ヤッテタモン  
あんなことばかり、不衛生的な ことばかり やっていたもの

ダ<sup>(16)</sup>ネ　　ダガラ　　エーテ<sup>(15)</sup>　　ナレ<sup>(16)</sup>　　コー　　カサッ　　コサ　　ヘアー  
だね。　　だから　　家で　　ね、　　こう　　おできに　　蠅が  
タカッ　　ペッ　　チャ<sup>(17)</sup>　　ブーント　　ネンジュー　　トンデンダガラ　　コゴ  
たかるはずだよ。　　ぶーんと　　年中　　飛んでたから　　ここに。  
(B ウン)　　ガッ　　コー　　マデ　　オッカゲテ　　グンダガラ　　(B 笑)　　デ  
学校まで (蠅が) 追いかけて　　行くんだから。　　で、  
ガッ　　コー　　テ　　ジュ　　キョー　　ステ　　オワッテ　　マダ　　ケアッテ　　クルン  
学校で　　授業　　して　　終わって　　また　　帰って　　くるん  
ダモン　　コノ　　ヘアー　　(B ン)　　エッショニ　　コタ　　クツエデ<sup>(18)</sup>　　(B 笑)  
だもん、この　　蠅が　　いっしょに　　こんなに　　くっついて。

## 注記

- (1) 「用いられた」。「可愛がられた」「からかわれた」「ちょっとした用を言いつけられた」ほどの意。
- (2) 「最末等」という語。
- (3) 「男人達」。この場合は学校時代だから「男生徒」。この地方では、自分の子でも「この子は----」に当たる場合、よく「このヒトは----」という表現をする。
- (4) 「ニ」と「サ」は同じ意味の共通語形と方言形。これは言い誤りではなく、重言的な用法で時々現実の会話に現れる。「サ」はイントネーションから見ても終助詞ではない。
- (5) 鼻汁を袖にこすりつけるから。
- (6) 「あまえ」(対称代名詞に由来する間投的な遊び詞)か、単なる言いよどみの発音か不明。
- (7) 「目くちゃ」の転か。目がくちゃくちゃになっていること。ただれ目。
- (8) 「靦がら」を「ヌカ」と言う。(『日本言語地図』参照。)これを焚くと煙が多くでて目にしみるので「メツチャ」になりやすいということ。
- (9) 「スカ」は海岸などの砂浜。
- (10) 洪水などで阿武隈川の川口から海に流れた木屑などが海岸の砂浜に押し返されてかわいている。
- (11) 聞きとれないが、「家の作りでも----」というようなことを言っているか。
- (12) 「ミタイ」が連用修飾になる場合、形容詞の連用形に似た形となる。たとえば「ミテャグナル」(みたいになる)。
- (13) 「できる」を方言で「デル」と言う。前頁の「カサッコ デタ」もそのように解すべきであろう。
- (14) 何日も風呂の湯を変えず、そのまま焚いて入ること。
- (15) 摩擦音が入り、[ɸe:]となっている。
- (16) 間投助詞。「ナ」よりていねいで、しかも親愛の情を込める。
- (17) 「ペツチャ」は「ベツチャ」(強意の終助詞)の音便形。
- (18) 「行く」は方言で[en̥ü]のように鼻音。



## 6 学校の弁当

話し手

(略号) (氏名) (性) (生 年)

A 内海 春吉 男 大正8年生まれ

B 本郷 しげ 女 大正7年生まれ

A ベントーナンテ ツート ドコガデ オフルメァー シタ ドギ  
弁当なんて いうと どこかで お振舞いを した 時

アレ カマボコナ (B ン) アエズ ツメデ モラッタラバ  
蒲 鉾をね。 あれを つめて もらったら

コレダ<sup>(1)</sup> カマボコ  
これだ 蒲 鉾。

B ミンナサ ミシェデ アルグノ  
みんなに 見せて 歩くの。

A ンー カマボコナンテナ ツメデサ ベントーサ ソア テンカ  
うん 蒲 鉾だなんて言ってね つめてさ、 弁当に せれば 天下

エッピンダオン ンー マー フンバッテ ホノー メス クードキ  
一品 だもん まあ ふんばつして。そして 飯 食う時に

ホエズ ネャグナンダド オカズ ダエ クッタード ドナンダ  
それが なくなるんだぞ。おかずが。誰が 食った と びなるんだ。

アー モド ベントー アッタ ウエニ ンーナ ベントー エレ  
(というのは)もと 弁当が あった 上に みんな(また)弁当を(重ねて)入れ

ルンダ ハゴサ ソステ アッタマル ヨニナッテ ジェンブ  
るんだ 弁当箱を そして 弁当が温まる ように 全部

アノ フグロ ト<sup>xxx</sup> ホドエテ コー アッタメラレル<sup>(2)</sup> アレ スット  
 弁当袋 ほどこいて こう 温められる。 そうすると、  
 ニダヨーナ ベントーモ アッペカラ トッテ コー フタ アゲ  
 似たような 弁当も あるだろうから(他人の弁当を)取って こう 蓋を 開け  
 ンダベ<sup>(3)</sup>ー ゾウズ<sup>~~~~~</sup> ホノウズ ホー ンメーモノ アッタド  
 るんだろうな そのうち おう うまい物が 有ったぞ(ということぞ)  
 ンダベ ネグナッテンダネ ホダガラ ホレモ オモエデノ  
 (それは)さうだろう。(あかづが)なくなっているんだね。 だから それも 思い出の  
 ヒトツダゲットモ ヤッパリ メズラシエガラ ヒトツ クツサ  
 一つだけけれども、 やっぱり 珍しいから (あかづを)一つ 口に  
 エレルンダワナ ホダコト スッタ モンダッタ ベント  
 入れるんだよね。 そんなことをした もんだった 弁当(については)。

B オラダツワ ニンズー スクネアガッタカラネ (A ストーブモ  
 私達は (クラス)の人数が 少なかったからね (教室には)ストーブも  
 ナニモ ) アンマリネ  
 何も ) あんまり(紛れることはなかった)。

A ネアーガラネ ツステ<sup>~~~~~</sup> タダ ゴハンダゲワ ホレ スミオ エレ  
 ないからね、 ただ 御飯だけは 炭を 入れ  
 デ<sup>(4)</sup> ソシテ アッタメテ ケラエンノ  
 て そして 温めて もらうの。

B オンパンキツ<sup>~~~~~</sup>ーノネ (A ンー ) エマデモ エマ ナンシッタ  
 温飯器というのね。 今でも(あるよ)。今 何で温めているか。

A エマデモ ヤッテッカ  
 今でも やっているの?

B エマ ナンダベ ナンダガ ガッコーデ ゴハン アッタメルニ  
 今は 何だろう 何だか 学校で 御飯を 温めるに

ナニデ アッタメルンダベ デンキスカワ ナンダガ アラハマ  
何で 温めるんだろう。 電気かな。 何だか 荒浜(小)

ガッコーデ アノー アエズ シタノワ<sup>(5)</sup> ハルサン ツシャネノ  
学校で あれを しているのを、春(吉)さんは 知らないの？

アラハマガッコーデ オンパンキ アノ アエズ シタツツノ  
荒浜(小)学校で 温飯器を、 あれを しているっていうのを。

A ショーガッコーデ ( B ン ) コシェアーダツツノ  
小学校で？ ( うん ) こしらえたっていうの？

B エマ ナンダガ アレ オンパンキ アエズ アノー ゴハン  
今 なんだか 温飯器を、 御飯を  
アッタメンノー アエズ シタツツノ デンキーンダガ スミ  
温めるのを、 しているというの 電気でしているのか 炭  
ナンダガ  
なのか。

A トエカグ ホダニ エマ ベントー モッテ アルガネェンダバー  
とにかく そんなに 今は 弁当を 持って 行かないんだろう。

B ダッテ ネレ ゲズヨード スエヨービニ モッテグノ ダッチャ  
だって ね。 月曜と 水曜日に 持って行くんだよ。

A モッテグノ アー ソー  
(弁当を)持って行くの？ ああ そう。

B ンダ ホエズ オ<sup>xxx</sup> ナンダガ ゴハン アッタメデ ケラレルンダッ  
そう。 それを 何だか 御飯を 温めて もらうんだっ  
ツーンダケッドモ デンキナンダガ スミ ツカウンダガナード  
ていうんだけど、 電気なのか 炭を 使うのかなと

オモッテ ( A デンキダバー ンデ ソー ) キクノ ワスエッタ  
思っ ( 電気 だろう、 それでは。 ) 聞くのを 忘れていた

ゲンドモサ ( A ン デンキダベ ) オンパンキワ アー  
けビもさ。 電気だろう 温飯器は

( A デンキダヨ ) ホーエー シタッテ コト キータノ ムカシワ  
電気だ。 そのように したって こと 聞いたの 昔は

スミダオンネ  
炭だものね。

A ンダネ スミスカ ネエアンネ  
そうだね。 炭しか ないからね。

B アノ コズガエ ズンツァン<sup>(6)</sup> エサ モラエサ エグドキナー  
小使の おじいさんの家に (お湯を)もらいに 行くときね。

A オユ モラエサ エグンダモンナ  
お湯を もらいに 行くんだもんね。

B オユ モラエサ エッテ  
お湯を もらいに 行って-----。

## 注記

- (1) 両手の拳を鼻の上に重ねて、「鼻高々」という仕ぐさをしたもの。
- (2) 効果的に温めるため、個々の弁当袋（それぞれ色や模様がついていて識別できる）から、弁当箱を取り出して、じかに温飯器に入れる。
- (3) 「結局」か。（話者にこの所 意味を問うても記憶になかった。）
- (4) 「呉れられる」（受け身）という表現。よく使われる。全体の意味は、「ストーブがあればその上に薬罐を置いてお湯をわかすこともできるが、炭で温飯器の御飯を温める」。
- (5) 「アエズ」は温飯器を指す代名詞のようでもあるが、単なる遊びことばのようでもある。「シタ」の「タ」は、現在の事実を具体的に表現するのに使われている。過去ではない。この直後にこの句が三回現われるが、皆同様。
- (6) 「小使さんの家」。学校の一部に夫婦で住み込んでいて、子供たちは昼食時にそこへお湯をもらいに行ったりした。

## 7 お祭

話し手

| (略号) | (氏 名) | (性) | (生 年)   |
|------|-------|-----|---------|
| A    | 内海 春吉 | 男   | 大正8年生まれ |
| B    | 本郷 しげ | 女   | 大正7年生まれ |
| C    | 木村 精一 | 男   | 大正7年生まれ |

A マー ナンデモー コレァ オマズリデモー オショーガズデモ  
 まあ 何でも これは お祭でも お正月でも  
 ムガスノホー ナンダガ エー ヨーナ キー スル ナー ネー  
 昔の方が 何だか いい ような 気がする なあ、ねえ。

C ソー ショーガッコーノ トギノ コドナンカ オモエダステ ネー  
 うん 小学校の 時の ことなんか 思い出して ね。

(A ソー マズ ソー) コエナ コトア シャネァ <sup>(1)</sup>ベガラネ  
 こういう ことは 知らないだろうよ。

オマズリン ドキ アノー サンチョーメノ キクジヤノ メーサ  
 お祭の 時 ミ丁目の 菊地屋の 前に

アレ アノ ロテン (A ソー ソー ソー ~~~~~)  
 露店

B アズク ナランデネー  
 あそこに 並んでね。

C ソー アン ドキネ マダ ショーガッコーノ サンネン  
 あの 時ね、まだ 小学校の xxxxxxxx

ニネンシェーガ エジネンシェーノ コロダナー (Bン) ソコサ  
二年生か 一年生の こうだな。 そこへ

エッテネレ (Bン) コエナノ キッタダエ アレ コレ  
行ってね。 こういうのが 来ていたんだよ

ナンドガ コー ボーガラ ノゾグド (A ノゾギメカネ)  
なんだか こう 棒から のぞくと (のぞき眼鏡)

(Bンー) マ <sub>xxx</sub> マンナカサ コー  
真ん中に こう

B エロエロナノ ンー  
いろいろなの

C マンナカサ (A <sup>(2)</sup> ~~~~~) (B ンー) ノゴンノサ (Bン)  
真ん中に 残るのさ

ソエツネレ ソースット コッチ エッカンニ ヤル ヒトモサ  
それをね そうすると こっちに(人が)いるから やる 人もさ

エンピツナンカ モッテ クンダ ハー コッカラ ミット  
鉛筆 かなんか 持って 来るんだ。そして ここから 見ると

エンピツノ シンノ フトサガ コッカラ ミエルンダ ナンテサ  
鉛筆の 芯の 太さが ここから 見えるんだ なんてさ。

(Bン) ソシテ コンダ タマゴ モッテ クンダ (Bン)  
そして こんどは 卵を 持って 来るんだ。

スット タゴ <sub>xxxxx</sub> タマゴノ キミノ オーキサ ミエンダ ナンテサー  
すると 卵の 黄味の 大きさが 見えるんだもの。

(Bン) (A笑) ナガミ アンノバリ (笑) モッテクンダ  
中味が あるのばかり 持ってくるんだ。

(Bンー ンー) ホーシテ ンダガラ ホーテ クジ アエデ モッテ  
そうして だから ほうっと 口を開けて いて

ホレ カウンダッチャ コレ (B ン)(笑) カネ ダステ (B ン)  
買うんだよ これを 金を出して

ソシテ イヤ ナニ ヨロコビ エサンデ エーサ モッテッテ  
そして いや なに 喜び 勇んで 家に 持っていつ  
(B ン) ナガ ミッツート ナンデモ コノ ミエンノワ アノ  
中を 見るというと 何でも 見えるだよ

ソー (B ン) ネレ ナニ コノ バカニ シラッテ<sup>(3)</sup>  
ね、何 だまされて

ミナ カッタダオン ソー (B ン) エンピツ ミット ナルホド  
みんな 買ったんだものさ。 鉛筆を 見ると なるほど

シン ミエッペゲンドモ ダエド (笑) ホ<sup>xxx</sup> ホンダラ アト  
芯が 見えるようだけれども、だけれど そんなら さらに

テモ ミシェラッタモンダ<sup>テ</sup> ネレ (B ン) ハー ホネモ  
手も 見せられた もんだ 手 ね。 もう(手の中の)骨も

チャント ミエル ソー (B ン) ネ (A ホンダラ メアーノ) ア  
ちゃんと 見える のさ。 ね、( そしたら 前の )

ホイナノ ナガカ アンノ ミナ ミシェンノサ (B ン) ホノ  
そういうもの、中が あるものは みんな 見せるのさ

キシエル ダノネレ ナガニ アノ コー クードートガ アット  
煙管 だのね 中に こう 空洞が あると

ホエナノバリ ミシェデ ナガ ミナ ミエンダドシャ<sup>(4)</sup> トゴロガ  
そういうのばかり 見せて 中が みんな 見えるんだってさ。ところが

エーサ エッテ コンド ホンデワ ユノミチャワン ミロ  
家に 行って こんど それでは 湯呑み茶碗を 見る

ナンツワッタオン (B ン) ユノミチャワン ユノミチャワン  
なんて(誰かに)言われたもの。 湯呑み茶碗を。 湯呑み茶碗を



ミタケァ ユノミチャワンサ ホエズ ナカミ アンダワネヤ  
見たところ 湯呑み茶碗に 中味が あるんだよね。

(B ン) コヤッテ ミット ホンダエツチャ (B ンー) ナンダベ  
こうやって 見ると そうだよ。 何だろう、

ユノミチャワンニ ナカミ シン ネャーベ ナンテ (B ンー)  
湯呑み茶碗に 中味, 芯なんて ないはずだなんて

ワッテサワ エークラエー シェズラッテ タダ バカニ シラッテ  
言われてさ。 いいかげん からかわれて ただ だまされて

ソエデ コノ カネバ ツカッテンダ ナンテ ズワッテ<sup>(5)</sup> サー  
それで 金 を 使ってるんだ なんて 言われて さ。

ソنداッテ チーサエガラ ホガサ モンク カダッセ<sup>(6)</sup> エグ  
それでも, 小さいから 他に対して 文句を 言いに 行く

ハズ ネャーノサ ダマッテ ナキネーリ ソー  
はずが ないので。 だまって 泣き寝入りさ。

A マズ アズク サンチョーメサ コー デッタ モンダネ (C 笑)  
あそこ 三丁目に こう(露店が)出ていたもんだね。

(B ホシデ) ホエズ マダ アノ タノシミデナー ン  
そうして) それが また 楽しみでな。

B オマズリツード アノ ハガマ ハオリデ チャ (A タノスミデ)  
お祭 というと 袴 羽織で

カワグツズンジャサ<sup>(7)</sup> オマエリ シテ ソレガラ ハヤグ  
川口神社に お参り して それから 早く

サゲラッテネ オマツリツット  
下校させられてね, お祭 というと。

A ヨエマズリ ツト アンモズガー  
宵祭 というと 餡餅 か?

B ンー ヨエマズリ ツート アンモズ  
うん 宵 祭 といふと 餡 餅 だ。

A アッチノ オンツァン カエッテ キタ コツツノ オンツァン  
あっちの おじさんが 帰って きた , こっちの おじさんが  
カエッテ キタ (B ンー) ホストー ズー アノー ズッ シェン  
帰って きた そうすると <sup>xxxxxx</sup> 十 銭

グレァ ネレ ケラッテサ (B ン) ン オマズリ アット ホレ  
ぐらい ね もらってさ。 お 祭 が あると

コンズゲァー ナンテ ズッシェンケァ エッシェンケァ アノコロ  
小 遣 い なんて 十 銭 かい , 一 銭 かい ? あの頃

エッシェン アレ  
一 銭 だった あれ ?

B ホントニ オエワエダ オンネ  
ほんとうに お 祝 い だ も の ね 。

A エッシェンバ ズーメァ グレァ ズッシェン ケラレツ ツート  
一 銭 玉 を 十 枚 ぐらい , 十 銭 もらうと いうと ,  
カー <sup>(8)</sup> コノ グレァー アルナンテ ナー ヤ ヨロゴンデ シタン  
ああ この ぐらい ある なんて なあ 喜 ん で し た ん  
ダッタ <sup>(9)</sup> (B ンー) シテ オマズリア ホノ サンチョーメサ  
だった。 お 祭 は 三 丁 目 に

デル ヤデァーサ エッテ アノ モト ハヤッタノ テッポーダナ  
出る 屋 台 に 行 っ て , も と は や っ た の 鉄 砲 だ な ,

(B ン) ピストル (B ン) ンー アノー コーヤッテ コー  
ピ ス ト ル こ う や っ て こ う

アレ タマ ツット ハサンデ デ プツット (B ン) ツト ソテ  
玉 を つ っ と は さ ん で そ れ で ぷ っ と せ し て

プツット ソテ トビアガンノ タマデ (Bン) ツブツブ シテ  
ぷつっと 飛びあがるの 玉が つぶつぶしていて

(B ツブツブ) アレ キレー ナッテル ヤズネ アンナノ  
きれいに なっている ものをね。あんなのを

カッテ ホシテナー アノ エー エー エクサン コロニネ  
買って そしてな

B スカス トーリキランネァ クレアー ヒト トーッタンダオンネー  
しかし 通ることができないほど 人が 通ったものね。

オマツリッツートネ  
あ祭というね。

A ホステ マダ タメットキ オマツリダガンナ マダ ガクヨー  
そして また(金)貯めるときも あ祭だからな, また。 学用  
ヒン カウ タメットギ アレ (Bンン) モラッタナー  
品を 買う(ため)金を貯めるときだ。 (金)もらったなあ

ツカワネァーデ タメットギ オマズリド オショーガズダガラ  
それを使わないで 貯める時機は あ祭と お正月だから  
アレ アレ  
あれ あれ。

C アト オマズリア ニチョーメノ アタリサモ ミセ ダスツタ  
そして あ祭は ニ丁目の あたりにも 店を 出していた  
ンスカ キンタローサン テーウス  
のですか。金太郎さんの家の所

A マー ニチョーメ アド マ カワグッツァン<sup>(10)</sup> ネ  
ニ丁目のほかには, 川口神社の境内(にも店が出ていた)ね。

B ンダネ アノ ヨエマズリツート カワグッツァンネ  
そうだね。 宵祭という川口神社の所だね。

C アト ナニカ カンケー ナクトモ デタ ヨク アメッコヤ  
あと、何か(祭と)関係 なくとも(店が)出たよ。 飴 や

ナンカ マエ アメ ナカステサ (B アメ ナカステ) カタグ  
なんか、昔 飴を 流してさ ( 飴を 流して) 固く

(B カタグ) (A ソーソーソー) コー コワスン ダッチャ  
固く こう こわすんだよね。

(A ソーソーソー) ナガ クンビレデデサ<sup>(11)</sup> (B ソーソー) ホエズ  
中が くびれていてさ それを

(A アエズ) シマー ケットノ オッキナ アメ クルンダ  
うまく やると 大きな 飴が くるんだ

(A アメ クルンダ アエズ アレー) ホエズバ ナンボ ヤッ  
それを 何回 やっ

タッテ ホノ クンビレンドッガラ ポキント (B ポキントネ)  
たって くびれているところから ほきんと ( ほきんとね。)

オレデ スマウンダ (B ンダオンネ) ソー  
折れて しまうんだ。 ( そうだね。)

A アエズ アレ ズンツァンダネ チョーシェンズンダッタネ(Bソー)  
あれを売っている人は おじいさんだったね。朝 鮮 人 だ っ た ね。

アノー アレ クルマ ヒッパッテ (B ソー) ソステ コー  
車を 引いて そして こう

フクベン ミデァーナノ ナニ コー (B ソー) ステ ネー  
ひょうたん みたいなの こう して ね。

(B ソーソー) カーデ エッシェン ヤッテ カッテ カーシテナ  
一 銭 やって 買って こうして

<sup>(12)</sup>  
ケッツァ ベロベロ ナメット エーнда ナンテ ケッツァ  
その尻を ペろペろ なめると いいんだ なんて 尻を

ナメット ホレ ポロット トレルワケ ソエ ウスグ ナッカラ  
なめると ぽろっと 取れるわけ 薄く なるから

コエズ ウスグ エナー ナンテ ナメダナ ズワッテ (C 笑)  
これは 薄くて いいな なんて なめたな

ナニヤ コンド ハリ モッテッテ ハリ コーヤッテナ (B ンー)  
こんどは 針を 持って行って 針を こうやってな

ホステ ポツット モゲット アリヤー ナンテ ガッカリシテナー  
そして ぽきっと もげると あれれ なんて がっかりしてな

ホーシテ ドゴガニ エッシェン ツケ <sup>(13)</sup>ホロガッテネァー ベガド  
そうして どこかに 一 銭 落ちて いない だろうかと

エン ナガ ズート サガステ (B 笑) <sup>(14)</sup>カズマカズマ サガスタ  
家の 中を ずっと 探して 隅々まで 探した

モンダッタナー ンー

もんだったな。

B ムガス オマズリニ ズッシェンナンテ ケラレッド <sup>(15)</sup> オニノ  
昔 お祭に 十 銭 なんて もらうと 鬼の

クビダオンネ

首を取ったようなものだもんね。

A アー オドケデネァー <sup>(16)</sup> ズッシェン ナット  
ああ 大変だったね。 十 銭 になると。

B ンー ズッシェン ナットネ ケラッタンデワ  
うん、十 銭 に なる と ね。(それを) もらったんでわ。

## 注記

- (1) 録音者に対して言った発言か。
- (2) この話と関係なく、「お茶を持ってこい」と誰かに言っている。
- (3) 「バガニスル」は、「だます」「ばかされる」の意。「狐にバカニサレル」というように使う。
- (4) 「シャ [ɸa]」は「サ」にあたる間投助詞。「サ」よりややていねい。仙台方言では頻発されるが、この話者たちは稀にしか使わない。
- (5) [ɹüwatte]。「ユ」の頭音が摩擦音となる。
- (6) [kadassæ]。「カタリサ」(語りに)に「エグ」(行く)の「エ」が影響してこのような発音になったか。
- (7) 荒浜の町の中にある神社。
- (8) [qab:]。口蓋垂を震えさせる。方言の感嘆音。
- (9) 「いろいろなことをしていた」の意か。
- (10) 「川口サン」にあたる形。前出の川口神社の通称。
- (11) 「マメコワシ」とか「カタコワシ」とか称されるもの。飴を型に流して固くして取り出そうとするが、ひょうたん型にくびれていて、そこから折れて失敗する。成功すると大きな飴がもらえる。
- (12) 「ケツサ」(尻に)、あるいは「ケツバ」(尻を)の縮約形。
- (13) 「ホロク」は「落とす」「落として失くす」。「ホロガル」はその自動詞。
- (14) 「カズマ」は「角間」「隅」。
- (15) 「ケル」(呉れる)の受身形で、「もらう」の意に使っている。
- (16) 「おどけでない」にあたる形。「大変だ」の意。

## 8 ア이스キャンデーとお婆さん

話し手

| (略号) | (氏 名) | (性) | (生 年)   |
|------|-------|-----|---------|
| A    | 内海 春吉 | 男   | 大正8年生まれ |
| B    | 本郷 しげ | 女   | 大正7年生まれ |
| C    | 木村 精一 | 男   | 大正7年生まれ |

A アド アレ ナズニ ナッツード スケンカンサ アノー アエツ  
夏に なるというし 試験管に あれを

エレテ アレ コーリ エレテ バ トガスンダベ エマノ  
入れて 氷を 入れて 溶かすんだろう。 今の

キャンデー (B ン キャンデー ン) (C アエス キャンデー)  
キャンデー (うん キャンデー) (アイス キャンデー)

(B ン) エヤ シャ----- <sup>(1)</sup>

B アエズ ネレ アノー タガハッシャデ エズバンサギ ハズメダリ  
あれは ね 高橋屋で 一番先に 始めたの。

(A アー ンダガ) ホースタケ タガハッシャデ ホントニ  
(ああ そうかい。) そうしたら 高橋屋で ほんとに

ナズ ハズ ナズダエッチャ アノ アタリ タノクサ <sup>(2)</sup> ハズマッ  
夏 xxxxxx 夏だよね。 あの 頃 田の草取りが 始まっ

タノサ タノクサ アタリンドギ ナーンスタノサ ホスタッケ  
たのさ 田の草取り の 頃 (アイスクンデー売り) 始めたのさ。 それで、

タカハッシャデ トナリグミサ ジッポンスズ ミナ クバッタノサ  
高橋屋で 隣組に 十本ずつ みんな 配ったのさ

(A ンー) ハンズメデ ハンズメタンダガラ (A エー エー ハズメデ)  
はじめて 始めたんだから (ええ はじめて)

ホーステ コンド ホレー トナリグミサ ミナ アノ サラッコサ  
そして こんど 隣組に みんな 皿に

コー ホノー ジッポンスズ チャンデー<sup>(3)</sup> クバッタノサ  
こう 十本ずつ(乗せ?)キャンデーを 配ったのさ

(A ンー ンー ンー) スット オラエ アダリデモ モラッタノサ  
すると 私の家 あたりでも もらったわけさ。

トコロガ オラエノ オバンチャン ツー ヒト ホレ アノー  
私の家の お婆さん という人は

チャンデーツーノ ハンズメデダガラ (A ンー) ムカシビドダガラ  
キャンデーというものは 始めてだから 昔者だから

(A ンー) コノ キャンデーツーノ エズマデモ ノコッテット  
キャンデーというのは いつまでも 残っていると

オモッテルノサ (A ンー ン ン) ネ トゲネァ デ (C ン)  
思っているのさ ね、溶けないで

トゴロガ ホノ アー ワゲァー ヤズラ エマ アノ アズグデ  
ところが ああ 若い 者たちは 今 暑くて

ケッテ クッペガラ (A ンー) エガラ アノ コエズ スマッテ  
帰って 来るだろうから いいから これを しまっ

オゲ ナンテ ホーステ アノー アエツ トダナン ナガサ  
おけなんて言って、そうして (キャンデーを) 戸棚の 中に

エレデ スマッテダ (A ン) スット オラワ エッポン  
入れて しまっていた。 私は 一本



カシェ ラッ タサ (A ン) スタラ ジュッポンモ アッタッケ  
 食べさせられたさ。 すると 十本も あったが  
 ホノ ズンブンガ モー エッポン ナンダガ シャッコクテ<sup>(4)</sup> ヤン  
 もう一本をお婆さんは自分で(食べて), 何だか 冷たくて いや  
 ダナ ナンテ ホステ ハンブン ンー クッテ オレサ ヨゴス  
 だな なんて言って そして 半分 食って(残りも)私に よこし  
 テサ アドワ ハツホン エマ タノクサガラ ケアッテ クッカラ  
 てさ。あと(残り)は 八本。 今 田の草取りから(みんなが)帰って来るから,  
 アズグテ ケアッテ クッカラ (A ン) アド クッテ ワガンネ  
 暑くなって 帰って 来るから あとは 食っては 駄目だ  
 ガラナ ナンテ トダナサ エレッタエッチャ ホノ タノグサガラ  
 からな なんて言って 戸棚に 入れたんだよ。 (みんなが)田の草取りから  
 ケアッテ クル ウズワ ワリバス (A 笑) ハツホン ノゴッテ  
 帰って くる うちに, 割り箸が 八本 残って  
 タエッチャワ (A ン) ドロドロツツーノー サハツツァ ノゴッテサ<sup>(5)</sup>  
 いたんだよ。 どろどろというのが 大皿に 残ってさ。

A ダレ クッタンダッテが  
 誰が 食ったんだ てことになったか。

B オーワレァ スタコト アッタガラサ サー ネー  
 大笑い したことが あったからさ。 ね。

注記

- (1) 「いや シャッコエ (冷やっこい)」と言おうとしたか。
- (2) 七月頃、田んぼの中の草取りをする農作業。
- (3) [c̥c̥andeː].
- (4) [çakkoküde] 「冷やっこくて」。
- (5) アイスキャンデーが溶けて、中の棒が割り箸のようになって皿の上の溶けた水の中に残っていた。

### III. 千葉県<sup>たてやま</sup>館山市<sup>あいはま</sup>相浜

収録・文字化担当者 加 藤 信 昭

## A 収録地点とその方言について

1 地点名 千葉県館山市相浜

2 収録地点の概観

位置——千葉県、房総半島の最南端に位置し、千葉駅から南南西へ約80km、館山駅（国鉄内房線）から南南西へ約10km弱。

交通——千葉駅から国鉄内房線で下り約2時間、館山駅下車、国鉄バス富崎線で南南西へ約10km、約30分終点で下車。



地勢——房総半島の最南端、南と西は太平洋に接している。東は100m程度の山地、北は神戸地区南部の狭い平地であるが、神戸地区北部は150m程度の山地である。平地はほとんどなく、海岸沿いのわずかな土地に集落が形成されている。北と東を山で囲まれているため、海洋性気候で冬でも割合に暖かいが、冬には西の季節風がよく吹きあてる。

行政区画——館山市は約390年前に里見氏が城を築いてから城下町として発展したが、この地はそのころすでに漁村として存在していた。古くは関西方面からの漁民が住みついたものといわれ歴史は古い。明治22年市町村制により、北条町、館山町、西岬村、神戸村、豊房村、館野村、九重村、風原村（那古）。

船形村とともに富崎村も形成した。昭和14年、館山北条、那古、船形地区をもつて館山市制を施行。昭和29年5月3日、市町村合併促進法により、西岬、神戸、豊房、館野、九重と一緒に富崎村も館山市に併合された。この相浜と、隣りの希良とを合わせて、現在富崎地区と呼んでいる。

戸数、人口——昭和51年1月現在

館山市 世帯数 17038戸、人口 56953人。

富崎地区世帯数 604戸、人口 2274人。

相浜 世帯数 261戸、人口 995人。

主な産業——平地が少なく、農業はあまり振れない。海を利用した水産業が主である。しかし、若い世代は、漁業離れをしていて、現役で働いている漁民は、50歳を超えた人達ばかりである。

### 3 収録した方言の特色

#### ①方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

千葉県方言は、隣接する利根川以北の関東東北部の方言（栃木・茨城など）の崩壊アクセントの方言）とは一線を画し、また隣接する江戸川以西の関東南西部の方言（埼玉・東京・神奈川の方言）とも、語彙やアクセントなどでやや異なる面を持ち、関東方言の中にあては、関東南部方言として位置づけられる。

千葉県方言を大観すると、まず、上総と下総との境で南北に分けられ、北の下総では、東北部と、西北部とに細分される。また、南の上総と安房との間にも、かなりの点で、差異が認められる。収録地点は、安房に属する。この安房の中でも、相浜は、その南端に位置し、歴史的にみても、現在に至るまで主要交通路から外れた地域にあるため、古いことばの相を多々みることが出来る。

#### ②音韻上の特色

(1) 老人層の間で、限られた語に「合拗音」が認められる。たと

えば、「菓子・火事・食われない」を「クッシ・クッジ・クッ  
ンネー」のように言う。/kʷa/ {kʷa} が認められるのは、  
関東方言の中では珍しい。この「合拗音」は安房地区で広く聞  
くことができる。

(2) ダ行音の前に促音が立つ。たとえば、「自分・やられるのだ」  
を「オッダ・ヤラレッダ」のように発音する。

(3) 「イ」と「エ」の混同がみられる。ただし、「イ」を「エ」  
と発音する傾向の方が強い。

(4) 連母音 [ai] や [ae] を [e:] のように長音化させる。

たとえば、「見たい・お前」を「ミテー・オメー」のように。

(5) 長音を短音化する傾向がある。たとえば、「祝儀・先生」な  
どを「シュギ・センセ」のように。

(6) ラ行音の「ル・レ」を [i] と発音する傾向がある。たと  
えば、「あれ・～ に行くと」などを、「アイ・～ ニナイト」  
のように。

(7) 語中・語尾のカ行音の子音が脱落する傾向がある。たと  
えば、「ニコ(場所)・焼く」などを「コー・ヤウ」のように。

(8) 語中・語尾のガ行音の子音は [g] である。

(9) 語中・語尾のカ行音・タ行音の子音を有聲化させる傾向があ  
る。たとえば、「坂・道」などを「サガ・ミジ」のように。た  
だし、この有聲化の傾向は、県の北部地方に比べると弱く、語  
彙も限られるようである。

(10) アクセントは東京式で、二拍名詞の二拍目に [a・e・o]  
を含む「跡・稲・船」などの語も、[o o Δ] に発音される。  
(Δは一拍の附属語を示す)。

### ③ 文法上の特色

(1) 方向を表わす格助詞は「サ」を使用する。

(2) 格助詞の「の」は、しばしば「ン」に発音する傾向がある。

たとえば、「昔の人」は「ムカシンヒト」のように。

(3) 推量や意志を表わす助動詞は「～ ッペ」を用いる。

(4) 否定の助動詞「ナイ」は、「ネ」が使用され、たとえば、「知らない」は「シラネ」である。

(5) 接頭辞を多用する。たとえば、「叩く」は「ヒツパタク」のように。

(補注) 同じ富崎地区でも、相浜と隣りの布良との間に、多少の方言の差がある。たとえば、人称代名詞(一人称)の場合、相浜では「ワレ(常体)」、布良では、「ワガ(常体)」と言うし、二人称でも、布良では、「ニシ・ウンダ(いずれも卑体)」を用いるが、相浜では使わないなどの差がある。その他、語彙の使用で差のあるものを拾うと、「お爺さん・お婆さん・沖」などを、相浜では、「ジー・バー・オイ」と言うのに対して、布良では、「ジージ・バーバ・オギ」などのように言うことなどを挙げることができる。ただし、両方言は、そのような違いがあっても、大きくみれば、ほぼ似た方言と言えよう。

#### 4. 地点選定の理由

- ① 房総半島の南端に位置し、歴史の古い地点であるため、方言の保有量が多いこと。
- ② 漁村であり、7、漁師の間に、まだ、きりした漁業関係の方言が生きていることによる。

#### B 話者・録音環境など

- 1 昭和50年12月7日録音
- 2 千葉県館山市相浜760-1(武田由蔵氏宅)
- 3 話し手

H 広瀬ます(女) 明治25年生まれ 無職

相浜生まれの相浜育ち。広瀬さんの御両親は、ともに館山市出身である。

S 鈴木 与一 (男) 明治 28 年生まれ 漁業 (相浜に四代続いて  
住まわれている)  
相浜生まれの相浜育ち。御両親の出身はともに館山市。

T 武田 金市郎 (男) 昭和 11 年生まれ 教職員 (司会者)  
相浜生まれの相浜育ち。御両親の出身はともに館山市。

#### 4 録音内容とその環境

・二人の共通話題である地曳網漁業に従事した当時の回想から、海  
付網漁業、棒受け網漁業等の各種漁業における苦労や自慢話し等を  
男々それぞれの経験から話していただいた。また、広瀬さんは一家  
の主婦として育児に携わる立場からの苦労話、躰けのあり方などにも  
触れている。関東大震災には二人とも、大きな被害を受けた経験  
を持ち、印象も強烈であったとのことで、当時を回想していただい  
た。

・できるだけ平素の状態で話していただけるように努力したが、広  
瀬さんはやや丁寧な語り口であった。鈴木さんは、ほぼ平常通りの  
状態で話されていたようである。会話の進行は自由な雰囲気重視  
したため、時々話題から逸れがちであった。

なお、司会をしていた武田金市郎氏には並々ならぬお世話  
になりました。深く感謝申し上げます。



## 昔の漁業

話し手

| (略号) | (氏名)   | (性) | (生年)    |       |
|------|--------|-----|---------|-------|
| S    | 鈴木 与一  | 男   | 明治28年生れ |       |
| H    | 広瀬 ます  | 女   | 明治25年生れ |       |
| T    | 武田 金市郎 | 男   | 昭和11年生れ | <司会者> |

T アンダノ一 テンキガ ワリツケン ジイサンアンカ アンシテッ  
あれだねえ 天気が 悪いけど ばいさん ほんか 好にしろ  
カノ一 メンケノ一。

いるかねえ 毎日ねえ。

S ン ベツニ アンモ ナニモシテネアデ ハー アンモシテネア  
ん 別に 何も ほんにもしていいいで。ほあ ほんにもしていい  
デ ハー。  
で ほあ。

T デー ケーズケア<sup>ウ</sup> アレカイ ンー コトシ ナンカイグライ デ  
(それ)で 海 付 は あれかい ンー 今年 何 回 ぐらい 出  
タカノ一。

たかねえ。

S マー ヨーカ デタツケンノ ヨーカ デタツケン アト ハー  
ほあ 八 日 出たけどね。八 日 出たけど 後は ほあ  
ホントニ ハタラッタノ タッタ ミッカカ ヨッカシカ ネーノ  
本当に 働いたのは た、た 三日か 四日 しか ないね

ー エー。

え ええ。

T フーン。

ふうん。

S アトワ ウンナ ヨーカノウキ イツカグレー カ カラ アノ  
後 は ええと 八日のうち 五日ぐらい <sup>xx</sup> <sup>xxx</sup> あの

カラデ" ケツテキタカンノー。

空で 帰って来たからねえ。

T (咳) ンデ" サカナワ イネンカノー。

んで" 魚 は いいのかねえ。

S サカナワ アンマリ タ タクサンデワ ネーノー スクネ スク  
魚 は あまり 沢山 では はいねえ 少ない 少な

ネ トシダー。

い 年だよ。

T ンデ" ヤッパ<sup>xxx</sup> ヤッパリ アレカノー ホンデー エー ヨーキア  
んで" やっぱ<sup>り</sup> あれかねえ それで ええ 陽気な

ンカト カンケーアンノカノー。

んかと 関係 あるのかねえ。

S ソーサノー マー ヨーキニモ カンケーモアッペケン アンダナ  
そうさねえ まあ 陽気にも 関係 もあるだろうけど" あれだ"は

ー マー ホノトシ<sup>xxxxxx</sup> ホノ<sup>xxx</sup> ホノトシ ホノトシデ" サカナガ" ク  
あ まあ その年 その年で 魚 が 来

ルトキモアル コネトキモアイカンノー ホンナー ヤッパリ コ  
ろときもある 来たいとももあるからねえ。そんなあ やっぱ<sup>り</sup> こ

ーユーフーニ シケ シケデモッテイーカンノ ヤッパリ サ<sup>xx</sup> ヨ  
うやうふうに 時化<sup>り</sup>して、いるかねえ やっぱ<sup>り</sup> 陽

ーキノ グエデノー サカナモ ヤッパ オニモイ ケガウワノ  
 気の 具合でねえ 魚 も やっほり 大変 違うねえ  
 ーズーット ヒョーリツズキバツテモ オイネシ アメツズキバ  
 え。 あう、と 日和 続きばかりでも いけはいし 雨 続きは  
 ッデモ オイネシノー サカナアンカキューモンア ヤッパリ エ  
 かりでも いけはいしねえ。 魚、ほんかというものは や、ほり え  
 ー トーカニイッペングレー アメガ フツタリ カゼモ フイタ  
 え 十日に 一遍ぐらい 雨が 降、たり 風も 吹い  
 り シナウテア エー ヤッパリ ダメダノー。(咳)  
 たり しほくは ええ や、ほり だめだねえ。

T ニデ ムカシ トレタツキューノアー アジョ アジョダカ アノ  
 んで 昔 採れた、というの は どう どうだろうか あの  
 ー ヤッパリ ヨーガ<sup>(2)</sup> イタンカノー。  
 う やっぱり 魚 が いたのかねえ

H ヨーモ イタワケダデネー。  
 魚 も いたわけだねえ。

S マー ムカシト イマデワ アツダノー ジューブンダラ イッケ  
 まあ 昔 と 今では あれだねえ 十 分 なら いけ  
 ニ ジューブンモ サンジューブン マー ヒヤッピノウケ イ  
 ど ニ 十 分 も 三 十 分 (も) まあ 百 匹のうち ー  
 ッピグレシカ イネーノー アー (咳) デ コノー コガツ  
 匹ぐらいしか いはいねえ。 ああ で このう 小鰐

アンカキューノガ アンダモノ イッピーモ イナウナツキマツタ  
 ほんかというのが あれたもの 一匹 も いはくは、まじました  
 モンノー コンデ コトシラー。  
 ものねえ。 これで 今年あたりは。

- H コトシラー マンデ イネダモンノー。  
今年 らは まるで いはいたものねえ。
- S アジ アジモ マルッキリ イネダモンノー。  
鰯 鰯 も まる、きり いはいたものねえ。
- T アノー バースンアンカーサー アノー ジヒ<sup>(3)</sup>キ ヤッタッペ。  
あのう はあさん はんか はんめ あのう 地曳 やったでしょう。
- H アイ。  
あい。
- T アノジブンワ ヤッパリ ヘエーザウラニ<sup>(4)</sup> イタンカノー。  
あの時分は や、ほり 平 砂 浦に いたのかねえ。
- H アイ。ヘーザウラニ<sup>(5)</sup> イタデスワデョー。コマシューネ。  
あい。平 砂 浦に いたですよ。 こましというね。
- T ウン。  
うん。
- H アノー ナニガ コマッケ ホラ アミ アミチューデスワデネー。  
あのう あれが 細かい ほら 醬 蝦 っというですよねえ。
- T ウン。  
うん。
- H アレガ ショウチュー ナザニ イタデスツテ ダカラ テーゲナ  
あれが いっも 渚に いたんですよ。だから 大抵  
ザエト ホノ エサ タベベガタメニ アンノ サカナニヨラズ  
渚へと その 餌 たべたいがために 何の 魚によらず  
マー ナザエ イタデスダヨ。エン イタカラネ ンデマー イワ  
まめ 渚へ いたんですよ。 いたからね じゃあ 鰯<sup>(6)</sup>  
シアフカラダテモ ヤッパシ キタトキニワネ ホントニ タマデ<sup>(6)</sup>  
はんか でも や、ほり 来たときにはね 本当に たまが

スールヨニ キタデス ダカラ デ アントカスルト アノ モト  
掬うように 来たで だから で 何とか すると あめ 元(a)  
トメンカワエネ ドーット イワシガ ヘエーッテ ホラッチューテ  
留 の ツリへね どう、と 鰯 が 入、て そち、てい、て  
ミンナ スーッテ アンタ イッコ スールシデニ スーッテ モ  
みんな 掬、て あんた 一 向 掬いしに、に 掬、て 持  
ッテキテネー シタダカンネ ホントニ ハー アンデスアデヨ  
って 来てね した だからね 本当に はあ あい、で、よ  
モトト マッデ アノ サカナ ダカラ アノー ナンデスダヨ  
元といふ まるで あめ 魚 は だから あめう 何 で、よ  
イトーノ ヒトガ アノー シリサガリ<sup>(7)</sup>ッチッテネ マインケノヨ  
伊戸の 人 が あめう 後下りと い、てね 毎日の よ  
ーニ ヤテ スズキ アノ ツッテ ホッ カゴサ イレテ ソイ  
うに 来て 鱸 あめ 釣、て ほ、籠 に 入れて そし  
デ<sup>(8)</sup> ワタシラ ホノ ハンバイサ ケールトキア イトーマデ シ  
て わたしらの 販売 に 帰る ときは 伊戸 ま、背  
ヨッテ イガンネカラ オイテアネ オッテ ケーッタデスヨ ホ  
買、て 行かれはいから置いてはね 置いて 帰、た、で、よ、そ  
イガ ユッタリッチューテ メンケ ナギサデ ツッテタデスダヨ  
れが 幾 人 と い、て 毎日 渚 で 釣、て、た、で、よ、  
ズーット ネ ユッタリッテ ネ ホイデ コイー カゴイ ミン  
な、う、と、ね 幾 人 、て、ね それで こゝへ 籠へ みんな  
ナ ショッテ デテネ カゴサ イレテ ソシテ マー ショッテ  
は 背負、て 出てね 籠へ 入れて そして まめ 背負、て  
イッタクレネ ダカラ イナダ<sup>(9)</sup>ダテ アンダッテ ヤッパソ アノ  
行くとね だから い、た、た、て、た、た、て、や、ほ、り あめ

ホノ コマシガ イナウナッタ セデスダヨ コマシガ イマ イ  
その こましか いはくた、た せいであふ こましか 今 い  
ネソデスヨ ヘーダグラニ ホガ コマシ ワタシラガネ アノ  
ないそうであふ 平砂浦に そが こまし ゐたしらかね あの  
ワケトキヤネ (笑) コマシ ヨル ヒーイッタデスダヨ ホシテ  
若いときはね こまし 夜 引きに行ったであふ そして  
アノ ナミノ コナミガ アルトキア アタマゴシン ナツテ ヨ  
あの 波の 小波が あるときは 頭越しに 行って 夜  
ルデスダヨ イクラ スキツケユッタテネ アキダカラ サビデス  
であふ いくら 温いといふ、てね 秋だから 寒いであ  
ダヨ  
よ。

ソシテ アンタ ホイデ アノ コマシブロッケューテネ コノッ  
そして あんた それで あの こまし 袋、て い、てね この  
けぐレー ナガサノ アンデ ユッショーグレ ノー アノ スー  
ぐらい 長さの あれで 何分ぐらい のう あの 掬  
ツチサ ノノ コー ヤッセナ ヤッセナツテ コーヤツテ フタ  
ってさ こう や、せば や、せば、て こうや、て 二人  
リッツ コーヤツテ ナニシテ マンサカエ ヘーツテ コーヤッ  
あつ こうや、て ぼにして 真中 へ 入、て こうや、  
テ ションビテ ズーット ナンバンジロ<sup>(10)</sup>ケツテ アスコマデ イ  
て し、引いて ずうと 何番代<sup>(10)</sup> といふ あまこまで 行  
ツテネ ソシテ アノ ハー アスコカラ マー コンダ ケール  
ってね そして あの ほあ あまこから まあ 今度は 帰  
トキア カツツテ ケンデスダヨ ホシテ ソレガ イナウナッタ  
るときは 担いで 帰るんであふ。そして それが いはくた、た

カラ ヤッパイ ナダエ サカナガ ヘーラナウナッタモンヤラ  
から や、ほり 渚へ 魚が 入らばくば、たものやら  
コノズツット アッデスワ ヘーダウラヘ ズツット マツガ  
平砂浦へ 松が

ネ マツモリガ ミンナ クラガンデ イタデスヨ クラガンデイ  
ね 松森が みんば 暗からて いたでば 暗が、てい  
タノガ コノ ミンナ イクサカラ ミンナ キックマツタカンネ  
たのが この みんば 戦から みんば 切、てしま、たからね  
アカルーナッタセモ アンダッペツテ ユーケン ダイイテ エサ  
明るくば、たせゝも あるにばう、て いうけど 第一 餌  
ガ ナウナッタデスモノヨ コノ コーバガ デキタメニ コー  
が ばくば、たでば ものゝ この 工場が 出きたために エ  
バノ ナニガ ソノー ナ <sup>xxx</sup>カワエナガレテ ヘーラウラ工  
場の ばにが ばう 川へ 流れて 平砂浦へ

オケルカラネ コマシガ アラガツチャッタデスツテヨ キット  
落ちるからね しましが 離れてしま、たで、てゝ き、と  
ソノセデスヨ エン ダカラ コノ マー コーバガ デキテ ミ  
よのせゝでば ばから この まあ 工場が 出来て み  
ンナ カセガレーツカラ イーデスケンネ リョーシガネ ソラ  
んば 縁がれるから ばい、てばくばね 漁師がね ばら  
コマツチャウデサアデヨ ネ カナラズ アンデッサア アノー  
困、てしま、うでば ね 必、ば あれ、てば あう  
ホノー ナニ キツタネモンガ ナガレネバ イママデニヨニ コ  
よのう ばに 汚、物 が 流れてくれば、今までのように ニ  
マシガ イタカンネ イロンナ サカナガ キマスヨ デー アン  
ましが いたからね いろんば 魚 が 来、てば ばえ めん

タ ノー アレ ホラ アノー マルヤマダジ<sup>(11)</sup> ホラヨ ヒロネ<sup>(12)</sup>  
 た のう あれ ほら あのう 丸 山 出し ほらF 広根  
 ネ アノー カミア アラ アンダテヨ ノー ジサン ホノー  
 ね あのう 上 は あら 何んだ、てF のう じいさん そのう  
 ~~~~~ ネネニハ エー サカナガ ツツタデスヨ。  
 根根には よい 魚 が ついていたてF。

S アン。  
 あん。

H ネー。  
 ねえ。

T ジサンワサー アノー ヤッパリ ジビキ イッタダッペアデノー。  
 じいさん はさあ あのう や、ほり 地曳へ 行、たんだらう。

S アン。  
 ああ。

H ヤッパリ イッタデサアデヨ。  
 や、ほり 行、た てF。

T エー ジサン ユツツグレントキカラ イッタカイ。  
 ええ じいさん 幾つ ぐらいいのときから 行、た かい。

S ホダ ニジューゴノ トシカラ イッタノー ニジューゴノ トシ  
 そうだ 二十五の 歳 から 行、たねー 二十五の 歳  
 カラ シー ハー シューセン ニジューゴノ トシカラ シュー  
 から はあ 終 戦 二十五の 歳 から 終  
 セン マ ヨンジューネングレ イッタッペノー ヨンジューネン  
 戦 ま 四十 年 ぐらい 乗、たんだらうねえ。四十 年  
 イッテ (咳) ジビキデ イロンナコトモ アッタヨ ヒトオ タス  
 行、て 地曳で いろんぼ ンとも あったよ。人 を 助



ケテサ コ ユドモオ ヒトリ タスケテ シンジマ<sup>(13)</sup> ッテカラ オ  
 けてさ ニ 子供モ 一人 助けて 死んでしまつてから 陸  
 カエ アゲテノ ホッカ イロンナコト シロ ミンナ シロトダ  
 へ 上げてゐる それから いろんな事と しろ みんな 素人だ  
 ッペ イロンナゴト シ<sub>xx</sub> シタツケン<sub>xxxxxx</sub> シタツケン アンダノ一  
 ろう いろんな事と したけど あれだねえ  
 エー イッコ イキ<sub>xx</sub> ダ<sub>xx</sub> サナウテサ (咳) ホイカラ アシツカ  
 一向 見 出さなくつさ それから 足掴  
 メテ サンニン ヨツタリデ アシツカメテ サガサン シテミタ  
 きて 三人 四人で 足掴 きて 逆さに してみた  
 リサ オゴシテミタリ サガサンシテミタリ シタトロ イクラカ  
 リサ 起してみたり 逆さに してみたり したところ 幾らか  
 ミズ ヘータトコアンダ ヘタダヨ ヘタ エー コンデ コンデ  
 水 吐いた ことあるんだ 吐いたんだ吐いた。ええ これで これで  
 マー グロツカイ マツタトロ イキダシタカラオー エ コン  
 まあ 五・六回 やつたところ 生き出したからさう え これ  
 デワ タツシャニ ナンナシツテ ホイカラ マー ノハラ<sup>(14)</sup> タノ  
 では 達者に なるなといつ それから まあ 野原 頼  
 ミ イツタツケン ノハラガ イナウテサ ホツカラ フレカワサ  
 みに 行つたけれど 野原が いなくつさ それから 古 ツミ  
 シン<sup>(15)</sup> タノンデキテ ホシタトロ アトワ アトワ ワカラネツタッ  
 ン 頼んできて そうしたところ 後は 後は ねからなかつた  
 ケンノ イシャガ ツエーテ イツタカラ ホイカラ ホノ オト  
 けれどね 医者が 連れて 行つたから。それから その 男  
 ゴワ タツシャン ナツテ タツシャン ナツテ アンダ(咳) ホ  
 は 達者に なつて 達者に なつて あれだねえ

ノ アスコ ドーダ アラー スノミヤノ<sup>(6)</sup> スノミヤダ<sup>xxxxxx</sup> ゴロベ  
の あすこ どみた あれは 州の宮 の 州の宮だ

ゴロベ<sup>(7)</sup> ヲチノ セガレダデオ ホイガ デー ス ホノ  
五郎 兵衛 とい 家の 件 だ。それが(それ)で その  
セガレワ アツダナ コンダノ センソーデ シンダノ。

件 は あれた。今度の 戦争 で 死んだねえ。

H コノマエ イクサガ アツテ マーノー ミンナ チガツテ シマ  
この 前 戦 が あ、て まあねえ みんな 違、て レキ  
ツテ。  
て。

T デ バーサンアンカワ ヤッパリ ジビキオ ヤッタダッペケン  
で はあさん はんか は や、ほり 地曳 も や、たんだろうけど  
アンデ オンナモ ズイブン ジビキ ヤッタダッペノ。  
あれて 女 も 随 分 地曳 や、たんだろうねえ。

S ソーサナー ナナジュー。  
そうさほあ セ ナ

H アンデ<sup>xx</sup> ユ ユッタリグレー フキキョー<sup>xxxxxx</sup> フキコガ アッタダン  
あれて 幾人 ぐらい 引き子が あ、たんだろう。

マアミ サカミイ タテワカッテ カゲマシテ ホシテ アノ  
真網 逆網 縦に分かれて 掛け回して して あの  
ナダエ ヒキヨセテネ ソシテ(咳) フーロオ シメテ アノ サ  
渚へ 引き寄せてね して 袋 を 締め、 あの  
カナオ アノ ヘッタ フーロオ マー ミンナ オンナタチデ  
魚 も あの 入った 袋 も まあ みんな 女 達 で  
コー シバツテ ソシテ フネサ オキエ ダシテ ヤツテネ シ  
こう 縛、て して 船さ 沖へ 出して や、てね し

タデスケン メンチ メンチ マー ナギ<sup>ナ</sup>デセンアレバ メンチ  
 たのですかね。毎日 毎日 まあ 風 <sup>デ</sup>マエ あれは 毎日  
 ホノ マー ミズアゲガネ デキテ マ ジビキガ イチバン ハ  
 その まあ 水 揚 がね 出来て 地曳 が 一 番  
 ンバイノ ノー マー ブエ アゲルトカッテユー ハナシデシタ  
 販売の のう まあ 歩合 上げるとかいう 話 でした  
 デヤ ダカラサ マー アノ ムカシノヨニ ダカ イマデモ ア  
 よ。 だからさ まあ あの 昔 の ように だから いまでも あ  
 ノ タイ ア アラ アンチユー ネダガナ タイトネ ホノ イ  
 の 鯛 あ あれは 何という 根<sup>(18)</sup>だ、たかほ 鯛 とね その 良  
 一 サカナガ ツーテル ナニ ウシマツノ アノ ツリブネノ  
 い 魚 が ついていろいろ 年に 五 松の あの 釣 舟 の  
 ミンナ アノ ヒトオノセテ ソシテ ホレ ショベニ ヤッテ  
 みんな あの 人 を 乗せて 行って ほれ 商 売 に やって  
 ンデスケンネ ホシテ ホノ ヒトガ ホノ ネオ オボエテ ソ  
 いるのですけどね。そして その 人が その 根を 覚えていて そ  
 シテ ソコデ タイ ヤッパシ ツッデスツテヨ ツルト ホカノ  
 して そんな 鯛 や、ほり 釣るんです。よ。釣ると 他 の  
 サカナワ デワ ミンナゲ クレテイッテ ソシテ ジブンタチ  
 魚 は では みんなに くねえって 行って 自分達  
 ワ イー サカナオ モッテイグツテ ハナシデスケン マダ ホ  
 は 良い 魚 を 持、て 行く、て 話 ですけど。まだ そ  
 ノ イー サカナガ ネガ アッデスダデヨ ダカ マ ムカシノ  
 の 良い 魚 が 根が あるんですよ。だからさ 昔 の  
 ヨニ ジビキオ ヤレバ マ アノ ネジビテユー ジビキ ムカ  
 ように 地曳 を やれば さ あの 根地曳 という 地曳 昔

シ オカミ ナニ<sup>(19)</sup> ツキトシテ アッタデスチャデヨ ソシテ  
 お上 方に 月として あ、た、というこです。そして  
 ヘーザウラ ホノ ナギサオ ホノ イクラッチュー ケンリ  
 平 砂 浦 その 渚 を その いくらという 権利  
 オ ホノ ジビキガ モッテネ ソシテ アノ マー アノー シ  
 を その 地曳が 持ってね として あの まあ あのう 指  
 キ シタデサーデヨ ホレ マー ミンナワ シラネカラ アノー  
 揮 した ですよ。ほれ まあ みんなは 知らばから あのう  
 アンデスケン ンデ ヘーザウラ ダーノ ナニガ キソクガ  
 あれですけど ンデ 平 砂 浦 だめねえ。何が 規則が  
 カワッテ ソシテ イマ ヘーザウラガ アイノハマノ ヘーザウ  
 変、て として 今 平 砂 浦が 相の浜の 平 砂  
 ラデ ネットカッチュー ハナシデサ アイノ ヘーザウラッテ  
 浦で ばいとかと言う 話でさ 相の(浜) 平 砂 浦って  
 ユッテイタデサアデ アイノハマノ ヘーザウラ ソシテ ジビキ  
 言っていた ですよ。相の浜の 平 砂 浦 として 地曳  
 ガ ホノ ケンリオ モッテ ソシテ マー アノ ナギサ イク  
 が その 権利を 持って として まあ あの 渚 いく  
 ラテュー ワタシラ ホノ アイノハマノ ケンリデシタデヨ ソ  
 らという べたしら その 相の浜の 権利でした ですよ せ  
 レガ ケンリ ナクシタカラ マ アッデサアデヨ トド アッテ  
 れが 権利 なくした から ま あれ ですよ あ、ら  
 ノ スノミヤジタノモノワ キツケリ ナギサマデノ ケンリダキ  
 の 州の宮下の 者は ま、らり 渚 までの 権利だと  
 ユーノデネ フジャラ<sup>(20)</sup>ジタワ ナ コ ナニスル イヌイシノモン  
 いうのでね 藤原下 は は こ ばにする 大石 の者

ワ イヌイシノモンデ コ セメテ アラ アンナニ ナツキヤッ  
 は 犬 石 の 者 で 攻めて あら あんまりに ぼけてしま  
 テ ナギサガ イクラモ ネデサアデヨ ズーット ナギサカラ  
 7 渚 が いくらも ぼいである。 ぼうと 渚 から  
 ナンゲンツテネ アイノハマノ ケンリニ チャント ナツタデ  
 何 間 けてね 相 の 浜 の 権利 に ちゃんと ぼていた  
 スツテヨ ソレオ アンタ ドー ケゲタン シラネツ ノー ナ  
 であてよ。 それを あんた どう 違えたのか 知らない のう ぼ  
 ニ アノ イミ<sup>(21)</sup> アノ カズマヤン<sup>(22)</sup> オトツツアノヨ ドー アレ  
 に あの 伊衛門 あの 数馬屋 の お父 さん よ どう あれ  
 シタダン シラネツケンネ ソシテ ケンリオ ホンダカラ ウル  
 したのか 知らないけれども それで 権利 を それだから 売  
 トキニ ホノ ケンリオ アノ ナニシテ シラベテ ソシテ ウ  
 ときに その 権利 を あの ぼにして 調べて それで 売  
 レバネ イマデ アノ ジビキノ ナカマエ ホノ ケンリガネ  
 ねばね 未だに あの 地曳 の 仲間 に その 権利 が  
 モラワレツデスツキヤデヨー ホレオ ガラ ムヤミニ ウツテシ  
 貰ねれるん であてよ。 それを つい むやみに 売、てし  
 マツテサ コイバイワ ビックリシキヤッタノー マツタク アノ  
 であてさ こねばかりは びっくりしてしま、てねえ。 全 く あの  
 トキヤ。  
 ときほ。

- T ニデ アイカノー アノジブンワ ヤッパイ トツタンカー ジビキワ。  
 んで あれかいねえ あの 時分は やはり 採れたのかねえ。 地曳は。  
 H アー ジビキワ アンタヨー アレ。  
 ああ 地曳 は あんたよう あれ。

S アー マ ジビキワ アッダノ ジビキワ ソートー カネニサッ  
あめ ま 地曳は あれだけ 地曳は 相当 金 に 入、  
タッケンノー。

たけとねえ。

H カネニサッテ ソシテ。  
金 に入、て して。

S カネニワ ナッタッケン。  
金 に入 入、たけとねえ。

T アンガ ヘエーッタンカー。

何が 入、たのかねえ。

H エー サカナガ ヘッタデスヨ。  
良い 魚 が 入、た であらう。

S マー シマアジ イサギ ホイカラ タマニワ タエモ ヘエーッ  
まあ 縞 鰯 伊佐木 それから 入、た 魚 も 入、た  
タッケンノー (咳) マ イー サカナデワ シマアジ イサギダ  
けとねえ ま 良い 魚 では 縞 鰯 伊佐木だ

ーノ イサギ タイ ンデ ナ ニー ナカニワ アジダトカサ  
あね。伊佐木 鯛 んで 入、た 入、たには 鰯 だとかさ

アイ ムカシャー アーユー サカナワ マスッタダオ イマワ  
昔 は ああやう 魚 は 安か、た だよ 今 は

ネガ イッケンノー アジダトカ アンカチユー サカナワ アン  
値が よい けとねえ。鰯 だとか はんかという 魚 は あん  
まり。

まり。

H イサギモ カタマツトキニワ カタマツテネ ノー プレー ソ  
伊佐木も 塊 ず、た ときには 塊 ず、て ね。かう あれ 曾

一タロネトカッ<sup>(23)</sup>キュー マー ネー カエルト カタマッテテテ  
 太郎 根とかという まあ 根に 懸けると 塊まゝでいて  
 ホラ ヨッポド ナギノ ショーノ イー トキデネバ アレー  
 ほら 余程 風の 潮の 良き ときでなければ あれ  
 オキカラ カ<sup>xxx</sup> カエルカラネ ショーノ ゲエーデ アンタ チョ  
 沖から 懸けるからね 潮の 具合で あんた ちよ  
 ット ヨコニ シタリアンカスルト ホラ サカナノ ナニガ ニ  
 っと 横に しにりはんかすると ほら 魚の ところに 逃  
 ゲテシマウカラ ホノ グウエーガ ナカナカ ヨイトデナウテ  
 げてしまうから その 具合が ほかほか 容易でなくて  
 ノー。マ マ マ キノ ナゲ マ ハナシデノー。ムカシワ ホ  
 ねえ。ま ま ま 気の 長い ま 話 だねえ。昔は 本  
 ントニ タイヘンデシタ アレー ネサカガッテワ ネオオコスノ<sup>(24)</sup>  
 当に 大変 でした。あれ 根に懸ってば 根も起すのよ  
 マッテテテワ マタ ヒキアゲテサネ マタ ネサカガッテワ ヤ  
 待っていては また 引き上げてさね また 根に懸ってば ヤ  
 メテ ホシテ ヒキアゲテ ソシテ ナダエ ネー ツケルマデ  
 めて やして 引き上げて やして 渚へ ねえ 着けるまで  
 ヨイトデ ネデスモノ ハンニキ ハンニキズツ カガッチャウデ  
 容易で ないでるもの。半日 半日 ずう かか、てしまうの  
 スモノ ソレ アンタ アツツー スナノ ウエエサネ ソシテ  
 であるもの。 あんた 暑い 砂の 上にさね やして  
 オンナタケヤ ソシテ ベックリシテア シタエト オリテワ ソ  
 ヤ 達 は やして びく、りしては 下へと 降りては ヤ  
 シテ マタ コー ヤッサヤッサ ヤッサヤッサッテ ヒーテサネ  
 して また ニう や、さや、さ や、さや、さ、って 引いてさね

ホッホッ マータ アンタ ホラッツイアイト ノー サツケン<sup>(25)</sup>  
 ほ、ほ、 まみた あんた ほら、まあ、 ねえ 左久衛の  
 アノ アソノ ジーサンノ メダッケン サツケノ ダンナガ  
 あの あやこの じいさんの 前だけと 左久衛の 旦那が  
 イケド シリサ アノー シッテタオリニ<sup>(26)</sup> キテ バサंगा ホノ  
 一度 後に あのう しまった おりに 来て はあさんがあの  
 オヤガネー アツツペッテ ホラ アツツペカラ ア ホラ アー  
 おやが 暑いだろう、 ほら 暑いだろうから あ ほら ああ  
 ツテ キョード ミンナガ オッ ジブー ジビー ファーズニ  
 とい、 ろうと みんがわ お、 地曳 地曳 引かずに  
 オヤジノ ア ジブンノ ムスユノ ヘーホー オツテルチュッテ<sup>(27)</sup>  
 おやじの 自分の 息子の 蠅 を 追、て いるとい、て  
 ワ ミンナ ワラッタッタッケンネ マッタク アツツーデスカラ  
 ほ みんが ねら、たことかあ、たけとね 全く 暑いだろから  
 ヨ アツツー サナカオ ソシテ マー ヨー マーツテ ワタシ  
 と 暑い 最中を やし、て まあ よう 全く ねたし  
 ラ シッ<sub>xx</sub> コドモ ブッテイッテ ソシテ マー ホーン ホント  
 ら 子とて 背負、て やし、て まあ ほかん ほんと  
 ニ マー ヤッタッケンネ。  
 に まあ や、た けとね。

T ナンガツカラ ナンガツダレマデ ヤッタンカイ。  
 何月 から 何月 ぐらゐまで や、たのかい。

H エー。  
 ええ。

S サンガツカラ。  
 三月 から。



H モトワ シガツダッタデノー シガツダッケン コシダ サンガツ  
元は 四月だ、たゞねえ。 四月だ、たけと 今度は 三月  
ノー。

のう。

S サンガツカラ ロクガツマデ ゴガツ イッペダノー。  
三月 から 六月 まで 五月 いっぱいだねえ。

T (咳) ナンジゴロカラ ヒーダスダカ。  
何時頃 から 引き出されたか。

S エー マー ショトキニヨッテダカンノ <sup>xxx</sup> アサ ニジゴロ イ  
ええ まみ 潮時 によつたからね。 朝 ニ時頃 行  
グトキモアル ジュージゴロ イグトキモアルシサ マー ショト  
く とさもある 十時頃 行くときもあるして まみ 潮時  
キ シオノ カゲンデ イグダ ヤニダカンノ ニダカラ ナンジ  
潮の 加減で 行いだ やるんだからの だから 何時  
キューコトワ デキネ イワンネーワノ。  
ということば できない いわけないわけねえ。

T アサノ ニジゴロカラ ヤシノカイ。  
朝の ニ時頃から やるのかい。

S アー ニジゴロカラ デテッテサ。  
あみ ニ時頃から 出て行くね。

T ホー。  
ほう。

S テンタマ <sup>xxxxxx</sup> アガラ <sup>xxx</sup> アガルカ アガラネートキ ショーベーシ  
天道様が 上がるか 上がらないとき 商売 し  
テサ キュートキモアル マタ (咳) ショトキニヨッテ ジュージ  
マタ というときもある。また 潮時 によつて 十時

ゴロ ミナトカラ デルトキモアルサ マ ンサ アサ ジュージ  
頃 港 から 出る時もあるさ ま 朝 + 時

ゴロ イグトキガ ~~~~~ ニジゴロ イグトキガ イチバン コ  
頃 行くときが 二時頃 行くときが 一番 こ

ノ イダオ (咳) マー アンダナー サカナアンカチューノワ ア  
の いんじよ。 まあ あれたはめ 魚 なんかというものを

ノジ ~~xxxxxx~~ アノジブンノ カンゲシタグレ ヒヤクブンノイチシカ イ  
あの時分の 考えをしたら 百分の一しか い

ネーノー アジアンカ アンナモノワ トッタッテ ゼニンナラネ  
はいねえ。 鰯 なんか あんまりものは 採ったて 銭にならん

ッペ ナラネカラ アンナモノ ミンナ クレタリ オカズニシタ  
だろう ならないから あんまりものは みんな くねたり おかずにして

ヤッタリ <sup>(お)</sup> シタツケンノー イマ ホノ アジガ ネガ ヨーテー  
しまたり したけどねえ 今 その 鰯 が 値が 良くて

-----。

-----。

T ニジ アイカノー イクラグレ トレタンカノー。  
んで あれかねえ 幾らぐらい 採れたのかねえ。

S ソーサノー マ イチンチ マ イサギガ イサギアンカデ アッ  
そうさねえ ま 一日 ま 伊佐木が 伊佐木なんかで あれ  
ダノー イチンチ シ ~~xxx~~ ゴヒヤツカンモ ヘーレバ イホーダッタ  
だねえ 一日 四 五百 貫 も 入れば 良くてだ  
ノー アン シマアジアンカダ ニヒヤツカン ヘーレバ ダイリ  
ねえ あん 鰯 なんかに 二百 貫 入れば 大  
ヨダカンノー (咳) デ シマアジチュー サカナワ アンマリ タ  
漁だからねえ。 で 鰯 っていう 魚 は あまり 沢

ワサンナ シナデ"ネダ"カンノ ヒトアキニ サンビ"ヤッカン ヨン  
山 丁 品 で"はい。た"からね ひと秋に 三 百 貫 四

ヒヤッカン トレバ マ ヨツキ イツツキノウチノ ヨンヒヤッ  
百 貫 採れば ま 四月 五月 のうち 四 百

カントレバ イーホーダッタノーマー イサギ"アンカワサ マー  
貫 採れば 良"オ た", たねえ。まみ 伊佐木"はんかほさ まみ

シ <sup>xxxx</sup>ゴセンガングレ <sup>xxxxxxx</sup>フトアキ ヒトアキダカンノ <sup>xxxx</sup>ゴセンガング  
四 五千 貫ぐらい ひと秋 ひと秋"た"からねえ 五千 貫ぐ

レ トラネバ オイネッタッケン マー コッデ" <sup>xxx</sup>ヨンヒヤク  
らい 採らなければいけ"た"から, たねえ。まみ こ"で" 四 百

エン カセダ <sup>xxxx</sup>トシ トシガ イチバン デーリョダッタノーマー ヨ  
円 稼いた" <sup>xxxx</sup>年か 一番 大 漁 た", たねえ。四

ツキデ" ヨンヒヤクエン。

月で 四 百 円。

T ンデ" ダイリョントキワ アイカノーマー ミンナ ヤッパリ マイウ  
ん"で 大 漁 あときほ み"かねえ みん"た" や, は"り 万 祝

エ アンカ キタンカノーマー。<sup>(29)</sup>

はんか 着"た"のかねえ。

S アー キタノーマー。

あみ 着"た"ねえ。

H マイウエ サンカイ キタカイ ジサン。

万 祝 何 回 着"た"かい じさん。

S サンカイ マイウエ サンカイ キタノ。

三 回 万 祝 三 回 着"て"ね。

H ハー ノー オラ イマダ"ニ-----。

ほみ のう おら 来"た"に-----。

S マー ナニ エート ヨンジューネンノウチ マイウエ マイウエ  
まあ 時に ええと 四十 年のうち xxxxxxxx 万 祝

キューノワ サンカイ キタッケンノ。

っまいうのは 三 回 着たけどね。

T (咳) アイカノー マイウエ キューノワ ヤッパリ アノ タノ  
あいかねえ 万 祝 っまいうのは や、ぱり ああ 頼

ンデ ソメテモラウンカノー。

んで 染めてもらうのかねえ。

S アー。

ああ。

H アイ タノンデ ソメテモラウ。

あい 頼んで 染めてもらう。

S ダー ホノ ホノ マイウエオ アンダデ カイ カイ キタモン  
その その 万 祝を あいたよ xxx 買いに来た者

ガ アッテノ ミンナ ウッチャッタッペオ ダカ イマ アイノ  
が あ、ねえ みんな 行くは、まじ、ただろうよ。だから 今 相の

ハマデ マイウエ アンカ キモノ アンカキューノワ ネー ゼン  
浜で 万 祝 はんか 着物 はんかというものは 無、全

ゼン ネーノー。

然、無、ねえ。

T アイカネ バアサンアンカサー アノー ショトキニヨッテ ニジ  
あいかねえ はあさん はんかママ ああう 潮 時 によ、二時

ゴロカラ フネガ デタ アンカーキューバ ヤッパリ イッショニ。

頃 から 船が 出た はんかといえは、や、ぱり 一緒に。

S ヤッパリ イッショニ デネバ オイネノー。

や、ぱり 一緒に 出たけねえ いけたねえ。

H イッショニ イッテ。  
一 緒に 行、て。

T ウン。  
うん。

H イッテテ ミンナ ホラ アノー ミンナ ヨソノ トシヨリガ  
行、て、 みんな ほら あ、う みんな よその 年 寄 が  
アルカラ ハヤ デテクレテノ シルケン ワタシラワ アンデシ  
あるから 早く 出、て、く、て、ね するけど ねたしらは あ、れ  
タヨ デー コドモン ガッコエ イグニモ コマツキマワカラ  
たよ。で、え 子どもの 学校 へ 行くにも 困、て、しまうから  
ホレー ハーホ オッテランネカラ チョイミン<sup>(Jo)</sup> アノ コドモ  
ほ、れ、え 蠅 を 追、て、いら、ね、から 長 衛 門 あ、れ 子、ど、も  
が イグモンデネ タノンデワ ホシテ オメラワ イグトキニワ  
が 行く も、れ、ね 頼、ん、ど、は それ、 みんな、ら、は 行く ときには  
ツレテッテ クラッシエー チッテネ ホシテ デテイッタデス  
連れ、て、行、て、 くた、さ、い、よ とい、て、ね それ、て 出、て、行、た、で、す  
ヨ ウン マー マッタク ヨーイトネ ワタシラー イッコネ  
よ うん ま、み ま、た、く 容 易、で、は、い、ね、た、し、ら、は 一 向、に、ね  
アンタ オブツテ イグダカラ オブツテ カゴオ コー ヨコニ  
みんな 背、負、て、 行、く、の、た、か、ら 背、負、て、 籠、を、 こう 横、に  
ショツテ ホシテ デテイッターネー ンダカ ワスレラレネモン  
背、負、て、 それ、て、 出、て、行、た、あ、れ、え、 ん、だ、か、ら 忘、れ、ら、ね、い、も、の  
ネ デー ジビキノ オカゲデ ワタシラモ ネ アントカ マー  
ね。で、え 地、曳、の お、陰、で、 ね、た、し、ら、も、ね 何、と、か ま、み  
アッデスヨ タベテイカレタデスヨ デネバ ナカナカネ オヤ  
あ、れ、で、す、よ 食、べ、て、い、か、れ、た、で、す、よ それ、で、は、い、ね、は、 何、か、は、い、ね、 親

ジ ヒトリノ カセギデワ コドモ一 タベサセテネ クラスゴト  
 父 一人の 嫁 では 子どもモ 食べさせてね 暮 るんとは  
 デキネ ッタデスヨ デン マ ジビギノ オカゲデ ソシテ マ  
 できはか、たです。でも ま 地曳の お陰で そして ま  
 アッデシタワ ナントカネー。  
 あいでしたよ ほんとかねえ。

丁 ダッケン サビッタ ッペヤデ アサ ハヤク。  
 たけと 寒か、た だらうに 朝 早く。

ハ エー サビーニ アンタ ~~~~~ ホッカブリシテサー ホーヤッテ  
 ええ 寒いのが みんた 頬 冠リしてさめ そうや、て  
 コドモニモ マッパイ ナニスンダカラ ワタイレガモヤオ<sup>(31)</sup> アノ  
 子どもにも や、ほり ねに するんだから 綿入れかもや みの  
 オイテキキヤッタリ カモ カンコ<sup>(32)</sup> オイテキキマ ッタリシテネ  
 置いて来てし、たり かも かんこも 置いて来てし、たりしてね  
 ソシテ アノ シテ マッタク ヨイトデネ ッタデサ アツツト  
 そして みの して 全く 容易で はか、たですみ 暑いと  
 アツツトキワ アンタ マタ バカアツツーテサネ ヒルイエ  
 暑いとき は あはた また 馬鹿暑くてさめ 風の 盛りに  
 ナレバ テッチ タイヘンデシタワ マー ミンナ カサ カブッ  
 ねいば 照、て 大 変 でしたは ちみ みんは 笠 かぶ、  
 テ ナイシ ワタシラー コドモガ イテテ カタ カサ カブラ  
 て いっぱし ねたしらは 子どもが 居て<sup>xxxx</sup> 笠 かぶら  
 ンネ ウットシカンノ カサ<sup>xxxx</sup> カサナシデ セナカワ ビッショリ  
 れない とうしいからね 笠 ねして 背中 は び、しより  
 ネー アセケテ デン コドモモ オトナシユー アレ シテ ダ  
 ね 汗かいて。でも 子どもモ おとなしくて みれ して た

カラ ワタシラーネ コドモガ アッデシタデヨ カミサマミタヨ  
から やたしらね 子どもが あいさす? 神 様みたいな様

ニ マー オトナシユー シテクレタカラ マー アントカ コー  
に まみ おとほしく? しにくれたから まみ ほんとか こう

ヤッテ キリヌイテ ケーラレタダカラ ダカン マー オヤ オ  
や? 切り抜けて 来られたのだから。だから まみ <sup>xxxxx</sup> 親

ヤワ ヤッパシ コドモデスカラヨ アンモ ニクーテ マー ネ  
は や、ほり 子どもでずからよ。ほにも 憎くて まみ ね

ー シツケルワケデ ネッケン ヤッパリネー コドモワ シツケ  
え 躾けるわけ? ほいけど や、ほりねえ 子どもは 躾け

テ イマワ ホラ カワイカラネ フタリグレシカ コドモガ ネ  
て。今は ほら 可愛いからね 二人ぐらしか 子どもが ほ

カラネ オヤガ カワイガッチャッテ トシヨリガ アンタ <sup>xx</sup>  
いからね 親が 可愛いから、ちや、? 年寄が あんた

アノー コゴト ユート ヤッパリネ イクラ コドモノ コダ  
あいう 小言を言うに や、ほりね いくら 子どもの 子だ

カラッパユテ マー エンリヨナシニ シタクレネ キモクワルガ  
からという 遠慮なしに したりするとね 気持ち要が

ルカラネー ハー (笑) コノゴロア アキラメテネ (笑) スルケ  
るからねえ。ほみ この頃 は 諦め? するけ

ンネ マー <sup>xxxxx</sup> イヤ コドモデスヨ センセー エー カワイバ ヤ  
だね まみ 子どもでずよ。先生。ええ 可愛いければヤ

ッパリ <sup>xxxxx</sup> カワ アノ カワイガッテ ソダテタ コワ イママデワ  
ッパリ ああ 可愛いから、? 育てた 子は 今までは

ネ オヤココシタ コドモワ マリマセンヨ。\*

ね 親孝行した 子どもは ありませんよ。

T ジビキアンカ ヤリナガラモ ミンナ ウタアンカ コー ウタイ  
 地曳 はんか やりながらも みんな 唄 はんか こう 歌い  
 ナガラ ヤッタンカー。  
 はんか や、たのかねえ。

H ウタ ウタイナガラ ヤッタデスヨ オンナタタワ。  
 唄 歌いはんか や、たですよ。女 達 は。

S アー オンナタタワノ。  
 ああ 女 達 はねえ。

H ウーン。  
 うん。

T ド<sup>xxx</sup> ドンナ ウタ ウタッタンカー。  
 どんな 唄 歌ったのかねえ。

H ウン アゲテ <(唄) ハーエー アゲテ オクレヨ エ ウワゴシオ<sup>(33)</sup>>  
 うん 上げて はみええ 上げて おくれよ え 上 腰 エ  
 チュートネ ホカノ シトガ <(唄) アラ ヨーイトネ アー ア  
 って言うよね ほかの 人が あら よういとね ああ あ  
 リアアリア アリアサ >ツツテネ ホシテ チカラ イレテ コーヤ  
 リあ ありあ ありあさ、って、よね。そして カ 入れて こうや  
 ッテ ソノ ヒョーシテ" コーヤッテ。  
 って その 拍子で こうや、て。

S アー。  
 ああ。

H <(唄) ハー エー オキノ マネ<sup>(34)</sup> ミロ センリョバコ アラ  
 はみ ええ 沖の 真似 見ろ 4 両 箱 あら  
 ヨーイトネー アラ ヨーイトネ アー アリア アリア アリア  
 よういとね あら よういとね ああ ありあ ありあ ありあ



サ>ツッテネ ソシテ ミンナ ソシテ ヤッテタデスダヨ ニー  
さ っ といえね。 そうして みんな そうして やっていたんだよ。

ハンニチ。

羊 日 。

ト ハー。

ほめ。

ト ハンニチ ヤッテ ソッテ マタ ケールトキャネ ハー コッテ  
羊 日 やって それで また 帰る ときほめ ほめ これで  
イヤエ ッチテネ ホッテ マー アノ ホノ ニー ホットシテサ  
良かったらうてね それで まめ あの その ほめとしてさ  
ネ ンデ マー ナガノウラダカラネ ダマッテ コネ ワタシラ  
ね んで まめ 長の浦 だからね 黙って 来ない。わたしら  
ー アノ アノー ナニノ オー ホウ オッキエノ アノー ト  
ほ めの めのう 何にの おう ほう 船 頭の めのう 藤  
ースケン<sup>(35)</sup> バーサント ロクサーガ<sup>(36)</sup> ウタ ウタッテネ ワタシ  
助の ほめさんと 六 佐 が 唄 歌ってね わたしは  
コドモ ブッテーカー ハヤシ シテ ウター ウタッタコトネー  
子ども 背負っているから 囃 して 唄め 歌、た ことほめえ  
ノ ムカシャ アワブシノー ヨー ウタッタッケン ツイシカ  
の 音 は 安房節 ねえ よう 歌、た けれど ついに  
ワレワレワ ホノ アワブシオ ウタッタゴト ネーカンネ ヤッ  
われわれは その 安房節 を 歌、た こと ないからね。や、  
パイ ダカラ コドモモ アンデモ ヤリツケサシタホーガ イッ  
ほり だから 子どもも ねんども やりつけさせた方が 良い  
ペ ネ クチグサニ シタリ マ ヤッタリ シタリ シグト ウ  
だらうね 口 癖 に したリ ま やったリ したリ すると 億

ックーデナクテ マー キガツイテ ヤレル ヨン ナリマスカラ  
劫 で 行くて まあ、 気がついて やれる ように たりまあから  
ヨ ホシ アタシガネ ヤッパイ イマ コーシテ ウタ ヒトツ  
よ。それ れたしがね や、ぱり 今 こうして 唄 ひとつ  
モ ウタウヨニ ナッテシマスケン ウタドコデ ネットカンネー  
も 歌うように なる、てしまふけど 唄 ところで なるか、たからねえ  
ウタワネットアッケンネ。

歌わなかつたけれどね。

T ジサンモ アイカイ アノー ジビキノ オッキエー ヤッタンカ  
じいさんも あれかい あう 地曳 の 船頭 や、たのか  
イ。  
い。

S ン ヤラネ ホノウチ ハー ウッチャッタモン。  
ん やらない。やあうち はあ 売、てしま、たもの。

T ウン デ ジサンワ ケズケノ オッキエワ ズイブン ナガ ナ  
うん で じいさんは 海 付 の 船頭 は 随 分 <sup>xxxx</sup> 長  
ガウ マッタッペ。  
く や、たでしょう。

S アーン ソラー マッタッケンノー。  
あめん そうあ や、たけれどねえ

H ワタシラー アッダモンネー。  
わたしらあ あれたものねえ。

S コガ コガ マイベッチュー ジキガ キタトロノ ハー モー  
子どもが子どもが やろうという 時期が 来たところ はあ もう  
ダメダカラ ウッチャウベ シツノ ハー シューセンダッペ  
だめだから 売、てしまおう とい、ての はあ 終 戦 だ、ろう

シューセンデネ イクサガ<sup>(37)</sup> ハジマッチャッ tappē ンデ ハ ア  
終 戦 ではない 戦 かも 始 ま, ち ま, た た だ う そ れ で け  
ンモカンモ ハー ダメダカラ デア ウルバーシテサ マ チョ  
にも かも た だ だ け だ から け ば 売 る う と い っ て ま ま 朝  
ーセンジンガ キテ イヤンバーニ アノ トーゾ アンモカンモ  
鮮 人 かも 来 て い い 接 待 に あ の 当 時 け にも かも  
ゼンブデモッテ ロッピャクエン グレダ ッタネ ウン。(咳)  
全 部 ま と め て 六 百 円 ぐ ら い た だ け ね。うん。

ロクシッチャクエンデ ウッテ エ ロクセンエンカ ロクシチセ  
六・七 百 円 け 売 る て え 六 千 円 かも 六・七 千  
ンエンデ ウッタナ ナナセンエンダレデ ウッタッポオ イッケ  
円 け 売 っ た け 七 千 円 ぐ ら い け 売 っ た た だ う よ。一軒  
ンメ ゴヒャクエングレスツ ワケタカンノー。  
前 五 百 円 ぐ ら い づ つ 分 け た から ねえ。

ト ニー ケーズケンー オッキエ ヤッテット ヤッパリ ムツカシ  
うん 海 付 の 船 頭 や っ て い る と や っ は り む ず かし  
ノア アンカノー。  
いのほ 何か ねえ。

S マー ケーズケノ オッキエ シテ ムツカシモア ムツカシッケ  
まみ 海 付 の 船 頭 し て む ず かし い も の は む ず かし い け  
ン アンダノー ヤッパリ ~~メカ~~<sup>(38)</sup> メカリダノー アー ソノ ワ  
ど め れ た ねえ や, は り 目 錨 り た ねえ。あみ け の 若  
ケーウダカラ ヤマー<sup>(39)</sup> ケ ャッカイ ワカッ ダ ッデモ ワカイ  
い う ら た だ から 山 は し っ かり わ か 誰 れ で も わ かる  
ケンノー ワカルケモ マー コノ コノ シオガ コ ッチー  
け ど ねえ わ かる け ど も まみ この この 潮 かも こ, ち の オ

ト マワルトカ アッチート マワルトカシテノ ソノアタマー  
へと 回るとか あ、ちへと 回るとかしてね その頭み  
ツカラ ヤッパリ ツカウダカンノー (息を吸う音・咳) コノシ  
xxxxxxxx  
や、ほり) 使うたからねえ。 この

ヨニア コノショニア ハリイカリガ<sup>(40)</sup> イートカ エ コノショデ  
潮には この潮には 張 錨 が いいとか え この潮で  
ア ツボイカリガ<sup>(41)</sup> イートカノ デ マ イロンナゴトー ジブン  
は 壺 錨 が いいとかね。で ま いろんなことと 自分  
デ カンゲテ ヤッテ ホイガ マ フツー フツーフ ミッカ  
で 考えて や、て それが ま 普通 普通は 三日  
デレバ フツカバタライノ デ ワリニンゲンガ<sup>(42)</sup> ヤッタグレ フ  
出れば 二日 働さね で 悪い人間が や、たりすると 悪  
ルーシタグレ フツカガタ イチンチデモッテ ミッカガ イチン  
く すると 二日 オ 一日 でも、て 三日が 一日  
チデ フツカガ ハズレチャウカンノ ソコダ リョーシチューモ  
で 二日が 外 れてしまうからね。そこで 漁 師、っていうも  
ンワノ メイカリシッテ (咳)。  
のは 目 錨、というて。

H デ タイヘンダッタペノー ムカシャノー ボーケノアンカ セン  
で タイヘンダ、たろうねえ 昔はねえ 棒受の田んか 船  
ドースル トーモッタトラ オラ マタベノ オジサンガ<sup>(43)</sup> コノ  
頭 ある と思、たところ おら 又 平の 伯父さんが この  
ボーケガ ヤ アンテユーカ アタマガ ワリリダンアジョダン  
棒受が ヤ 何て言うか 頭 が 悪いんだかどうたか  
イッコ リョーガ キャーナウテノ オラー アノ ナニ オッカ  
一向 漁 が 利かなくてね おらみ みの なに お、か

ーガ コッババリ トッテキテ ヨソノ オカズグレン モンダト  
あが これ位ばかり 採、てきマ よその おかづぐらいの ものだと  
カ アンダトカ シテ アノ トキオツカキューノガ モグッテ<sup>(45)</sup>  
か 何だとか いて ああ とき おっかあ というのが 潜、て

ジブンガ カセグカラノ ホシテ オジサンガ オラー カワイソ  
自分 が 嫁 ぐからね して 伯父さんが おらみ かわいイ  
ガッテ ホラ オンダガ オンナオヤガ セーハチ<sup>(46)</sup> アンダーヨ  
が、て ほら おれらが 女 親 が 清 ハ あれだあよ

キョウノ アレ サンヤサマダカラ オチャガ デキテッカラサ  
今日はあ あれ 三 夜 様 だから お茶 が できて いるからマ  
オチャノンデ イガッシエョーッテ ユッテノ ホシテ シタッタ  
お茶 飲んで 行きなさいよ、て 言、てね して したけ

ッケン タイヘンデシタヨ ミンナ アノ ホノ アレ ユッソ  
と 大 変 でしたよ みんな ああ どの あれ 何艘

デテタダオカ アイノハマデ ノー ボーケノ ノー ナンニヤ  
出、いたんだろうか 相の 浜 で のう 棒 受の のう 何 には  
ナンゾッテ アッタッペ ノー。

何 艘 と あ、た、た、た、た、ねえ。

T ホノジブンワ ナンゾグレ アッタシカノー。  
どの 時 分 は 何 艘 ぐらい あ、た、た、た、た、ねえ。

S ソーサ ボーケカイ。ボーケワ ヒャクニジュー ヒャクニジュー  
棒 受 かい。棒 受 は 百 二十 百 二十

サンベツキューノガ イケバン ヨケダッタノー。  
何 ばい、って、いうのが 一 番 夕 か、た、ねえ。

T ホー。  
ほう。

H ホカノ タビビト イレテヤッタデスダヨ ムカシア ウーン タ  
 外 の 旅 人 を 入 れ て や、た ん で す よ 昔 は。 ううん  
 ビカラ キーキンドリオ タノンデ" イレテヤッタ ダカラ トラ  
 旅 から 給 金 取 り を 頼 ん で 入 れ て や、て た だ から 採 ら  
 ネット タイヘンダ ウン アノ センドワ ヨーイトデネッタ ウ  
 はいと 大 変 た" うん あの 船 頭 は 容 易 で は か、た。 う  
 ン ノー リョーノ キューモンモアル キャーネモンモ アッテ  
 ん の う 漁 の 利 く 者 も あ る 利 か ない 者 も あ っ て  
 ノー ボーケガヨ リョーノ キューモンモアル キャーネモンモ  
 ねえ 棒 受 か す。 漁 の 利 く も ん も あ る 利 か ない 者 も  
 アッテ ホシテ オメ ゴンシロマリワ<sup>(48)</sup> ノー イッコ リョガ  
 あ、て そ し て お 前 権 四 郎 丸 は ねえ 一 向 漁 が  
 キャーナウテ トートーノー アレシチマッテ。  
 利 か なく て と う と う の う あ れ し て し ま、て。

S ハチ ハチジッペ グレン ジブンガ イチバン サカリダッタノ  
 ハ ハ ナ はい ぐ ら い の 時 分 が 一 番 盛 り だ、た ね  
 ー ウーン ダンダン ダンダン スクナウナッチャッテサ シー。  
 え。 ううん だ ん だ ん だ ん だ ん 少 し づ づ 減 り て し ま、て ま。 しい。

H モトワ イチイチ ワセンオ ヒータデスヨ ノー イマワ キカ  
 え は い ち い ち 私 船 を 引 い た で す よ。 の う 今 は 機  
 イセンデ ウケッパナシデ ツート イグニモ ナニカラ クツヘ  
 機 船 が 浮 け、は っ ち し て" つ う と 行 く に も 海 面 か ら 靴 は い  
 テ ピョットト イガレッケン モトワ ハダシデモッテ アノ  
 て ひ っ と 行 か れ る け と" え は 裸 足 で も、て あの  
 ホノ アンデッサデ" イチイチ ノセジラ<sup>(49)</sup> コー ナラベテ フネ  
 その あ れ で す わ" い ち い ち 乗 せ じ ら こ う 並 べ て 船

ダシテ ヤッターカラ オンナタチモ タイヘンダッタ ノー ホ  
 出して や、たのたから 女 たちも 大 変 だった のう ほ  
 ントニ ヨイトノ ハナシデネッタ オンナタチモ オトドモト  
 んとに 容 易 の 話 で なか、た 女 たちも 男 共 と  
 イッショニネ イッテサ シラオ アゲテ クッダサデヨ シラオ  
 ー 緒 にね 行、てさ しらモ 上げて 来るんであ、てよ しらモ  
 イチイチ アゲルダカラ ヨーイトノ ハナシデネ ノー。マッデ  
 いろいろ 上げ、るゝたから 容 易 の 話 で はな、い のう。まあで  
 コンドア サンマンナッテ サンマオ オトハ<sup>(50)</sup>マンホエ ヘーッテ  
 今 度 は 秋 の 魚 に な、て 秋 の 魚 を エ 浜 の 方 へ 入、て  
 ノ (ネー チョーダイ) ホッデ アレー マー オトドモモ ヨ  
 ね <子どもが 入、てくる> それで あれえ まあ 男 共 も 容  
 ーイトデ ネットワノー。  
 易 で なか、た わねえ。

T ホンデ アノー ハナシガ カワッケン アノー シンサイ<sup>(51)</sup>デワ  
 それで あ、う 話 が 変、るけど あ、う 震 災 で は  
 ホ ホノ シタマデサ ナミガ ギキヤッタッチャデ ノー。  
 ほ きの 下 までさ 波 が 来、て 来、た、ていうで ねえ。

S ウン ウン ソダノー。  
 うん うん そうだ、ねえ。

S シンサイア アッダオー マ チョード オラー ハマカラサ オ  
 震 災 は あれたよ。ま ちようこ おらあ 浜 からさ お  
 ヒンネ ウチエ アガッテ キタダオ ウチエ アガッテ キテ  
 昼 に 家 へ 上、が、て 来、た、た、よ。 家 へ 上、て 来、て  
 ホイカラ ハマ<sup>xxxx</sup> ハマカラ オマンマダヨシテ ヨビー キタカラ  
 それから 浜 から おまんまだよ、て 呼びに 来、た、から

キョード デタシタトロ ンデ ジューニジ マー ジュッポンメ  
 ちようと 出たところ それで ナニ時 まあ ナニ分 前  
 グレダッタノー ホット キョード ジンジャ ウチカラ ジンジ  
 ぐらいたったねえ そうすると ちようと 神社 家から 神社  
 ヤノ アイダグレ イッタトーロ ジシンダッペ ンデ バサンガ  
 の 間 ぐらゐ 行、たところ 地震だろう それで はあさんが  
 ヒトリ ネデカンノ ホラシテ ウチー モド<sup>xxxx</sup> モドッテ アルア  
 ー人 寝ているからね そら、て 家へ 戻、て 歩かれ  
ンネッタオ モドッテ イッテ バサン ブーベシッタトーロ バ  
 ーカ、たよ。 戻、て 行、て はさん 背負うと したところ は  
 サンワ オラ シンデモイーカラ ネゲロネゲロシテ オガゴト  
 あさんは おう 死んでもいいから 逃げろ逃げろとい、て 俺れがと  
 ユーダオ キョード コマッチャッタ フトッデモッテ エ ホノ  
 言、たよ。 ちようと ニま、てしま、た 一人 ても、て。 その  
 ハレ イーヤンベニ (咳) オジサンガ キテサ ホレ ブッテ デ  
 うち いい按排に 伯父さんが 来、て それ 背負、て 大  
 ーカインヤママデ<sup>(52)</sup> ネゲタダ デーカイン ニワマデ ネゲテイッ  
鑑院 山 まで 逃げ、た、た 大鑑院 庭 まで 逃げ、て 行、  
 テ ホイカラ ハマエ キタッタラ ハ フネマン フネ ハ ナ  
 ー それから 浜へ 来、てみたら は 船 なんか 船 は 流  
 ガレテイッチャウサ ホイカラ アンモカンモ ミンナ ハ ナガ  
 れて い、てしま、うし、 それから 何もかも みんな は 流  
 レテ ナガレチャッタカラ ウチー キテ アンシタッケン アン  
 れて 流れてしま、たから 家へ 来、て あれを した、けど あれ  
 ダノー ハー シンサイデワ ミンナ ズイブン ナンギ シタッ  
 たねえ はあ 震 災 では みんな ずいぶん 難儀 した



ペオー。

たろう。

H マッタク ナンギシタワノー。

全 く 難 儀 したわねえ。

S ツブレタ ウチガ ナンゲン ゴロツケン アルシサ。

潰 れた 家が 何 軒 五・六 軒 あるレマ。

H ジシンデ ツブレタ ~~~~~。

地震で 潰 れた ~~~~~。

S マ ナミワ アンダノー ナミワ <sup>xxx</sup> ソート <sup>xxxxx</sup> アガッテ  
ま 波 は あれたねえ 波 は 相当 上 が、マ

マ ジンジャノ ウシロマデ アガッタダカンノ ジンジャ ナミ  
ま 神 社 の 後 ま で 上 が、たんだからねえ 神社 波  
ワ アゲタンネカノー。

は あげたのでは ないかねえ。

H コシドリデ キット スンダダヨ キット ナンミヤノー。

腰 取りで き、と 滑 んだんだま き、と 波 は ねえ。

S サカナアンカ ヘンナ サカナ オンモリ ブッチャガッテタカン  
魚 はんか 変 な 魚 沢 山 打ち上 が、て いたか

ノー (笑) ブッチャガッテ オヨッテッダヨ タマリコエ ウン  
らねえ 打ち上 が、て 泳いでるんだま 溜り穴へ。うん

ホイカラ <sup>xxx</sup> シンサイノ アシタダナ アシタワ (咳) ヒョガ  
それから 震 災 の 翌 日 だ 翌 日 は 潮 が

ズーット ヒチャッテルモンダカンノ ハマエ ハマエ イッテ  
ずう、と テーしよ、たものだからね 浜へ 浜へ 行、マ

アワビダノノ トコブシダトカ アワビトカ サデトカ トッタモ  
鮑 たのね 常 節 たとか 鮑 とか 栄螺とか 採、た者

ンガ アルヨ ウーン。

が あるよ。 ううん。

H ヘーザウラガノ ヘーザウラエ ズート……オラ コドモー カ  
平 砂浦 がね 平 砂浦 へ ぶう、と うちの 子ども 牡  
ギオ アノ ハンギリデ<sup>(53)</sup> イッペ トッテキテノ ホシテ マ シ  
蠣 エ あゝ 半 切 で い、ほい 採、てきてね やして まし  
タ ホーノトキ ミンナ アノ ショデ<sup>(54)</sup> エー モノガ オケコバ  
た。 やゝ とき みんな あゝ 潮 で 良、い 物 が 桶・小  
チニヨラス<sup>(55)</sup> アンニヨラス<sup>(56)</sup> ナガレテ キテデテノー ホンデ マ  
鉢 によらず<sup>(57)</sup> 何によらず<sup>(58)</sup> 流れて 来ったのでねえ。それで ま  
ー アノ ヒトノ ナンギダカラ ヒロワンネデ<sup>(59)</sup> キチジロン<sup>(60)</sup> ジ  
み あゝう 他人の 難儀 だから 拾はない? 吉次郎の い  
サングノ ココニ イテテ ~~~~~ ヤッドモ アノ アノ モッ  
さんがね ここに 居て 野郎 共<sup>(61)</sup> 何モ 持、  
てきた アンカッテ オコラレテサ ホシテ ミンナ ア ホエ  
て来た ほんかとい、て 恐られてさ やして みんな あゝこへ  
ウッチャッテキタ ナンチテ ハナシガ アッケン オラ コドモ  
打ち捨てて 来た ほんとか 話 が あるけど うちの 子ども  
モ モッテキタカラ ホレ ワタシラ ニテ タベタデスヨ ソシ  
も 持、て来たから それ わたしは 煮て たべたんじやよ。やし  
たら オガ シャク オコラシテヤッテ ソラホドノ ハンギリデ<sup>(62)</sup>  
たら わたしが 癪 起こしてしま、てさ それ程の 半 切 で  
イッペ トッテキタノモノ モッテネ ネ チットバイ タベテ  
い、ほい 採、て来たもの 持、てね ね 少しばかり たべて  
ホシテ ウッチャリーイッテ ウッチャッタコトガ アルケモ マ  
やして 打ち捨ててに行、て 打ち捨てた こと が あるけれども

ー アッデシタヨ アラホドノ ウラエ アッデシタ ッテヨ ドロ  
あ あれでしたよ あれ程の 浦へ あれでした、てよ そろ  
ーイト イッペデシタ ッテヨ ミンナ シタドシノ<sup>(55)</sup> ナガサレタ  
うりと いはいでした、てよ みんな 下 通しの 流された

アノ ショド―グガ ネー キモンニヨラズ オケコバチニヨラズ  
あゝ 諸道具が ねえ 着物によらゝ 桶小鉢によらゝ  
タイヘンデ<sup>(56)</sup> ンデ コノ オテンドシ<sup>(56)</sup> シタドシノモナ ミンナ  
大 変 で この お天道の 下 通しの者は みんな

アノ アライ キマシタ アノ コンナナ センタクモノ アノ  
あゝ 洗いに 来ました。あゝ このような 洗濯物 あゝ  
ヘスケン<sup>(57)</sup> バサンダノ アノネ ミンナ ナガサレテ チョード  
兵助の ばあさんだの あゝね みんな 流されて ちようこ

マー ビックリシテ \*

まゝ びくりにして

ト ンデ<sup>(58)</sup> コレテルトキ バーサン ドニイタタガイ \*

んで 震れているとき ばあさん どこにいたのかい。

ト コーノ コーガ アンタ ハタケミタオニ ナッテテテネ コイ  
この このが みんな 畑 みたいに ぽろぽろとね こんに  
ミンナデ<sup>(59)</sup> アノ ヒナンシテタデスヨ ソシテ メン ジヤンモキ  
みんなが あゝ 避難してたんですよ。そして 前の じいさんも来  
テ コニ マツガ アッテネ アメマツシッテネ マツノ オーキ  
ト こんに 松が あゝね 天 松というね 松の 大きい  
ノガ アッタデスヨ アッテ ホノ エダガ マー タオレッデネ  
のが あゝたんですよ。あゝ その 枝が まゝ 倒れるんで  
ダオカテ シンペシタ ッチユガ ワタシラ ホンナノ シンペシテ  
はいかしら、て 心 配 した、ていうか わたしら みんなの 心 配 して

ネッケンネ アノ アンギナシデ" イタッケンネ コイ ミンナ  
 何か、たけどね あの 何の気なしで" いたけとね ニンに みんな  
 ワタシラ コイ スワッテ ヨル マー ムコネ アノ アノ ヒ  
 わたしら ニンに 座、て 夜 まい 向うね あの 避  
 ナンシテタッケンネ カー ホノ アッデッサ ホノゴニ ホノ  
 難 して、いた けどね ほの あれで"あま その 後に その  
 マツガネ エダガ" コンナデシタヨ エダデネ マ アノ コッチ  
 松 がね 枝 が" こん なで"したよ。 枝 でね ま こ、ち  
 ドテナンニ オレタカラ イーデスダヨ ホシテ コンダ"ワ ニド  
 エ手 かりに 折れたから いいで"したよ。 として 今度は ニ度  
 メニ コノー ガフリト ホノ オレタトキヤネ ヤッパシ コッ  
 目に こ、う さふりと その 折れた 時にはね や、ほり こ、  
 ケエ ジドサマ ムコンホイト アノ オレテネ カラ コー エ  
 ちへ 地蔵様 向うの オへと あの 折れてね。だから こ、う 枝  
 ダガ" コー エゴッテ ワタシラ ヤネノ オニガワラ ハラワレ  
 が" こ、う 動いて わたしら 屋根の 鬼 瓦 松われ  
 テナモ ムケューダカラ ワカラネッ"タッケンネ オニガワラアン  
 ても 夢中 だから わから"何か、たけどね 鬼 瓦 なん  
カ トラレ"チャッテネ ソシテ ホント アノ ミンナ アレガ  
 か 取られ ちゃ、てね。として 本当 みんな あれば  
 オトドミワ ミンナ コイラ フネガ アンダ"ケッテ ナミガ  
 男 共 は みんな こ、い、ら 船が" あれた"と、いって 波が  
 クルッ"ケッテ ヒトツコ ヒトリ イナウテネ ホノ マタ エ  
 来ると、いって 人、子 一人 いなくて その また 枝  
 ダカ デンキンバシラガ タッタ イッポンシカ タスカッ"タイネ  
 か 電信 柱 が 下、た 一本 しか 助か、って、いない

デンキンバシラガ コーサッテ ホノ マツガ フッカガッテ ホ  
電信柱 が ニうや、て その 松が 引、掛か、て そ  
ノ ストント シ<sup>xxxx</sup>シネデ<sup>xxxx</sup> エダガ コウ ユラユラ ユレテデテ  
の むとんと 「はい？」 枝が ニう ゆらゆら ゆれていて  
キョート<sup>xxxx</sup> コマツキヤッテネ ワタシラデ<sup>xxxx</sup> ショガネカラ ハマエ  
ちようど 困、てしま、てね。 わたしら<sup>xxxx</sup>「しょうがないから 浜へ  
イッたら ハマー オトドモガ テガ アノ アワナウテ アンダ アントカ  
行ったら 誤あ 男 共 が 手が あの あかなくて あれだ 何とか  
ナミガ<sup>xxxx</sup> クツダッペキッテ ミンナ ホエ デバッテデ<sup>xxxx</sup>テ ショガ  
波が<sup>xxxx</sup> くるた<sup>xxxx</sup>ろう、て みんな そこへ 出張、ていて 「しょうが  
ナウテ ソッカアー ショーボニ ホノー ナニシキテモラッテネ  
ほく？ それから 消 防に けう びにし來、てもら、てね  
ギッテモラッテ タツカッタ アレガ ドフント ワタシラー コー  
切、てもら、て 助 かった あれが どふんと わたしら<sup>xxxx</sup>め ここ  
エトネ ツブレキヤウデシタヨ。

えと つぶれてしまうところでしたよ。

## 注記

- (1) 敷網漁業の一種。根付きの魚（鰻など）を三隻の舟で台形に敷いた網に、餌付け用の小舟によ、て誘い出し捕獲する漁業。
- (2) 日常でも、は、きり発音するときには「いそ」と発音する。
- (3) 地曳網。
- (4) 千葉県館山市の伊戸地区から相浜地区まで続く約10キロの砂浜。
- (5) みじ、むろみじなどを採る時の餌。
- (6) たも網
- (7) 釣糸を沖の方へ投げ、陸の方へ下りながら引く釣の方法。
- (8) 相浜漁業協同組合の水揚げ場所及び事務所を通称「販売所」と言っている。
- (9) 鰻の初期の名。この地方では、いただ・わらさ・ぶり、と大きく異なるに従って呼び名が変わる。
- (10) 網代につけた番号名が地名化したもの。
- (11)・(12) 共に漁場の名前。
- (13) 死んでしま、てから意識不明の状態にあ、たこと。
- (14) 館山市本郷の野原医院。
- (15) 館山市犬石の古川医院。
- (16) 館山市州の宮。
- (17) 家号
- (18) 家号
- (19) 月の当番として。浦を使用する権利を持つ月。
- (20) 館山市藤原。
- (21)・(22) 共に家号。ここでは、数馬屋さんに対し、間違えて伊衛門と言いかけて次に改めている。
- (23) 漁場名。
- (24) 海底の岩に懸った網をほどくこと。
- (25) 家号
- (26) 地曳の引き上げを網を丸く輪に纏める係。（一番楽な仕事のため、半人前的存在である）。

- (127) 縄を追いまわすことから、余分なことをするの意に用いられている。
- (128) 漁業組合に水揚げしても、水揚げの低い漁種は、乗組員で各自の家庭用に又は自由に処分してしまうこと。
- (129) 年間を通して大漁続きのときに、万両祝いを行なう。万両祝いを記念して、めでたい図柄を描いた着物を乗組員に配る。それを<sup>まわし</sup>万両祝を着るという。
- (130) 家号。
- (131) 綿の入った長い防寒着を「綿入れかもや」と言った。
- (132) 綿の入った短い防寒着。
- (133) 地曳の綱を引くときの構え方で、腰より上のところに綱をみて引くこと。
- (134) 沖にいる船から陸へと送る動作。合図。これによつて綱を速く引いたり、止めたりする。時には綱に入っている魚の多寡なども知らせる。それによつて魚市場では受け入れの準備をしておく。
- (135) 家号。
- (136) 家号。
- (137) 第二次世界大戦
- (138) 錨の打ち方を予測すること。転じて甚かの鋭い人間のことを「目錨の利く男」などと用いる。
- (139) 沖から陸の山の位置を見て漁場を確認する。
- (140) 潮の流れのゆるい時に綱を張るために用いる錨の打ち方。
- (141) 潮の流れの速い時に綱を張るために用いる錨の打ち方。
- (142) 技術の下手な船頭の意。
- (143) 棒受け網漁業。
- (144) 家号。
- (145) 海女で稼ぐこと。人によつては一夏で一年の生計が立つ。
- (146) 家号。
- (147) 「神にたのんでかたわめ時は、二十三夜の月を待つ」旧暦の二十三夜の月の出を待間、お茶などを飲みながら時を過す。月の出を見

て解散する一種の宗教的行事。

(48) 船名。

(49) 船を引き上げる時に用いる横木。桟の木にアヘリをよくするため  
に油を塗る。

(50) 安房郡白浜町乙浜。

(51) 大正十二年の関東大震災。

(52) 大鑑院山。

(53) 半切桶。

(54) 家号。

(55) 海岸に近い一帯と言う。

(56) 家号。

(57) 家号。



# IV . 静岡県<sup>しずおか</sup>静岡市<sup>みなみ</sup>南字<sup>なかむら</sup>中村

収録・文字化担当者 日 野 資 純

## A 収録地点とその方言について

1. 地点名 静岡県静岡市南宇中村(旧安倍郡<sup>アサバタ</sup>麻機村)

### 2. 収録地点の概観

静岡市中心街から北へ約4キロの農村地帯。中心街へは昼間10分間隔でバスの便がある。西側の<sup>アサバタ</sup>賤機山の斜面にはミカンの栽培が盛んである。

静岡市は明治22年(1889)4月1日に市政を施行し、同7月1日市役所開設時の人口は37,681人であった(静岡市政要覧)。

そのころは安倍郡麻機村であり、麻機村としての人口は、その後大正元年(1912)の記録によると、男1599人、女1585人、計3184人で、戸数は442戸となっていた(静岡県安倍郡誌)。昭和8年末(1933)には482戸、3386人と記録されている(同資料)。昭和9年(1934)10月1日には、麻機村は、安倍郡<sup>イノ</sup>代田村、<sup>イノ</sup>大谷村、<sup>イノ</sup>久能村、<sup>イノ</sup>長田村とともに静岡市に合併された。当時市全体で35,734戸、人口191,005人とあるから、市全体から見るとほぼ1.7パーセントにあたる寒村であった(同資料)。

しかし今日では、ミカン農家だけでなく、麻機は新興住宅地として発展しつつある。自然会話の中に話題として出てくる「沼のぼあさん」(「通称麻機沼」)は埋め立てられて団地と化した。

### 3. 収録した方言の特色

#### ①方言区画上の位置

静岡県の方言を、i)伊豆の方言 ii)駿河の方言 iii)遠州の方言 のように分けるとすれば、静岡市麻機方言はii)の一つの代表とも見られよう。伊豆・遠州との細かい比較は別として、形容詞・助動詞につく回想の「ケ」、逆接の「ケーカ」、反語の「ジャ(-)」, 限定の「バカ」「バッカ」などがその特徴形の一部である。

録音には出ていないが、「せいせいした、さっぱりした」をあらわす「ゴセッポイ」は特に駿河の特徴的俚言と見られている。また伊豆や遠

州に比べて、母音の無声化が少なく、無声子音間の〔i〕〔u〕が有聲のままのことが多いのも、駿河の一つの特徴である。

## ②音韻上の特色

### モーラ表

|   |    |    |    |    |    |    |     |     |     |    |   |
|---|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|---|
| / | a  | æ  | i  | u  | e  | o  | ʃa  | ʃu  | ʃo  | wa | / |
| / | ka | kæ | ki | ku | ke | ko | kʃa | kʃu | kʃo | /  |   |
| / | sa | sæ | si | su | se | so | ʃʃa | ʃʃu | ʃʃo | /  |   |
| / | ta | tæ |    |    | te | to |     |     |     | /  |   |
| / | ca |    | ci | cu |    | co | ça  | çu  | ço  | /  |   |
| / | na | næ | ni | nu | ne | no | ɲa  | ɲu  | ɲo  | /  |   |
| / | ha | hæ | hi | hu | he | ho | hja | hju | hjo | /  |   |
| / | ma | mæ | mi | mu | me | mo | mja | mju | mjo | /  |   |
| / | ra | ræ | ri | ru | re | ro | rja | rju | rjo | /  |   |
| / | ga | gæ | gi | gu | ge | go | gja | gju | gjo | /  |   |
| / | ɲa | ɲæ | ɲi | ɲu | ɲe | ɲo | ɲja | ɲju | ɲjo | /  |   |
| / | za | zæ | zi | zu | ze | zo | zja | zju | zjo | /  |   |
| / | da | dæ |    |    | de | do |     |     |     | /  |   |
| / | ba | bæ | bi | bu | be | bo | bja | bju | bjo | /  |   |
| / | pa | pæ | pi | pu | pe | po | pja | pju | pjo | /  |   |
|   |    |    |    |    |    |    | T   | N   |     | /  |   |

共通語との比較で言えば、/kæ, sæ, tæ.../の系列が加わり、7いるのが第一の特色で、例えば/kæ/と/kʃa/, /sæ/と/ʃʃa/とは区別がある。また/ca, co/も比較的自由に現れる。

{ /sæ/                      /ciisææ/ (小さい)  
 /ʃja/                      /waʃja a/ (わしゃー〔わしは〕)

{ /tæ/                      /kubotææ/ (くぼ、たい)  
 /çja/                      /hitpatçja a/ (引、は、ちゃー)

{ /næ /            /kakenææ /    (かけはい)  
 { /ŋja /            /'iŋja a /        (いにゃー〔稲は〕)

{ /ræ /            /hanbunjurææ /    (半分ぐらい)  
 { /ŋja /            /kurabeŋja a /      (比べりゃあ)

{ /dæ /            /dææzjobu /    (大丈夫)  
 { /zja /            /korezjaa /        (これじゃー〔これでい])

ただ具体的母音声としては「一杯」が〔ippæ:〕のようにも〔ippja:〕  
 のようにも実現されることがある。またまれには〔æ:〕が〔e:〕にも  
 なる。      例 /cumanneeTkenja /

また /ca / の例では

/gi'iTcan / (義-あん)  
 /too'iTcan / (続-あん)    ∴ /zicaa / (実い)

がある ( /T / のあとのみ)。

ダ行音の前に促音が現れうるのも注意される。

/'iiTde /        (いいので)  
 /so'edamondaTde /    (それだもので)

### ③ 文法上の特色

#### 1 助詞

##### 1-1 副助詞

○限定をあらわすものに /-baTka, -baka / がある。

mukoonibaTka 'itadajo.  
 korebaTka no ninzunina  
 zjuugohjoobaka

○動作の並用をあらわすものに /-nacura / がある。

kasi'o jarinacura  
 gohan cuinacura

##### 1-2 接続助詞

○順接に /-dante, -dande / がある。

soredante sa

koncurida mondande nanno kotaa nee

○逆接に / -ken, -keena, -keya, -dattemo / がある。

nonbirisitetaken Kjonenwa jararecjattada

ẑjooẑjoo cukuruda keena soho perade kanẑjoositahooya  
hajææda

senseeni juTTadakenana

tatamija dattemo dæækudadattemo ŝjakansandadattemo

### 1-3 終助詞

○反語に / -ẑja, -ẑja / がある。

'azee taT̂ĉjaẑja

micisitano ŝjuudaTkeẑja

○強意に / -dee / がある。

jakuboo made 'iTTadee

○回想に / -ke / がある。形容詞・助動詞の終止形に / T / を介してつ  
き、自分の経験を回想する。

niñijaka'iTke

hijaTkeetke

micisitano ŝjuudaTkeẑja

### 2 助動詞

○話手の意志をみられるものに / -zu / がある。

sinudara 'iT̂ŝjoni sinazujuo

○現在の推量に / -zura /, / -ta / がある。

'ore 'otoko hitorizura

'dremo siTterura romaTci

○過去の推量に / -cura / がある。

kanyææ neetkeTcurana

○断定の / -da / は動詞・形容詞・助動詞などの終止形につく。

'ano koomo jarudade

kaneya nææ da ken

niŝjoomo toTtadajo

以上のほか、語彙の面から言うと、/sʲonbai/（塩からい）、  
/cinbii/（小さい）Tなどの形容詞が本県方言としての特徴形を有すると  
見られる（前者は、もちろん/sʲonbae/が古形である）。

#### 4. その他

##### ①地点選定の理由

2に記したように、麻機地区は新興住宅地として人口の流入が多いの  
だけあるが、古くから住みついている農家の人々も依然として多いの  
で、そういう人を求めることにより、古い状態の方言を探ることができ  
ると思われたことと、被調査者A氏は以前から面識があり、比較的  
気軽に引き受けてくれると予想されたこともあった。

また疑問点が出た場合も、事実何度か拙宅まで来てくれて、それに答  
えてくれたので、ありがたかった。したがってA氏は協力者であるとともに  
出演者でもあり、談話の進行係をも同時につとめてくれた。

##### ②協力内容

A氏は自分の幼なじみのB・C両氏をさそって、A氏の自宅で座談会  
を開いてくれた。その内容が収録されているわけである。

（注）昭和45年10月1日の国勢調査時における静岡市の人口は、  
男205,470人、女210,908人、計416,378人とあり、  
麻機学区だけで見ると、男2,553人、女2,641人、  
計5,194人である（静岡市編「昭和45年静岡市国勢調査結果  
概況」による）。

## B 表記について

麻機方言の音韻体系は共通語（東京方言）とほとんど変わらないので、片仮名表記で示したが、前述 A② 音韻上の特色と合わせて、いくらか補足的な説明をしておく。

① /kæ, sæ, tæ.../ の系列は /カァ, セァ, テァ.../ で表記した。

ヘァーチャッタ / hææTc̥jaTta /

クボッテァートコ / kuboTtæætoko /

シンメァー / sinmææ /

しかし、音声として {-ja:} のようになる場合は、

イッピァー / 'iT̪p̪jaa /

のようにした。

② /ca/ は「ツァ」とした。

ギイッツァン / gi'iTcaN /

トイッツァン / too'iTcaN /

③ /ɲa, ɲæ, ɲi, .../ の系列は /カ°, ケ°, キ°.../ で表記した。

カミナリサンカ° / kaminarisanaɲa /

カンケァーテ / kanɲææte /

④ あいづちの {uN} {N:} 等は「ニー」に統一した。「ソー」{so:}

とまぎらわしいかもしれないが、すぐ下段に共通語訳があるもので区別がつくと思う。

⑤ 特に著しい上り音調はクイであらわしたが、下り音調は特別に記号化していない。「。」が基本表示である。

コドモワ ドーナッタク

## C 収録内容の概説

1. タイトル 「静岡の集中豪雨」～「昔の生活の思い出」
2. 録音年月日 昭和50年10月4日
3. 録音場所 話し手A氏の自宅（静岡市南宇中村1603）
4. 話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生まれ

(Bは「サワバタノオジサン」と呼んでいる。)

小学校卒業後農業。昭和6年(満20歳)～7年兵役(浜松航空隊)。昭和16年(満30歳)～17年南方方面出征(台湾・フィリピン・ミンダナオ島)。純度の高い方言の話し手。ただし「自分の歴史へ刻んである」とか「川が断層には、てる」とか折々漢語が出てくるのが、女性B・Cとの相違点である。話し好きのオトだが特に早口ではない。

B 後藤百々代 女 大正2年生まれ

(Aは「モモサン」と呼んでいる。)

小学校卒業後農業。他地へ出ていない。やや早口だがCより頭の回転はよい。話した量もCより大分多い。A・B・Cはいずれも幼なじみだが、BのオトがCよりもAに対する「親密度」が高いようだ。またCよりもはるかに話し好きだ。声の調子も高いので、録音を聞いてもCとは明瞭に区別がつく。

C 佐藤 とし 女 大正4年生まれ

(Aは「オトシサン」と呼んでいる。)

小学校卒業後農業。他地へ出ていない。Bより話し方はおそく、お、とりした口のききオトである。前項に書いたように、Aに対する「親密度」はBよりやや低いようで、話への参加もBに比べてやや積極性を欠いていた。年令の開きということもあるのだろう。

## 5. 録音環境

私と私の家内が同席していたが、家内はAに菓子をすすめられた時に一回礼を述べただけで、もちろん積極的な発言はしていはいから、全体への影響はない。全体としては、Aのリードの下に、非常に自然に



話が進行したと思う。私も何も言わなかった。A, B, Cは幼なじみだったのでアット・ホームな雰囲気になれたのであろう。

# 1. 静岡の集中豪雨

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

A ~~~~~ コッチワ コズニサー。<sup>(1)</sup> キョネンノ (笑) ボーフーニ  
(台風が) こらにけ 来ひいてみ。 去年の 暴風に

ヤー ヨワッタッケナー。

は 弱った、け けみ。

C ヨワッタッケナー。コトシャー アエデモ イネン エーンテ  
弱った、け けみ。 今年け あれでも 稲(み出来)がいいので

アレダケドナー。

いいけねどねえ。

B コトシャー イネア イーネ。

今年け 稲(み出来)はいいね。

C イーッデ<sup>(2)</sup> タノシミダ。

いいので 楽しめた。

B アー アンタッキモ チット……。

ああ あなたの家も(去年の暴風の時)少レ(被害が あったかね。)

A ヤケター。カミナリシンガ オキター。

焼けたよ。 雷さすか 落ちたよ。

B ウツツテクント コマルサンテ シンパイシテタヨー。(笑)  
(火が燃えた家に)移ってると 困るなんて(私は)心配しなかったよ。

A ヤー ソレダケン アレデ オワリダデー。シー。  
やあ それだけだとあれで 終わりましたよ。うん。

C ソーダエナ。  
そうだよな。

A シー。  
うん。

C シー。  
うん。

A イーッ ケダケカト。シー。  
(今年の 稲の出来は)よかったんだがな。うん。

C シー。  
うん。

B オラウケニター スゴク イニャー エーヨー。  
私の家では すごく 稲(の出来)はいいよ。

A シー。  
うん。

B オワバタノ<sup>(3)</sup> ウチニ ウツツテクルト コマルト オモッテ シン  
澤端 の 家に (火が)移ってくると 困ると 思ってた 心  
パインテター。(笑)  
心配をしまったよ。

C ウケラッケター キョネンワ アレダ ジョソーガイオナー……。  
私なんかの家ではねえ 去年は 除草剤をな……。

B キョネンワ マチカッテナ……。  
去年は 間違ってたな……。

- C マチガッテ カケタモンデ ツマンネーッケカ コトシャー ソイ  
間違ッて (稲に) かけたもので まあか、た、ハ 今年 は それ  
デモ……。  
でも……。
- B ジョソーガイ ウント ドンドント カケネアーッケ。  
(今年に) 除草剤を 沢山 どんどんと かけたら、た。
- C キョネンワ アレジャー ジョソーガイ カケネアーッテモ イネ  
去年 は あれで、は (かりに) 除草剤を かけたら、くても 稲(の出来)  
ワ ヨク ネアーッケカサ。  
は よく たら、たらうべね。
- B アノー タイフーデ ダメニ ナッチャッタ。  
台風のために (稲が) ために たら、ました。
- A キョネンワ オレンサー アノ モテゴメンサー ナンニモ トレ  
去年 は おれは、あ もら 米 が、さ 何も とれ  
ネアデ。ホー。タイフーデナ アノー マー カワカ ハンランシ  
た、いよ。 台 風 が、た 川 が 氾 濫 し  
チャッテサ……。  
ました、てさ……。
- C ー。  
うん。
- A ソエデ アノー 又マカ カブッチャッタ。  
それで (田に) 泥が かぶ、ました。
- C ー。  
うん。
- A ー。ソエダモンダッテ……。  
うん。それだもんて……。

C ダメダッケナ。

ためた。た。な。

A ゼンブデモッテ ニショーモ トッタダヨ。

(私の田の)全部で ニヤ も と、たんだよ。

C ハー。

はあ。

A ニー。ソニヤンコンダ。キョーワ<sup>(4)</sup> アノー シケルサントコモ  
うん。そういうことだ。今日は 茂さんの家でも

アノ ニー イヤマノシュカ ソコ カッタダワ。デ アノー  
畑の衆が その土地も 買ったんだよ。そして (ヤニへ)

ソー ウチョー タッタ。ナー。

家を 建てた。はあ。

B ドコ。

(それは) どこ?

A ウチオ。アノー ハンジョーサンカ<sup>(5)</sup> ソレ アノー ソーコニ タ  
家を (建てた) 半ヤさんが それ 倉庫に 建

ッタッケジャンカ。

てたのではないか。

B ニー。

うん。

C ニー。キョゾーコノ アスコントコノ

うん。貯蔵庫か。あそこの所か。

A ニー。オーオー アスコントコモサ……。

うん。そうた あそこの所もさ……。

C ニー。

うん。

A アノー マチノ シューグ カッテサ……。  
町の 衆 が 買、てさ……。

C ニー。  
うん。

A ソエデ アノー……。  
それで あの一……。

C アレ アノー マチノ シュージャナイ イヤマノ シューダッテ  
あれは 町の 衆 でははい 油山の 衆 だ"(皆が)  
イッタツケジャ。  
言、たではないか。

A ニー イヤマ イヤマノ シューモ イリヤーサ……。  
うん。 油山の 衆 も いれはさ……。

C ニー。  
うん。

A アスコダケガ<sup>(6)</sup> アノー マチノ シューグ カッタダ。ソレカラ  
あそこだけが 町の 衆 が 買、たのだ。それから  
アトワ イヤマノ シューグ カッタダ。  
あとの所は 油山の 衆 が 買、たのだ。

C アー ソーカ。  
ああ そうか。

A ニー。  
うん。

C ミンチ イッショジャ ネアーノ。  
(あの土地を)皆一緒に(買、たの?)はないの?

A ニー。アノ シンセキドーシナンダナ アレ。  
うん。(町の衆と油山の衆は)親戚同志なのだや あれ。

C ニー。ン。  
うん。

A ンー。ソイデ アレ アノー ヤッパリサ……。  
うん。それで あれ や、ほりさ……。

C ニー。  
うん。

A イシカケオ ツンデサ……。  
石 垣 を 積んでさ……。

C ニー。  
うん。

A アスケー コイテ クルラシーヨ。  
あそへ へ、越して くららしいよ。

C アノ イシカケー アノー アレ サイカイノ アレデ ツンデア  
あの 石 垣 は あれ 災 害 の 防止 の 目的 で 積んであ  
るネ。アノ ウチノ シューブ  
るね。(積んだのは)あの家の 衆か。

A アー シタワサ サイカイデモッテ シヤクショデ ツンデクレテ  
ああ 下はね 災 害 防止のために 市役所 で 積んでくれて  
サ……。  
さ……。

C ニー。シタワ シンダダケンネ。  
うん。下 は 積んだんだからね。

A ソイカラ アノー ソノー アレ イッペアーワ ツマレネアーモ  
それから あれは 沢 山 は 積み たい も  
ンダカラ……。  
の ため から……。

C ンー。  
うん。

A ネー。シャクショノ ホーデ……。  
ねえ。市役所 の オ で……。

C ンー。  
うん。

A アー。ヒトツ サクッテサ……。  
めめ。一段 下が、てさ……。

C ンー。  
うん。

A ツンダンダヨ。ヒトツ……。  
積んだのだよ。一段 ……。

C アー。ウチノヤツ ソイジャー ソノウチノ シューガ ヤッタノ。  
めめ。(その人の)家の石垣は それで は その 家の 衆 が や、たの?

A ンー。ソノ ジヒデサ。  
うん。 自費でな。

C ンー。  
うん。

A ンー。ソエデ オマエ キョーモサ アノ ソノ タイフーク チ  
うん。それで お前 今日 もさ 台 風 が 来  
テ ヒドカッタッテ イッテナ……。  
て ひとか、た と 言、て ね (話せしめたのだよ。)

C ンー。  
うん。

A ココマデ キタダナーナンテッテ キョーモサ……。  
(水が)にこみで 来たんだ、ねえ ねえ と言、て 今日 もさ……。



C ニー。

うん。

A ニー。シゲルガシナノ ウチエ ホー ハイッ チャッタンダナ。

うん。 茂 さん の 家 へ (水が)入ってしま、たんた"ッぽ。

C ソーダヨナ。

そうだよぽ。

A ニー。

うん。

B ソシテ マタ アノー ドコ ドコノ アレデ" マタ ニー ダイ  
キレテ また <sup>xxxxxx</sup> どの 責任で" また(その上のナエ)第

ニージコージデ-----。

ニ 次 エ 事デ-----。

A ニー。

うん。

B ヤルダクナート オモッテタ。

やるのかッぽと 思ッていた。

C ソーダト オモー。

やるのだと 思ッう。

A アノコーモ ヤルダデ。ニー。マー ダイイッキワ アスコデ" オ  
めめ奥の方(エ事エ)やるんだぞ。 おめ 第一 期は おめ"で 終

ワリ-----。

わり-----。

C ニー。イッキワ オワリデナ-----。

うん。 - 期は 終わりでッぽ-----。

A ソエカラ アレカラ ウォーナ-----。

それから おめ"から 上をぽ -----。

C ニー。

うん。

A コンダ カルラシーダヨ。

今度 やるらしんたよ。

C ニー。

うん。

A マー イツニ ナルカ シランケーガナ。カネガ ネアーダケン。(笑)  
まめ いつに ぼろか 知らんけいけい。金か けいのだから。

ニー。エ モーカッタノワ オテラダデー。

うん。 もうか、たのは お寺 たよ。

B オテラワ ヨクサツタナ。

お寺 は 立派になつたよ。

A ニー。オテラワ ソー アノー……。

うん。お寺 は そう ……。

C ソー……。

そう……。

A ヘッコンデ カケテ トレチャッタコサ……。

(台風のために)へ、こんでかけて 取れてしまった所ね……。

C ソーダナ。

そうたナ。

A マタ ボキン デキテ アレン ウリャー エーケン<sup>(ク)</sup> ゼニニ ナ  
(それに)また 墓地 ができて あれを 売れば 相当 収入ニ ナ  
ルダ。

るのだ。

B オテラワ ホント アレダネ。アノー タイフーデ (A 笑) ミハ

お寺 は 本當に 台 風 で 見晴

ラシン ヨクナッチャッテ <sup>xxxxxx</sup> イー イーオテラニ ナッチャッタネ。  
らしか よくね、アシマ、テ いいお寺に ね、アシマ、たね。

A ニー。アノトキニャー モモサンチアタリヤー ヤッパ アノー  
うん。あの 時 には 百々さんの家 ねどは や、はり (水バ)  
ツイタツケダカ。  
ついたのた、いか。

B ニー。エンノシタマデ ハイッタ。  
うん。縁の下 まで(水バ)はいた。

A エンノシタマデ。  
縁の下まで。

B ニー。  
うん。

A マノー サトークンワ。  
佐藤君 は？

C ワシラノ イーッケダヨ。  
私たちの(家は)よか、たよ。

A イーッケ。  
よか、た？

C ニー。  
うん。

A マー。  
ああ。

C ワシラノ ウチワ イーダケーガサ ヤック<sup>(p)</sup>チン ヒドク ヤラレ  
私たちの 家 は いいのたかば ハ津口(の家)がひどく やられ  
チャッテサ。  
アシマ、ア。

A ニー。ヤツグチナー。

うん。ハ津口はめ。

C ソー。

そう。

A ニー。ガイショクナー。

うん。在所がはめ。

C ガイショク ヒドク ヤラレチャッタモンデ アノー ソレコソ  
在所(の家が)ひどく やられてしま、たので それこそ

ヨサカニ オコサレテ……。

夜中 に 起こされて……。

A ニー。トシデッタ?

うん。かけついて行、たか。

C ウチニャー イナクテ ムコーニバツカ イタダヨ。

(自分の)家には いなくて ムコウ(ハ津口)にはばかり いたんだよ。

A ニー。

うん。

C ヒトバンジュー オキテ……。

一晩中 起きて……。

A ニー。

うん。

C ソレコソ ミテタ。ミキントコ ナガレルノオ。モノスゲーッケナ。

それこそ 見ていた。道路を (水で)流れるのを。ものすごいかな。

A ニー。

うん。

C ホントニ……。

本当に。

A ナンセー アントキニャー マー シニモノグレイダッキャナ。  
なにしろ あの 時 には まあ 死に物 狂いた、た、まあ。

アー。

ああ。

C ソーサー。

そうだなあ。

A アノー ソノアシタノアササー オレ ヤクボーマデ イッタデー。  
その翌日 の 朝さ 私は 谷々保 まて 行、たよ。

C ニー。

うん。

A ガブガブガブガブ シャーッテ……。  
かぶかぶかぶかぶ(浸水した場所へ)入、て……。

B ニー。

うん。

C ニー。

うん。

A ソシタラ アノー キャーリニサー アノ サンカクヤシキノ カ  
やうしたら 帰 り にさ あの 三角 屋敷の

ーサンカサ アノ クロニ アノー コシカクテサ サワバタノ  
奥さんがな (地所の) 端に 腰 かけてさ 「澤 端の

トーサンテ イッテ ナンダーッテッタラ オリャー コマッタヤ  
父さん」と言うので「何だ」と言、たら「私は 困、たよ。

ゴケドンジャー アルシ オランウキオ ミョーレーッテッタ  
ひとり者では あるし 私の家 を 見てくれよ(こくはなとい

ッケ。(B 笑) テメーノ ウキバッカジャネーワ。ゼンブ ソー  
被害を受けた」と言、た、け。(そこで私は)「お前の家ばかりではないわ。全部(の家が)そう

だ。オンナシコンダ。ソナコンデ オクナッテ ソーイッタ。  
だ。(被害を受けた点では)同じとだ。そんなことで泣くなよと そう言、た。

B アノ トーサン シンダダカヤ、  
あの 父さん(主人)は 死んだんだ、たかね。

C シンダ。  
死んだ。

A シンダサ。  
死んだよ。

B ハー。  
はあ。

A ンー。ソイデ アノー コノー アリサガノサ<sup>(9)</sup>-----。  
うん。それで 有 永のさ-----。

B ンー。  
うん。

A アノー シエージュータクサ。  
市営住宅な。

B ンー。  
うん。

A アッキエ ヤッタダ。  
(サニへ)(三角屋敷の奥さん)入れるようにしてや、たのだ。

B アー ホントア  
ああ そうだ、たの。

A ソイカラ アノー サトーキンサククンノサ-----。  
それから 佐藤 金作 君 のな-----。

B ンー。  
うん。

A オカミサンサ アレカ° アノー シエージュータクノサ オヤカタ<sup>(10)</sup>  
 おかみさんさ その人が (その)市営住宅 のさ 親 オエ  
 ー シテルラノ  
 しているた"ろう。

B シー。  
 うん。

C シー。  
 うん。

A ソイデ" アノー イッカケツノ ニカケツツテ ユーカモ シンネー  
 それで「(その住宅の責任者は、入居期間を)一ヵ月 ニヵ月と 言うかも しれない  
 ケーカ°……。  
 か°……。

B シー。  
 うん。

A マー オンナサンデ"……。  
 まあ (奥さんは)女房のて"……。

B シー。  
 うん。

A イラレルッタケ オメーワナ アノー ヤクショノホーエ ハナシ  
 居られるだけ(居られるように) 役所のオへ 話  
 ヨーシテ ヒャーデ"テリ ヒャーデ"テリナンテコトワ イワネアー  
 を して 早く 出て行け 早く 出て行け"て"というんとは 言わ"ない  
 ヨーニ カヤーカッテ ヤツテクレヨツテ オレ ソーイッタクケ  
 ようにして かれ"が、て や、てくれよ」と 私は そう言、たの  
 だ。  
 た"。

B ニー。

うん。

C コドモモ アルズラケンド コドモワ ドーナツ タグ  
子供 も あるだろ うか 子供 は どうして、た？

A コドモワ ドーナツ タカナ。ソレマデワ (笑) シラネーダケーガ……。  
子供 は どうして、たか。それマデは 知らねえんだいねと……。

C アノヒト オカシナコカ<sup>xxxxxxx</sup> ヒトリ ヒトリ アッタックジャ。  
あの人 は (頭<sup>の</sup>)おかしい子が 一人 あ、た、では、いか。

B ニー。

うん。

C アノー <sup>xxxxxx</sup>アノ アノヒトノ コデナイ アノー マエノヒト……。  
あの人 の 子ではない。 前妻(の子が)……。

A マエノヒトノ  
前妻 ？

C ニー。

うん。

A アー アノヒトワ ジャ ゴサイカ。  
ああ あの人 は だけ 後妻 か。

C ゴサイダヨ。  
後妻 だよ。

A アー。  
ああ(そうか)。

B トシン キカウダモノ アノー ダンササント……。  
年が 違ふんだもの 旦那さんと……。。

C ソーダエナー。  
そうだよなあ。



A アノ ダンナサンワ オメー ヨルナンチャー オメー サキョー  
 あの 旦那さんは お前 夜 何では お前 酒 を  
 アノ サキョー ノンジャーサー……。  
 酒を 飲んで何 さあ……。

C ニー。  
 うん。

A ヘーカラ アノー ジテンショー モッチャー グラングラン……。  
 それから 自転車 を 持っでは (ぐらぐら(しほがら寄っていた))。

B ドッカ アッチノ <sup>(11)</sup>エキナンノ <sup>(12)</sup>ホーノ カワヤエ ドジョーダカ  
 どこか ぬららの 駅 南 の オの 川 へ どれようたか  
 ナンダカ トレー イッタナンデ ヨク イッタツケジャー。  
 何たか 捕りに 行、たなひと よく 言、たでは(はいか)。

C ニー。ヨク ビクモッチャーナー ジテンシャニター ビクツケチ  
 うん。 よく びくを 持っではなあ 自転車 に 何あ びくを つけ  
 や……。  
 では……。

A クロー シターナー アノヒトモ……。ニー。  
 苦労を した 何あ あの おかみさんも……。うん。

B イマモ アスコニ スンデルノ アノー……。  
 今も あそこに 住んでゐるの? あのー……。

A ドコノ……。ヒャー ヤ <sup>xxx</sup>ヤクボエ イッタジャネーカ。  
 どのの……。もう 谷久保へ 行、たのでは(はいか)。

B ニー。  
 うん。

A ニー。ナンセ イマデモ オモイダスヤーッチワケダ。ソー。ソイ  
 うん。 何しろ 今でも 思い 出る 何あ というわけだ。うん。それ

カラ アーソー ンー オランウチー キタ アー イシオ  
から そうだ うん 私の家へ 来た 石尾

ウン。アノヒター ヤネニウエー ナー ダンダンダンダン オマ  
君。あの人は(自分の家の)屋根の上へ たんたんたんたん お前

エ ミズガ アカッテキテサー イクトコ ネーダッテサ。ソエデ  
水が 上がってきてさ 行く所がないんだってさ。それで

ヤネノ テンジョー ツキヤブッテ イタラ タスケー キテクレ  
屋根の 天井を 突き破って いたら 助けに 来てくれ  
た。

た。

B ンー。

うん。

A デ オランウチー キテ イッシューカンバカリ イタ。ンー。  
それで 私の家へ 来て 一週 間 ばかり いた。うん。

B ドコノヒトメ ソレ。

どこの人？ それほ。

A ソリャー アノ タビカラキタ シューダケンドサ……。  
それほ よそから来た 衆 たけれどさ……。

B ンー。タビダ

うん。よそから？

A ンー。ソエデ オランウチワ オテラノシューカ ニゲテキテサ……。  
うん。それで 私の家には お寺の衆 が 逃げて来てさ……。

B ンー。

うん。

A ミンナ ニゲテキテサ……。ソエカラ アサンナツタラ ゴハンシ  
皆 逃げて来てさ……。それから 朝になったら 食事の支度を

ヨーッテ ユートキニサ……。オンナシュワ ミーナ オクマンナ  
しょうと いう時にサ……。女の人 は 皆 共同してくれ  
レヤー……。  
よ ……。

B オテラノウチノ シューモ モー ジッポン オクレリヤー……。  
お寺の家の人もめと 十分 遅れれば……。

A シンジャッタヨ。  
死んでしまったよ。

B ナガサレキヤッタ。  
流されてしま(うとこらだ)った。

A オレガ オメー ツレー イッタダモン。ニー。オレン ツレイッ  
私バ お前(あなたらと)連れに行、たのたもの。 私バ 連れに行、  
た。  
た。

B ニー。  
うん。

A ニー。ソーシタラ オテラノ オショー イワクダヨ……。  
うん。そうしたら お寺の 和尚バ 日くだよ……。

B ニー。  
うん。

A サワバタヨーテシデ オンダッチッタラ アケツチノ<sup>(13)</sup> ヒガナ ケ  
「澤端 よう」と言うので「何だ」と言、たら 「土土 の 灯バ 消  
一タラ ニゲヨーッテコト (B 笑) イワレテルンテ マダ ツ  
えたら 逃げろというのとを 言われているので また(その灯バ)  
イテルジャーネーカッタ ユーケン バカユース オマエ オテラ  
ついているのでは「はいか」と 言うので「は」かと言うな。お前 お寺

ノナ オメア アンナカ コノクレアー<sup>(44)</sup> アルジャーネーカ。ドン  
 のな お前 あの中 (水かきか)のくらい あるではないか」(と言って)どん  
 ドンドンドンチテ ミタラ オマエ オラー オーダン<sup>(45)</sup>ノホーカラ  
 どんどんどん来て みたら お前 私は 大段のオから  
 ウラカラ チタ。  
 (つれ)裏から 来た。

C ー。

うん。

A コリャ タマランテッテ ハヤク ニゲョーッテッテ ヘーカラ  
 これは たまらないうと言って 早く 逃げようと言って それから  
 ソーシタトコロ マーソー ケンチョーエ イッテル マノ  
 そうしたところが そうだ 県庁 へ 行っている(人)あの  
 オクサングサ……。  
 奥 さんが……。

B ー。

うん。

A サイファー ワスレタッテ サイフオンテ イラネーワッテ ヘーカ  
 財布を 忘れたと(言、たが)財布を盗んで いらないうって(私が言、たのて)それか  
 ラ ウチー ニゲテキタ。  
 ら(私の)家へ 逃げて来た。

B ー。

うん。

A ソエカラ ソノアト オレガ ソーット ミカンノ チカラ イッ  
 それから そのあとで 私が そーと 蜜柑の 木の所から 行、  
 タワケダ。イッたら マーソー オテラー デャーショブダッタケド  
 たれた。行、たら お寺は 大 丈 天だ、たけれど

サ。

さ。

C ニー。  
うん。

A ニー。シゲルサンノ ウチー ニゲテッタ。  
うん。(寺人は)茂さんの 家へ 逃げて行った。

C ソーダサ。  
そうだね。

B ヨワッタッケー。  
弱った、けねえ。

C シゲルサンノ ウチー サケー アノー キタジャネアノ オテラ  
茂さん の 家へ 先に 来たのではないかと お寺  
ノシュー。  
の 衆(は)。

A ニー。キタ。ソイカラ オラントコエ キチャッタ。  
うん。来た。それから 私の家へ 来てしまった。

C シゲルサンチマデ ミズ ヘアーッキチャッタ。  
茂さんの家まで 水が 入ってしまった。

A サイヤガラダッケー。  
(サイヤガラのように)ものすごい水勢だったよ。

C ニー。  
うん。

A ダケンガ ソー コンクリダモンダンデナ サンノ コターネー。  
だけれど (その家は)コンクリート造りなので 何の 被害もない。

C ニー。  
うん。

- A ソイデ ソノアシタノアサ アノー ゴハンオサ シヤクショノ  
 それで その翌日の朝 御飯もさ 市役所の  
 シューガ クレルツツタツケガ……。  
 衆 ば くれると言ったが……。  
 C ニー。  
 うん。  
 A イーッテツタダヨ。ニー。コレバツカノ ニンズニサ。  
 いらぬと言ったのだよ。うん。これ(ぐらいの) (少)人数には。  
 B イママジャー ネー ココラ ナンニモ サイガイサント ソーユ  
 今までは ねえ こころは 何 も 災害 何と とうい  
 うノ ナクテ ノンビリシテタケン コン キョネンワ ヤラレチ  
 の(が)なくて のんびりしていたけど <sup>xxxxxx</sup> 去年 は やられマ  
 ャツタツケジャ。  
 レまったよ。  
 A ヤラレチャツタ。  
 やられてしまった。  
 C ソーダヨサ。  
 そうだよな。  
 A アー。ゴヒャクゴジューミリジャーナー ヘーキン ゴジューサン  
 あめ。 550 ミリまではな、 平均 53  
 センチダモン ソレー アノー クボツチャートコエ クルンテ……。  
 センチ(の厚みが降ったの)だもの それに (水が)低い場所へ 来るのだから……。  
 ナー。  
 何め。  
 C ソーダヨナー。  
 そうだよなめ。

A ア アツマルトカー イッピャーノワケダヨ。アー ソレーモッテ  
(水が) 集まる所は 一杯に 貯るわけだよ。 其の上

ッテ リューソーノカワー キレテサ ミザー シタエ イクジャ  
に 竜 爪 の ツバ 切れてさ 水は 下へ 行くので

ネー ウエー ハンランシテキチャッタ。ソイダモンダカラ ゼン  
ない、上へ 泡 濫して 来りました。それだものだから 全

ブコノネ アー タンボンナカノシューワ コレ ヤネノネ テ  
部 田の中(に家のあつた)衆は 屋根のわ

ンジョーマデ ツイチャッタ。アー。ガブガブガブガブ……。

天 井 まで(水が)ついてしまつた。アめ。がぶがぶがぶがぶと……。

C ワシラン ヤツミチデモ アレダニサ アンナナルトワ オモワ  
私たちの ハッ道 でも あれだつた あんたに 貯るとは 思ひ

オカッタ。アー ウエノ ホーダツチカー……。

貯かつた。アめ 上の オ だ、アめ……。

B ホント。ウエノ ホーデネ コッチノ シタノホーノ コトバッカ  
本当だ。上の オ でね、さうの 下のオ の ことはかり

シンパイシテ……。

心 配して……。

C ニー。

うん。

B アノー アレダツケ フントー コンド シタエイキヤー アノ  
本当に 今度は 下のオへ行くのは

ミスガヒャーツチャウ。ウエカラ クリヤー トシャデ フントニ  
(低いから)水が入つてしまう。上 から くるのは 土砂で 本当に

ドーショモ ネーツケ。

どうしようも 貯かつた。

C イチバン イチバン タカクテ アノ タタミノウエマデ タタミ  
xxxxxxx  
一番 高く(水が来た場合は) 畳 の 上 マデ(来て) 畳

ノウエ コナツ ツチニ ナッチャッタダ。ニー。

の 上 が こんなに エ に 来、て、し、ま、た、め、だ。うん。

A オランウチノ キューゾーコワサ コメー ツカナイッテバック イ  
私の 家 の 貯 蔵 庫 は、(浸水しても) 米に (水が) つかないとはかり 言  
ッタダケンサ。

っていたのだからね。

C ウラカラ ガンガンガンガシ ヒャーッテ キチャッタダサ。  
裏 から ざんざんざんざん (水が) 入、て 来、て、し、ま、た、の、だ、ね。



## 注記

- (1) 昭和49年7月7日の静岡県集中豪雨の話題から録音に入った。冒頭は、その時台風が静岡県へ上陸するかと思、たら来何か、たという話から入っている。
- (2) ダ行音の前が促音化しているが、それほど強い習慣ではないと見られる。
- (3) 「澤端」は男性話者Aの屋号。以後「澤端のおじさん」などと、よく出てくる。
- (4) 「今日は別の所でその話が出たのだが」というつもり。
- (5) Aにあとで聞いたら「ササさん」と言、たと言うが、どうしても〔handzo:sanna〕と聞こえる。
- (6) 「あそこだけと」の意。
- (7) {i:kaɲen→e:kaɲen→e:kaen→e:kan}。静岡県方言では〔e:kan〕の形で安定している。「よい加減→相当(の量)」の意。
- (8) 女性Cの実家がある場所。
- (9) 収録地である麻機駅の近郊。
- (10) 「管理人」。
- (11) 静岡市内を国鉄東海道本線が東西に走っているが、その国鉄静岡駅の南側一帯(登呂遺跡などのある地域)を「駅南」とよぶ。
- (12) 「カワヤエ」は「カワエ」の言い誤り。
- (13) 「上土」は静岡市東北部の地名。話者の居住地の麻機から東へ2キロほどの所。
- (14) 「コノクレター」は「膝頭ぐらいまで」。
- (15) 寺の裏側の地域。

## 2. 米 作 状 況

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

- A オカフラワズニ<sup>(1)</sup> コトシノ コメワ ドーナツタ。キョネン ソー  
めけくゝ果てに 今年の 米は どうだ、た(と思う)。去年もそれほど  
トレネアズラ。ターラ ゴビョー モッテ クリヤー ミンテ モ  
豊作が丁あったらう。(それでも)俵五俵 持てくれは(私が貸してやる)皆(俵五)  
ッテ クリヤーッテサ モット カセルダッチダケカ<sup>(2)</sup>……。  
持てくれは(貸してやる)と言て、もと 貸しておいたオカ「よ、たのた」が……。
- B ドコ ドコダッケ。コメン ゼンゼン タベラニナクサッチャッテ  
どこ た、け、米が 全然 食べられなかつてしまて  
コマッタッテッタノワ。  
困った と言、た家は。
- C ミキシタノ シューダッケジャ。  
道下の 衆 た、たよ。
- A ソーダ。  
そうた。
- B ドコダ。ニー。  
どこた。うん。

A オクサン ヤッテクレ。<sup>(3)</sup>  
奥さん 食べてくれ。

X エー アリガトゴザイマス。<sup>(4)</sup>  
ええ めりやとうございます。

B ワシラン アツミチデモ エーカン ハンブングレマー アレダヨ  
私たちの ハッ道でも 相当 半分 ぐらいは  
コー ミズ ハイッ ヤッテナ。  
(家に)水が 入、てしま、て呀。

A コトシモサー オラーウチノ コメヤ マワリワ フケチヤッテナ。  
今年も、 私の家の 米は まわりが ふやけてしま、て呀。

B ンー。  
うん。

A コーイッテ ホントー(笑) ユート アレジャー ミンナ カセル  
本当を 言うと あれで、は(去年)も、呀(私の家の米を)貸  
ダッケン。(B笑) カセリヤーサ コトシ シンメヤーデ クルン  
いおくおがよかつた。 貸せば、 今年(それか) 新米として もど、てくる  
ダナー。 オー。  
んだ「あ。おお。

B ソーダヨサ。  
そうだよ、呀。

A ンー。  
うん。

B コトシャー……。  
今年 は ……。

A トクオ シタッケダケンガ……。  
(貸しておけば) 得をしたのだから ……。

B ホントニ……。

本当に……。

A ミンナモ エーシナ……。

皆(借りた方も都合が)いいしな……。

C コトシャー マタ エーダナ。

今年は また(米作は)いいんだな。

A マダ ジューゴヒョーバカ アルダヨ。ニー。コメン。

まだ ナ 五 俵ばかり あるのだよ。 (去年の)米だ。

B ニー。イツリ。キョネンノ。

うん。いつの? 去年の?

A ニー。キョネンノ。ソイデ ミンナ モッテッテ クッテルダヨ。

うん。去年の。それで(それ)皆が 持ッテ行ッテ 食ッているんだよ。

ニー。ウケニ アルダヨ ジューゴヒョーバカ。ソレン フケチャ

うん。家に あるんだよ。ナ 五 俵ばかり。それが ぶやけて

ッテサ マルデ ションネア。ムシン イッピャーデ。

しまッて、全く しょうべない。虫が いっぱいッて。

B ニー。

うん。

A コーイツァンナンチャー オメー <sup>xxx</sup>ワ ワライキレネー。ソエダ

光一さん 何とハ お前(去年米<sup>xxx</sup>貸しておいたの)笑いか水かい(ほと利益がある)

ンテ イット モッテクトナ ヨクツクト ロクショーバカシカナ

だべー斗 持ッて行くとナ よく春くと ナ 廿ぐらゝしかナ

イ。

い。

C コメモ マズイッケダヨナ。キョネンワ。

米も まあかったのだよ、去年は。

B アジワ ドー?  
味は どう?

A アジャー チート ミズオ ヨブンニ イレナイト ションネー  
味は、ケレ 水エ 余分に 入れたいと だめだ  
ナ。アー。マタ コトシモ タイフーモ クル。アメカ<sup>ノ</sup> チタホー  
ナ。ああ。また 今年も 台風も 来る。雨バ 来たネ  
カ<sup>ノ</sup> エーヤ。ダケーカ<sup>ノ</sup> ソーカガッカイノ シューワナ コーユー  
バ いいや。たけど 創価学会の 衆は 言う  
ヨ。タイフーモナ サイガイモ アッタホーカ<sup>ノ</sup> エーッテ。  
よ。台風もな、災害も あたネ バ いい、て。

B ナゼ?  
なぜ?

A タイフーカ アリヤーナ タタミヤダッテモ テアークダッテモナ  
台風バ あれはナ、畳屋 ども 大工 ども  
シャカンサンダッテモ ミンナ ヤッパリ ゼニオ トレル。ダン  
左官屋さん ども 皆 や、ほり もうかる。た  
テ タマニヤーナ アッタホーカ<sup>ノ</sup> ナ ケーキンヨクナッテ テンノ  
から たよにナ、あたネ バ 空気が よくナ、て(いい)天皇  
ーヘーカノ ウマミテアーニ イツモ タタミノウエニナシカ イ  
陛下の 馬みたいに いつも 畳 の上に ナど<sup>(5)</sup> い  
タッテ オモシロクモネー。(笑) ヨーヤク……。  
ま も おもしろく ナかうう。(たよには一般の馬のように藁の上にねたいだろう。)ようや(……。

B アノー ヒャクショーノシューカ<sup>ノ</sup> (笑) クローシテ ネ クローシ  
百姓の 衆バ 苦労し? ね 苦労し  
テ アノー……。  
て ……。

C サイカイカ アリヤー モーカルヒトワ モーカルダヨナー。  
災 害 が あれは もうかる人 は もうかるんだとあめ。

B ソーダヨ。  
そうたど。

C アー。  
あめ。

A ソエカラサー アノー アベカワカ イタンダ ワラシナカワカ  
それからあ 守 倍 川 が いたんだ、薬 科 川 が  
イタンダ ナー……。  
いたんだ、あめ……。

C ー。  
うん。

A ミチー イタンダッテ イヤー コケーラノシューダッテ ドカタ  
道路が いたんだと いえは この辺 の 衆 ども 土 芥  
ニイチャー ヤッパリ カネカ ハールダ。(ん笑)  
に行けは ヤッパリ 金 が 入 る のだ。

A アレー オトナシク キタジャーナ ドッコエモ ツカウトコモ  
あれが (何の災害もなく) 無事にあったのではな、どこへも (人) 使う場所も  
ネーダ。シンジャワーエ。ニー。ホントニ。  
ないんだ。(それでは) 皆 (働き場がない) 死んでしまう。うん。本当に。

C ホントニ。  
本当に。

A ダケンカ サイカイナンテノワ ワスレタトキニ ウルダンテナ。  
しかし 災 害 何とていうものは (人) 忘れ去る時に 来るのだから。

## 注記

- (1) 話者Aは「ajekunohateni」(挙句の果てに)と言っている主張。
- (2) 去年も、と貸しておけば、今年も、と返、てきて得をそろけずだったということ。
- (3) Aが、同席者B(私の妻)に茶菓子とすすめたもの。Bは最後まで積極的発言はしていない。
- (4) Bの答。
- (5) たまには変、たことがある方がよからう、という意味を、天皇の馬は畳の上に寝ているだろうから(ユーモア)、たまには普通の馬のように藁の上に寝たいだろう、というつもりで言ったもの。

### 3. 関東大震災の思い出

話し手

| (備考号) | (氏名)   | (性) | (生年)    |
|-------|--------|-----|---------|
| A     | 山本 俊男  | 男   | 明治44年生れ |
| B     | 後藤 百々代 | 女   | 大正2年生れ  |
| C     | 佐藤 とし  | 女   | 大正4年生れ  |

A ジシンサンテ ミョーダヨ。カントーダイシンサイダ。アントキヤ  
地震 時と 妙 時とだ。関東大震災 だ。あの時  
は モモサンサンテ……。

百々さん 時と……。

B イママデ シズオカ ワスレタ ジブンサンテ ユーコト モナク  
今お(それお) 静岡は 忘れた 時分に(災害が来る)時とということ もよく  
アレダ。ネー。コシタ ヤラレ ヤラレキヤツタ。  
(河も来りかたに)ねえ。今度は xxxxxxx やらねてました。

A ダイシンサイン トキニャー オマツキワ イクツクレアーノ ト  
大震災 の 時には お前たちは 幾歳ぐらゐの  
キダ。アノ トーキョーノ……。  
時だ。あの 東京 の……。

B ー。アノトキー ワシラ ニニネンダ。  
うん。あの 時は 私は 二年生だ。

C ワシラ イキネン……。ニネンダ。  
私は 一年 ……。(いや)二年生だ。



B ココノツ ジャネター。

九歳 ではない?

C イケネンダト オモッタツケヨ アタシラ。 イケネンダラ。

一年生だと思ひ、たよ 私 は。一年だらう。

B ジャ ワシラ サンネンダ。

では 私は 三年だ。

C サンネンダナ。

(あはたは)三年だは。

A オラモ ドーモ アレダナ コシーツケダシテナ。ソイデオマエ<sup>(1)</sup>

私も どうも 幼い時 だ、た は。それで お前

アシノコノ ヤブエ ネタリサ。ウラツカタノ アー アマエト。

アシノコの 藪へ 寝たりさ。裏側の 山へと(逃げた)。

C ワシラン ウラノヤブウ ホントニ ニギヤカカッタ カヤー ツ

私の家の 裏の 藪は 本当に (文勢集お?)にぎやかだ。かやを 吊

ツタリナニカ……。

いたりにして……。

A ー。

うん。

C マキノ マキノノ アキチャンカ アカ……。

xxxxxx

牧野の アキちゃんか ……。

B モトチャン モトチャンモ イタシンテ ヤブニナカデ……。

xxxxxxxxxx

モトちゃんも いつとけ…。藪の中 で……。

C ホントニ……。

本当に……。

A アントキダツテ ウチガ オマエ イツシャクノヨー エスレタゾ。

あの時 ても 家へ お前 一尺以上 揺れたぞ。

イッシューカンバカ オマエ ビクビクビクビク……。

一週間はかり お前 びくびくしてた……。

C アントキニャー アノー ナカムラノ シューカラ ヤツミチノ  
あの時には 中村の 衆も ハッ道の

シューカラ ミンナ アソコノ オーヤノ ヤブエ イッチャッタ  
衆も皆 みやんの 大谷の 藪へ 行っちゃった  
ンダナー。

んたてめ。

B アソコノ イマノアノー アソコニアノ コーミンカンノトコ……。  
みやこの 今の みやんに(ある) 公民館の所……。

C ー。  
うん。

B アソコカ° チャバタケン ナッテタジャ。  
みやんが 茶畑に 行ったろう。

A ー。  
うん。

B ソエデ° オギンサンデ アノ シンナーサンデ<sup>(2)</sup> バーサン……。  
それで お銀さんて(いう)あの しほさんという おばあさん……。

A ー。  
うん。

B アノ バーサンカ° ソノ エスレル アノ デ° コー カラダガ°  
あの おばあさんが なんかふうに揺れるの? こう 体が  
エスレタモンデ° ソノ チャバタケニ コー シガミツイテ シ又  
揺れたの? その 茶畑に しがみついて 死ぬ  
ダラ イッショニ シナズヨーッテサ……。  
ほら 一緒に 死のうよう、マ……。

A ニー。  
うん。

B ワシラ コーニ コーニ チャバタケンネ……。  
私たちに こういうふうには こういうふうには 茶畑にね……。

C ニー。  
うん。

B イッショーケンメー シガミツイテ コー コスレチャッテルカラ  
ー 生 懸 命 しがみついていた。こう 揺れてしまっているから  
……。  
……。

C ニー。  
うん。

B ソレ メニツクヨ。  
それが(今も)目につくようだ。

A シンダラ イッショニ シオズ<sup>(3)</sup>ッテ……。  
死ぬ 付ら 一緒に 死ぬうって……。

B アノ ミケデ ワシラ ジテンシャ ナラッテタダヨ。(笑) ソノ  
あの 道で 私たちは 自転車者を 習っていたんだよ。 その  
ドーロデ……。  
道 路で……。

A アー。(笑)  
みみ。

## 注記

- (1) 「コシー(こすい)」は「量が少ない」意から、「年令が少しい、幼い」の意にもなる。こはそれにあたる。
- (2) 「シナ」という女性名を第一音節と第二音節の間に撥音を入れ、第二音節を伸ばして {sinna:san} としたもの。
- (3) この前の部分でBが「シヌダラ イッショニ シナズヨー」と言ったが、そのことはの意味を、Aが私に解説したもの。

## 4. 静岡地震の思い出

話し手

(略号) (氏名) (姓) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

A ソレカラ イシャシクサー アノ リシンヤナニカ ネアートオモ  
それから 久しく さ、 地震ヤ何か 高いと思

ッテ イズノホーノ リシンヤ アノー ホーカイドーノ リシン  
ッテ(いつ)伊豆のオの 地震ヤ 北海道 の 地震

ワ アッテモサー ネアートオモッたら コンダ ハマノオーヤノ  
は あ、てもさ、 高いと思、たら 今度は 溪の太谷の

リシンガナ<sup>(1)</sup>……。

地震が……。

C ンー。

うん。

A アレモ シッテルラ オマッナ。

あれも 知ってるだろう お前たらは。

C シッテルアネ アノ……。

知ってる あれ……。

A ロウガツダカ シキガツジブン<sup>(2)</sup>……。

六月だか 七月のころ……。

C アノトキニワ ヤマニイタダヨ。ヤマニ イタラ カックーサンガ<sup>(3)</sup>  
あの 時には (私は) 山にいたのだよ。山に いたら 南 さんか  
-----。  
-----。

B ンー。  
うん。

C ソシタラ コンナノ イシ イクアーイシ ゴトゴト オキテキタ  
それたら こんな 石 大きい 石が ごとごと 落ちてきた  
ナ ンー。  
うん。

A ソレダンテサ キョーモ センセーニ ユッタダケガサ<sup>(4)</sup> シズダイ  
それた"からさ 今日 先生に 言、たのだ"がな(後に)静岡大学  
が アノクレアーノ イキヤーモノ ボッタッタケガサ ホントー  
が あの くらい の 大きい建物も 建てたのだ"がさ 本当  
ワ アノー ウドヤマノシター リューキシタトコデモッテナ ア  
は あの 有度山の下 の 隆 起した 地点で  
ノー アベカワノ ジャリミテアーナモト ナニカ コー ダン  
安倍川の 砂 利のようなものか 何か こう 断  
ソーニ ナッテルニニ……。  
層に 入っているのに……。 (ぶつかる地震が大きいほう)

C ソーダサ。  
そうた"だよ。

A ンー。アスコントコワ フーントニ アノトキノ リシンワ アス  
うん。あのころは 本当に あの時の 地震では あの  
ケーラノシェーワ タッテルワチャー ネアーッケダゾ。  
あたりの 衆は 建っている家 は 壊れたぞ。

C ンー。

うん。

A ンー。アノ シズダイカラナー アノー タイショージナー<sup>(5)</sup> ハマ

うん。あの 静大 から 静大 寺 静大 浜

ノ……。

の……。

C ンー。

うん。

A ンー。アスキーラ オメアー オラン クジータヤンダ<sup>(6)</sup>。

うん。あの 辺を お前 私は 崩して歩いた(た)。。

C ンー。

うん。

A ンー。ト アリャー ジャー アノ シズオカノ タイカー モッ

うん。おと あれは で は 静岡 の 大火は もっ

ト コッチダツカ。

と あと た、た か。

B アレワ ショーワジューゴネンダ<sup>(7)</sup>。

あれは 昭和十五年だ。

C ショーワジューゴネンダナ。

昭和十五年だナ。

A ショーワジューゴネン。ンー。ソイジャー ハマノ オーヤノワ

昭和十五年。うん。それが は 浜 の 大谷(地震は)

イクネンダ。

幾 年 だ。

B ジシンダ

地震？

A ンー。

うん。

B イクネンダローサー。

幾年 たろうほめ。

A ナンセ シチカツジブンダヨナー アノー タノクサトルトキダン  
時にしろ 七月 ごろ たふほめ 田の草 を取る時 た

て……。

から……。

C ンー。ソーダナ。

うん。そう たふ。

A ンー。

うん。

C シチカツダッケナ。

七月 たふほめ。

A ンー。シズオカノ アノー……。

うん。静岡の あめ……。

C エーカゲンマエ……。

相当以前……。

B ソレワ マダ セン <sup>xxxxxx</sup> センソーチュー……。

それは また 戦争 中 ……。

C センソー オフッタク

戦争 終わった(か)？

A バカ オメー センソーメーデー アレー……。

ほか お前 戦争 前 たふ あれは……。

C センソーメーダヨ。

戦争 前 たふ。



A ソーサ。

そうだよ。

C ヨシチャンキト シゴトシテタモン アノ バンバーノ……<sup>(8)</sup>。  
よしちゃん と 仕事をしていたもの、あの バンバーの……。

B ホー。

ほう。

A アノー タイカントチカ。

あの 大 火 の 時 か。

C ンーン。ジシンノ トキニサ。アノー ケーボーチャンキデショ  
うん。地震 の 時 に ね。 ケーボー ちゃん でしょう、  
ヨシチャンキダノ……。  
よしちゃん だ の ……。

A ンー。

うん。

C ヨシチャント ヘーカラ ハマチャンカ。

よし ちゃんと それから ほまち ちゃん か。

A ンー。

うん。

C ハマチャン。ソノシュート シゴトシテ……。

ほまち ちゃん。そういう人 たち と 仕事を して ……。

## 注記

- (1) 昭和10年7月11日の、静岡市・清水市の地震。
- (2) 特に静岡市<sup>大谷</sup>・<sup>小谷</sup>・高松方面に被害が大きかった。  
全潰237戸 半潰1412戸 死者8 重傷26 軽傷192  
(静岡市編「静岡市史・近代史料」〔昭和44年4月1日発行〕による。)
- (3) 「角太郎」の「角」を (kakku:san) と略したもの。
- (4) 録音の前にA氏が私に話したこと。
- (5) 静岡市東南、西<sup>大谷</sup>にある寺。駿河湾から800mぐらいのところなので「浜の」という。
- (6) 地震で崩れた家々を、当時青年団の一員としてこわして歩いた、ということ。
- (7) 昭和15年1月15日。被災者約28,000名、5275戸焼失。
- (8) 「バンバー」は静岡市麻機地区山田あたりの通称。表記は定かでない。

## 5. 復員のころの思い出と戦後の復興

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

A オリヤーナー センソーニイッテサー ウチー キャーッテクルト  
 私は 百々代 戦争 に行き、家へ 帰る 時  
 キニナ アノー アノ ダエダ アノー エンドーノナ ホリウケ  
 には、 あの 大坂だ 遠 藤の 堀内  
 クン ト イッショニ キタダヨ。ホリウケクンワ オレン ブタ  
 君 と 一緒に 来たんだよ。堀内 君が 私の 部  
 エニイルッテコトワ シラネーモンデ オメア ドコマデ キャー  
 隊にいたというのを(私は)知らないのぞ(堀内君が)「お前はどこまで 帰  
 レダッテ シズオカダッテ オレモ シズオカダヨッテ オマエ  
 るのだ」と言うのぞ(私が)「静岡だ」と(言う)「おれも 静岡だよ」と言うから(私が)「お前は  
 ドコノ ブタイダッテッタラ ナニオ イッテヤカレンダイ ハンチ  
 どこの 部隊だ」と言、たら(堀内君は)「何を言、て やがるんだい、王 長、  
 ヨー オマエ オラントコノ アレジャネーカ。ヨク ナタヤナニ  
 あつたは 私のところの(班の) 班長だは かい。(私は)よく 鉈や 何  
 カ コシラエニキタジャネーカ ナンテイッタケカ。ホーカーナン  
 かを こしらえに 来たまは かい」と言、た けど、「そうか」とい

テナ オリタダネーカ。アレダッキヨ アノー コノ カナヤノナ  
(私は言て)(汽車を)降りたのだから、 金谷のなみ

ー トンネルオコエテナ ズーットクルト コンダ アノ オーイ  
トンネルを越えたら、おー、と来ると 今度は 大井

ガワノ テッキョーエ ワタルダケガ トーッテキタラナ ウッス  
川の 鉄橋 へ 渡るんだが(やえ)通ってきたら、う、す

リナ フジサンガミエテ イツモナガラヤ フジノヤマテンテナ。

リとは、富士山が見えて、いつもはがらや 富士の山ほどと(う感じな。)

ニー フントニ ソー オモッタッキヨ。ソエカラ アレカラ ズ  
うん 本当に そう 思、た よ。それから あれから お

ーットキテサー アノー コノー ヤイズイキ ヘーカラ アノー  
ー、と 来たら、 焼津へ行き、それから

アスコノ トンネルオ コスト アー アレダ モチムネノ ハマ  
あやみの トンネルを 越すと 用宗の海

ン メールトオモッテ ヘデ シズオカノ エキー キテナー ウ  
岸が見えるなと思て(いるうちに)それで 静岡 の 駅 へ 来たら、う

レシーッキナー ユメジャーネアーカトオモッテ <sup>ウ</sup> フタリデ  
れしかった なみ、 夢 ではない かと思て <sup>xxxx</sup> (堀内君と)二人で

ツメキリッコーシテ……。

つねりあいをして……。

B  
~~~~~。

A オー。ホーシタラ コシン マケチャッテナ。ニー。コシン マケ  
おお。そうしたら 腰が 振けてしま、たら。うん。腰が 振け  
チャッタ。(笑)ソレガ ハー ナンジューネンダ。アー。ウチ  
てしまった。 それから もう 何 ャ 年もたつ。なあ。(初時)家

ー キャーッテギタラ コンナノウチデモ オリャー ネラレルダ  
 へ 帰って来たら こんな家でも おれは 寝られるの  
 カナート オモッタツケ。(C 笑) イキャーウチニバーツカ イ  
 かほめと 思った、け。 大きほ 家にはばかり い  
 タモンダ"ンデ"。ニー。ヘーデ"モ オリャー オトシサンナー イチ  
 タもので……。うん。それでも おれは おとしさんほめ、一  
 バン ウレシーコトワナー マー タンボーウッテ ウチョータッ  
 番 うれしいことはほめ、まめ 田んぼを売って 家を 建て  
 タツカモ シレネアーケーガ° マー ミンナ トモダチカ°ナー ギ  
 タ かも しれない が まめ 皆 友だちか"ほめ き  
 レーナウチニ キャーッタツテユトカ°ナー コレガ° オレ ナニヨ  
 れいほ家に 入、たということか"ほめ これが 私ほ 何より  
 リダト オモーヤー。  
 (aと)だ"と 思うよ。

C ソーダナー。  
 そうだほめ。

B ソーダナ。  
 そうだほ。

A ニー。ニー。クローワシタケーガナ。ニー。マー ナイチニイルシ  
 うん。うん。苦労はしたけれどほ。うん。まめ 内地にいる  
 ユーダッテモ ゴハンモ クワズニサ……。  
 人 でも 御飯も 食わすにさ(苦労はしたろうべ。)

B ニー。  
 うん。

A アノ ニケ°デモ ヤーindaリ セーカラ アノー ショイダ"シニモ  
 逃げ"て 歩いたリ それから 買い出しにも

イッタリ マー アノ ジブンノキモノナー シテ ヤット ア  
行、たり 時分の衣類(売、たり)レテ ヤ、と

ノ ベーゲンニ アノ トンモロコシノ ウマノ ハノヨーナノオ  
米 軍 に トンモロコシの 馬 の 齒のようばのモ

モラッテクッテサ。ソイデモ イマンナリヤー セカイデモ ヤー  
もら、て 食べてス。それでも 今 にばれば 世界でも

ケーザイコクニヤー ナッタワ。

経 済(太)国 にば ば、たわい。

C ソーダナ。

そうデバ。

A ソーシテ カクジンノ ウチャー ミンナ エーウケン ナツチャ  
そうレテ 各人の 家は 皆 立派な家にな、てし

ッタダケン……。

また、たのだから……。

C ニー。

うん。

A ニー。ソレダケモ マー シヤワセダト オモナー。ニー。ニー。  
うん。それだけでも まあ しめわせた"と 思、うばあ。うん。うん。

C ソーダナ。

そうデバ。

## 6. ベトナム僧のお経

話し手

(略号) (氏名) (性) (生 年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

A リンサイジノナー オラン オフクロン シンデナー ソーシキオ  
臨濟寺の 私の 母親 が 死んでから 葬式を  
シルトキニ<sup>(1)</sup> マクラダ<sup>(2)</sup>ンゴーニ キテクリョーッテッテナ、リンサ  
する時に 枕 団子 に 来てくれ と頼むために臨  
イジー イッタ。ソーシテ アノ リンサイジノ オショーカー フ  
臨濟寺へ 行、た。そして 臨濟寺の 和尚 が ニ  
ターリキタ。  
人 来た。

B ンー。  
うん。

A オリヤー ニホンジンダト オモッチャー イタラナー ヒトリヤ  
私は 日本人だと 思って いたらぬ 一人は  
ー オメヤー ベトナムノ ニンゲンダヨ。  
ベトナムの 人間だよ。

B ンー。  
うん。

A ニー。ホンカ° 4カウダヨ。

うん。(お経といっている)本が(漢字と)違うんだよ。

B ニー。

うん。

A オンナシコンニナー ローロートシテナ ヨンデルダケーカナ……。  
(普通の日本語の本と)同じようにして「あ 朗々 と 読んでいるんだ」か「て」……。

B ニー。

うん。

A ホンカ° 4カウダ。

本が 違うんだ。

B アー ホント。

ああ そうかね。

A オリャー シラナイッケダケンナ ミテイルヒトカ° アノヒトワ  
私 は 気が付かへかつんだが「あ、(あを)見ている人が「あゝ人 は

ベトナムノ / ヒトカヤー ジカ4カウデントューダ。オカーシ  
ベトナムの 人 かなあ 字が 違う「て」というんだ。 妙

ナ オシャカサンノヨーナジオ……。

「あ お釈迦さんのように「あ(形の)字を……。

C アー ジワ 4カウダナ。

ああ 字は 違うんだ「て」。

A ニー。

うん。

B ソイデ ジワ4カウタッテモ ソノ オキョーッテノワ……。

それで 字は 違 っても その お経 というのは……。

A オキョーッテモノワ オンナシ……。

お経 という ものは 同 じ……。



C オキョーワナ……。  
お経 は。うん。

B オンナジ……。  
同 レ……。。

C イントデモ シナデモナ ドコデモ ミーナ イッショダッテ  
イントでも シナでもは、どこでも 皆 同レ た、て  
オキョーワ。ニー。  
お経 は。うん。

A ソエカラ……。  
それから……。

B ジカ ジャー ソックノホーノ ジデ キャーテアル。  
字が では そちらの オ の 字で 書 いてある？

A ニー。  
うん。

C ソーダナ。  
そうだと。

A ヘーカラ キータラナ ベトナムダッテユード。  
それから 聞いたら「あ、(お前さんは)ベトナム人だ」と言われた。

B ニー。  
うん。

A ニー。ヤー オジサンタモ イッテタダヨーナシタラ ソーデ  
うん。「やあ 私 も(そちらの方へ)行、ていふんだ」と言、たら 「やう  
スカーンテッタッケ。ヒャー オランウケンギテサ……。  
で「おか」と言、ていた、け。すく 私 の 家へ(お人へ)来た、……。。

B ニー。  
うん。

A ナンキューカト オモッタラ ナサケネーカナ ベトナム ベ  
何 と言いかと 思, たら「情 け ない けあ,  
xxxxxxxxxxxxxxx

ベトナムイッテナ コノ ミンナシテ タツタルウケワナ コラ  
ベトナムへ行, てけ, 共 同 で 建, て いる 家 けけ

エーウケモ アルケーガナ コジ"ンテキデモッテ アノー ウケャ  
よい 家 も ある がけ 個人 で 建, て け 家 け

ー コケラノヨーナウチャー ベトナムニャー イッケンモネーッ  
(日本に普通にあり)のような家 け ベトナム には ー 軒 も「ない」

テ ソーイッタツケヨ。

と 言, 言, たら け。

B ニー。

うん。

A ジイシダトカナ……。

寺 院 だとかけ……。

B ニー。

うん。

A ヘーカラ ガッコーダトカッテノワ アルケガナ ガイガクダトカ  
それから 学 校 だとかというのけ あるけけれど 大 学 だとか  
……。

B ニー。

うん。

A ケンチョーダトカッテノワ アルケーガ……。

県 庁 だとかというのけ あるけけれど……。

B ニー。

うん。

A ダケーカ コジンデナ アノー……。  
だあれと 個人 でア ……。

B ニー。  
うん。

A コーユーナ ニホンノヨーナ アノ ミンカノヨーナ……。  
こういうア 日本 のア (ヤ) 民 家 のア ア ……。

B ニー。  
うん。

A ウケー ハーッテルッテウケー オジサン ア マー ナンニ  
家 へ 入、て いる という 人 は おじさん 何 に  
モネッテ コーイッタヨ。  
も たい と 言う、たよ。

B ニー。  
うん。

A ソエダンテ ニッポンノナ ミナサンワ シアワセダッテ。ニー。  
それだから 日本 のア 皆 さん は しあわせだ。うん。  
ガクモンワ ハッタツシテルシナ……。  
学 問 は 発 達 しているア……。

B ニー。  
うん。

A ソノ ウケモ ハッタツシテルシ……。  
家 も 発 達 しているシ……。

B ニー。  
うん。

A ソエカラ アノー ナニカラナニマデナ イクマケテモ セカイ  
それから 何 から何まで(発達して) いくら(太平洋戦争には)負けた世界

／ナ ヤッパリ オーゴクダッテ……。ニー。マ イワバサ イシ  
の ヤはり 王 国 だッテ……。うん。ま いねは 石  
バシワ ツバレテモ<sup>(3)</sup> ヤッパリ クサッテモ テァーッテユーヨー  
橋は 磨滅しても ヤ、はり(石橋だれ)腐、ても 鯛 というよう  
ナモンダナ。ニー。(笑)アー。ホントニ……。  
なものだッテ。うん。 ああ。本当に……。

## 注記

- (1) 「私の母親が死んで、臨濟寺に頼んで葬式をする時に」の意。
- (2) 死者の枕もとに、椀に搗かいた米を盛って供えるもの。
- (3) 「ツブ」は「磨滅する」の意。「イシバシワ ツバレテモ」とは、立派な石橋は、たとえ磨滅してもやはり石橋だということとで、直後に出る「腐っても鯛」と同趣好。（「石橋のあった家は旧家だ、だから今でも権威がある」の意）。

## 7. 昔の生活と今の生活

話し手

| (略号) | (氏名)   | (性) | (生年)    |
|------|--------|-----|---------|
| A    | 山本 俊男  | 男   | 明治44年生れ |
| B    | 後藤 百々代 | 女   | 大正2年生れ  |
| C    | 佐藤 とし  | 女   | 大正4年生れ  |

B ソイデ<sup>(1)</sup> ムカシツカラ クラベリヤー イマノシューワ シアワセ  
 それで 昔 と 比べれば 今の人 は しめれせ  
 ダヨー。

たよ。

A シアワセダ。  
 しめれせた。

B ミンナ ソレコサー エーウケ ヘアーテル。  
 みんな 並派<sup>(1)</sup>家に入っている。

A ソレニサー キョービノ コドモナンテ ワレワレワ オマエ ヌ  
 それにさ、このじろの 子供 ほど われわれは お前  
 メニモ カンギアータコター サイヨ。アノ テレビダナンテコト  
 夢にも 考えた ことは ないさ、 テレビだ<sup>(1)</sup>はんとニと  
 ワ。

は。

C ソーダナー。  
 そうだ<sup>(1)</sup>はあ。

A ゴハン クイガツラ エーガミルナンテコターネー。

御飯を 食いつから 映画を見ながら ことほねえ。

C ニー。

うん。

A ニー。

うん。

B ナンデモ ムカシカラ クラベリヤー イマノ コドマニ シアワ  
何でも 昔 と 比べれば 今の 子供は しめわ

セニヤー シアワセダヨナー。

せには しめわせたよなあ。

A シアワセダ。

しめわせた。

B キルモノカラシテ……。

着る物からして……。

A アー。

ああ。

B ムカシヤー ネ スーット(笑) オサガリ オサガリデ(笑)……。

昔 は ずーっと おさがり おさがりで……。

A ニー。

うん。

C ソーダヨナー。

そうだよなあ。

A イマノモナー オメヤー ホニナンテ イチネンツカヤー ウッチ  
今の者は お前 本気で 一年 使えば 捨

ヤツキヤウモンデナ。ムカシヤー オマツキウキノ コドモニヤー  
でしもうものでな。昔 は お前の家の 子供には

ホシカ アウカシラ<sup>(2)</sup> アルカシラナンテッテ ヤーンダノカナ……。  
本が みるかしらねどと言て 歩いたのかい。……。

B ソーダヨ。

そうた。……。

C ソーダヨ。

そうた。……。

A オー。モラエーヤンダリ カレーヤンダリ……。……。

おお。もらいに歩いたり 借りに歩いたり……。……。

B シッテルウチノ コンノー カレリヤーイーワナンテッテ イッ4

知人の家の 子(本を) 借りればいいわねどと言て 言て

ヤー……。……。

は……。……。

A ニー。

うん。

B ソーシチャー ヒトツノホンデ エーカン アレ アノー オーゼ  
そうしては 一冊の本で 相当 大勢の

一トウツタ ソノホンデ マニアワシテ……。……。

人が 買った。その本で 間に合わせて……。……。

C ソーダヨナ。

そうた。……。

A ニー。マニアワシテ……。……。ニー オラ マー ヒトリッコダモンダ

うん。間に合わせて……。……。うん 私は まあ 一人、子だもので

ンデサ マー ズーット カッタケーガサ……。……。

さ、まあ おうと 買ったけれど……。……。

B ニー。

うん。



A ダケーカ……。

たけと……。

C オーザーアルウチジャー……。

大勢 いる家では……。

A ニー。オラホーノ シューワナ アノ サーバタノウチノシューン  
うん。私の(近くの)人 はは 澤端の家の人

ノ アノー アルカヤーナシテ キタシューカ オハナサンチアタ  
の (本は)あるかよ ぽと 来た人 が お花さんの家あた

リノシュー アッタヨ。

リの人 に あ、たよ。

B アルヨ。

あるよ。

A ニー。ショージキン。

うん。本当に。

C ニー。

うん。

A ニー。

うん。

C サイショ ニューガクシルトキニャー アタマ ワニユッテ……。

最初 入学 する 時には 頭を 輪の型に結、て……。

A ニー。

うん。

C ナー ハマカ ヒャーテ……。

はあ 袴 を はいて……。

A ニー。

うん。

C キモノキテ ハカマハイテ イッタダヨナー。

着物を着て 袴をはいて 行、ふんたよめ。

A ダケーガ キョービワ オリヤー アレダキヤー シタホーカ エ  
だけれと" このころは 私は あれだけは レたオ が い  
ーと オモナー。コノナー アノ ヤッパリ ヘーカノオ オイ  
いと 思うよめ。(つまり) や、はり 陛下のヲ お祝  
ワイノトキニャーナ……。

い の 時 には 何 ……。

C ニー。

うん。

A アー ナンテツタツチ ヤッパリ ヒノマルノハター アゲテサ……。  
あめ 何と いっても や、はり 日の丸の旗を 揚げた……。

C ソーダヨナ。

そうだよ。

A カクジンカ……。ナー。

各人が……。よめ。

C ソー。

そう。

A ヘーカラ オマエ ガッコーエイッテル コドモニャーナ タトエ  
それから お前 学校へ行っている 子供には 何 たとえ  
ヒトツデモ イーント センバーノ ヒトツモナ ムカシノヨーニ  
一枚 でも いいから 煎餅の 一つも何 昔のように  
クレテモライタイヨ。ジブンノ コドモアルンテ ユーワケジャー  
とてもらいたいよ。自分の 子供があるために 言うわけでは  
ネアーケーガ……。  
はいけれと" ……。

B ムカシャー コーハクノ マンジューダカ クレタヨナ。

昔は(やうう日には)紅白の 饅頭 だかを くれたよ。ナ。

C ニー。ムカシワ コーハクノ マンジュー クレタヨナ。 ヨク。

うん。昔 は 紅 白 の 饅 頭 を くれたよ。ナ。よく。

B ヒノマルガ ハタノツイタ アノ フクロイレチャー クレタケー  
日の丸の 旗のついた 袋 に入れては くれたけれ  
か……。

と……。

C ニー。ソーダナ。ニーン。

うん。そうだよ。うん。

B ナツカシクナツチャウ。

なつかしく なつてもらう。

A ソシキョーサンカ° ナンオモウニナンテッテ ヤッテナ……。

村 長 さんが「朕 惟 フニ」だよと ヤ、て。ナ……。

C ニー。

うん。

A アレ ヤッパリ シキラシーツケ。ニー。ダケン キョービャー  
あれは や、ぱり 式 らしかった。うん。だけど このころは

オメヤー ヒノマルノハター アケルワケジャナシ ナ。

お 前 日の丸の旗を 揚げろわけではなし、ナ。

C ソーダヨナ。

そうだよ。ナ。

A ニー。ソレデ イーダカモシレンケーカ° ヤッパ ニッポンジンワ  
うん。それで いいのかもしれないが や、ぱり 日 本 人 は

ニッポンジンラシーヨーナ ガクモンノアリカタン イケバン イ  
日 本 人 らしいような 学 問 のありかたが 一 番 い

ージャーネーカト オモウダケンナー。ヤッパ キミカヨワ ヤリタ  
いのではないかと 思っうのたけれどはあ。やはッリ 君 が代は 歌いた  
イヨ。マズナー コケーラノシューワ マダ カンジネアーダケー  
いよ。まあ この 辺の 人 は まだ(ヤウニとE)感じ ないけれ  
カナー……。  
どはあ……。

C ニー。  
うん。

A ガイコクイ イッテ ヒノマルノハターミテミロ オメア コノク  
外 国へ 行、ア 日の丸の旗を見てみろ。お前 このく  
レアー キモクノ イーコターナイズ。  
らい 気持ちの いいことではないぞ。

C ソーダ<sup>(3)</sup>ヨナ。  
そうだとは。

A ニー。ホントニ……。  
うん。本当に……。

### 注記

- (1) 「ムカシ ッカラ カンガエルト」と「ムカシト クラベリヤー」  
との混交。
- (2) 「アルカシラ」の言い誤り。
- (3) Cはこういう体験がないはずだから、この「ソーダヨサ」は、単  
なる相づちである。

## 8. 兵隊生活と君が代

話し手

| (略号) | (氏名)   | (性) | (生年)    |
|------|--------|-----|---------|
| A    | 山本 俊男  | 男   | 明治44年生れ |
| B    | 後藤 百々代 | 女   | 大正2年生れ  |
| C    | 佐藤 とし  | 女   | 大正4年生れ  |

A ヘー オマエ カンタンナコトダケーガ オマエ オラー ヘータ  
 お前 簡 何とだ"けれど" お前 私は 兵隊  
 イニイッテナー オマエ オリヤー イローキューカ イチンチ  
 に行つたはあ お前 私は 慰勞 休暇 一日  
 モラッタコター アルケーガ ソーシタラ ビンタトラレタト。  
 もらった ことが あるのだ"が" そうしたら ビンタを食わされたよ。

B ー。  
 うん。

A キミカヨノ イミヨー ユッテミヨッテイッタラナ ダーレモ テ  
 (上官が)君が代の 意味を 言、てみよと 言、たらは だ"れも" 手  
 オアケネアーンデ" オレカ" ヒトリデ" ヤッタヨ オメアー。ソー  
 を あけ"ては"いんで" 私が" 一人て" 言、たよ お前。そう  
 シタラナ イチンチ ホーショーキューカー モラッタ。モラッタ  
 レたらは、 一日 報賞 休暇を もらった。もら、た  
 アカツキニヤーナ ビンターナ サンジューダ"カ モラッチャッテ  
 翌 日 にはは、 ビンタをは 三十 だ"か もら、てしま、て

……。ソナモナー ダレデモシッテラーッテ……。アー。

……。そんなものは だれでも知っている、て……。ああ。

B (笑)

A ソイデ" ニネンヘーニ ナッテナー ハンクヨーガナー ジツアー  
それで 二年 兵 に 入ってはい、班 長 がはい、「実は

ヤマモト オレモ シラネーツクダヨッテ……。ウタウコター シ  
山 本, おれも 知らなかったよ」、て(言、た)。「歌う ことは <sup>xxx</sup>

ラデ" <sup>(1)</sup>  
xxxxx ソラデ" ウタウケーガナ オレモ シラネーツクヨッテ オ  
それで 歌う けれど、私 も(意味を)知らなかったよ」、て「お

メアーニ オソワッテ ハジメテ キミガヨノイミヨー シッテル  
前 に 教、れ、て はじめて 君 が 代 の 意味 を わかる

ヨーニナッテルッテ (笑) ハンクヨーモ セーイッタツケヨ。ン  
ように 入、て いる」、て 班 長 も そう 言、た、け、よ。う

ー。ウタ ウタウニャーウタウダケン イミカシラネーツケ。ソエ  
ん。歌を 歌う には 歌う の だけ けれど 意味 を 知らなかった(と)。だ、か

ダンテ アノ モモサン イマノ ホタルノヒカリデモナ セトツ  
ら 百々さん 今 の 「螢 の 光」でもは 「ーっ

/ボリデデモナー <sup>(2)</sup>  
ソエカラ アノー アレディーナー コノー イ  
のぼりて」でもはい、それから ー

チガッイキンケノ ナー カドマツノ ウタデモ ヤッパ アレア  
月 一 日 の 門 松 の 歌 でも や、ほ、り あ、れ

ー エーモンダヨ。

ほ いいものだよ。

C ニー。

うん。

B ニー。ナー。

うん。なあ。

A ニー。イマノシューワ ドーカ シラネーケーガ ワレワレンキク  
うん。今の人はどうか知らないけれども我々が聞く

トナー ヤッパリ アノ コノ ショーカ ッテモナー コノー ガ  
となあ、や、はり 唱 歌というものは(つまり) 学

ッコーデモッテ コッカオヤルトカ ナー アーユー アノ キケ  
校で 国家を歌うとか なあ、ああいう 紀元

ンセツノ ウター ウタウナンテコター ヒジヨーニ ムカショー  
節の歌を 歌うなどというのでは 非常に 昔を

オモイヂャーテ エート オモナー。

思い出して いいと 思うなあ。

B ソーダナー。

そうだなあ。

A ニー。オラ スキダヤー。イミカ ワカルダモノナ。

うん。私は好きだよ。(ヤウシとある)意味が(よく)わかるんだものなあ。

B ニー。

うん。

A ニー。

うん。



## 注記

- (1) 「ソラデ」の言い誤り。
- (2) 小学校の卒業式で歌った歌。「一つのぼりてむつまじく 歌い合  
いたる野辺の鳥」で始まる唱歌だという。「螢の光」のメロディーで  
歌う。

## 9. 昔の生活の思い出

話し手

| (略号) | (氏名)   | (性) | (生年)    |
|------|--------|-----|---------|
| A    | 山本 俊男  | 男   | 明治44年生れ |
| B    | 後藤 百合代 | 女   | 大正2年生れ  |
| C    | 佐藤 とし  | 女   | 大正4年生れ  |

A ソーシテミルトサ ムカシオ カンゲアーテミルト ナゲアーナ  
 そうレ? みるとさ 昔 エ 考エ? みると 長い 時  
 オウモ……。

私も……。

B ナゲアー マッタク……。  
 長い 全 く……。

A ニー。  
 うん。

B ヨク イキテルト オモー。(A B 笑)  
 よく 生きていると 思う。

C ミンナ ソー オモーヨ。ヨク イキテルト オモーダナ。  
 皆 そう 思うヨ。よく 生きていると 思うんだナ。

A ケーセアー ケーセアートキニャーサー イマ アノ リューツー  
 xxxxxxxxxx 小さい 時に はマ 今 流 通

センターナンテ アンナンナッテ デキタケガサ アスコントコ  
 センター 所とと みみいうふうに(並派に)できたけれども めその所

ノ　メアーノ　カワサンキヤー　ソイジャッテナ。ニー。アノー  
の　前　の　"リ　トビ"　は　えぐれましまし、マッ。うん。  
コー　アノー。

C　ヌマノ　バーサン<sup>(1)</sup>。  
沼　の　は"みさん。

A　スワジン……。オー。ヌマノ　バーサン……。  
諏訪神……。　沼　の　は"みさん……。

C　ヌマノ　バーサンナニテ　イッテッケヨ。  
沼　の　は"みさんトビ"へ　行、た、け"み。

A　スワジンジャ。  
諏訪神社。

B　イッ　タヨナー　ヨク。  
行、たよ"み　よく。

C　オベーターヨ。  
覚えているよ。

A　アノトキニャーナ　ヤッパ　フネーナ　サキヤ　サカダルオ　ツイン  
　　"み"　時　に　は　"　　や、ほ"リ　船　へ"　　xxxxxxx　酒　樽　を　積　ん  
　　テ"……。  
　　で"……。

C　ソー。フネー……。  
　　"う　船　へ"……。

A　イセーオンドー　ウタッテー……。  
　　伊勢　音　頭　を　歌　、　て　……。

C　アスコノ　ヤクボー……。  
　　"み"の　谷久保　……。

A ヤクボーカラ  
谷久保 から

C ヤクボーサージリカラナ フネデモッテナ イッタダヨ。  
谷久保 沢尻 から行、船で 行、たんだ。

B ヤクボーサージリ……。  
谷久保 沢尻 ……。

A アー。アー。ヌマノバーサンテッテ イシバシノ バーサンガ コ  
あめ。あめ。沼のほめさんという 石橋の ほめさんが  
ドモー ツレテナ……。  
供を 連れ来る……。。

C チーセアートキノホーガ コー……。  
小さい 時 の オカ ころ……。

B ムカシノホーガ コー アレダナ アノー ナニカ アノー コー  
昔 の オカ 何か

アレダネ オーキクナツテツカラ エーオモイデガ イクツモアッ  
大きく 行、マから いい思い出が いくつもあ、

テ ムカシノホーガ タノシミー (笑)  
て 昔 の オカ 楽しい。

C タノシネ。  
楽しいね。

A タノシー。アー。アー。  
楽しい。あめ。あめ。

C イマワ ソレコソナ アレダケン……。  
今は それこそ行(そういふうでいいから)……。

B イマワ ナンニモ ネー。  
今は 何にもしない。

C ムカシャー アレダヨナ ソーユー オマツリナンテノワ……。  
昔 は そういふ お祭 り 何と"といふのは……。

A ジブ"ンノ レキシエ ソノネ アタマエ コノ キザンデ" アルダ  
(昔のことは) 自分 の 歴史 へ (つまり自分 の) 頭 へ 刻み 込 ん で" あるん  
ネ。 ニー。  
だね。 うん。

C ニー。  
うん。

A ニー。 ナカナカ アノー ママノバーサンダナンテネ マノ スワ  
うん。 何 か 何 か 沼 の 何"あさん 何と"といふ 諏訪  
ジンジャナンテモンガネ コノ オドリオ オドッテサ チンチキ  
神 様 (の祭 何とかがあ、て) 踊 り を 踊、 て さ ちんちき  
チンチキ チンチキ チンチキヤッテ……。  
ちんちき ちんちき ちんちきと 踊、 て……。

C オドリ オドッテ……。  
踊 り を 踊、 て……。

B イマノ イマノコドモワ ヘーダンテ ソーユッタ アノー ジブ"  
xxxxxx 今 の 子 供 は それに"から そうい、た 自分  
ンノネ ウマレタトコノ フルサトノ……。  
のね 生 ま れ た 所 の ふる里 の……。

A ニー。  
うん。

B ソーユー ネー コー エーオモイデナンテ イマノ コドモワ  
そういふ いい 思、い 出 何と" 今 の 子 供 は  
オーキク ナッテカラ コー ナイ ネアート オモ一ヤ。  
太 大 き く 何、て から 何、い、何、い と 思、う よ。

A ねアダナ。

$$Tf \leq T = Tf.$$

B へーダンテ……。

'个水T="p' i - - - - -。

A オモイデッテコトガナ。

思... 出 ということがTF (Tj...L Tj TF)。

C ソー。オモイデッテモノガナ。

そう。思ふ出というものが「お」。

B ヌマノバーサンサンテ フネニノッテ イッタダネ。フネノ シュ  
沼のはみさん(という沼へ) 船に乗って 行く、たぶんね、 船の人

一ト ミカンオ ナケタリ モラツタリシテ アシラ ヲ / ア /  
 と ナカムエ 投げタリ もら、ナリシテ 戻ナリ

刀丁 / 夕口不齊……。

"1) a 3. 5 7 9 ...

A 1-1-1

 $\bar{y}_L$ 

B ズーツト イ イツタノオ オベ オベーター。

あーっと(歩いて)行く、たのび 覚えている。

A 3-.

 $\bar{y}_L$ 

C オフドーサンダッテモ オフドーサンナンデ ヒャー ニジューシ  
お不動さん でも お不動さん 何んて もう ニヤセ

キンキン ヒュッ ゴロゴロ ゴロゴロ オーバーサンキンニナ……。

目 の 目には “ろろろろろろ” おは“みさんのいる家”に“……”。

B - 1 -

43.

C コー。  
こう。

B ンー。  
うん。

C アノー ナカク レツツクツチャーサー……。  
長く 列 を 作, り は じ ……。

A アー。  
あめ。

C タンボノ ホーカラ タンボミチオ クルヒトモアリヤー コノ  
田んぼの オから 田んぼの道を 来る人もあるし うちの  
ミチオ トールヒトモアリ ニギヤケアーツクダケンサ。  
道を 通る 人もあり にぎやかた, た け。

B オトモノ シルシュ……<sup>(2)</sup>。  
おとものに け, た し る し と し て ……。

C コノゴラー ナンノコター ネーモノサ。  
このごろは 何の(変わった)ことば けい も の け。

A ソイツガサ イデバン ハジミヤー コノ ネ ミチカネ(C、ンー)。  
そういう場合には 一番 初 め は 道 が ね  
コレバツカダカラネ。  
これは"かり"(狭かった)からね。

C ンー。  
うん。

A ニシャクバカリノ ミチダ。  
二尺ぐらいの(幅の)道だ。

C ソーダツタサ。  
そうた, た け。

A ソイツカ イマワ オマエ アノ イケアー トラックカ オメア  
それが 今に お前 あゝ 天まで トラックが お前  
ー ズーズーズー トールヨーニ ナッテネ。  
あん あん 通るよう(は広い道)に付てね。

C ソーダヨ。 シー。  
そうだよ。 うん。

A フナトナシテ ユーモノワ アノ アンタツチモ シッテルダロー  
船着場何とて いうものは あつたに ても 知、てゐるだうう  
ケカ アノ フネカ ドコデモ マーッタダカラネ。  
か 船が(多くの船着場と)どこでも 回、たのだからね。

C ソーダヨ。  
そうだよ。

A シー。 ソレカ アンナ キーセアー カワニ ナッチャッタ。アー。  
うん。それが あんたに 小さい リに 付、てしま、た。 ああ。

C ソレコサ アノ ビョーインノ ホーカラ ズーット アノー イ  
(昔は)それでは あゝ 病 院 の 方から ぶーっと(長距離を)  
ネデモ ナンデモ ワシラ アノー サガツタバツカノ コロワサ……。  
船でも 何 でも 私たちが 卒業したばかりの ころはね……。

A シー。  
うん。

C アノ ショツテ キタダヨ。  
背負、て 来たのだよ。

A シー。  
うん。

C ショツタリ カケーダリシタ。  
背負、たり かつい た"リ"れた。



A ンー。  
うん。

C ソイデ アノー フネデモッテ ヤクボ一サージリノ ホーエ ズ  
それで 船 で 谷久保 沢 尻 の オへ あ  
ーット ツンジャー ヒトリ アノ ヒッパッチャーサー……。  
ー、と 積んでほ 一人か 引、ほ、まほ まみ ……。

A ンー。  
うん。

C アノオ オトコシユラガ コー アノー ナンダッケ フネオ フ  
男の人たちが 船を  
ネオ コー アノー……。

A ロオ コイダ コイダナ。ウルマモナシ リヤカモ ネアーダモン。  
櫓を 漕いだ。 車 もなし リヤカーも なかったもの。

C ワシャ イウドモ コー フネ ヒッパッタコト アル。ツナデ。  
私は 何度も 船を 引、ほ、たこがある 網で。

A ナンセ センソーニ マケテッカラ ブンカッテコトワ キューニ  
何れも 戦争に 負けたから 文化、ていうことは 急に  
ヤッテキタダヨナ。  
や、てきたんだ。と。

C ンー。  
うん。

A ンー。ソノマエワ オナジ ブンカッテモ……。  
うん。その前は 同じ 文化といふも……。

B オセガキ オセガキ テート マチノ アノ ミセガ コー ス  
お施餓鬼、お施餓鬼 というと 町の 店が こゝへ(近付)

ーット……。

あー、と……。

A ニー。

うん。

B ナランジャー……。

並んでね……。

A ナランジャッター。

並んでね、たはあ。

B ネー ソーユーノ……。

ねえ そういうのを……。

C ホントニ……。イロイロ コー ムカシノ シュー オモイデガ  
本当に。いろいろ 昔の衆は思い出が  
アッタ。

あ、た。

B ソーユーノ ミンナ ナツカシク オモイダス。

そういうのを 皆 しっかりと 思い出す。

A ムカシャー オメアー アリサガ<sup>(3)</sup> カンノサンダナシネ……。  
昔は お前 有永の 観音さんだ、ね……。

C カンノサンデ ソー。

観音さんで そう。

A ハナビョー ウツテ……。ソイデ ムスメドマー……。

花火を 打って……。それで 娘 どもは……。

C ホントニ……。

本当に……。

A ネー。アノー コー アケアー オビョー シメテ……。

ねえ。 こう 赤い 帯を しめて……。

C ニー。  
うん。

A ソエカラ アノー ナンダネ アノー ユカター キテ ソイカラ  
それから 浴衣を 着て それから  
ワケアーシューワ ヨコブヨー フイテ ナー。  
若い 衆 は 横笛 を 吹いて 居る。

C ソー。  
そう。

A ピーチャラ ピーチャラ。  
ピーチャラ ピーチャラ。

C スイカノ アノ タタキウリト ナントナ……。  
西瓜の 叩き売りと 何にと何……。

A アハハ。アツチ イツチャ ケンカガ ハジマリ コツチ イツチ  
あはは。あ、ちへ 行、ては けんかか 始まり こ、ちへ 行、て  
や ケンカガ ハジマリ……。  
は けんかか 始まり……。

C アノー サー ギイツツアンキウチ フルヤギイツツアンキウチ。  
義一さんの家 古谷義一さんの家。

B ウン ソーソー。  
うん そうそう。

C アノウチデ ミセヤ シテチャーナ アノウチデ コーリ ノンダ  
あの家で 店屋を してては、 あの家で 氷を 飲んだ  
り……。 (笑) (B ホントニ。 )  
り……。 ほんとに

B ノンダリナンカシタナー。カエツテ<sub>xxxxxxx</sub> カエツテクレトワ ソコノ  
のんだリ 何と して 居る。 帰、て くる とさ その

イバノ イバノウチエ ヨッチャー コーリノンジャーナー……。  
×××××× 湯場の家(温泉)へ 寄、ては 氷を 飲んではおめ……。。

A アノトージワナ トンモロコシノ ニオイガ タマーンナク エー  
あ。 当時はお とうもろこしめ においが たらつく いい  
ニオイダッテヨ。 ビシビシビシビシ ヤエーテナ。 ソリョー カッ  
においた。 たよ。 びしびしびしびし 焼いてお。 それを 買、  
チャー クッタヨ。 ニー。 ソエカラ オデングナ イクラクッテモ  
ては 食、たよ。 うん。 それから おでん がお いくら 食、ても  
オデン クイチャーケッヨ。 ニー。 イマジャー アンマリ クイテ  
おでんを 食いたか、たよ。 うん。 今では あまり 食いた  
アート オモワネー。  
いと 思、おめ。

C ムカシャー トンモロコシダッテモ ソーダエネ……。  
昔 は とうもろこし でも そうたよめ……。

A ニー。  
うん。

C アノ ヒオ スミオ クベテチャー ウチワデ アオツテチャーナ  
火を 炭 を くべていては うちわで おお、ていてはおめ。  
ー。(笑)

A ソエデ" オメー……。  
それ" お前 ……。

B トニカク イマノ コドモン アノ イカクサツテ ナンノ コー  
トニかく 今の 子供が 大きくお、て(から) 何の  
オモイデか アルト オモウ。 ネー。 ムカシノ アシラ ソレコソ  
思、出か あると 思う? ねえ。 昔の 私たちは それこそ

アレダヨ フントニ アレモ コレモッテッテネ イローイロナ  
本当に あれも これもといふは 色々 ね

コトガ コー オモイダサレテ……。

いとか 思い出されて……。

A ニー。

うん。

B アノー アレダクン イマノコドマー ソー<sup>xxxxx</sup>シルト マー  
今の子供は そうすると ずあ

ソコ ミニナリヤー ハタシテ ツマンネヤーカドーカ ソリ  
その子の 身に付れば 付たして (昔のことか) づまらねいかどうか それ

ヤー マー ワカラネヤーツクガ フント アシラー コー カン  
は れから ねい が 本当に 私たちが 着

ギャールトネ ジブンノ イマノ マゴガネ ソー イカクナッテ  
えると ね、自分の 今の 孫がね 大きく ね、て

ツカラ ネー……。

から ねえ……。

C イマノ シューワ ソレコサナ テレビバック ミ<sup>xxx</sup> ミキチャーイル  
今の 人 は それこそ ทีวีばかり 見ては いる

モンデナ……。

もめがね……。

B ソーソー。

そうそう。

C ソーユー オモイデ<sup>ニ</sup> ネヤーダヨナ。トシトツテツカラ ナツカシ  
そういう 思い出は ねいんじよ。年をとってから づつかし

ーヨース。

いふうは。

A ムカシャーネー アノー オチャツミヨー タノムトネ アノ オ  
 昔 はね お茶 摘みを 頼むとね (その)お  
 チャツミントケー アスベーイッ タモンデス。ソイデ ジブツガネ  
 茶 摘み(とせている)家へ 遊びに行、たものである。それで 自分 ね。  
 アノー クワモツテネ ヤマエ コーサクニ イッテネ ヘーカラ  
 鋤を携、ね 山へ 耕作に 行、ね それから  
 アノ トモダチン オチャツミントコデ アスンデルダロ。ソース  
 友 たち は お茶 摘みの 家で 遊んでいるにやう。やうす  
 ト サーバタ ソンナニ アノー シゴトナンカ シナクツテモ  
 ると(その友達が)「澤端、よくねに 仕事 して」 しよく ても  
 イージャンカ。クワエナ アノー ベントーバコ クツツケトチャ  
 いいでいいか。鋤 へて、 弁当 箱を くらつておけば  
 クワ ヒトリデ シゴトシラーナ。ア ホーカシラ。ジャ オレモ  
 鋤は ひとりで 仕事をするさ(と云ふが)「あ、やうかい。で(やうかい)私も  
 アスバゼー。(笑) アスビターノ イッシンダモンダンテ ヒヤ  
 遊ぼう。」(というふうには遊んだ。)遊ばたいのー 心 ね、で ねに  
 ー ムスメドモントケーイッテ ミツカツニ カエツケル。フン。  
 娘 たちの 所へ 行、て 三日も経、てから 帰、てくる。  
 ソイデ イッテミリヤー ヤクボーヤマニヤー ヤー マー ホニ  
 それで(畑へ)行、てみれば(畑のある)谷久保 山 には 草が  
 ホガ サエチマツテ……。ナー (笑)。オヤジワ キレーニ ナッ  
 (4) ぼうぼうと ばえてる、て……。 ね。 (私の)父は(畑が)きれいに ね、  
 テレト オモヤー カタイッポワ ホー ホニホガ サエテ……。 (笑)  
 いうと 思、いたとていば そのー 方では <sup>XXXXXXXX</sup> 草が ぼうぼう だ。 ……。  
 ソエデモ オコラネマーツキナ。(笑)  
 それでも(父は)怒ら ね、た。

C ムカシノ シューワ ミンナ ソーダツケダヨサ。ホントニ。

昔の人 は 皆 そうだ、たのたよ。本当に。

A ヘーカラ ヤツグチノサー トクチャン トクチャンチントコサ……。

それから ハッロ のさ 徳ちゃん 徳ちゃんの家 の所 だ……。

C アー。

あゝ。

A アスコントケー ヨク アク…プリニ イッチャーサー ヘーカラ

めその 所へ よく 雨降りの時に 行、マはさ それから

アノー ジョーリョー ツクルダ。ジョーリョー ツクルダケーガ

草履 を 作るのだ。草履 を 作るのだが

リノ ペラデ<sup>(5)</sup> カンジョーシタホーガ ハエアーダ。イッソク ニ

(草履の片一ずつ 勘定 した ほうが 早いのだ。一足 ニ

ソクジャー ニ ニメアーガ イッソクダモンダ<sup>(6)</sup> ナー。

足(と数え足のは) <sup>xxxx</sup> ニ枚 が 一 足に あたるもので……。何め。

B ムカシャー トニカク ノンビリシテタダサ。

昔 は とにかく のんびりしていたんだ。何。

C ノンビリ……。

のんびり……。

A ノンビリシテタ。ナー。

のんびりしていた。うん。

B ヒト ツッコロカイトモ<sup>(7)</sup> ジブンガ シュッセシルトカ ナントカ

他人を ころはし マも 自分が 出 世するとか 何とか

ソーユー カンガエ……。

そういう 考 え……(の者はいつか、た。)

A ソレモ ノンビリシテルワケサ。アノー ソー オマツチノホー

それとも のんびりしているわけさあ。

お前 のオの

ノナー……。

アハ……。

B ニー。

うん。

A アノー ターコー……。

ター公……。

B ニー。

うん。

A ターヤー。

ターヤー。

B ニー。

うん。

A ト ジサヤー。ナー アノー シャテート ソーリョート ケンカ  
(サカ)とジサヤー。 弟 と 総 領 と けんか

バック シテケー……。ジサヤー ナワ ナッテルダエナー ナワ  
は「かり しめて……」。ジサヤーは 縄を 持っているんだ。縄

一。ホエデ アトデミタラ ミニナ ヒダリマワリ……。 (笑) ハナ  
を。それで みとて見たら 皆 左 回リ……。 (縄が)鼻

ックソー ンー コンニヤー ナッテルヨーナ。ソエデモッテ ア  
鼻 を こんどに(丸めたように)なっているよう。それで

ミヤー フツケクルシサ。ソイカラ アノー セーニーガヨンデ

雨 は 降、てくるしさ。それから セーニー(とうきょう分)が(私)を呼んで

ツツーナンデ オイ タンボカ ナカレレンデ<sup>(9)</sup> クイオ ウテート  
ツツー呼んで(出て来い)「おい、田んぼが 流れるんで 杭を 打てー。」と

コーユー。タンボーカ ナカレレ。ナニオ シルダート オモッタ  
こう言う。「田んぼ が 流れる? (知れど) 何を するのだ。」と 思、た



ラ ニケンクシャーノ クイオモッテナ セーカラ ドーユーワケ  
 ラ ニ 間ぐらい の 杭 を 持ッテ、それから「どういうわけ  
 デ」ナカレルダヨッタラ ウエタタンボカネ ミズン クルモンダ  
 7(田んぼが)流れるのだよ」と言ったら、植えた田んぼがね 水 が 来るもんだ  
 カラ コー ウイチャウンデス<sup>(10)</sup>ネ。コーニ ポッカリ ウイチャウ  
 から 浮いてしまうんであね。さういふうに ぼん、かり 浮いてしま  
 ンデスネ。ソシテ コノ ワキノウチノ ホーノ アレ イッチャ  
 ンであね。そして 脇の 家 の オの(角へ)(流れ?)行ッテ  
 ウンダネ。ソイダモンダンデネ アノー ナゲアークイオネ ホー  
 いうんだね。 それで「もんで」 長 い 杭 を ね オ  
 ボーエ ウツンダ。モチャカッテモネ アノー コレガ ナカレテ  
 タ へ 打った。(田が)持ち上からても これは 流れて  
 カナイヨーニ。イマ ソンナトコワ ネーモンナ。  
 行かないように。今 そんな所は ないものや。

C ソーナー。

ヤうだ「あめ」。

A イマワ ソンナトコワ ネー。

今は そんな所は ない。

C ー。

うん。

A タンボーカ ナカレル。ウエタ タンボカ ナカレル。バカナ ハ  
 田んぼが 流れる。植えた 田んぼが 流れる。バカナ

ナシダ。ニー。トナリノウチ イッチャウデナー。コー ミズン  
 話だ。うん。隣 の 家へ 行ッてしまうんだ「あめ」。さう 水 が  
 ヒテクルト。

干てくると。

C ニー。

うん。

A ニー。ニー。ホーントニ。コドモノ トキナンテナー モモサンオ  
うん。うん。本 当 に。子 供 ゝ 時 々 ど 々 百々さんエ  
エーカゲン ナグツタリ ケツタリシテ イジメタモンダ。  
相 当 なく、たり 蹴 ったりして いじめたものだ。

C ニー。

うん。

B オッカネーツケヤ。(笑)

こい け、た け。

A ダケーカナ ヤッパ ソーダモンダシデサ。

たけい けども や、はり(幼なじみとほ)さん けも けのださ。

B ニー。

うん。

A コノメーター アー オーシューエ イツタトキサ……。

こ の 前 けみ 興 州 へ 行、た 時 さ……。

B ニー。

うん。

A マノ モモサント トシチャンカナ。オレ オトコヒトリスラ。ア  
百々さんと とし ちゃん かな、おれが 男 一人ださう。あ

ー オトコシユワ オトコシユデ ドコノシューモ オンナシコン  
め。 男 は 男 で どこの 人 も 同い こ

デ トマルダート オモツタダヨ。オンナシューワ オンナシュー  
で(男は男同士で)泊るのだと 思、たのださ。 女 は 女

デ……。

で……。

C ドコイッタトキダッケ。アレ アー。  
どこへ行、た時たっけ。あれ(は)。ああ。

A アレア オマエ バンタイザンダ。  
あれは お前 磐 梯 山 だ。

B ウラバンダイ-----。  
裏 磐 梯 -----。

C ウラ ウラバンダイ イッタトキ-----。シー。  
xxxxx 裏 磐 梯(へ)行、た時(た)。うん。

A ダケン オマツチガサ オレオ トツテクレテナ ソシタラ マタ  
ところが お前たち(が)と 私(も) 呼び寄せてくれるは、やうしたら また  
オマツチモ コツチ キテクレヨ-----。イーカゲンナモンダ オマ  
お前たちも(私に對い)ころへ来てくれる(などと言、た)。いいかげんはものだ。お  
エ。(笑) オテラノ バーサンダ。  
前。 お寺 の はあさんだ。

B マー アノー コドモノコラー アノ ナエシロノ ズイムショー  
子供 の ころは 苗 代 の ズイムシ を  
-----。

A シー。  
うん。

B アノ コー トツチヤンダジャ。コドモノ コロ。  
捕、って 歩、いた じゃ(はいか)。子供 の ころ。

A シー。  
うん。

C シー。  
うん。

B ソイデ<sup>ニ</sup> ヒルヤ ナニ ナニカガクレト オツカナク ナツチャツ  
それで 蛭<sup>xxxx</sup> ヤ 何 かか<sup>ニ</sup>来ると こわく ｱ、ｱ来、  
テ アゼー タツチャウジャー。  
テ 畦に 立、て来うじゃ(はいか)。

A ニー。  
うん。

B ソースルト コノ サーバタノ オジサンガ(笑) アオダキョー  
そうすると 澤端<sup>ニ</sup>の おじまんが 青竹<sup>ニ</sup>を  
モツテキテ アシオ ピーンテッテ……(笑)。  
持、て来、て 足<sup>ニ</sup>を ぴーんと(私う)。

A (笑)アノトキニヤー ソノ ズイムシオ トルトナ……。  
あの 時<sup>ニ</sup>には ズイムシ<sup>ニ</sup>を 捕<sup>ル</sup>るといふ……。

B ニー。  
うん。

A アリヤー……。  
あれは……。

B エンピツオ クレタダネ。  
鉛筆<sup>ニ</sup>を くれたんだね。

A ニー エンピツオ クレタリ アノ キョーメン クレタモンダ。  
うん 鉛筆<sup>ニ</sup>を くれたり 帳面<sup>ニ</sup>を くれた(リレ)もあつた。  
ミンナシテ トッタダケーガ……。  
(だから)皆<sup>ニ</sup>で 捕<sup>ル</sup>ったんだが……。

B ヒル クルモンデ<sup>ニ</sup> オツカナクテ アゼー タツテルト……。  
蛭<sup>ニ</sup>が 来るもんで こわく て 畦に 立、ていと……。

C アー。  
みみ。

B アシノ シンボー タタクレキヤッタ。(し笑)

足の 心 棒を 叩かれました。

A マー ヒトリ カシオ ヤリガツラ……。オキヤー ネアカノラ……。

まあ ひとつ 菓子を 食べながら(話しかけ)お茶は 好いかしら……。

C イーヨー。オキヤナンカ……。

いっよう。お茶好と"は"……。

A オキヤモ ノンデサ……。アノ……。

お茶も 飲んでマ……。

C イーヨー。アトデ" モウウデ"……。

いっよ あとで" もらうから……。

A アー オキヤモ ノメヨ。ホントニ アノ ナンダゼ。ネア マー。

まあ お茶も 飲めよ。本当に (お茶がもう?)ないや。まあ。

B エーヨ。

(お茶は)いらないよ。

C ホントニ アレダナ ムカシノシユエ オモシロイッケダナ。

本当に 昔 の 人 は おもしろか、た けめ。

アメデモ フツタリシルト ミンナ アリマッチャー ジョーリ

雨 でも 降、たりすると 皆 (で) 集ま、ては 草 履を

ツケルヒトモ アリヤー ナワナウヒトモ アリヤーナー……。

作る人も あれば" 縄をほう人も あれば" けめ……。

A ソレニナー……。

それにけめ……。

C ヨウ トウキヤンキウ キタダヨ ワシランキ……。ニー。

よく 徳いちゃん は 来たんだが 私らの家へ……。うん。

B イマノシユ テンデンバラバラダ。

今の 人 は(共同のとはとせす)ばらばらだ。

A ソレンナー アスコントコノナー オマエ ニワオ ホジクリタテ  
 そのにはめ あまの所 のはめ、お前 庭を掘り返し  
 テナー フカーウ。(笑) オモテノホーウ ウエダケーカ シタニ  
 てはめ 深く。 表のオは 表面を掘るが(むしろ内側の庭の)  
 ナルト ハエキヤッテ ハエキヤッテ オメアー ツチャー ドコ  
 下のオは掘り返す(草が)生えてしまて 生えてしまて お前 エは どこ  
 ダカエ モッテツキヤッテ……。ナ。  
 かへ 持って行ってしまて……。ナ。

C ヨウ ソーユーウキガ アツタツケナー。ニワン ムカシワ コン  
 よく そういう 家が あった、けはめ。庭が 昔は コン  
クリモ ナンデモネー……。  
 クリでも なんでもない……。。

A ソリヤ ミンナ ホーダツケ。コンクリデ ネーダンデ……。  
 それは 皆 そうだった。コンクリデ ばいもので……。。

C コンクリデ ネーモンデ……。  
 コンクリデ ばいもので……。。

A エーウキデ タタキグラーノ モンダ。  
 いい家でも たたき(で作, である)ぐらゐのものだ。

B ヘーカラ ムカシワ アノ ウキンナカデ ソーユー サブヨーシ  
 それから 昔は 家の中で そういう 作業をし  
 タモンダンテ ドコノウキモ ニワノ アノ エーカンナトコ コ  
 たものだから どの家も 庭の 適当な場所にこ  
 レバカノ イシ イヤッテルジャ。  
 れ位の 石が うめであるでせう。

A ンー。  
 うん。

C ワラト……。  
藁 と……。

A ワラト ナ……。  
藁 と は……。

C アレダ。アノ テノ アノ ツイタ アレデモッテ ポクポクポク  
キの ついた 穂でも、ア ポクポクポク

ポク……。

ポク……。

B ソー タタイチャー オーザイクオ ヤッタ。  
(藁E) たたいては 大工事 E や、た。

C タタイチャー……。 (笑)  
叩いては……。

A ダケーガナ モモサンケトナ アノ ケーキャントナ オラ ニケ  
た、けとては 百々さん と ケ枝さんとは 私が ニ  
マーデ アソブトキナンガー アレオ ナー オマッケ アノ ケ  
階で 遊ぶ 時 には、は お前

ーキャンノ ナー アリヤー ドコダッケナ……。

ケ枝さんの(家)はあ あれは どんた、けは……。

B ケーキャン ケーキャンテバ タカジョーマケノ  
ケ枝さん ケ枝さんといは鷹匠 町か？

A タカジョーマケ。オレ アノー イッテ コッキーサント<sup>(13)</sup> イッタ  
鷹匠 町だ。私が 行、ア 小郎次さんと 行、た

トキニナ センコ アケテキタダヨ。<sup>(14)</sup>

時に 線香を あげ、きたんだ。

B ニー。  
うん。

A シャシンマデ" チャント アル。  
(千枝さんの)写真まで"ちゃんと ある。

B ー。  
うん。

A ー。エー フリョーデナー。アー。ナンセ ワケアーシェーノ  
うん。 いい きりょうまで"はみ。あみ。何とい、でも若い 衆 の  
トキニアーナー オマツチホーノ ブンチャンチニ ニケアー イ  
時には はみ お前の(家の)前の 文 ちゃん(文次)の家に ニ階(に)行  
ッチャーサー……。  
って は まみ ……。

C アソコニ トールニ オッカネーツケナ アノ ミチオ トー  
あそこの所 通るのに これから、はみ あ の 道 を 通  
ルニ……。 (笑)  
るのに ……。

A シズヤナンテ……。  
静や(静天)はど(はいや)

C イッモ アノ ソー……。  
いっも ……。

B ア ヤツミチノ アノー ミチバタントコニ ニケアーカ アツタ  
あ ハツ道の 道端の所に ニ階 が あ、た  
ツケ。アスコ?  
つけ。あそこ?

C チョージローサンチノ ……。  
長 次郎 さんの家の

C アソコニ イッモ ニケアーカラ クビョー ダシキヤー イチヤ  
あそこには いっも(男たちが)ニ階から 首 を 出しては いまは



一……。  
……。

A (笑) フリョーセーネンダンナー ゴニンバカ……。  
不良青年たはめ。五人ぐらい……。

B タマリバダッテ。(笑)  
(お母さん) たまりは「た」た。

C タマリバ……。 (笑)  
たまりは「……」。

A ムスメドモン クリヤー ションベンシタリ……。 (笑)  
娘 たちが 采れは 小 便をしたり……。

B アンタツケ アノ ニケアーエ ヨク イッテ……。 (笑)  
お母さんの家(a) ニ階 へ よく 行、て……。

A シズヤラー オカナカ オヤダマダツケダヨ。ゴーヤダノ……。ア  
静夫の奴は 何か何か(ケビラ)親分肌 た「た」たよ。五郎た「の」……。あ  
一。  
あ。

ブンチャンワ エーヒトデオ ハジメツカラサ。シー。ブンチャン  
文 ちゃん は いい 人 だ、初め からさ。うん。文 ちゃん  
ワ オトナシー。  
は おとなしい。

C ブンチャン オトナシーッテダナー。 シー。  
文 ちゃん は おとなしか、たよはめ。うん。

A シー。ホンバッカ ヨンデ……。デ マクラダサンチャーナー ア  
うん。本 は「かり」読んで……。それで 枕 なんかははめ  
タマー ソレ アブラシルズラ。イッギアーニ アラッタコターネ  
頭に 油 をつけるだろう、いっ にも 洗、たンとはは

ー。

い。

デカンデカン ヒカッパッパッテナ。(笑) ヒヤッパッパッ。アー。  
(だから)でかてか 光ってしまってる、 冷や、こかった。 あみ。

アー。ホントニ。

あみ。本当に。

C ムカシャー オモシレーツケナー。

昔 は おもしろかったあみ。

A ソイデ アノ ヤッパリサ アノ エーガナンテモノワ ソレ  
それで や、ほりて 映画 ねえ"というものは

ナカナカ コネアーモン。カラセエナー アノ カレススキシキ  
なかなかな(麻機おほ)来ないもの。唐瀬へあみ 枯 薄 が 来

タ。(笑)

た。

ナー。カレススキガ……。ハジメテミタヨ アレ……。

あみ。枯 薄 が……。始めて見たよ あれ……。

C ー。

うん。

A カレススキ。

枯 薄 。

B ナニ エーガ

何 映画(なに)?

A エーガ。

映画(なに)。

B アー。

あみ。

A アー。ソレカラ オーヌマノナ アノー ミツアキサンニ ヲレラ  
あめ。それから 大 沼の 光 彰 さん に 連れら  
レチャー アノ デンキカンエ イッタリサ。  
れまは 電 気 館 へ 行 っ た り ま。

B ニー。  
うん。

A ニー。ムカショー カンゲアールト ナゲアード。アリヤー。ニー。  
うん。昔 を 考 え る と 長 い ( も の ) だ。 あ れ け。 うん。  
ソレカラ……。  
それから……。

C ソノコラー アノー マチー アレ メークツテモ ヤーンデッタ  
そのころは 町 へ 映 画 を 見 に 行 く と い っ て も 歩 い て 行 っ た  
ダナ。  
んた。ナ。

A ヤーンデッタ。エー エートキニャーナ……。  
歩 い て 行 っ た。 ( 都 合 の ) <sup>xxxxx</sup>いい いい 時 には け ー ……。

B ヤーンデッタ。  
歩 い て 行 っ た。

C ニー。  
うん。

A ロクジッセンデナ……。  
六 + 金 銭 だ け ……。

C ニー。  
うん。

A サカキバラノ ジドーシャヤンナー ジテンシャヤー<sup>(15)</sup> ジドーシャ  
榊 原 の 自 動 車 屋 に は あ 自 転 車 屋 に 自 動 車 を

カッテアッテサ……。

買、てあ、ってさ……。

C ニー。

うん。

A ハチジッセンダカ ロクジッセンダツクヨ。デンキカントコマデ……。

ハ + 銭 だか 六 + 銭 だ、たよ。電 気 館 の 所 まで……。

C ニー。

うん。

A ニー。ソイデ ニジッセンダカデ エーガー ミテサ……。

うん。それで ニ + 銭 ぐらいて 映 画 を 見、てさ……。

B ムカシャー……。ムカシャー ヨウ ヤーシデタ。

昔 は 昔 は よく 歩、いてた。

A カツベンノ トキダモノサ。ニー。

活 弁 の 時 だ、ものさ。うん。

C ニー。

うん。

A ハナオカキクコノ オヤジカサ……。ニー。

花 岡 菊 子 の 親 じ、か、さ。うん。

C ニー。ニー。

うん。うん。

A アノ カツベンデ……。コノゴロマタ カツベンダナンテユーノ

活 弁 で……。このごろは又 活 弁 だ、ほんていうのか

シングシニ ノッテルデー。

新 聞 に 載、っているよ。

C ソーダエサ。

そうだよ、さ。

A ニー。カツベンモ エーッケヨ。  
うん。活弁もよかったよ。

C ニー。  
うん。

A ニー。ホントニ……。  
うん。本当に。

C カツベンモ エーダヨサ。  
活弁も いいんだよ。

A アー。  
あめ。

C ウケラモ ミタコトアルヨ カツベンワ。  
私も見たことがめるよ 活弁は。

A ホーズラ。  
そうだろう。

C デンキカン デンキカンダツケカ。  
電気館 電気館 だったか。

A ニー。  
うん。

B ソレコソ アシラー コートーイケネンダカ ニネンノトキニ ア  
私らが 高等 一年 だか 二年の時に

ノー アレダモノ トーキーガ ハヤツタ。コンダ トーキーガ  
トーキーガ はやった。「今度 トーキーガ

デキタ。ナンデソーイッタ。ソノ マエワ ズーット ベンシガ  
できた」 ぽんてそう言った。その 前は あー、と 弁士が  
ツイタ。  
ついた。

A シー。  
うん。

B ソイデ" ミタダ"ヨ。  
それで 見たんた"フ。

A トージワ オマエ オマツチン メアーナンチャー オーヨシッテ  
当 時は お前 お前の家の 前 ほど は 大 吉 と 言  
ッテナー……。  
っ？ 何み ……。

C シー。  
うん。

A オーヨシ ソエカラ コヨシナンテアツテ マワリン イチリバカ  
大 吉 それから 小 吉ほどという(地名が)あ、て(その)おわりが 一里ばかり  
アルノニ……。アンナカ ヘアーツタラ テテギエネーツケデ……。  
あるのに……。あの中へ 入ったら 出て来られんか、たぞ……。。

C、シー。  
うん。

A シー。  
うん。

B ドコ。オーヨシッテ。  
どこ？ 大 吉、て。

A オーヨシッテ イマ オメア アノー アレジャンカ アノ アス  
大 吉、て 今 お前 あれではないか あの アス  
ハルト コシャエテルアタリ アリヤー オーヨシダエ。  
ファルト(舗装の)工事をしてるあたりが あれ 大 吉 た"フ。

B シー。  
うん。

A ニー。セーヨードンブリダナンテ……。ナー アッタ。  
うん。(めめたりは)西洋井田にんて(いうものを売った)。めめめ、た。

C ニー。セーヨードンブリッテ アッタツクナー。  
うん。西洋井田にんてめめめ、た。めめめ。

A ニー。セーヨードンブリ……。  
うん。西洋井田にんて……。

ソラ カエンドリ<sup>(16)</sup> セーッテナ コレバツカノ アナダトオモッテ  
メラ 替えん捕りにしよう、マは これぐらいの(小穴)穴だと思っ  
エート オモッテ オレト セーチャント カエンドリシタラ イ  
わけはいいと思っ、私と 清ちゃんと 替えん捕りにしたら  
クラ タッタツテモ ミズン ヒネアーダ。ヒネアーワケダ。アシ  
くら(時間が)経ても 水が なくばらないんだ。なくばないわけだ。足  
オ ヤッテ コーシテミタラ ミンナ クッキーテルデー。(B.C 笑)  
エ おろして こうして(深、マ)めたら(穴が)皆くっついてるんだ。(水が底に連絡してる。)

A ウワツカーバツカナ ソー クサノネカ イッテ……。ナー。アー。  
上 側りはかり 草の根がめめめ……。めめめ。

C ムカシャー カエンドリニ ヨク(笑)イッチャナー。  
昔は 替えん捕りによく 行っ、めめめ。

A アー ドクナガシニ<sup>(17)</sup> イッタリ……。シー。  
めめ。毒流れに 行っ、めめめ……。うん。

C アノ オースマノ ホーエ アノ トーイッツイアンノ タンボ ツ  
大吉め オヘ 統一 まんの 田んぼを

クッタ トキニサー……。  
作、た 時にさ……。。

A ニー。  
うん。

C ソノ ミチノ クロニ カワアッテ コレバカリノ<sup>(18)</sup> カワ……。  
道の脇に リがみ、この位(幅)のリ……。

A ニー。  
うん。

C ソコントコ カエンドリシテ ナ オジーチャント フタリデ カ  
その所を 替えん捕りして 母(私の)おじいちゃんを ニ人 で(水を)  
エタダッケンナ。ソーシタラ ウナギン タント トレテナ ソノ  
かい出した、けな。そうしたら 鰻 が たくさん とれては  
ソントキ……。ニー。  
その時に……。うん。

B ニー。  
うん。

C コー アノー カジクルトナ イックラデモ デテケル。  
ニ人 ほいくろと いくら でも 出てくる。

A ニー。ソーダ ソーダ。  
うん。そうだ そうだ。

C ニー。  
うん。

A アノ トーシワ ウナギン カエンドリ シリヤー ウナギ オー  
あの 当時は 鰻 を 替えん捕り あれは 鰻 が 多  
イッケダナ。ニー。  
かいた けな。うん。

C アンナントコノ カワニ イルトワシラズナー。  
あんた 所 の リに いるとは知らずにけな。

B ムカシャ ワシラ アノ ヤクボノ ニーサント イッショニ  
昔 は 私 が 谷久保の 兄 さんと 一緒に



イルコロ ワシラ ガッコー ニネンカ サンネンノ コロダシラ<sup>(19)</sup>  
いるころ 私が(小)学校 ニ年か 三年の ころか  
.....  
.....

A ニー。  
うん。

B ヨク シマツテノ<sup>(20)</sup>.....。  
よく「島」っていうの.....。

A ニー。シマ シマ.....。  
うん。島 島.....。

B ショウチュー シマー カエンドリ シチャー.....。  
いっ でも 島 を 替えん捕り レマは.....。

A ニー。  
うん。

B ソエダンテ アノ フナノ カエンドリナンテノワ ソノコラー  
それだから 鮒 の 替えん捕り(レマ)レマは そのころは  
ヨク タベタツケヨ。イマジャー ソレコサー ソンナノワ.....。  
よく 食べたもので。今では それニヤ そんなのは(食べるにはいい)。

A ニー。  
うん。

B アレダキンガ。アノ ダイズノマメトサ.....。  
大豆の豆とさ.....。

A ニー。  
うん。

B ホイデ<sup>ニ</sup> ソノ フサト ネー アー.....。  
それで 鮒 と ねえ あの.....。

C シー。  
うん。

B トロトロトロトロ ニルダヨ。  
とろとろ とろ とろ(一緒に)煮るんだヨ。

A シー。  
うん。

B キーセアートキニ……。イマ ソンナノ タベタコトサイ。  
小さい時に……。今は 何もかもを 食べたことはない。

A ソイデサ シー コノナー アノー ソノトージニ アノ カモダ  
それから、 その 当時に 鴨だ  
トカサ ソエカラ ガン……。  
とかさ それから 雁 -----。

B シー。  
うん。

A ガンテユーヤツ イテサ。キーセアートキニャー アノ ユーガタ  
雁 というやつが いてね。(私が) 小さい時には タ オ  
ニナルトサ コー ガンガ ブーツトナ トンデクトキ……。  
にたるとは 雁 が びーっ と 飛んで行く時(があった)。

C ソーダヨ。  
そうだよ。

A アレ ミタコト アルラ アルラ。ガンノ ガンノ トンデクトキ……。  
あれを 見たことがあるだろう、あるだろう。雁の 雁の 飛んで行く時……。

C イッペン イッペン ミタヨ。アノー コノ クジラカイケノホー  
一度 一度 見たよ。 鯨ヶ池のオ

E イワダヨサ。  
へ(雁が)行くんだヨサ。



A ネアー。ネアー。

たいい。たいい。

C ソンナナー ミタコトネーサ。

そんたのは 見 たんとはたいいた。

A ソイデアノー オーノマヤンノ ヤマナーサー……。

それで 大 沼 さん の 山 たあ……。

C ニー。

うん。

A アノー ツボー イッペアー クツテサ サー……ツテ トールダ  
(雁が)たにしエ 沢 山 ロに含んで さーっと 通るんだ

ツテサ。

つまさ。

C ニー。

うん。

A ソイデ ソノー ナー ヤマノナ ニシャクグレアノ トコ ト  
それで 山 の た (下から)ニ尺 ぐらゐ の 所を 通

ールダ。

るんだ。

C ニー。

うん。

A ウヨー トーレナクテ。オモタクテ。

(もと)上を 通す なくて。(ロの中あたにしが)重くて

B, C ニー。

うん。

A ソーシテ シモムラノイケー<sup>(2)</sup> イツタズラ。

そうして 下 村 の 池へ 行、たんだらう。

C ニー。  
うん。

A ヘーカラ ソレーナ コー アミョーハッテ……。  
それから それに  
網 を 張って……。

C ニー。  
うん。

A ソーシテ ガンオ トッタッテ……。  
そうして 雁 を 捕ったって(じ)……。

C ニー。ソーダナー。ヤマノ ミネー アノー アミョー ハッテ  
うん。そうだねえ。山の 峯に 網 を 張って  
トッタッテッタッケナー。  
捕った、って言った、けねえ。

A ニー。ニー。ソイデ アノー ハタカーナンテューモノモナ フョ  
うん。うん。それで 羽高 ほどと いうものもね、今日  
一モ ハナショー シタケーガサ<sup>(22)</sup>……。  
も 話 を したんだがさ……。

C ニー。  
うん。

A コノ ガン ノナ……。  
雁 のね……。

C ニー。  
うん。

A ハオトカ<sup>カ</sup> タカクシテナ……。  
羽音が 高く 響いてね……。

C ニー。  
うん。

A トーッタダッテ……。  
通、たんた、て……。

C ニー。  
うん。

A ソエデンテ ソノ ハタカー。  
それだもので 羽高ー。

C ハタカ……。  
羽高……。

A ハネガ タカイ。タカイ ハネ。ナ。ハタカーツテノワ ソーユー  
羽 が 高い。高い 羽。好。ハタカというのは そうい  
イワレカラ ハタカーツテ ユー。  
いわれから ハタカ と 言う。

C ニー。  
うん。

A アノムコーツカーニ ソー クジラガイケ アルモンサ。  
あの 向こう 側に そう(いば)鯨 ャ 池が あるもの好。

C ニー。  
うん。

A アレー イツチャウダ。  
あそこへ 行、てまうのだ。

C クジラガイケナ……。  
鯨 ャ 池 好……。

B アスコナー ハタカノ ウラトーツテ ヘジャー イッタダー。  
あそこ好め 羽高 の 裏を 通って それでは 行、たのだ(好)。

A ニー。ソイダモンデ" ハタカーツテ イッタダ。  
うん。それだ"から 羽高 と 言、たのだ。

C アー。

めめ。

A ソイデ アノ ムコーツカーガ クジラガイケデサー アスキー  
それで あの 向こう 側の 鯨ヶ池 であめ あそこへ  
イキヤー ソー ヒヤー テッポーワ キカネーダモン……。  
行けば そうだ もう 鉄砲 は しかたないんだもの……。

C ニー。

うん。

A アスコワ ソー ネンニ イッペンシカ ソー カモバレーツデノ  
鯨ヶ池は 一年に 一度 レカ 鴨 飛んでいるの  
……。

(エヤらないから。)

B イマデモ ソノ ガンチュートリ イルダ  
今でも その 雁 という鳥 いる？

A イヤー イマー イナカンナナー。イヤー イナカンナナー。ミズ  
いや 今は いないだろうなあ。いや いないだろうなあ。(今は)水  
モ ネアーダモン。  
も ないんだもの。

C コノ ヘンニヤー イネーナ。

この 近くには(雁は)いない呀。

B ニー。

うん。

A カモワ クルケンドナ。ニー カモワ コマ……。  
鴨は 来るけれど呀。うん 鴨は コマ……。

B テレビデ ナニカ アノー ソーユーノ ミルケド ガンナンデコ  
テレビで 何か そういう(ニュース)を見るけれど 雁 飛んでこ

ト アンマ<sup>(23)</sup> キータコト ナイ。  
とは みんなり 聞いたことがない。

C ニー。ガニナンテナー。  
うん。雁 はんてはあ。

A ニー。イケアーツケダネ。ガンワ。ニー。ニカニメグレアー アッ  
うん。大きかったよ、雁 は。うん。二貫目 ぐらい あ、  
タツテツタモノ。  
たといったもの。

C ニー。  
うん。

A イケアーノワ。  
大きいのは。

C アー ソンナ イケアーノカ トリガ……。ニー。  
ああ そんなに 大きいのか 鳥 が……。うん。

A ソレコサー ハクキョーグレアー アッタズう。アー。  
それこそは 白鳥 ぐらい あったろう。ああ。

B アー。  
ああ。

C トンデシノ ミタツテ ワカンネアサ。ニー。  
飛んでいるのを 見ても (雁だとはい)わからん。うん。

B コドモノコロ ミタツキヨ。  
子供のころ 見たよ。

A アー ジッパカラ ジューゴワグレアース……。  
十羽から 十 五羽 ぐらい はあ……。

C ニー。  
うん。



- A パタパタパタパタ シテテ ドコー トーンノモ ヨクワカル。  
 ぽたぽたぽたぽた していて どっこも 通るのも よくわかる。
- B ヘーデモ リコーナ トリダズラナ。コナ サオンナツタリ カ  
 それでも 利口な 鳥だろな。こんな 棹 にては、たり  
 ギンナツタリ シタミタイ……。  
 鉤 にては、たり したみたい(で)……。
- C ニー。  
 うん。
- A ニー。ダケン シタカラ ミルニ ソーユーヨーニ ミエタズラ。  
 うん。たけれど 下 から 見ると そういうように 見えんたろう。
- B コトモ/コロ ホント コー カギンナツタリ サオンナツタリ……。  
 子供のころ 本当に 鉤 にては、たり 棹 にては、たり(は見えん)。
- A ハナビョーミルヨーナ モンデサ。ハナビャー マルーク ウツ/  
 花火 みたいは ものでさ。花火 は 丸 く 打つ  
 オ コツチカラ ミルモンダンテ コーニ ミエルダケンサ。アレ  
 を 麻機がわから 見るものだから こう(平らな内のように)見えんたからな。あれ  
 ヤッパリ オメァー アベカワ/ ホーカラミテモ<sup>(24)</sup> アーユーフー  
 は や、ぱり お前(自分)に 安倍川の オ から 見ても みめいうふう  
 ニ ミエル。ハマノホーカラ ミテモ オンナシコンデ アレ マ  
 に 見える。海岸のオから 見ても 同じこと で みれば 丸  
 ルーク コー デルンテ ナー。カタエツポーカラ シルモンナン  
 く 出るの で はあ。(打ち上げている場所の)片-オの側から 見るものなの  
 デ ソー マンナカン/ヤラナニカ コー アーユニ ミエルダ。  
 で 中央の所や何か みめ(平らな内のように)見えんた。  
 ホントワ ミンナ オンナシコンニ コー デルズラ。  
 本当は 皆 (どっちでも)同じように 出るだろう。

B ニー。  
うん。

A ニー。  
うん。

ソイカラ ムカシャー アノ コイツキイシナンテナー。  
それから 昔 は 鯉つき石 ぽんとぽめ。

B ニー。  
うん。

A ニー。  
うん。

B コイツキイシツテノ アツタナー。  
鯉つき石というのが、め、たぽめ。

A ニー。  
うん。

C コイツキイシツテノナ アノー ムカシャー ムカシツテヨリモ  
鯉つき石というのぽ 昔 は 昔 というよりも

アシラ コドモノコロ コノ アノー メアーノホーニナ アノ  
私が 子供めころいたのは 前 の オ には

コイツキイシ <sup>xxxxxx</sup>イシカ アル トコダカラサ アノー ヒカシムラ  
鯉つき石、 石が ある 場所だから 東 村

ノホーエ カケテサ コー ミテルトサ ヒトツ ヒトツノヤツニ  
オ オ へ かけては 見るとぽ 一つ 一つの石に

パカット ツクダヨナ。

パカッと (みか)がつくたぽぽ。

A ニー。  
うん。

C ソースト ムコーノイッテ コロコロ アノ ソレ パカッ  
そうあると(おめりが)先のオへ行、  
パカッ

ケールトナ……。

消えるとは……。うん。

A ニー。

うん。

C コッパノ アノー ヒガシムラノホーエイッテ イツツニモ ムッ  
ころらの 東 村 の オへ行、(おめりがまた)五つにも六つ

ツニモ ナルダヨ。ニー。

にも なるんだ。うん。

A ゴロゴロゴロゴロナ。

ごろごろごろごろは。

C ホイデ ソーナッテルト マタ パカッ キエチャーナ マタ  
それで そうは、たかと思うと また パカッ 消えるはは また

ズーッと コンダ コッパノホーエ ポカッ ツクダヨナ。

おーっと 今度は 別 の オへ ポカッ つくんだ。うん。

A ニー。

うん。

C ソーユーノ イクドモミタヨ アタシャー……。ヤマノ……。

そういうのを 幾度も見たよ 私は……。山の……。

A ソリャー ミタ。

それは 見た。

C ダケン ソレ フーントニ アッタダヨナ。ニー アレ フシギダ  
だけと それは 本当 に あったんだ。うん あれは ふしぎだ

ツクナ。

った。

A ソイデ<sup>ニ</sup> ソノウエノホーカ スズナリイシデサ……。  
それで その上のネが 鈴鳴り石でさ……。

C ニー。  
うん。

A ゼニオ イレテアルト 千リ千リーッテ ナツキヤーナ……。  
(それに) 銭を入けてやると 千リ千リーッテ 鳴ってほす……。

B イシカ ナツテルナンテ ユーヒトアツタツケヨ。  
石が 鳴っているほんで 言う人があったさ。

A ニー。ソリャーナー アノー アナカアツテナ。イマデモ アレオ  
うん。それはほめ (石に) 穴があいてほ。今でも あれを  
オツプタイテミタラ ムカシノカネン エーカゲン ハイッテルダ  
たたいて みたら 昔の音が 相当に入っているんだ  
ヨ。  
さ。

C ニー。ソーダナー。  
うん。そうだね。

A ニー。  
うん。

B ソノイシ イマデモ アルダ  
その石は 今でも ある？

A アル。  
ある。

B アー。  
ああ。

A イマ ノザラシニ デキヤツテナ。  
今 野ざらしに(ほて)出てしまてさ。

B へー。  
へえ。

A トーヅワ アノー コノー アレダヨナ シナノ タイユーザンミ  
当 時 は 支那の 太 行 山 以  
テアーニ クレアーヨーナ ウスツクビノワリートコダツクダケガ  
た い に 暗 い よう は 薄 気 味 の 寒 い 所 だ っ た け れ ど  
イマワ オメア ノデンニデチャツテ ネアーツケダ。  
今 は 野 天 に 出 っ て し ま っ て (とこの石は) 下 っ た 。

B ニー。  
うん。

A アソコデモツテ センゲンサンノ<sup>(25)</sup> イシドリリーガ ソー トレタダ。  
あそこ 浅 間 さん の 石 鳥 居 が でき っ た の だ 。

B ニー。  
うん。

A セッパ<sup>(26)</sup> イッペアーナンダ。  
「せっぽ」か 一 杯 だ っ た 。

B ニー。  
うん。

A ソシテ アスケーラガ ソー イツタイニ ソノー ママダツクス  
そ っ て あ の あ た り が 一 帯 に 沼 だ っ た ゝ  
う。  
う。

B ニー。  
うん。

A ソイデ ソノ フネン ツイテ ンデアノ コイツキイシ コイツ  
それ だ っ た (沼の) 船 が (その石に) 付 っ て 鯉 っ き 石 鯉

キイシツテ ユーケーガ フナツキイシツテノガ ホントー。  
つき石 と いうけれど(船がうつしたから)船つき石というのが 本当(だ)。

B ニー。  
うん。

A アノー アサバタノナ アレカラ ミテミルト……。  
麻 機 の 歴 史 から 見 る と ……。

B ホー。  
ほう。

A ニー。フナツキイシツテユー コイツキイシノコト。  
うん。船つき石 という(べきだ)、鯉つき石のことを。

B ニー。  
うん。

A ニー。フネオ ソノ ツネアーダ。  
うん。船を (その石に)つばいたのだ。

C ソコツカラ センゲンサンノ<sup>(27)</sup> イシガ トレタ。  
(それ)そこら 浅間さんの 石 が できた。

A ニー。イマ イッタツテモ コンナノ セツパバツカダヨ。  
うん。今 行ったとしても こんど 「せうほう」ばかりだよ。

C アー ホント<sup>(28)</sup>。  
ああ そういふもめか。

A ニー。イッペアーダヨ。ザラツザラ シテルヨ。  
うん。(それが)いっぺいたよ。ざら ざら しているよ。

C ニー。  
うん。

A センゲンサンノ オー イシドリリーガナ アスコカラ トレテサ。  
浅間さんの 石 鳥居 がね あそこら できてさ。

C ニー。

うん。

A ヘーカラ アンドーノ ジューニソーマートノウエ アガッテイッ  
それから(石のせた船が)岸東のナニ双 マートの上(アネ)上がって行ッ  
タダケーカ……。  
たんたか……。  
(29)

C ニー。

うん。

A ソノ イチバンウエノ カサオナ オトシタガタメニ……。  
その一番上の 笠をト落としたために……。

C ニー。

うん。

A ソイツダケワ デキネアズラ  
その部分だけは(鳥居とい)完成していたらう。  
(30)

C ニー。

うん。

A ソイチ イサーシク アノ センゲンサンノヨコニ コロバツタダ  
それで 久レく (笠にある石が)浅間さんの 権に ころか、ていた  
ナ。  
のた。た。

C ニー。

うん。

B アー。ソーダナ。

ああ。そうた。た。

A イジンサンノ ウチノ アノ モンゼンニ ニー ナツタリナニカ  
(ヤ石が)外人の家の 門前(ア石)に た、てりたんか

シチャッタツケダ。

レマレマッタのだ。

C コロバツタ コロバツタツケナ イカイノ ターセアートキ。  
ころか、いた ころか、いた、けた 大きい(石)が(私の)小さい時(に)。

A ー。

うん。

B ソーダ ソーイヤー ホントニ センゲンサンノ メアーニ アノ  
「うた」 「ういえは」 本当に 浅間さんの 前 に  
ー コンナ マールクナツタ イケアー……。  
こんな 丸く てる、た 大きい(石が)……。

A アー。

あめ。

C アツタヨナ。

あ、たよナ。

B ウスウス オベートルケド……。

うるうる 覚えていられる……。

C ジューニソーマートツテ ユーケン ジューニソーデ フネデ ハ  
「ナニ 艘 マート」と いうから ナニ 艘で 船で(石)を  
コンダズラヨナ。

運んだのだらうよナ。

A アー ソエダンテ ジューニソー……。イマ アンドーノナ。イマ  
あめ それたから ナニ 艘……。今 安東のナ。今は  
ヘアー ソンナノカワー マー オンラク ミゾツチヨミテアーニ  
もう そんな いろは まめ 恐らく 小さい溝のように  
ナツチャツタズラケント……。  
な、てしま、ただらうけれど……。



C ソーダ<sup>ダ</sup>す。  
そう<sup>ダ</sup>は<sup>ダ</sup>す。

A ニー。  
うん。

C ニー。  
うん。

A ソイデ<sup>デ</sup> ヤマノ ミネー イキヤーナ……。  
それで 山の 峰へ 行けば<sup>デ</sup>す……。

C ニー。  
うん。

A ムコーツカーノ シュート ケンカシキヤーサー……。  
向ミウ 側の 人 と けんか しては<sup>ダ</sup>す ……。

C ニー。  
うん。

A ナー。  
すめ。

C ニー。  
うん。

A ソエデ<sup>デ</sup> モー アノー イマリシューワ ミラレネアー アノ ケ  
それで もう 今の 人 は 見られ ない あの 軽  
ーベンカ<sup>カ</sup>……。  
便 が……。。

C ニー。  
うん。

B ケーベン……。  
軽 便 ……。

A ピー——サンテナ。アー イノミヤカラ オメア ウシズママデ  
ひ—— ほんて(音を高い)に 井 宮 から お前 牛 妻 まま  
イッテタンダナ。  
行、まいたのたにナ。

C ケーベンガ ナツカシイ。 ニー。  
軽 便 が 好つかしい。うん。

A アー。  
ああ。

C ニー。ソーダナ。  
うん。そうだな。

A アレカラ ウヤー オメアー ミンナ カツギデナ……。  
めやシから 上げ お前 皆 (荷を)担いでナ……。

C ニー。  
うん。

A アスコントケー トマッテサ……。  
めやシの所へ 泊、マサ……。

C ニー。  
うん。

A ウシズマエ……。  
牛 妻 へ ……。

C ニー。  
うん。

A へーカラ オマエ ウメガシマダトカ イカワエ イッタダケトナ。  
それから お前 梅ヶ島 たどとか 井川へ 行、たのだけれとマサ。

B ソエデ" コントワ……。  
それで 今度は……。

C トチューエ トマツチャ イカサケリヤー ~~イカ~~ イカレネエーツ  
(ヤウブウに)途中に 泊って 行かなくて 行かなくて 行かなくて  
ワダナ。

んてみ。

A アー。

ああ。

B イマデモ ナンダカ<sup>(31)</sup>ノ アトガアル。ソノ ケーベンノ……。  
今でも 何だかの 跡がある。その 軽便の……。

C ニー。

うん。

A アー。

ああ。

B ナンダカノ アトガ アルッテ。ソイデ アレ テレビデ ヤッタ  
何だかの 跡が あるて(いう)。それで あれを(いつか)テレビで 放送  
ツケ。ケーベンノ……。

してよ。

A アー。

ああ。

C ウシズマニ アルダヨナ。

(その跡は)牛車にあるんだよな。

A ソリャ オラン ホン センゴロマデ オベーターヤツダナ。  
それは 私は っい 先ころまで 覚えてる ものだよ。

C ニー。ケーベンワナ。ワシラ イッタコトモアルシ イクドモ……。  
うん。軽便はな。私 乗ったこともあるし、幾度も……。

A ソノ トージツカラサ ミカンカナー……。

その 当時 からさ みかんが 好き (よく食べた)。

C ニー。

うん。

A ミカンオ ツクッテリヤー ヒャー オッカネアーコトワ ネアー  
(当時は)みかんを 作 っ て い る は じ め 二 ね い ン と は ち ね  
ワ。アノー ミカンワナ ヒャー モー コケーラノ イチバンノ  
い。 みかんはち ち ち ち この ね の 一 番 繁 盛  
アレダ アノー オキヤドコノ シューサンチャー モンダージ  
い ち ょ う お 茶 作 り の 家 の 人 ち ね は 問 題 だ は  
ヤーネアーワ サンテッタノカ ナー。イマノー ミカンジャー  
ち ね い ち ね と 言 っ て い た の が ち ね 。 現 在 の み かん で は  
ミカンノトコノ シューガ ビンボーシテテ オキヤドコノシュ  
み かん を 作 る 人 が 貧 乏 を し て い て お 茶 作 り の 人  
アラナニカノホーガ ラクオシチャワダケドサ。ニー。コレジャー  
や ら 何 か の ち が 楽 を し ち ょ う の だ が ち ね 。 う ン 。 こ れ だ は  
ヤッテリネアーダンデ……。ワシャー。ハハ。コマッタモンダ ヨ  
や っ て 行 け ち ね い か ら……。 私 は。 困 っ た も の だ 世  
ノナカッテ……。

あ 中 というものは……。

ソイデ オトシサンダッテモ モモサンダッテモ アレズラ。ウケ  
ち ね だ お と し ま ん で も 有 々 ま ん で も あ れ だ ろ う 。 家  
デモッテ ヒーササンノ クビョー コシャエタリナニカシテ マ  
で お ち ね さ ま の 首 を こ れ ら え ち り 何 か し て (ち ね だ ろ う べ)  
サカ ソノトージャー ソンナコター カンギャーネーッケツツラ  
お ち ね か そ の 当 時 は ち ね ち ね と ち ね 考 え ち ね か っ た ろ う ち ね 。  
ナ。(B 笑) イマワ ミーンナ ソーダ。ヒトリノコラス。  
今 は 皆 が ち ね (い ち ね ち ね ち ね) だ 。 ち ね ち ね 残 ら ず 。

C ムカシワ コドモモ タント ウンダニャー ウンダダケーカ° ア  
昔 は 子供 も 沢 山 産 ン 丁 ン には 産 ン 丁 ン の 丁 ン だ べ ー ……。  
レダヨナ……。

A ニー。ニー。  
うん。うん。

C ミーナ ヒャー トショートリャー コドモノモリョーシキチャー  
(昔は)皆 もう 年 モ とれば 子供 の 守リエシマは  
アッチノウケー アツマツタリ コッチノウケー アツマツタリダ  
めららの家へ 集まつたり こららの家へ 集まつたり(したん)  
ナ。  
だっけ。

A アー。  
めめ。

C ミーナ アソンデイタツケカ イマジャー ソンナヒトワ ダーレ  
皆 遊んでいた か 今では そんな人は だれ  
モネー。  
もない。

A ダーレモネー。  
だれもない。

B コモリシタリ シルヒトワ……。  
子守りをしてる 人は……。

C ワシラウケアタリャー ホント オバーサンケノ スダツケ。(笑)  
私の家 丁 ン には 本 当 に (子守りする)おばあさんたちの巣だった。  
ミーナ コドモ ツレテキチャー……。  
皆 子供 を 連れまきまは……。

A ダケン オトシサンナ……。

た"けと" おとしまん ぽ……。

C エ?

え?

A オレン ヒトツ オモヘーガナ オラン カーサンカ ヨク イ  
私 は ひとっ 思いうのた"が"ぽ、 私の 妻 が" よく (私エ)

ジメルダヘーガナ……。

いじめるのた"が"ま……。

C ニー。

うん。

A オネンブツワナー<sup>(32)</sup> マー アルトシークルト ヒャー モー ジブ  
お 念 い は ぽめ まめ 一定の年令がくると(つり) もう 自分  
ンノコガ ヨメツコオ<sup>(33)</sup> モライハジメテクルト……。

の子が 嫁 エ もらうようになてくると……。

C ニー。

うん。

A ドンナニ ワカクテモ ヒャー イッコクメア<sup>(34)</sup>ーリッテノ ヤッタ  
どんぽに 若 くても もう 一 国 まいりというのを やった  
ダヘーガ ヤルダヘーガ……。

のた" が", やるのた" が"……。

C ニー。

うん。

A ヒャー ソラ オラン トナリノナ イヨデセア<sup>(35)</sup>ー オマエ……。  
それ 私の家の 隣 の 「いよ」でさえ お前……。

C ニー。

うん。

A イッコクマイリニ イクダケーガ……。  
一 国 まいに 行くのた"か"……。

C ニー。  
うん。

A コーイッツイアンケウケノ ヨメッコモ イッタズラ。  
光 ー さんの 家の 嫁 さんも 行ったろう。

C ニー。  
うん。

A イクズラ。  
行くだろう。

C ソイダケーガナ……。  
それだ"けれと"て……。

A ニー。  
うん。

C アノシューガ ワケアートオモケンナ……。  
あの 人 が" 若いと(あつたは)思いうけれと"て……。

A ニー。  
うん。

C ヤッパリ ワカカネマダヨ。  
や、ぱり 若くはていんじよ。

A ヤッパリナ……。  
や、ぱりて……。

C ニー。トシデ アレシルトナ……。  
うん。年 で 考えるとて……。

A ニー。  
うん。

C ヤッパ ソーダヨ。

や、ほり そうだ"よ (若くはほい"よ)。

A ヤッパ"リ。

や、ほり。

C ンー。

うん。

A オマツキノトキ オンナシコ"ンカ。

お前 が 行、た 時 も 同いよう"な ンとか。

C ソーダ"ヨ。ンー。

そうだ"よ。うん。

B ソーダ"ヨ。

そうだ"よ。

A フー。ワケ"ア モノ ……。

ふーん。若い もの ……。

C シジューニデ" シジューニデ" イッ"タダ"ヨ。シジューニデ" イッ"テ

四十二歳"で 四十二歳"で (私は) 行、た ん だ"よ。四十二歳"で 行、て

ナンシロ"サ ……。

なんしろ"さ ……。

A ンー。

うん。

C ソイデ" マノ ムカシノ"シューワ ホー カゾ"エデ"ネ"ア ……。

それで 昔 の 人 は 教"え 年 で"はい ……。

A ンー。

うん。

C カ<sup>xxx</sup> カゾ"エデ"ネ"ア<sup>(36)</sup> マンデ"ナク"テ カゾ"エ"ダ。ナー。

教"え 年 で"はい。満"ち"て 教"え 年 だ"。ア"あ。



A シー。シー。  
うん。うん。

C ホイダ"モンデ" シジューニダッテモ モット ワケアーッケダ"ヨす。<sup>(37)</sup>  
それだ" から 四ナニ でも も、と 若かったんた"ヨす。

A ー。  
うん。

C イマノシューワ ソー マンデ" シルンデ"す。  
今の人 は そうだ" 満で" 数えるんで"す。

A ー。  
うん。

C ソエダ"ンデ マサコサンワ サンジュー ワシラナンデ" <sup>(38)</sup> シ~~キ~~ シ  
それだ"から 正子さんは 三ナ 私が(数えるには)  
キケレアーデ" イッタジャネアーカす。  
セ "くらいで" 行、たんで"は 好いか"す。

A マダ ムスメト"モデー ヨメッテ カンジデ"ネー。  
(三十七で"は)また" 娘どもた"す 嫁という 感で"では"はい。

C ソエダ"ンデ"ネー マダ ハヤーイミタイダ"ケンサー……。  
た"からね(四ナニで"は)また" 早、みたいだ"けれど"さ ……。

A ー。  
うん。

C ハヤカー ネアーダ"ヨ ヤッパ。ー。  
早くは 好いんだ"よ、や、ほり。うん。

A アー。アー。  
ああ。ああ。

C へ ミエキヤン~~キ~~ワ シジューニダレアーダ"ッケす。  
三枝ちゃん は 四ナニ"くらいだ"ら け"す。

- A トコロガナ ソリャ エーダケーガナ オネンブツリガナー ムカシ  
 ところがナ それほ いいのた"か"ナ お念仏 が"ナ"め 昔  
 ノオネンブツノホーカ° ドーモ オリャーナ コノー ニー タカ  
 のお念仏 の オカ" どうも 和いナ 他  
 イシタナ ホトケサンガナ コー ゴクラクエイクヨーナカンジン  
 界したナ 仏 さん が"ナ 極楽へ行くようナ 感"レバ  
 シルダケン ドーユーモンダヤマー。  
 するのた"か" どういうものた"ろう"ナめ。
- B ソイダケーカ°……。ムカシノ……。  
 しかし……。昔 の……。
- A モットモサ ジデァーッデモノワ アルンダナ。  
 もっともナ, 時代(の変化)というものはあるンデ"ナ。
- B ネンブツワ ムカシノネンブツワ キーデテ ナンニモ イミガ  
 念仏ほ 昔 の念仏ほ 聞いていて 何も 意味が  
 ワカンネァージャー。  
 わからナいでほナいか。
- A ムカシノワカ。  
 昔 の(念仏)ほか。
- B ニー。  
 うん。
- A ホーカ。  
 そうか(ナ)。
- B ネー アンタ ナンニモ ワカンネァ。  
 ねえ あナた 何にも わからナい(わ)。
- C ソーダ"ヨナ。  
 そうた"ナナ。

B イマンノワ コー フント キーテルト ヨーク ナニカ ワカル  
今のは 本當に 聞いていると よく 何か わかる  
ダケーガ ムカシノネンブツワ ソノ ソノコトバガ ワカンネア  
のた"が" 昔 の 念仏は そのことば"が" わからずい  
ージャー。ソナコトユート オコラレルケド……。  
ではいいか。そんなことを言うと 怒られるけれど……。

A (笑) ダケントサ オラン キーテテナー……。  
た"け"と" 私 が 聞いていますよ……。

B ニー。  
うん。

C ダケント……。  
た"け"と……。

A アノ フダラクヤナンテノワ ヤルケーガナ……。  
補院落や何と"というの"は やるけれど"です"……。

B ニー。  
うん。

A ダケーガ ムカシノネンブツダトナー イカニモ ホトケサンガサ  
た"け"と" 昔 の 念仏 た"と"は"あ"いかにも 髪<sup>ほ</sup>と著<sup>と</sup>さんが"さ"あ  
ー アノー タカイシタ ホトケサンガ ゴクラクジョードエナー  
他界した、 髪<sup>ほ</sup>と著<sup>と</sup>さんが" 極楽 浄 土へ"は"あ  
イクヨーナキモケノ……。 イマンナー オメアー チョードサー  
行くよう"は"気持ちの(弱みだが)。今のは お前 "あ"よう"と"さ"あ  
イマノ ワカイシューガ ウター ウタウヨーナモンデナ (し笑)  
今 の 若い 衆 が 歌モ 歌う よう"は"もので"は"、  
ワタシワ ナンテ ユーヨーナ ヨーナ キーチャツテサ。  
「わたしはー」"は"ん"と"言う"よう"は" (ふに) 聞こえて"は"います。

B フダラクヤッテ ソノ フダラクヤッテコトワ ナンノコンダ。キ  
補院落や、て その 補院落や、てというんとは 何のこゝた。

シウツナミッテノワ マー ワカルケト……。

岸打っ波というのは まあ わかるけれど……。

C ソリャ アノー サンジューサンバンデ<sup>(39)</sup> フダラクヤッテ……。  
それは 三十三 番 で 補院落や、て……。

A ニー。ダケーカ イミオ シッテルヒトモ アルメアーケーガサー。  
うん。たゞけれど(物)意味を知、てる人も あるまいけれどさあ。

B ニー。  
うん。

A アノー ヨクサー コノー ネンブツオ ヤルトナー アノー フ  
よく 念仏を 唱えろとて フ

ールオ ヤッタリサ<sup>(40)</sup> ナニカヤルト イカニモ コノ ホトケサン  
ールを やったリさ、何かやると いかにも 屍者さん

がナ ゴクラクジョードエ コノ イクヨーナカンジシルケン チ  
がナ 極楽浄土へ 行くようには 感じがあるがニ

ヨービンノワ ドーモ オランカーサンガ ナンダカ ウナッチャー  
のころのは どうも 私の 家内が 何だか うつろって

(笑) ヨク ヤッテルケーガ ソレデモ アリャー アノー アレ  
よく やって いるが「それでも それは

カー ネンブツカー ヤッチャ オレー ヨクユー。  
念仏 かゝるとと 私は よく言うよ。

B ノリャー……。  
それは……。

C ヤッパリ ムカシツカラ コー キキナレタ ジュンテ……。  
やはり(念仏には)昔から 聞きつれた 順と(いふものがある。)

B ソーダヨ。ヒトリ コノ オトーサンワ ヒトリッコデ ソダッテ  
そうたふ。 この お父さんは 一人 子で 育って

-----。

-----。

C ソー。

そう。

A ソリャー ワカルヨ。

それは わかるよ。

B アンマシ イツマデモ オヤノソバニ (笑) イテ ネンブツオ-----。

あまり いままでにも 親のそばに いて 念仏を (聞いていたから)

A ソリャー ワカルヨ。

それは わかるよ。

ムカシノナ アノー カレススキナンキューノワナ オラニ ウタ  
昔のな 枯れ薄なんという歌 はな 私に 歌

ワセルトナ アノー コノ カレススキカ フントニ ソノ バメ  
わせるとは 枯れ薄が 本当に (生き生きと) 場

ンカ デルケーカナ キョーゼノ アノ カレススキジャー ソノ  
面が 出るのたがは このじろあ (の歌う) 枯れ薄 では

バメンカ デテコネアーダモノナ。

場面が 出たんじゃないにものな。

C ソーダヨナー。

そうたふよなみ。

A ナー。

なみ。

C アノー ムカシノシユーカ ウタッタノト ヤッパ イロイロ コ  
昔の人 が 歌ったのと (比べると) や、はり (現在) 色々

ー ウタウケーカ° ヤッパリ ムカシノヨーナ アノ シー カン  
歌うけれど" や、ほり 昔 の ように 感

ジ".....。

レ"(か出た)。。

B ソリヤー ソーダ。カレススキツテユート ヒャー バイオリンが  
それほ そうだ"。枯れ 薄(の歌)というも もう 必"バイオリンが"

リキモンデ".....。

ついて .....。

C シー。

うん。

A シー。

うん。

B アレシタケン.....。ネー。フント。

歌、た から .....。ねえ。本当。

C ニー。ニー。

うん。うん。

A ホントニサ。

本 当にさ。

C ナンデモ.....。

何でも.....。

A クルシマスミコモ オモイダ"スシサ.....。

(映画俳優の)栗島すみ子も 思...出たレさ.....。

B ニー。

うん。

C キミコイシダッテ ソージャンナー。

「君 恋し」(の歌)だ"て そうだ"よ"ほめ。

A アー。

ああ。

C コノプロノー キーテリヤー ナンニモ アジャネー。タシカ ム  
ミのじろの(歌を)聞いていれば 何 も 味 べたい。たしかに

カシノフシノホーカ エーナトオモース。

昔の節のオカ いいねと 思うね。

A ニー ジッダーワナ カワッテクダケーガサ ムカシ オメアー  
うん 時代 はね、 変わ、て 行くんだ がね、 昔は お前

アノ コートーガッコー シズコーエナ<sup>(41)</sup>ンテ イクシューワナ ア  
高等 学校(つまり) 静高へねど 行く者 はね、

ノ シズチューエ イクシューモ スケネアーダケーガ シズコー  
静中 へ 行く者 も 少ないの たが 静高

ナント イマノ シズオカコートーガッコーエ イクシューナンチ  
ねど(つまり)今の 静岡 高等 学校 へ 行く者 ねどと

ヤー アマヨニホシダッタ。ナー。オマッケン オマエ……。

いえね 雨夜 に 星(いっしょ)少なかった。なあ。お前たち お前……。

B フタリカ サンニン……。

二人か 三人 ……。

A モーットダオメアー。アサバタデモッテ サンニンカソ ラーダ。  
も、と(少ないよ)お前。麻機 で 三人かそのくらいだ。

B ハタダノ モンタローサンデヒトダ。イマノ シバ シバヌエサン  
旗田の 紋太郎さんというんだ。今の xxxxx 芝末さん  
だ。

た。

A ニー モンチャンニ サブローニサ……。

うん 紋ちゃんに 三郎 にさ……。

ニー。ヘーカラ オマエ ヤクボ<sup>1</sup>ノナ アノシューガ イッタク  
 うん。それから 谷久保のなめの人か行、た  
 レアノモンダ。イーマ ヤセデモカレデモ ミーンナ コート  
 らいのもめだ。今は やせてもかいても 皆 高等  
 ガッコデサ。ドコノシューダッテ アノダイカクイキ コノダイ  
 学校へ行く。どこの人 でも めの大学へ行き なの  
 カクイク。ニー。ナンテ ジデ<sup>2</sup>ア<sup>3</sup>ワ カワッタダヨ。アー。ダッ  
 学へ行く。うん といふとで 時代 は 変わ、たんだよ。めめ。た、  
 テ オマツキン カーサンカ<sup>4</sup> オメ<sup>5</sup>ア<sup>6</sup> コート<sup>7</sup>ガッコ<sup>8</sup>エ ツ  
 て お前の家のお母さんが お前、高等 学校 へ 勤  
 トメテルコラー アレン デキデサー ナー。シズオカ アノ オ  
 め ているころは(女の高校が)あんなに できてあ った。静岡(の)めの 大  
 イワノ コート<sup>9</sup>ガッコ<sup>10</sup>カ<sup>11</sup> <sup>(42)</sup>デキテ オイワイオ スルニネ  
 岩の 高等 学校 が できて お祝いをするのにね  
 アノー ハナビョー ウツテサ ソイカラ ハタマデ<sup>12</sup>アケテ……。  
 花火を 打ってさ、それから 旗まで挙げて……。

B ニー。  
 うん。

A ホシテ オマエ アノー オイワイノ アノー ミセデモラッタ。  
 ヨレテ お前 (女の)お祝い(の行事を) 見せてもらった。  
 ソイツン オラン イケデ<sup>13</sup>ア<sup>14</sup> マデ<sup>15</sup> タタネ<sup>16</sup>ア<sup>17</sup>ウ<sup>18</sup>ニ ヒャー  
 それが 私の 一代が また 経過したうちに もう  
 アノ ガッコ<sup>19</sup>ン トレテ ハマノオーヤエ イッテ ダイカクニ  
 めの 学校 が 廃止されて 浜の 大谷へ 移転して(静岡)大学に  
 ナツキヤツタンダ<sup>20</sup>ナー。マー ジデ<sup>21</sup>ア<sup>22</sup>ワ カワルサ。アー。ナン  
 ね、たんだよめめ。めめ(はい)時代 は 変わるのだ。めめ ねに



セ ムカシオ カンケァールト ナガイヨ。  
レヲ 昔 エ 考 え る と 長 い ヲ。

B ナガイネー。ズイブン。  
長 い ゆ え 。 あ い ぶ ん 。

A ニー。  
うん。

B ジーブン ナケァー。ホントニ。  
あ い ぶ ん 長 い 。 本 当 に 。

A アー。(笑) ノイダケァーナー……。  
あ め 。 天 下 か ら 呼 び ぬ け ……。

B ヘダケン ヨクイキテルト イキテルト (笑) オモエダヨ。  
天 下 か ら よ く 生 き て い る と 生 き て い る と 思 っ て い る だ ょ 。

## 注記

- (1) 麻機地区にあろ沼の通称。
- (2) お不動さんの祭のお供に作ったしろしとして大勢の人が列を作、て後とついて行、たということ。
- (3) 有永は麻機の南地区の地名。
- (4) 草取りをしなかったために草が生い茂ることもこう形容した。「穂に穂が咲く」ということ。
- (5) 一足で一対に作ったのだが、その片方だけを「ペラ」と言、た。
- (6) 片方だけ一つと教えたのが、多く作、たことなるので、そのようにいわばゴマカシタということ。
- (7) 「ツッコロカシテモ」の「イ音便」。
- (8) 左回りに作れを作、たため、作れがピンとせずに、丸く作、てしまふのを「鼻糞を丸めたようだ」と形容したもの。
- (9)(10) 植えたあとの田んぼの表面が持ちあが、て移動してしまふ。水が多い時に起こる現象だという。
- (11) 寺に入り込んでくる、素行の悪いばあさんのようなものだ。
- (12) 「コンクリモ ナンニモネー」と「コンクリデモ ナンデモネー」との二つの表現が混交したもの。
- (13) 「小郎次」という名の愛称。
- (14) 千枝さんという女性、若くて死んだらしい。
- (15) 「自動車屋」は誤り。
- (16) 水の出口をふさいでしま、て、中にいる魚を捕ることに。ただし、こゝでは水をかき出してしま、て中の魚を捕ることに使、ている。
- (17) 毒を川に入れて魚を殺して捕る方法。(毒はトバネという植物の根を砕いたもの。)
- (18) ほんのわづかの幅の。
- (19) 「コロカシラ」と「コロダ」との混交形か。
- (20) 洪水などのあとでできた小さい小たまり。そこに魚がそのまま住みつくように作、たものを「シマ」という。
- (21) 静岡市西北部の池。正式には「鯨ヶ池」という。

- (22) この談話に入る前にAが私にしてくれた話。
- (23) 静岡県方言では「ヤッパリ→ヤッパ、アンマリ→アンマ」のような短縮形が多い。
- (24) 安倍川は静岡市の西部を東南方向に流れて駿河湾に入る。話者の住む麻機からは、2キロほど西にあたり。
- (25) 静岡市中心部よりやや西寄りにある<sup>セーガン</sup>浅間神社。
- (26) 「セッパ」は、材木・石などをけずり取った残りがすという。こゝでは石をけずって鳥居を作ったあとの石のかけらのことを言う。
- (27) → (25)
- (28) この「ホント」は降り音調で、「ああ、そういうものかわ」という、軽いあいづちの気持ちを表わす。
- (29) 十二の船が上が、7行、たというので、本来は「十二」という地名。今は「十二又」と書く。
- (30) 鳥居の一番上の部分がないので、鳥居として完成しない。
- (31) 「ナンダカノ」は「軽便」ということばがすぐ思い出せたいために使ったもの。
- (32) 「オネンブツワナー」を受ける述語文節が見あたらない。ている。
- (33) 「ヨメッコ」の「コ」は指小辞的の「コ」。もちろん、こういう個別的な用法に限られている。
- (34) 嫁が全国33の所の観音の霊場をまわって極楽往生を願うという風習。
- (35) 「いよ」はAの隣家の嫁の名。
- (36) はじめ、「昔は数え年ではない」と考えたが、それは誤りだと感じたため、「カゾエデネヤネヤ」と二度打ち消しの語を使ったもの。パロール的のもので、この方言の習慣ではない。
- (37) 数え年で42歳だから、現代ふうに考えれば、もっと若かったことになるというのである。
- (38) 「正子さんは、私の考えでは、37歳で参りに行、たと思う」というのである。「三十セ」という数詞が途中で切断され、「ワシラサンテ」

が介入している。

(39) 西国三十三ヶ所観音の第一番の札所ということとおうとするのであろう。

(40) 念仏のくとは「エ、一音節ぐ」とに長く引いて唱える呼法を「フル」という。永年の修練を要するという。

(41) (42) 旧制静岡高等学校。大正11年(1922)4月開校。A氏満11歳。

(43) 実際は、大学昇格はむしろ昭和24年で、焚谷ではなく大岩地区。大谷への移転は昭和42年(教養部)。

昭和56年 1 月

国 立 国 語 研 究 所

〒115 東京都北区西が丘 3 丁目 9 番14号  
電 話 東 京 (900) 3111(代表)

国立国語研究所刊行書一覽

国立国語研究所報告

|      |   |         |        |
|------|---|---------|--------|
| 1    | 八 丈 島 の 言 語 調 査                             | 秀英出版刊   | 品切れ    |
| 2    | 言 語 生 活 の 実 態<br>——白河市および付近の農村における——        | 〃       | 〃      |
| 3    | 現 代 語 の 助 詞 ・ 助 動 詞<br>——用法と実例——            | 〃       | 2,000円 |
| 4    | 婦 人 雑 誌 の 用 語<br>——現代語の語彙調査——               | 〃       | 品切れ    |
| 5    | 地 域 社 会 の 言 語 生 活<br>——鶴岡における実態調査——         | 〃       | 〃      |
| 6    | 少 年 と 新 聞<br>——小学生・中学生の新聞への接近と理解——          | 〃       | 〃      |
| 7    | 入 門 期 の 言 語 能 力                             | 〃       | 〃      |
| 8    | 談 話 語 の 実 態                                 | 〃       | 〃      |
| 9    | 読 みの 実 験 的 研 究<br>——音読にあらわれた読みあやまりの分析——     | 〃       | 〃      |
| 10   | 低 学 年 の 読 み 書 き 能 力                         | 〃       | 〃      |
| 11   | 敬 語 と 敬 語 意 識                               | 〃       | 〃      |
| 12   | 総 合 雑 誌 の 用 語 (前編)<br>——現代語の語彙調査——          | 〃       | 〃      |
| 13   | 総 合 雑 誌 の 用 語 (後編)<br>——現代語の語彙調査——          | 〃       | 〃      |
| 14   | 中 学 年 の 読 み 書 き 能 力                         | 〃       | 400円   |
| 15   | 明 治 初 期 の 新 聞 の 用 語                         | 〃       | 品切れ    |
| 16   | 日 本 方 言 の 記 述 的 研 究                         | 明治書院刊   | 〃      |
| 17   | 高 学 年 の 読 み 書 き 能 力                         | 秀英出版刊   | 〃      |
| 18   | 話 し こ と ば の 文 型 (1)<br>——対話資料による研究——        | 〃       | 〃      |
| 19   | 総 合 雑 誌 の 用 字                               | 〃       | 〃      |
| 20   | 同 音 語 の 研 究                                 | 〃       | 〃      |
| 21   | 現 代 雑 誌 九 十 種 の 用 語 用 字 (1)<br>——総記および語彙表—— | 〃       | 〃      |
| 22   | 現 代 雑 誌 九 十 種 の 用 語 用 字 (2)<br>——漢 字 表——    | 〃       | 〃      |
| 23   | 話 し こ と ば の 文 型 (2)<br>——独話資料による研究——        | 〃       | 〃      |
| 24   | 横 組 みの 字 形 に 関 する 研 究                       | 〃       | 〃      |
| 25   | 現 代 雑 誌 九 十 種 の 用 語 用 字 (3)<br>——分 析——      | 〃       | 〃      |
| 26   | 小 学 生 の 言 語 能 力 の 発 達                       | 明治図書刊   | 2,100円 |
| 27   | 共 通 語 化 の 過 程<br>——北海道における親子三代のことは——        | 秀英出版刊   | 品切れ    |
| 28   | 類 義 語 の 研 究                                 | 〃       | 〃      |
| 29   | 戦 後 の 国 民 各 層 の 文 字 生 活                     | 〃       | 400円   |
| 30-1 | 日 本 言 語 地 図 (1)                             | 大蔵省印刷局刊 | 品切れ    |
| 30-2 | 日 本 言 語 地 図 (2)                             | 〃       | 〃      |

|      |  |         |        |
|------|--|---------|--------|
| 30-3 | 日 本 言 語 地 図 (3)                                    | 大蔵省印刷局刊 | 品切れ    |
| 30-4 | 日 本 言 語 地 図 (4)                                    | 〃       | 〃      |
| 30-5 | 日 本 言 語 地 図 (5)                                    | 〃       | 〃      |
| 30-6 | 日 本 言 語 地 図 (6)                                    | 〃       | 〃      |
| 31   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究                            | 秀英出版刊   | 450円   |
| 32   | 社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1)<br>——親族語彙と社会構造——           | 〃       | 品切れ    |
| 33   | 家庭における子どものコミュニケーション意識                              | 〃       | 350円   |
| 34   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (II)<br>——新聞の用語用字調査の処理組織—— | 〃       | 品切れ    |
| 35   | 社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2)<br>——マキ・マケと親族呼称——          | 〃       | 450円   |
| 36   | 中学生の漢字習得に関する研究                                     | 〃       | 5,000円 |
| 37   | 電子計算機による新聞の語彙調査                                    | 〃       | 品切れ    |
| 38   | 電子計算機による新聞の語彙調査(II)                                | 〃       | 2,800円 |
| 39   | 電子計算機による国語研究(III)                                  | 〃       | 700円   |
| 40   | 送 り が な 意 識 の 調 査                                  | 〃       | 1,500円 |
| 41   | 待 遇 表 現 の 実 態<br>——松江24時間調査資料から——                  | 〃       | 900円   |
| 42   | 電子計算機による新聞の語彙調査(III)                               | 〃       | 1,200円 |
| 43   | 動詞の意味・用法の記述的研究                                     | 〃       | 5,000円 |
| 44   | 形容詞の意味・用法の記述的研究                                    | 〃       | 3,000円 |
| 45   | 幼 児 の 読 み 書 き 能 力                                  | 東京書籍刊   | 4,500円 |
| 46   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (IV)                       | 秀英出版刊   | 700円   |
| 47   | 社会構造と言語の関係についての基礎的研究(3)<br>——性向語彙と価値観——            | 〃       | 700円   |
| 48   | 電子計算機による新聞の語彙調査(IV)                                | 〃       | 3,000円 |
| 49   | 電子計算機による国語研究(V)                                    | 〃       | 900円   |
| 50   | 幼 児 の 文 構 造 の 発 達<br>——3歳～6歳児の場合——                 | 〃       | 品切れ    |
| 51   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (VI)                       | 〃       | 1,000円 |
| 52   | 地 域 社 会 の 言 語 生 活<br>——鶴岡における20年前との比較——            | 〃       | 1,800円 |
| 53   | 言 語 使 用 の 変 遷 (1)<br>——福島県北部地域の面接調査——              | 〃       | 2,500円 |
| 54   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (VII)                      | 〃       | 1,000円 |
| 55   | 幼 児 語 の 形 態 論 的 な 分 析<br>——動詞・形容詞・述語名詞——           | 〃       | 品切れ    |
| 56   | 現 代 新 聞 の 漢 字                                      | 〃       | 3,000円 |
| 57   | 比 喩 表 現 の 理 論 と 分 類                                | 〃       | 6,000円 |
| 58   | 幼 児 の 文 法 能 力                                      | 東京書籍刊   | 5,500円 |
| 59   | 電子計算機による国語研究(VIII)                                 | 秀英出版刊   | 1,300円 |
| 60   | X線映画資料による母音の発音の研究<br>——フォネーム研究序説——                 | 〃       | 2,500円 |
| 61   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (IX)                       | 〃       | 1,300円 |
| 62   | 研 究 報 告 集 (1)                                      | 〃       | 1,700円 |
| 63   | 児 童 の 表 現 力 と 作 文                                  | 東京書籍刊   | 6,000円 |
| 64   | 各地方言親族語彙の言語社会学的研究(1)                               | 秀英出版刊   | 2,000円 |

# 国立国語研究所資料集

|      |                        |         |        |
|------|------------------------|---------|--------|
| 1    | 国語関係刊行書目(昭和17~24年)     | 秀英出版刊   | 45円    |
| 2    | 語彙調査——現代新聞用語の一例——      | 〃       | 品切れ    |
| 3    | 送り仮名法資料集               | 〃       | 〃      |
| 4    | 明治以降国語学関係刊行書目          | 〃       | 〃      |
| 5    | 沖縄語辞典                  | 大蔵省印刷局刊 | 3,500円 |
| 6    | 分類語彙表                  | 秀英出版刊   | 1,800円 |
| 7    | 動詞・形容詞問題語用例集           | 〃       | 1,700円 |
| 8    | 現代新聞の漢字調査(中間報告)        | 〃       | 500円   |
| 9    | 牛店安愚楽鍋用語索引             | 〃       | 1,500円 |
| 10-1 | 方言談話資料(1) ——山形・群馬・長野—— | 〃       | 6,000円 |
| 10-2 | 方言談話資料(2) ——奈良・高知・長崎—— | 〃       | 6,000円 |
| 10-3 | 方言談話資料(3) ——青森・新潟・愛知—— | 〃       | 6,000円 |
| 10-4 | 方言談話資料(4) ——福井・京都・島根—— | 〃       | 6,000円 |
| 11   | 日本言語地図語形索引             |         |        |

## 国立国語研究所論集

|   |            |       |        |
|---|------------|-------|--------|
| 1 | ことばの研究     | 秀英出版刊 | 品切れ    |
| 2 | ことばの研究 第2集 | 〃     | 〃      |
| 3 | ことばの研究 第3集 | 〃     | 〃      |
| 4 | ことばの研究 第4集 | 〃     | 1,300円 |
| 5 | ことばの研究 第5集 | 〃     | 1,300円 |

## 国立国語研究所年報 秀英出版刊

|    |        |      |    |        |      |
|----|--------|------|----|--------|------|
| 1  | 昭和24年度 | 品切れ  | 16 | 昭和39年度 | 品切れ  |
| 2  | 昭和25年度 | 〃    | 17 | 昭和40年度 | 250円 |
| 3  | 昭和26年度 | 160円 | 18 | 昭和41年度 | 300円 |
| 4  | 昭和27年度 | 160円 | 19 | 昭和42年度 | 300円 |
| 5  | 昭和28年度 | 品切れ  | 20 | 昭和43年度 | 品切れ  |
| 6  | 昭和29年度 | 200円 | 21 | 昭和44年度 | 〃    |
| 7  | 昭和30年度 | 品切れ  | 22 | 昭和45年度 | 〃    |
| 8  | 昭和31年度 | 〃    | 23 | 昭和46年度 | 450円 |
| 9  | 昭和32年度 | 〃    | 24 | 昭和47年度 | 450円 |
| 10 | 昭和33年度 | 〃    | 25 | 昭和48年度 | 品切れ  |
| 11 | 昭和34年度 | 〃    | 26 | 昭和49年度 | 600円 |
| 12 | 昭和35年度 | 350円 | 27 | 昭和50年度 | 700円 |
| 13 | 昭和36年度 | 160円 | 28 | 昭和51年度 | 非売品  |
| 14 | 昭和37年度 | 220円 | 29 | 昭和52年度 | 〃    |
| 15 | 昭和38年度 | 250円 | 30 | 昭和53年度 | 800円 |

## 国語年鑑 秀英出版刊

|        |     |        |     |
|--------|-----|--------|-----|
| 昭和29年版 | 品切れ | 昭和33年版 | 品切れ |
| 昭和30年版 | 〃   | 昭和34年版 | 〃   |
| 昭和31年版 | 〃   | 昭和35年版 | 〃   |
| 昭和32年版 | 〃   | 昭和36年版 | 〃   |



|           |        |           |        |
|-----------|--------|-----------|--------|
| 昭和 37 年 版 | 品切れ    | 昭和 47 年 版 | 2,200円 |
| 昭和 38 年 版 | 〃      | 昭和 48 年 版 | 2,700円 |
| 昭和 39 年 版 | 〃      | 昭和 49 年 版 | 3,800円 |
| 昭和 40 年 版 | 〃      | 昭和 50 年 版 | 3,800円 |
| 昭和 41 年 版 | 〃      | 昭和 51 年 版 | 4,000円 |
| 昭和 42 年 版 | 〃      | 昭和 52 年 版 | 4,500円 |
| 昭和 43 年 版 | 〃      | 昭和 53 年 版 | 4,600円 |
| 昭和 44 年 版 | 1,500円 | 昭和 54 年 版 | 4,800円 |
| 昭和 45 年 版 | 1,500円 | 昭和 55 年 版 | 5,200円 |
| 昭和 46 年 版 | 2,000円 |           |        |

#### 日本語教育教材

|   |                                 |                   |         |      |
|---|---------------------------------|-------------------|---------|------|
| 1 | 日 本 語 と 日 本 語 教 育<br>——発音・表現編—— | 国立国語研究所<br>文化庁 共編 | 大蔵省印刷局刊 | 650円 |
| 2 | 日 本 語 と 日 本 語 教 育<br>——文字・表現編—— | 〃                 | 〃       | 850円 |
| 3 | 日 本 語 の 文 法 (上)                 | ——日本語教育指導参考書 4 —— | 〃       | 450円 |
| 4 | 日 本 語 教 育 の 評 価 法               | ——日本語教育指導参考書 6 —— | 〃       | 450円 |

|                               |                      |       |        |
|-------------------------------|----------------------|-------|--------|
| 高 校 生 と 新 聞                   | 国立国語研究所<br>日本新聞協会 共編 | 秀英出版刊 | 280円   |
| 青年とマス・コミュニケーション               | 日本新聞協会<br>国立国語研究所 共編 | 金沢書店刊 | 品切れ    |
| 国立国語研究所三十年のあゆみ<br>——研究業績の紹介—— |                      | 秀英出版刊 | 1,500円 |

#### 日 本 語 教 育 教 材 映 画 一 覧

(各巻16ミリカラー、5分、日本シネセル社販売)

| 巻    | 題 名                                | プリント価格  |
|------|------------------------------------|---------|
| 第1巻  | これはかえるです——「こそあど」+「は～です」——          | 30,000円 |
| 第2巻  | さいふはどこにありますか——「こそあど」+「が～ある」——      | 〃       |
| 第3巻  | やすくないです、たかいです——形容詞とその活用導入——        | 〃       |
| 第4巻  | なにをしましたか ——動詞——                    | 〃       |
| 第5巻  | しずかなこうえんで ——形容動詞——                 | 〃       |
| 第6巻  | さあ、かぞえましょう ——助数詞——                 | 〃       |
| 第7巻  | うつくしいさらになりました ——「なる」「する」——         | 〃       |
| 第8巻  | きりんはどこにいますか ——「いる」「ある」——           | 〃       |
| 第9巻  | かまくらをあるきます ——移動の表現——               | 〃       |
| 第10巻 | おかねをとられました ——受見の表現 1 ——            | 〃       |
| 第11巻 | どちらが好きですか ——比較・程度の表現——             | 〃       |
| 第12巻 | もみじがとてもきれいでした ——「です」「でした」「でしょう」——  | 〃       |
| 第13巻 | きょうはあめがふっています——「して」「している」「していた」——  | 〃       |
| 第14巻 | そうじはしてありますか——「してある」「しておく」「してしまう」—— | 〃       |
| 第15巻 | おみまいにいきませんか ——依頼・勧誘の表現——           | 〃       |
| 第16巻 | なみのおとがきこえてきます ——「いく」「くる」——         | 〃       |

(第1巻～第3巻は、文化庁との共同企画・VTR価格1/2インチオープンリール21,000円、3/4インチカセット20,000円)

NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE PUBLICATIONS

SOURCE X-V

TEXTS OF TAPE-RECORDED CONVERSATIONS  
IN JAPANESE DIALECTS

(Volume 5)

CONTENTS

**Foreword**

**Purpose and Outline**

**Text**

Part 1 : IWATE PREFECTURE (Hamlet Hontyō, City Esasi)

Part 2 : MIYAGI PREFECTURE (Hamlet Arahama, Town  
Watari, District Watari)

Part 3 : TIBA PREFECTURE (Hamlet Aihama, City Tate-  
yama)

Part 4 : SIZUOKA PREFECTURE (Hamlet Minami-Nakamura,  
City Sizuoka)

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE  
TOKYO JAPAN

1981